

IV 調査結果

1 社会における制度・慣行について

1 静岡県における男女共同参画の機会の確保

問1 本県において、男女が性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる機会が確保されていると思いますか。(1つに○)

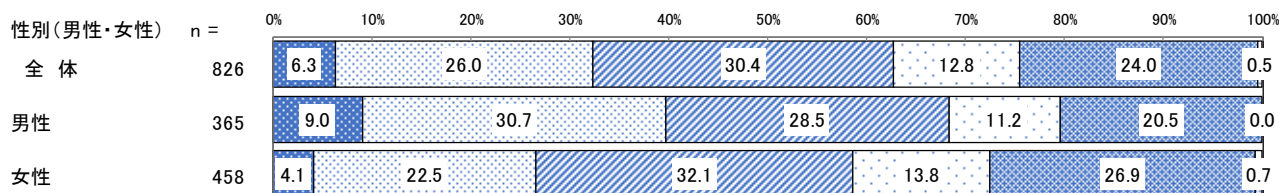
確保されていると『思う』人は32.3%となっています。

性別に関係なく、その個性と能力を十分に発揮することができる機会が確保されていると思うかとたずねたところ、『思わない』(43.2%、「思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)が『思う』(32.3%、「思う」+「どちらかといえばそう思う」)を上回っています。

性別で見ると、『思わない』(「思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)が、男性は39.7%、女性は45.9%、『思う』(「思う」+「どちらかといえばそう思う」)が、男性は39.7%、女性は26.6%となっており、認識の差がみられます。

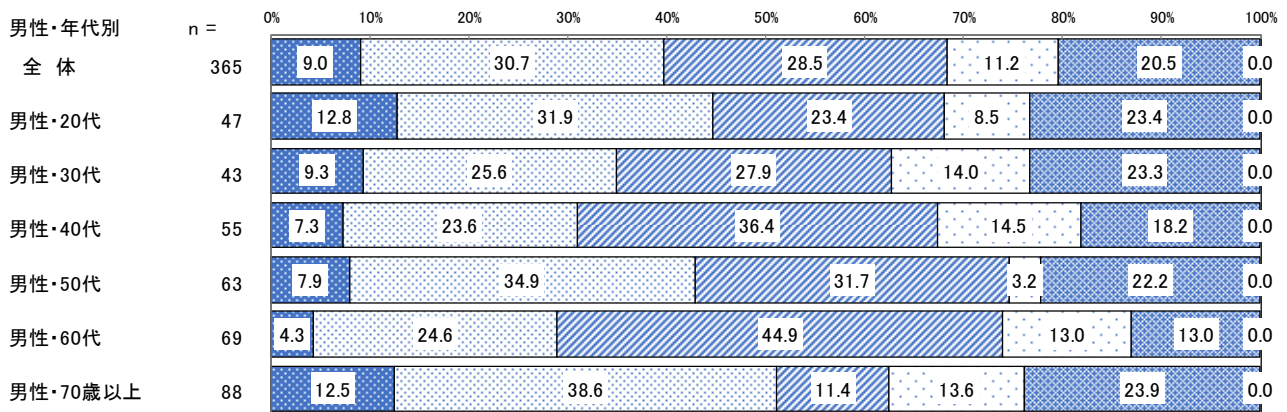
性・年代別で見ると、男性は、60代が『思わない』(57.9%、「思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)の割合が高くなっている一方で、70歳以上が『思う』(51.1%、「思う」+「どちらかといえばそう思う」)の割合が高くなっています。女性は、60代が、『思わない』(58.5%、「思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)の割合が高くなっています。

経年比較で見ると、『思う』『思わない』ともに大きな変化はなく推移しています。

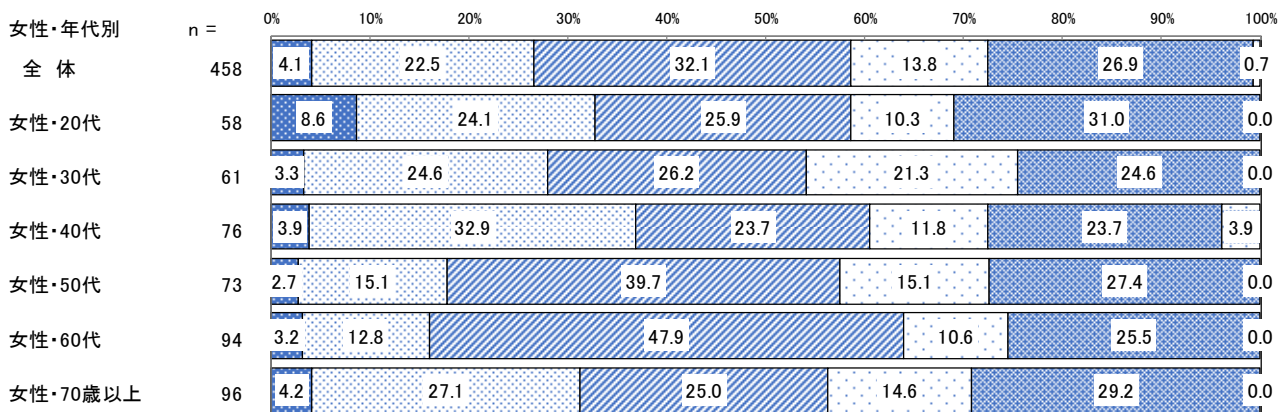


■ 思う ■ どちらかといえばそう思う ■ どちらかといえばそう思わない ■ 思わない ■ わからない ■ 無回答

1 社会における制度・慣行について

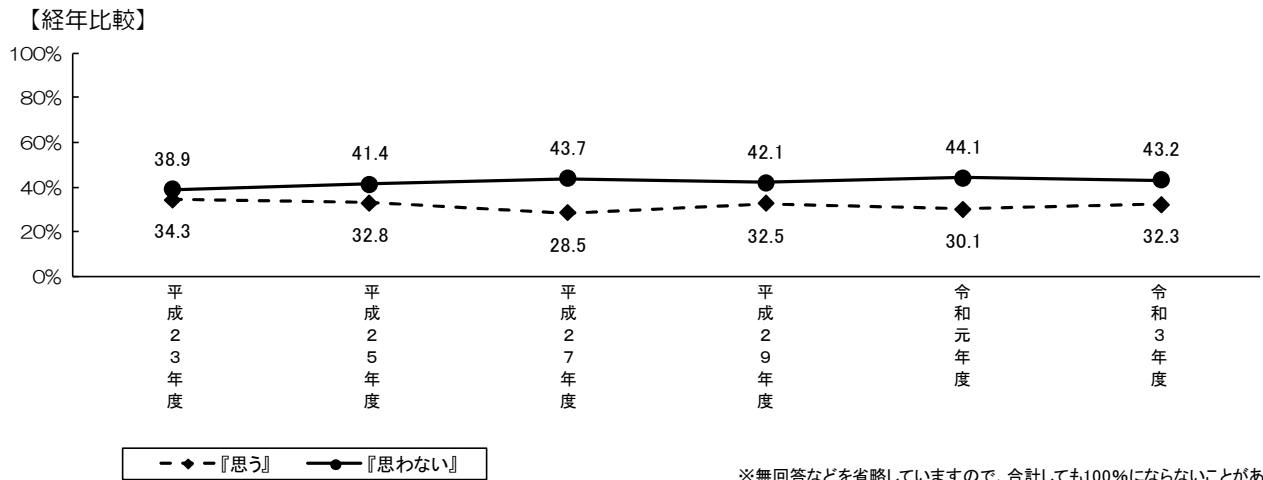


思う
 どちらかといえばそう思う
 どちらかといえばそう思わない
 思わない
 わからない
 無回答



思う
 どちらかといえばそう思う
 どちらかといえばそう思わない
 思わない
 わからない
 無回答

1 社会における制度・慣行について



※『思う』（「思う」＋「どちらかといえばそう思う」）、『思わない』（「思わない」＋「どちらかといえばそう思わない」）

	調査数	思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	思わない	わからない	無回答
平成23年度	577	8.1%	26.2%	26.9%	12.0%	25.3%	1.6%
平成25年度	793	6.9%	25.9%	27.2%	14.2%	23.7%	2.0%
平成27年度	899	7.7%	20.8%	29.5%	14.2%	26.9%	0.9%
平成29年度	782	5.4%	27.1%	28.5%	13.6%	25.3%	0.1%
令和元年度	744	4.6%	25.5%	28.1%	16.0%	25.3%	0.5%
令和3年度	826	6.3%	26.0%	30.4%	12.8%	24.0%	0.5%

2 社会全体における男女平等感

問2 あなたは、社会全体で見た場合、男女は平等になっていると思いますか。(1つに○)

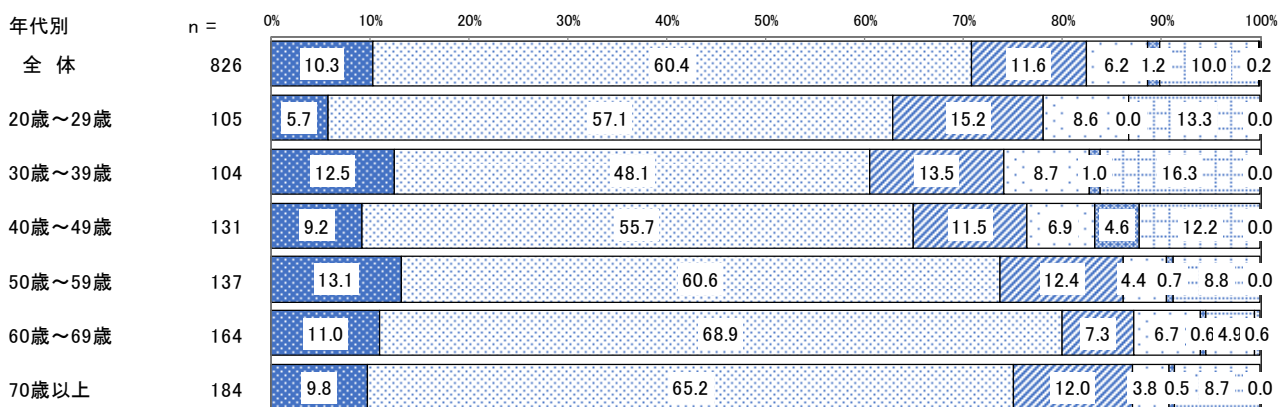
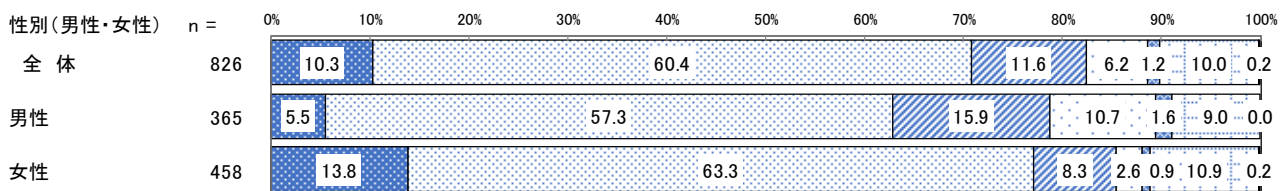
『男性優遇』と感じている人は70.7%となっています。

社会全体での男女平等についての現状認識では、『男性優遇』(「男性が非常に優遇されている」+「どちらかといえば男性が優遇されている」)が70.7%と最も高く、次に「平等」が11.6%、『女性優遇』(「女性が非常に優遇されている」+「どちらかといえば女性が優遇されている」)が7.4%となっています。

年代別でみると、60代が、『男性優遇』(79.9%、「男性が非常に優遇されている」+「どちらかといえば男性が優遇されている」)と感じている割合がもっと高くなっています。

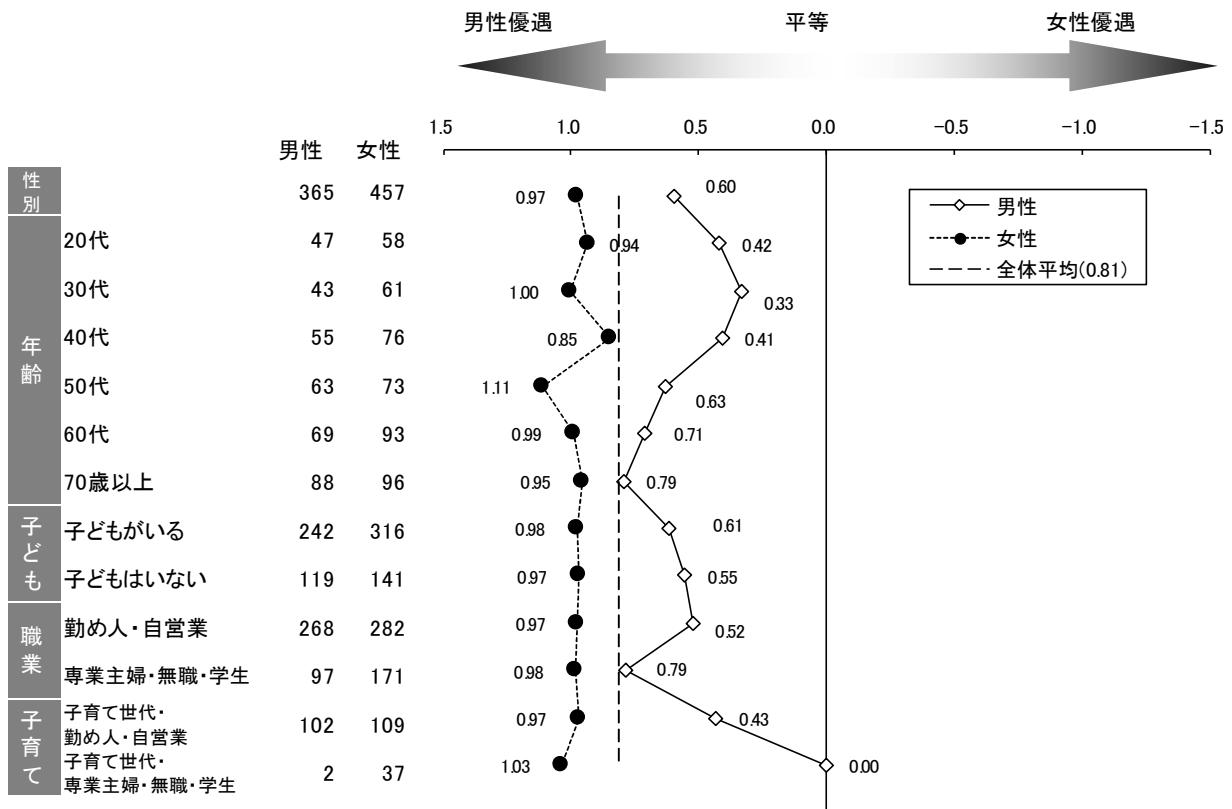
属性別得点をみると、サンプル数の少ない「男性の子育て世代・勤め人・自営業」を除き、すべての属性で男性優遇側に位置しています。性・年代別では、30代の男性と女性の差は0.67ポイントと比較的大きな差がみられました。

経年比較でみると、『男性優遇』は緩やかな減少傾向にありましたが、令和元年度から増加に転じています。



1 社会における制度・慣行について

【属性別 得点】



【得点算出方法】

各選択肢を

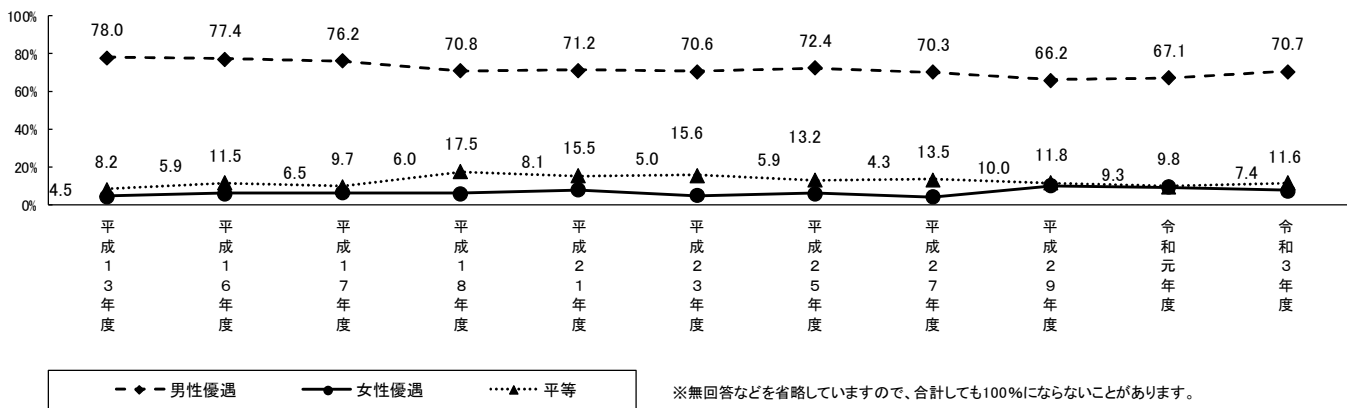
- 男性が非常に優遇 2点
- どちらかといえば男性が優遇 1点
- 平等 0点
- どちらかといえば女性が優遇 -1点
- 女性が非常に優遇 -2点

とし、平均点を算出しました。

※ 「子育て世代」とは「20～50代」で「子どもがいる」と回答した対象者を指します。

1 社会における制度・慣行について

【経年比較】



※『男性優遇』（「男性が非常に優遇されている」＋「どちらかといえば男性が優遇されている」）、『女性優遇』（「女性が非常に優遇されている」＋「どちらかといえば女性が優遇されている」）

	調査数	男性が非常に優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が非常に優遇されている	わからない	無回答
平成13年度	1,133	10.7%	67.3%	8.2%	4.0%	0.5%	5.8%	3.4%
平成16年度	800	6.9%	70.5%	11.5%	5.6%	0.3%	4.5%	0.8%
平成17年度	836	6.5%	69.7%	9.7%	5.9%	0.6%	6.5%	1.2%
平成18年度	570	7.5%	63.3%	17.5%	5.6%	0.4%	5.1%	0.5%
平成21年度	653	7.8%	63.4%	15.5%	7.5%	0.6%	4.4%	0.8%
平成23年度	577	6.1%	64.5%	15.6%	4.3%	0.7%	8.1%	0.7%
平成25年度	793	7.2%	65.2%	13.2%	5.0%	0.9%	7.4%	1.0%
平成27年度	899	7.1%	63.2%	13.5%	3.7%	0.6%	11.3%	0.7%
平成29年度	782	5.5%	60.7%	11.8%	9.0%	1.0%	11.6%	0.4%
令和元年度	744	7.3%	59.8%	9.8%	8.1%	1.2%	12.5%	1.3%
令和3年度	826	10.3%	60.4%	11.6%	6.2%	1.2%	10.0%	0.2%

3 各分野における男女平等感

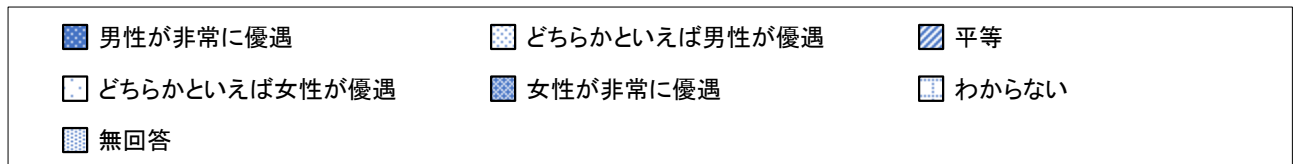
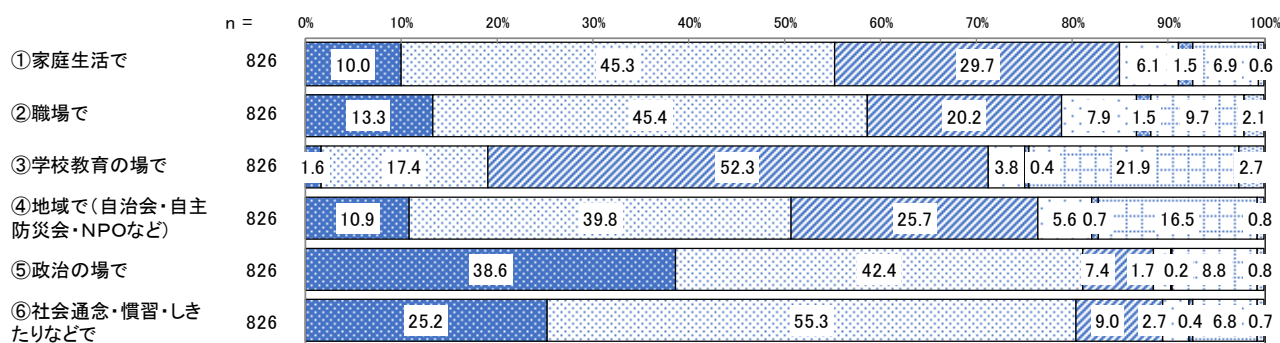
問3 あなたは、次の分野で男女が平等であると思いますか。(それぞれ1つに○)

【③学校教育の場で】以外の分野では『男性優位』と感じる割合が高くなっています。

様々な分野において男女が平等であるかをたずねたところ、『男性優遇』（「男性が非常に優遇」＋「どちらかといえば男性が優遇」）と『女性優遇』（「女性が非常に優遇」＋「どちらかといえば女性が優遇」）の比較では、①～⑥のすべての分野で『男性優遇』が上回っています。

最も『男性優遇』（「男性が非常に優遇」＋「どちらかといえば男性が優遇」）の割合が高かったのは【⑤政治の場で】が81.0%、【⑥社会通念・慣習・しきたりなどで】が80.5%と8割を超える結果となりました。また、【②職場で】が58.7%、【④地域で（自治会・自主防災会・NPOなど）】が50.7%となっています。

最も「平等」の割合が高かったのは【③学校教育の場で】が52.3%と、半数以上が「平等」と感じています。次に、【①家庭生活で】が29.7%、【④地域で（自治会・自主防災会・NPOなど）】が25.7%となっています。



① 家庭生活で

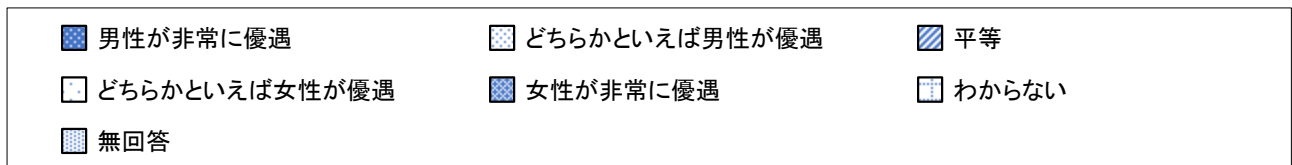
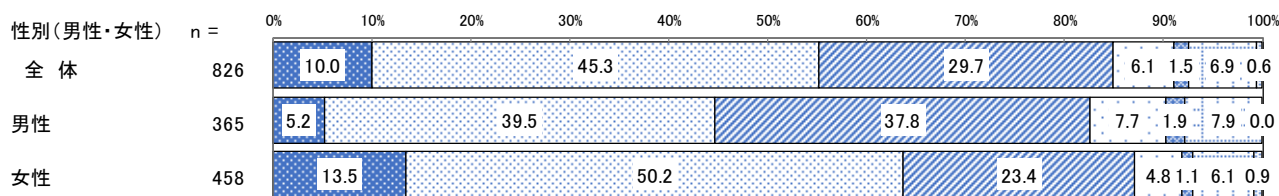
『男性優遇』と感じている人は半数を超えています。

全体では、「男性が非常に優遇」(10.0%)と「どちらかといえば男性が優遇」(45.3%)を合わせた『男性優遇』が55.3%となっています。

性別で見ると、「男性が非常に優遇」は女性が13.5%、男性が5.2%となっており、意識の差が見られます。

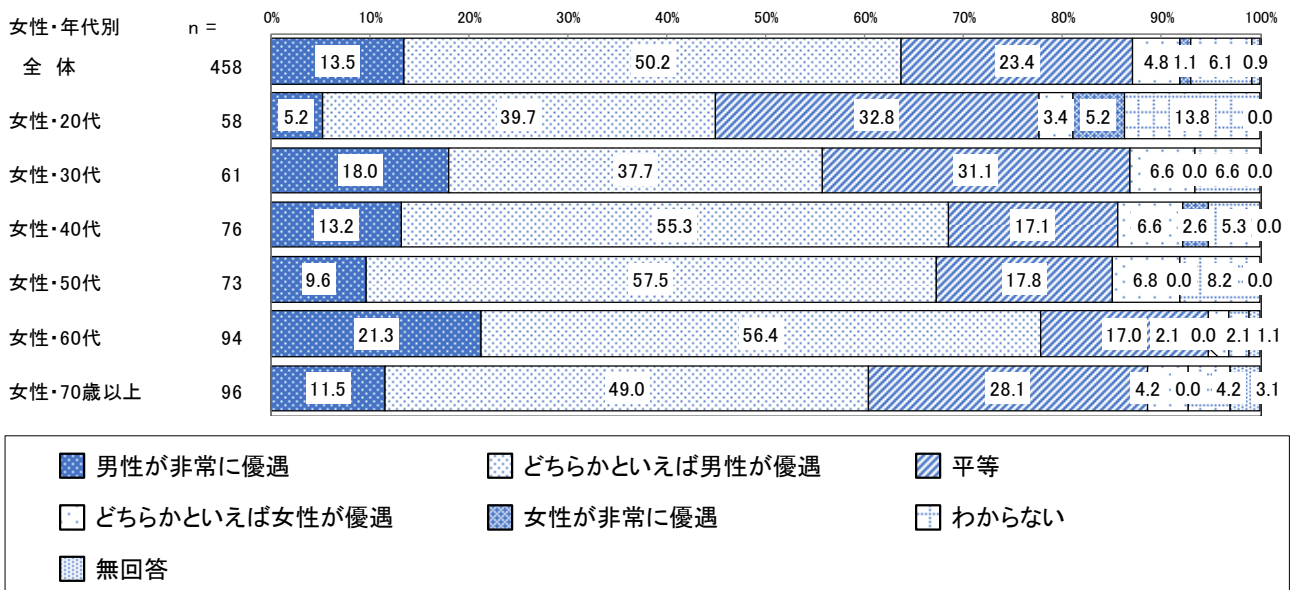
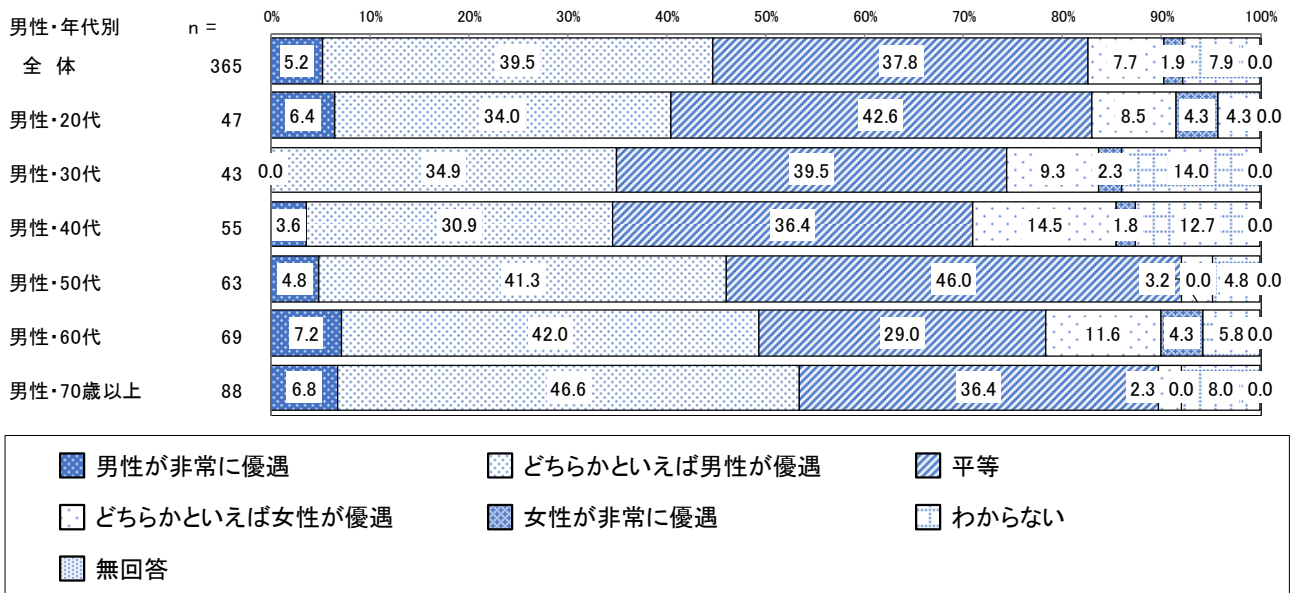
性・年代別で見ると、男性は30代と40代が、『男性優遇』(「男性が非常に優遇」+「どちらかといえば男性が優遇」)と感じている人が、他の年代に比べて少なくなっています。女性は20代と30代が『男性優遇』と感じている人が少ない一方で、40代以上の各年代は『男性優遇』と感じている人がいずれも60%を超えています。

経年比較で見ると、いずれの項目も横ばい傾向で推移しています。



1 社会における制度・慣行について

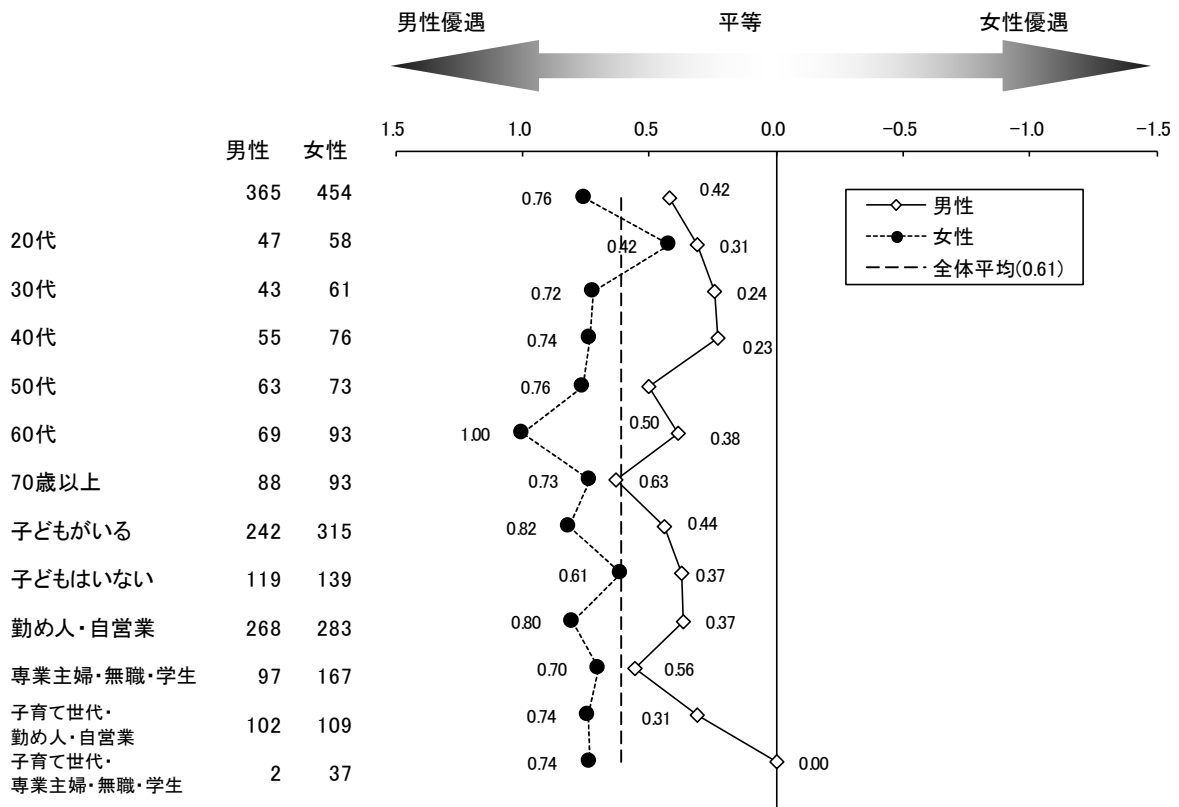
【性・年代別】



1 社会における制度・慣行について

【属性別 得点】

①家庭生活で



【得点算出方法】

各選択肢を

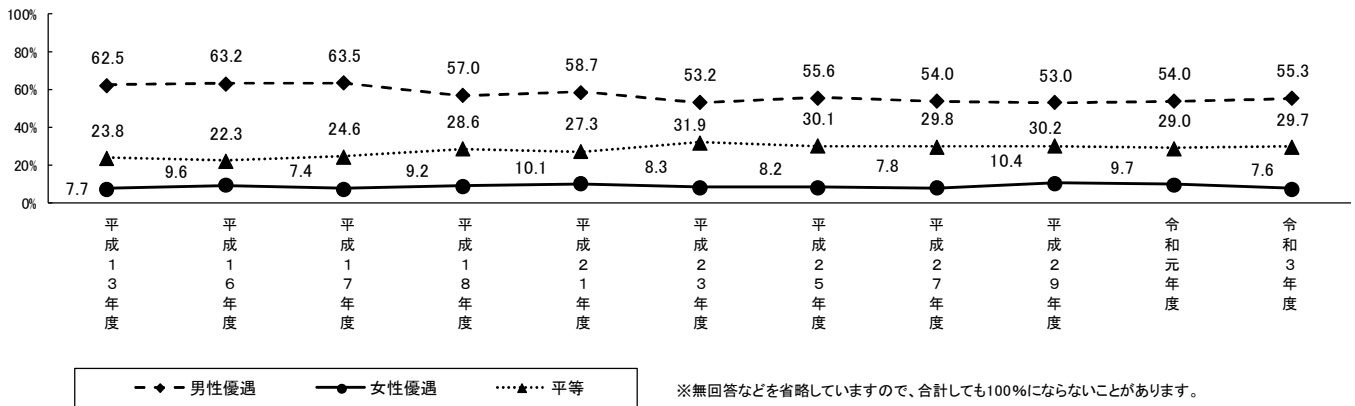
- 男性が非常に優遇 2点
- どちらかといえば男性が優遇 1点
- 平等 0点
- どちらかといえば女性が優遇 -1点
- 女性が非常に優遇 -2点

とし、平均点を算出しました。

※ 「子育て世代」とは「20～50代」で「子どもがいる」と回答した対象者を指します。

1 社会における制度・慣行について

【経年比較】



※『男性優遇』（「男性が非常に優遇」＋「どちらかといえば男性が優遇」）、『女性優遇』（「女性が非常に優遇」＋「どちらかといえば女性が優遇」）

	調査数	男性が非常に優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が非常に優遇されている	わからない	無回答
平成13年度	1,133	12.4%	50.1%	23.8%	7.1%	0.6%	3.7%	2.2%
平成16年度	800	10.1%	53.1%	22.3%	8.6%	1.0%	2.9%	2.0%
平成17年度	836	11.0%	52.5%	24.6%	6.1%	1.3%	2.9%	1.6%
平成18年度	570	9.1%	47.9%	28.6%	8.1%	1.1%	2.8%	2.5%
平成21年度	653	10.6%	48.1%	27.3%	8.6%	1.5%	2.5%	1.5%
平成23年度	577	9.5%	43.7%	31.9%	6.6%	1.7%	5.0%	1.6%
平成25年度	793	10.5%	45.1%	30.1%	7.3%	0.9%	4.2%	1.9%
平成27年度	899	12.0%	42.0%	29.8%	6.8%	1.0%	5.8%	2.6%
平成29年度	782	10.4%	42.6%	30.2%	8.7%	1.7%	5.4%	1.2%
令和元年度	744	11.0%	43.0%	29.0%	8.6%	1.1%	5.6%	1.6%
令和3年度	826	10.0%	45.3%	29.7%	6.1%	1.5%	6.9%	0.6%

② 職場で

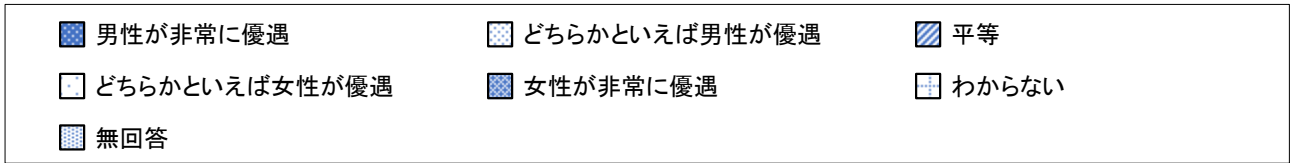
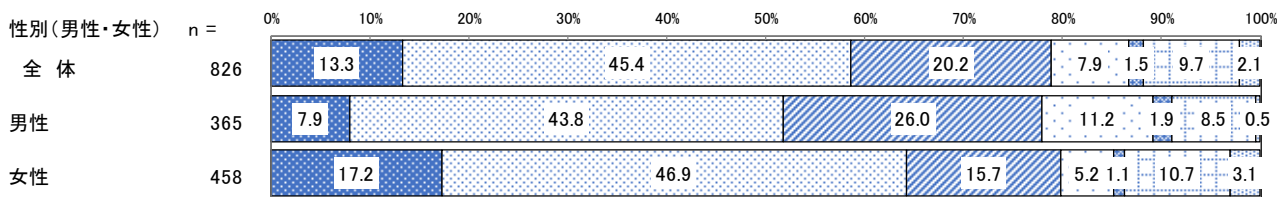
『男性優遇』と感じている人は半数を超えています。

全体では、「男性が非常に優遇」(13.3%)と「どちらかといえば男性が優遇」(45.4%)を合わせた『男性優遇』が58.7%となっています。

性別で見ると、「男性が非常に優遇」は女性が17.2%、男性が7.9%となっており、意識の差が見られます。

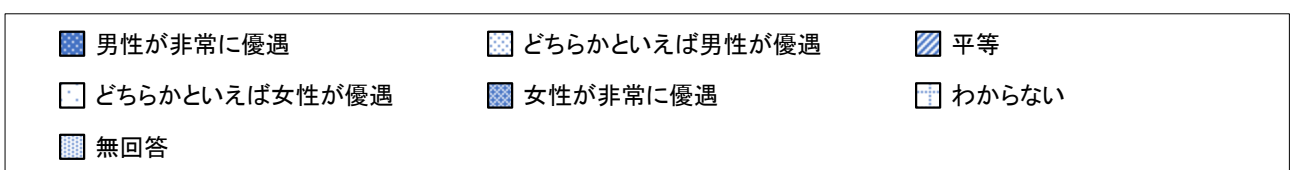
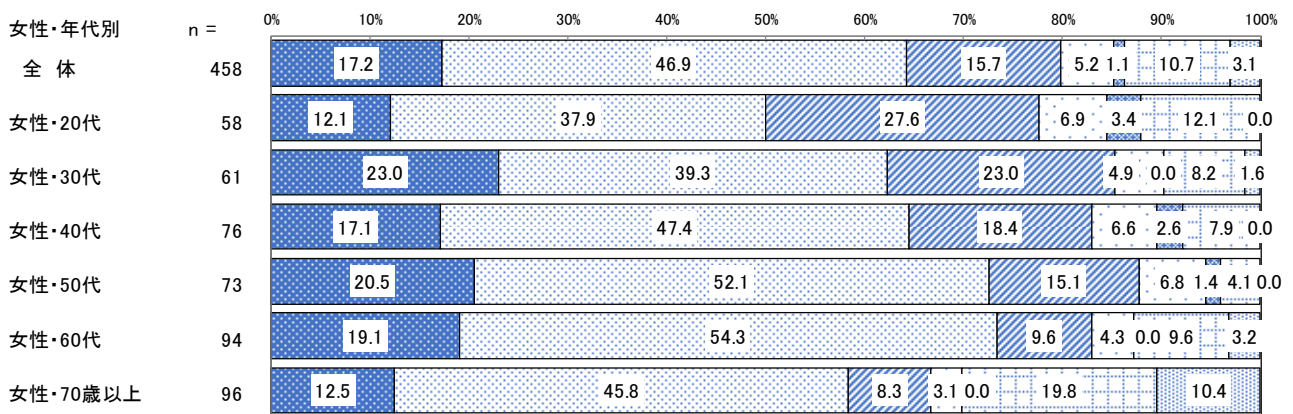
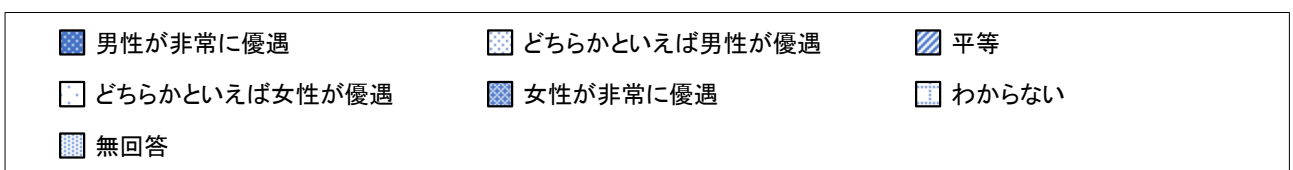
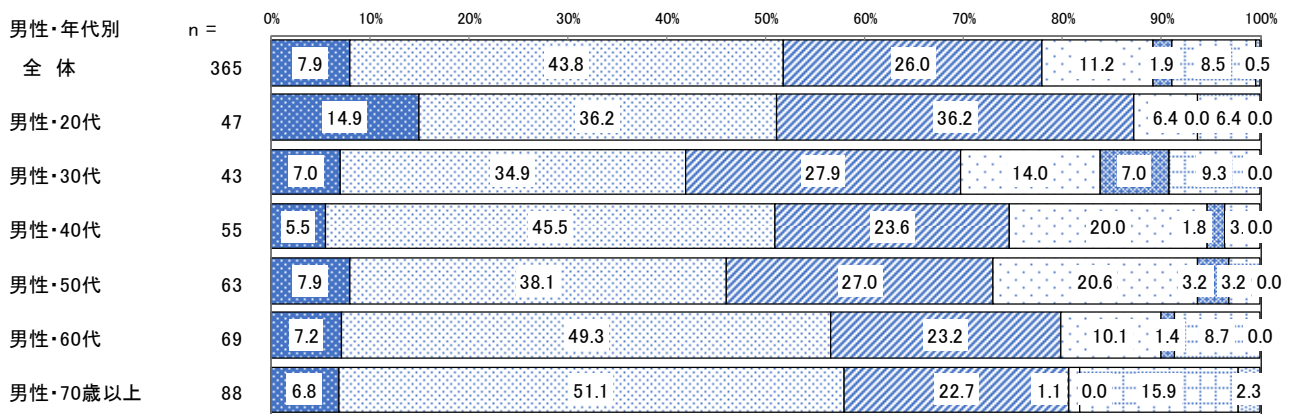
性・年代別で見ると、男性に比べて女性の方が『男性優遇』の割合が高くなっています。50代男性は、『女性優遇』(23.8%、「女性が非常に優遇」+「どちらかといえば女性が優遇」)の割合が高くなっています。60代女性は、『男性優遇』(73.4%、「男性が非常に優遇」+「どちらかといえば男性が優遇」)の割合が高くなっています。20代女性、30代女性は、「平等」の割合が他の年代と比べて高くなっています。

経年比較で見ると、『女性優遇』がやや増加傾向にあります。



1 社会における制度・慣行について

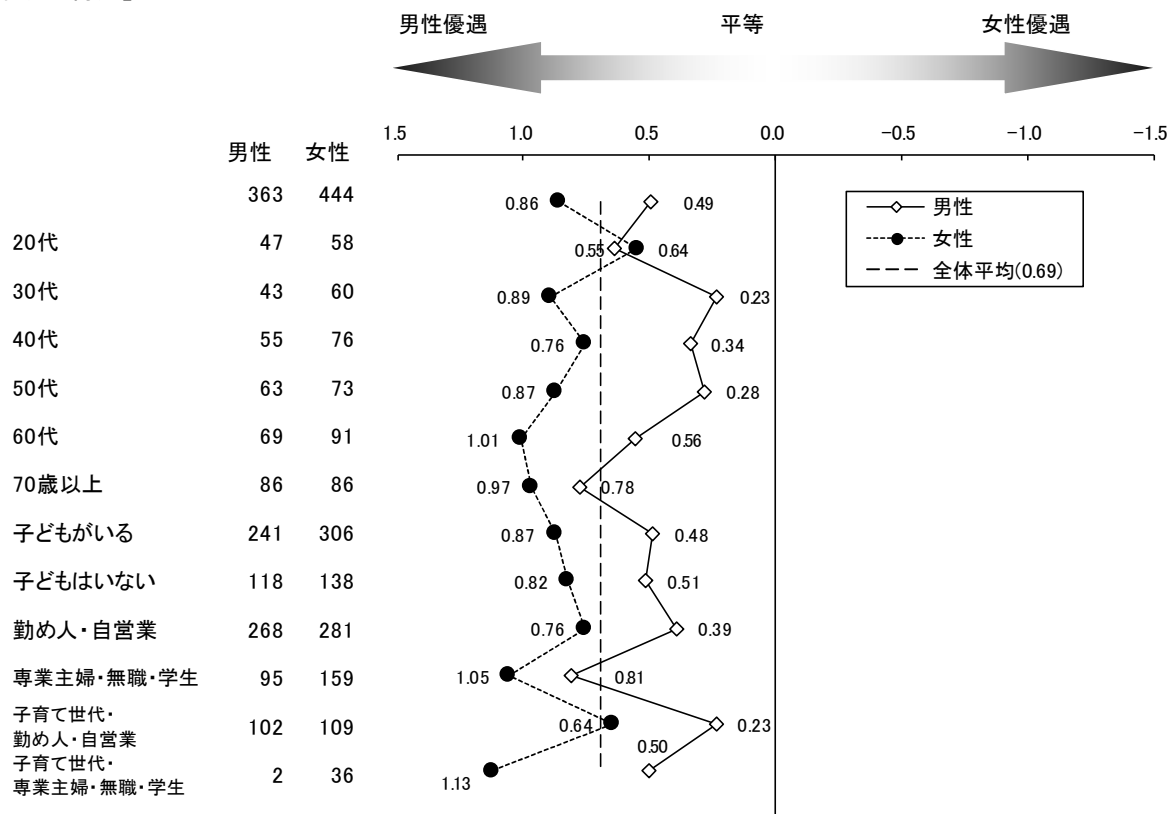
【性・年代別】



1 社会における制度・慣行について

【属性別 得点】

②職場で



【得点算出方法】

各選択肢を

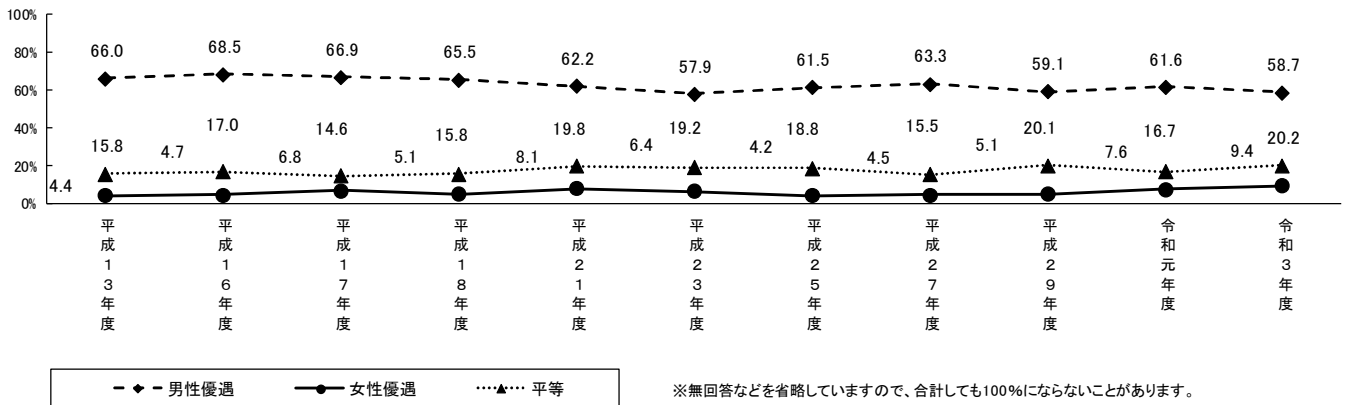
- 男性が非常に優遇 2点
- どちらかといえば男性が優遇 1点
- 平等 0点
- どちらかといえば女性が優遇 -1点
- 女性が非常に優遇 -2点

とし、平均点を算出しました。

※ 「子育て世代」とは「20～50代」で「子どもがいる」と回答した対象者を指します。

1 社会における制度・慣行について

【経年比較】



※『男性優遇』（「男性が非常に優遇」＋「どちらかといえば男性が優遇」）、『女性優遇』（「女性が非常に優遇」＋「どちらかといえば女性が優遇」）

	調査数	男性が非常に優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が非常に優遇されている	わからない	無回答
平成13年度	1,133	19.2%	46.8%	15.8%	4.0%	0.4%	9.2%	4.8%
平成16年度	800	18.5%	50.0%	17.0%	4.6%	0.1%	6.3%	3.5%
平成17年度	836	15.9%	51.0%	14.6%	6.1%	0.7%	7.8%	3.9%
平成18年度	570	17.4%	48.1%	15.8%	4.2%	0.9%	8.9%	4.7%
平成21年度	653	16.1%	46.1%	19.8%	7.2%	0.9%	7.7%	2.3%
平成23年度	577	13.5%	44.4%	19.2%	5.2%	1.2%	11.3%	5.2%
平成25年度	793	16.6%	44.9%	18.8%	3.4%	0.8%	10.5%	5.0%
平成27年度	899	15.1%	48.2%	15.5%	4.1%	0.4%	12.5%	4.2%
平成29年度	782	13.2%	45.9%	20.1%	4.3%	0.8%	12.3%	3.5%
令和元年度	744	10.9%	50.7%	16.7%	6.7%	0.9%	12.0%	2.2%
令和3年度	826	13.3%	45.4%	20.2%	7.9%	1.5%	9.7%	2.1%

③ 学校教育の場で

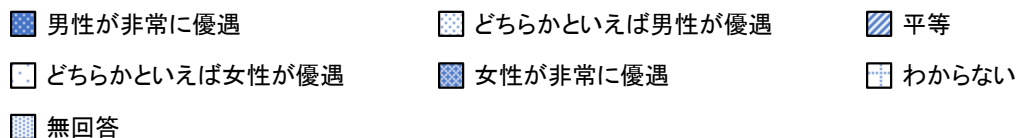
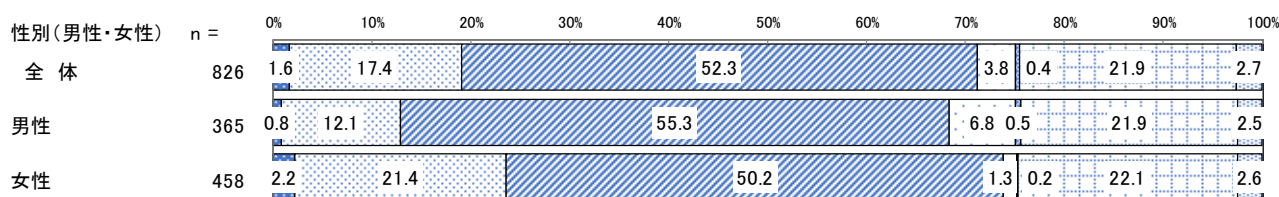
「平等」と感じている人は半数を超えています。

全体では、「平等」が52.3%となっています。

性別でみると、「平等」が男性、女性いずれも5割を超えていますが、「どちらかといえば男性が優遇」は女性が21.4%、男性が12.1%となっており、意識の差が見られます。

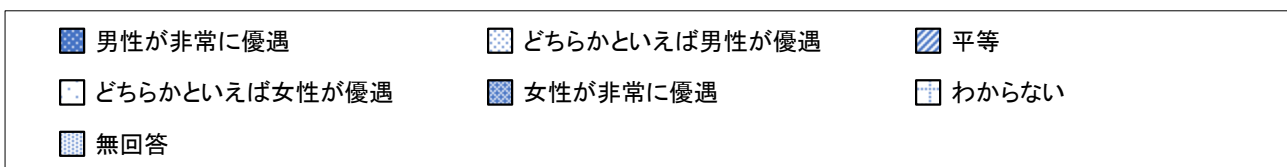
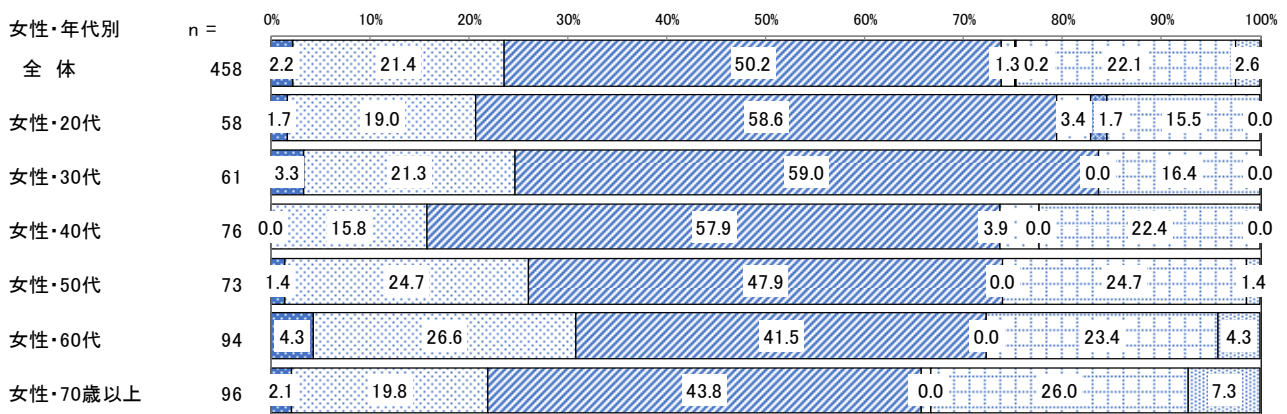
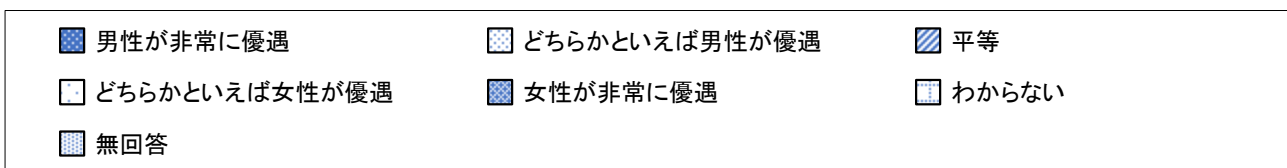
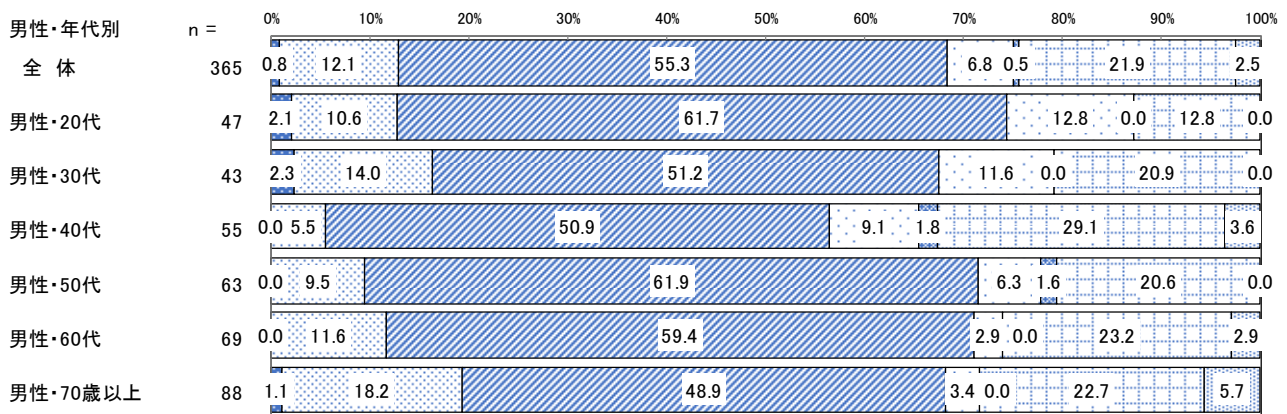
性・年代別でみると、いずれの年代も「平等」の割合が高くなっていますが、女性の方が『男性優遇』（「男性が非常に優遇」＋「どちらかといえば男性が優遇」）と感じる割合が高くなっています。

経年比較でみると、いずれの項目も横ばい傾向で推移しています。



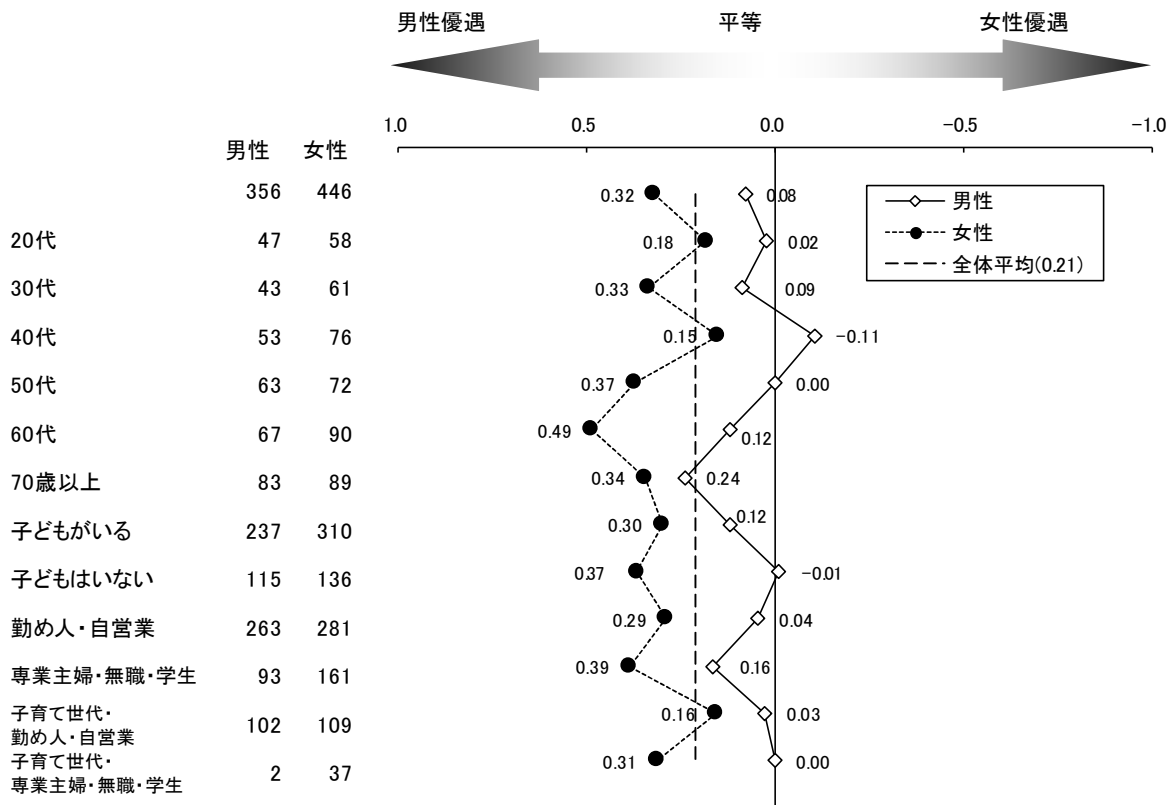
1 社会における制度・慣行について

【性・年代別】



【属性別 得点】

③学校教育の場で



【得点算出方法】

各選択肢を

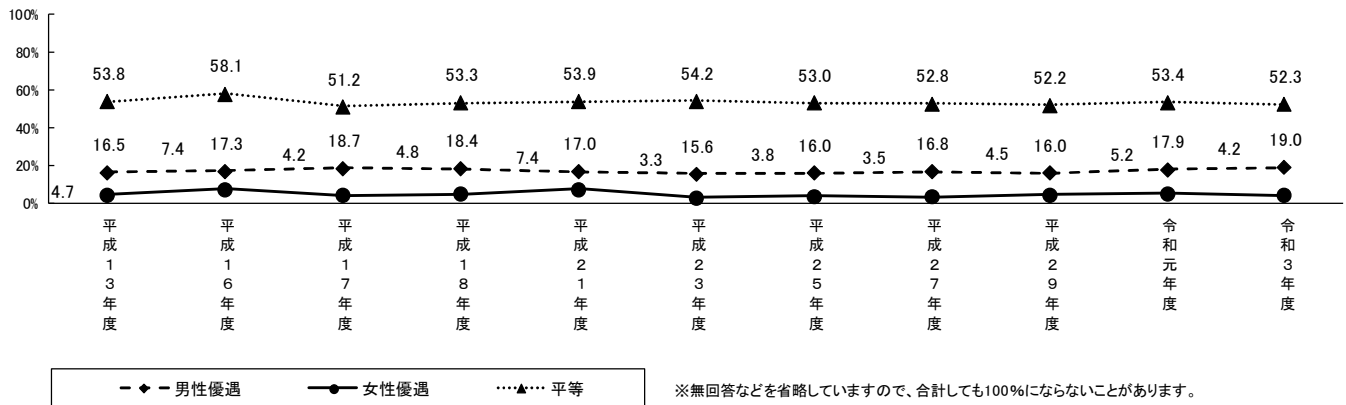
- 男性が非常に優遇 2点
- どちらかといえば男性が優遇 1点
- 平等 0点
- どちらかといえば女性が優遇 -1点
- 女性が非常に優遇 -2点

とし、平均点を算出しました。

※ 「子育て世代」とは「20～50代」で「子どもがいる」と回答した対象者を指します。

1 社会における制度・慣行について

【経年比較】



※『男性優遇』（「男性が非常に優遇」＋「どちらかといえば男性が優遇」）、『女性優遇』（「女性が非常に優遇」＋「どちらかといえば女性が優遇」）

	調査数	男性が非常に優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が非常に優遇されている	わからない	無回答
平成13年度	1,133	1.8%	14.7%	53.8%	4.3%	0.4%	18.1%	6.8%
平成16年度	800	2.4%	14.9%	58.1%	6.5%	0.9%	14.1%	3.1%
平成17年度	836	1.7%	17.0%	51.2%	3.8%	0.4%	20.9%	5.0%
平成18年度	570	1.9%	16.5%	53.3%	3.9%	0.9%	18.1%	5.4%
平成21年度	653	1.7%	15.3%	53.9%	6.9%	0.5%	18.1%	3.7%
平成23年度	577	1.6%	14.0%	54.2%	2.8%	0.5%	20.6%	6.2%
平成25年度	793	2.4%	13.6%	53.0%	3.2%	0.6%	21.2%	6.1%
平成27年度	899	1.9%	14.9%	52.8%	3.3%	0.2%	22.1%	4.7%
平成29年度	782	2.6%	13.4%	52.2%	3.6%	0.9%	24.2%	3.2%
令和元年度	744	1.5%	16.4%	53.4%	4.7%	0.5%	20.7%	2.8%
令和3年度	826	1.6%	17.4%	52.3%	3.8%	0.4%	21.9%	2.7%

④ 地域で（自治会・自主防災会・NPOなど）

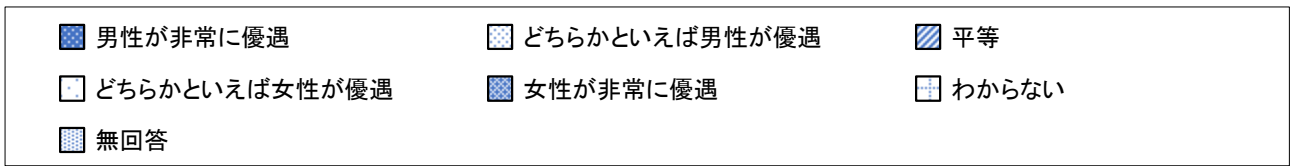
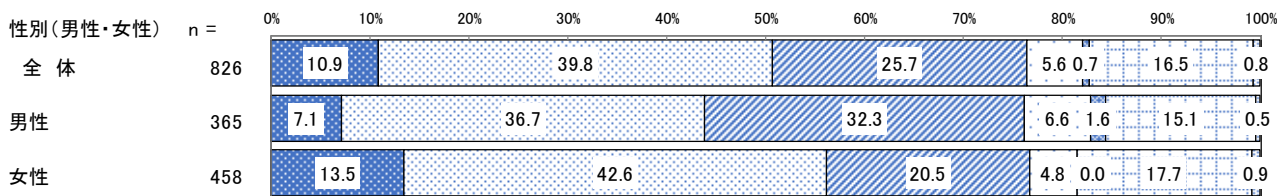
『男性優遇』と感じている人は5割で、50代、60代女性が特に『男性優遇』と感じています。

全体では、「男性が非常に優遇」（10.9%）と「どちらかといえば男性が優遇」（39.8%）を合わせた『男性優遇』が50.7%となっています。

性別でみると、「男性が非常に優遇」は女性が13.5%、男性が7.1%となっており、意識の差が見られます。

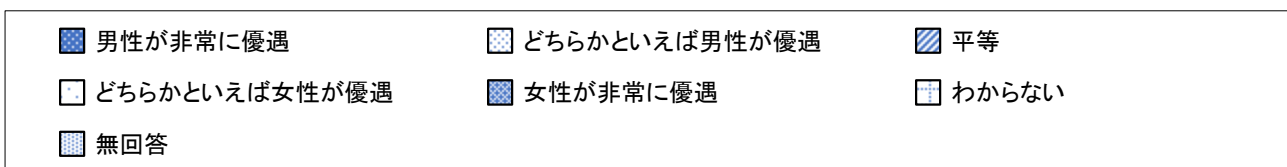
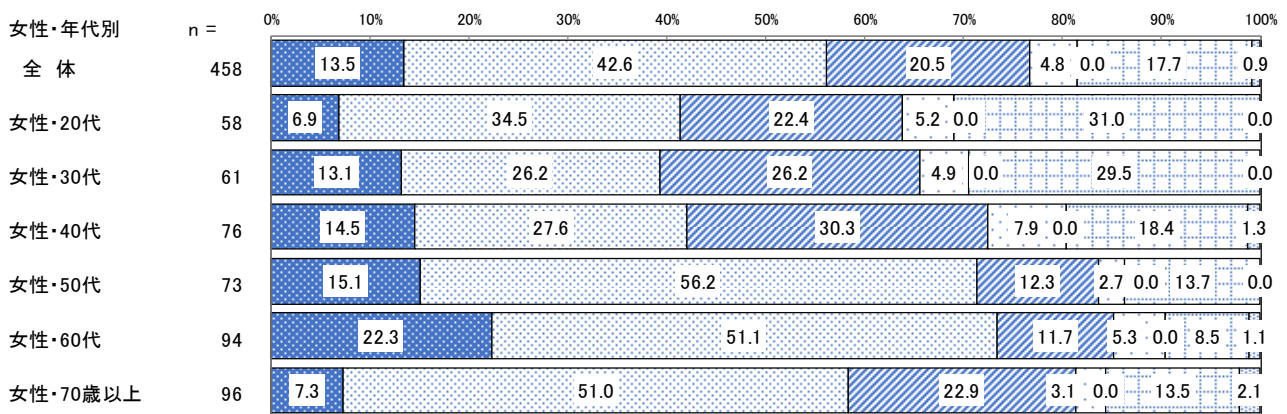
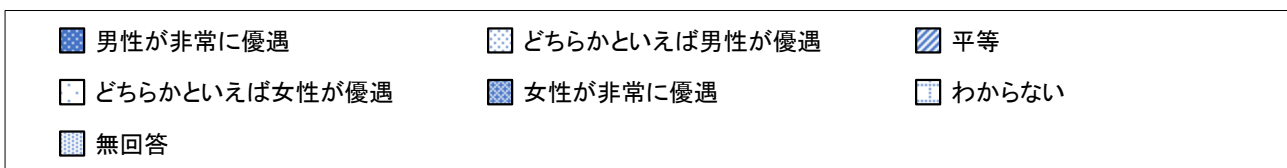
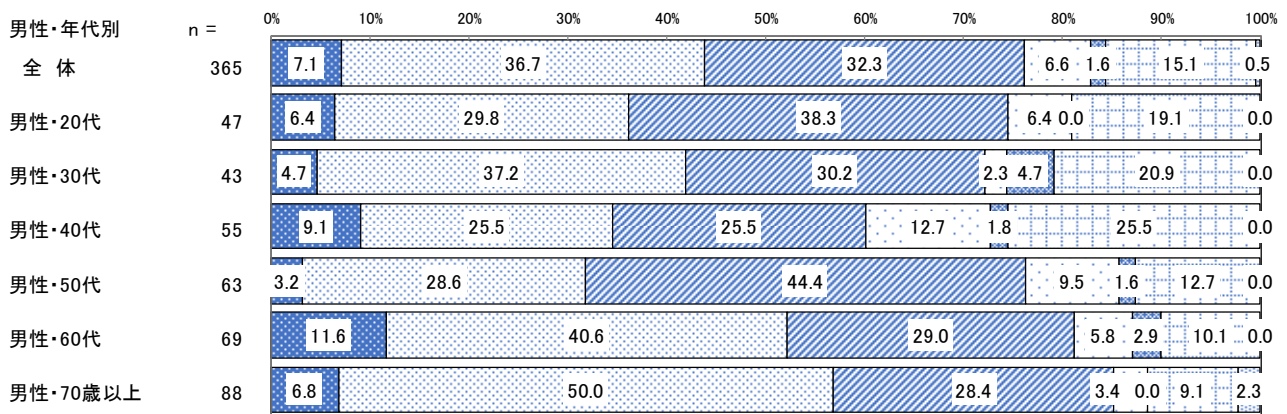
性・年代別でみると、50代女性、60代女性は、『男性優遇』（「男性が非常に優遇」＋「どちらかといえば男性が優遇」）の割合が他の年代に比べて高くなっており、60代女性は、「男性が非常に優遇」が2割を超えています。

経年比較でみると、『男性優遇』は横ばいで推移していましたが、令和3年度は、過去最も高い割合となっています。



1 社会における制度・慣行について

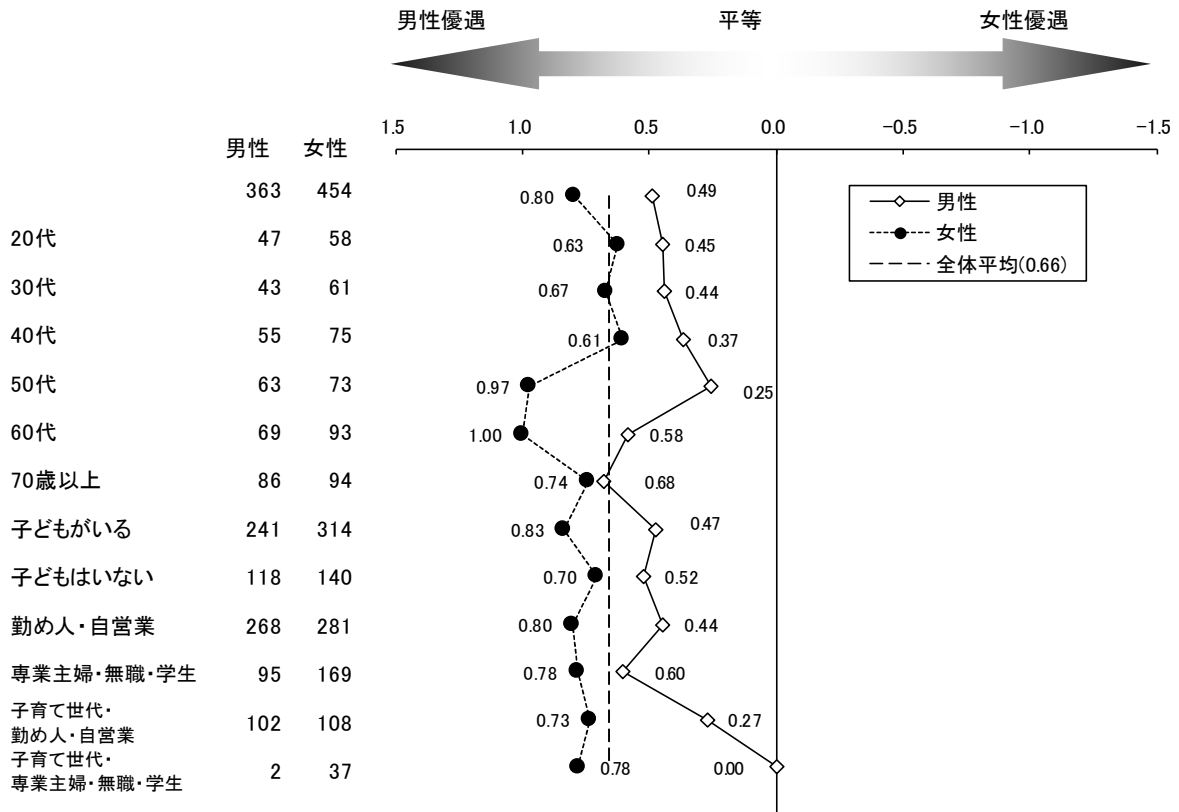
【性・年代別】



1 社会における制度・慣行について

【属性別 得点】

④地域で(自治会・自主防災会・NPOなど)



【得点算出方法】

各選択肢を

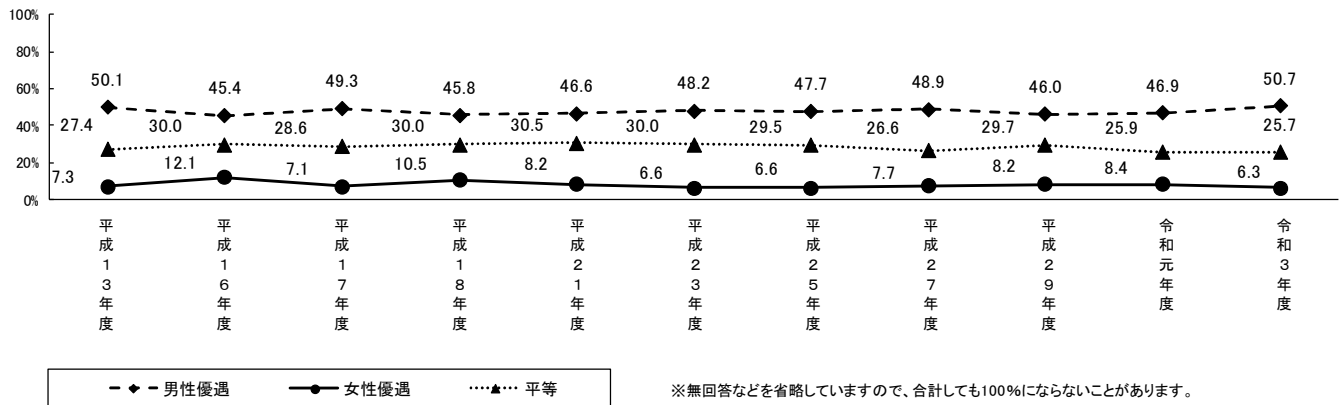
- 男性が非常に優遇 2点
- どちらかといえば男性が優遇 1点
- 平等 0点
- どちらかといえば女性が優遇 -1点
- 女性が非常に優遇 -2点

とし、平均点を算出しました。

※ 「子育て世代」とは「20～50代」で「子どもがいる」と回答した対象者を指します。

1 社会における制度・慣行について

【経年比較】



※『男性優遇』（「男性が非常に優遇」＋「どちらかといえば男性が優遇」）、『女性優遇』（「女性が非常に優遇」＋「どちらかといえば女性が優遇」）

	調査数	男性が非常に優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が非常に優遇されている	わからない	無回答
平成13年度	1,133	8.9%	41.2%	27.4%	6.7%	0.6%	11.1%	4.0%
平成16年度	800	7.5%	37.9%	30.0%	11.6%	0.5%	9.4%	3.1%
平成17年度	836	7.9%	41.4%	28.6%	6.6%	0.5%	11.8%	3.2%
平成18年度	570	8.8%	37.0%	30.0%	9.8%	0.7%	10.5%	3.2%
平成21年度	653	7.5%	39.1%	30.5%	7.7%	0.5%	11.5%	3.4%
平成23年度	577	9.7%	38.5%	30.0%	5.2%	1.4%	12.1%	3.1%
平成25年度	793	9.7%	38.0%	29.5%	6.1%	0.5%	12.5%	3.8%
平成27年度	899	10.3%	38.6%	26.6%	7.3%	0.4%	13.8%	2.9%
平成29年度	782	10.1%	35.9%	29.7%	7.0%	1.2%	15.1%	1.0%
令和元年度	744	8.5%	38.4%	25.9%	7.7%	0.7%	16.4%	2.4%
令和3年度	826	10.9%	39.8%	25.7%	5.6%	0.7%	16.5%	0.8%

⑤ 政治の場で

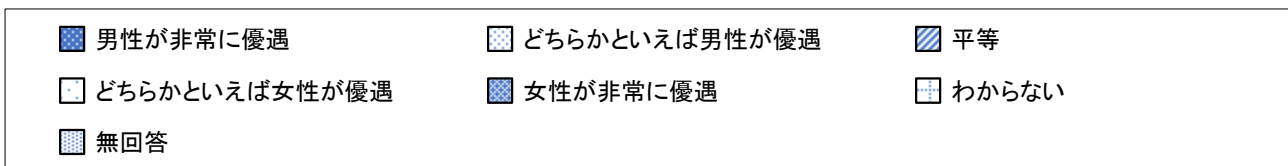
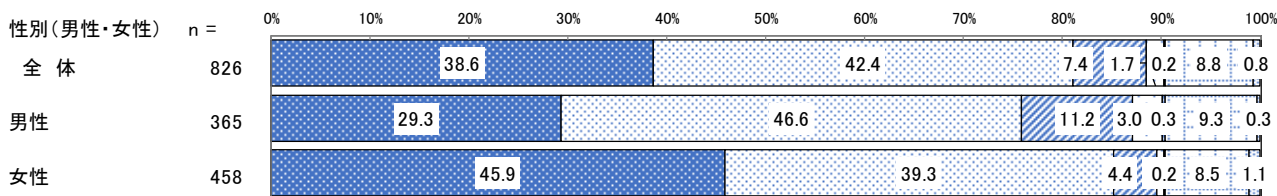
『男性優遇』だと感じている人は8割を超えています。女性はすべての世代で『男性優遇』と感じている人が8割以上となっています。

全体では、「男性が非常に優遇」(38.6%)と「どちらかといえば男性が優遇」(42.4%)を合わせた『男性優遇』が81.0%となっています。

性別で見ると、「男性が非常に優遇」は女性が45.9%、男性が29.3%となっており、男女間の意識の差が大きくなっています。

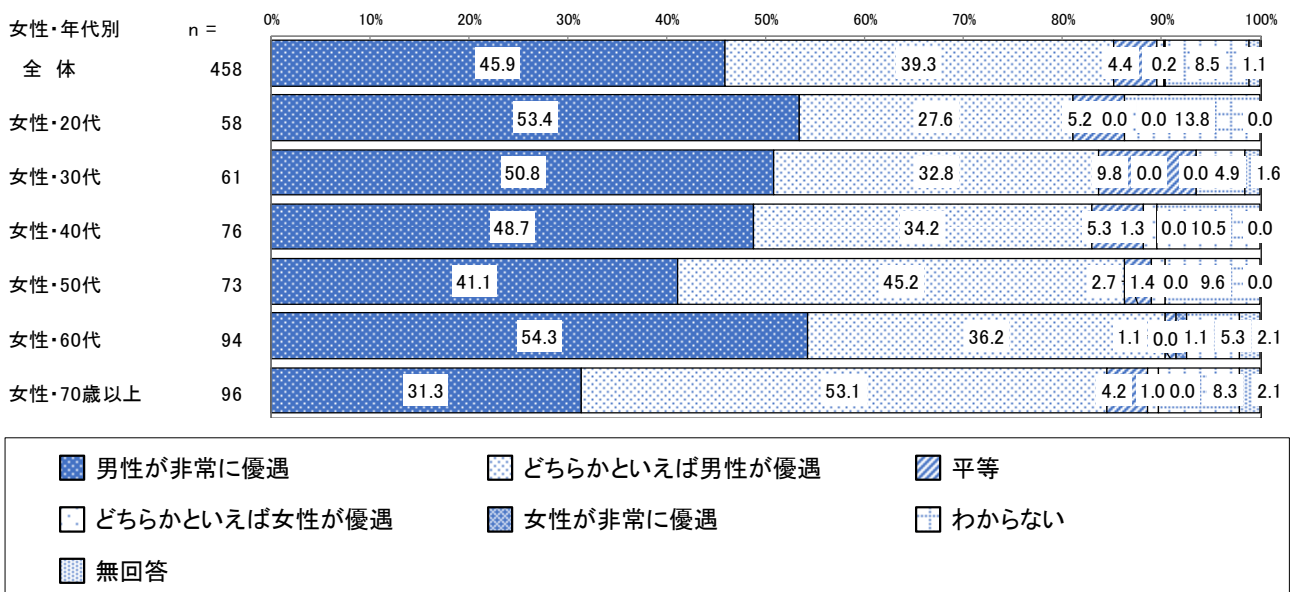
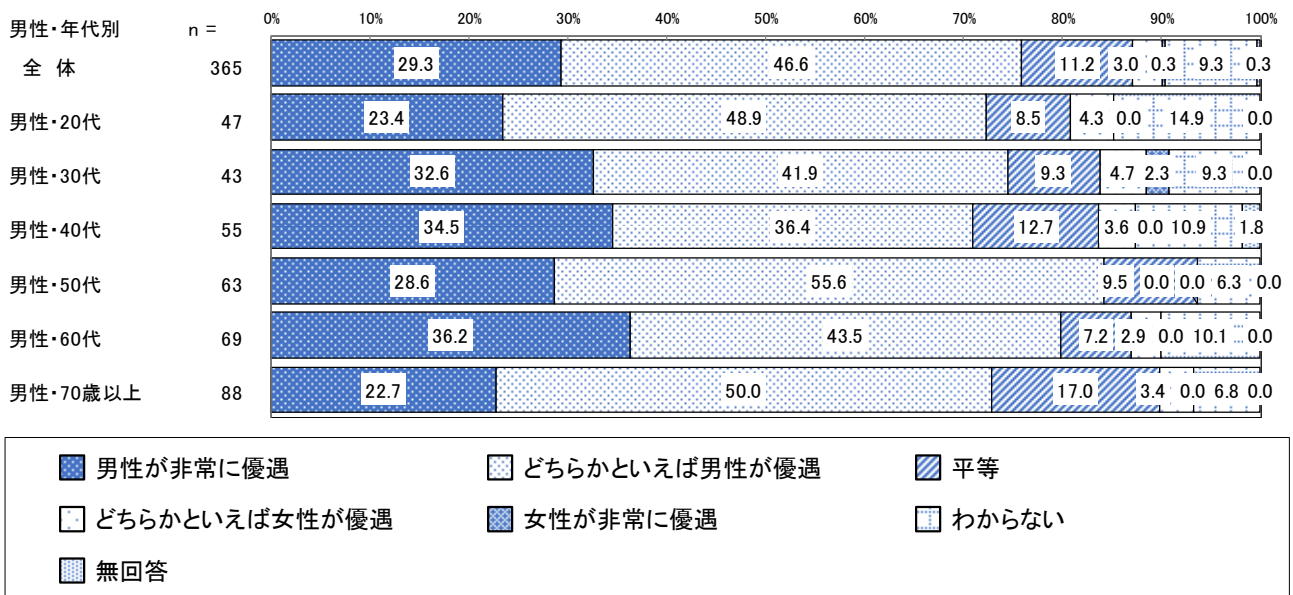
性・年代別で見ると、すべての年代で、女性の方が『男性優遇』の割合が高くなっています。60代女性は、『男性優遇』(「男性が非常に優遇」+「どちらかといえば男性が優遇」)の割合が9割を超えています。

経年比較で見ると、平成27年度以降、『男性優遇』は増加傾向にあり、令和3年度が過去最も高い割合となっています。



1 社会における制度・慣行について

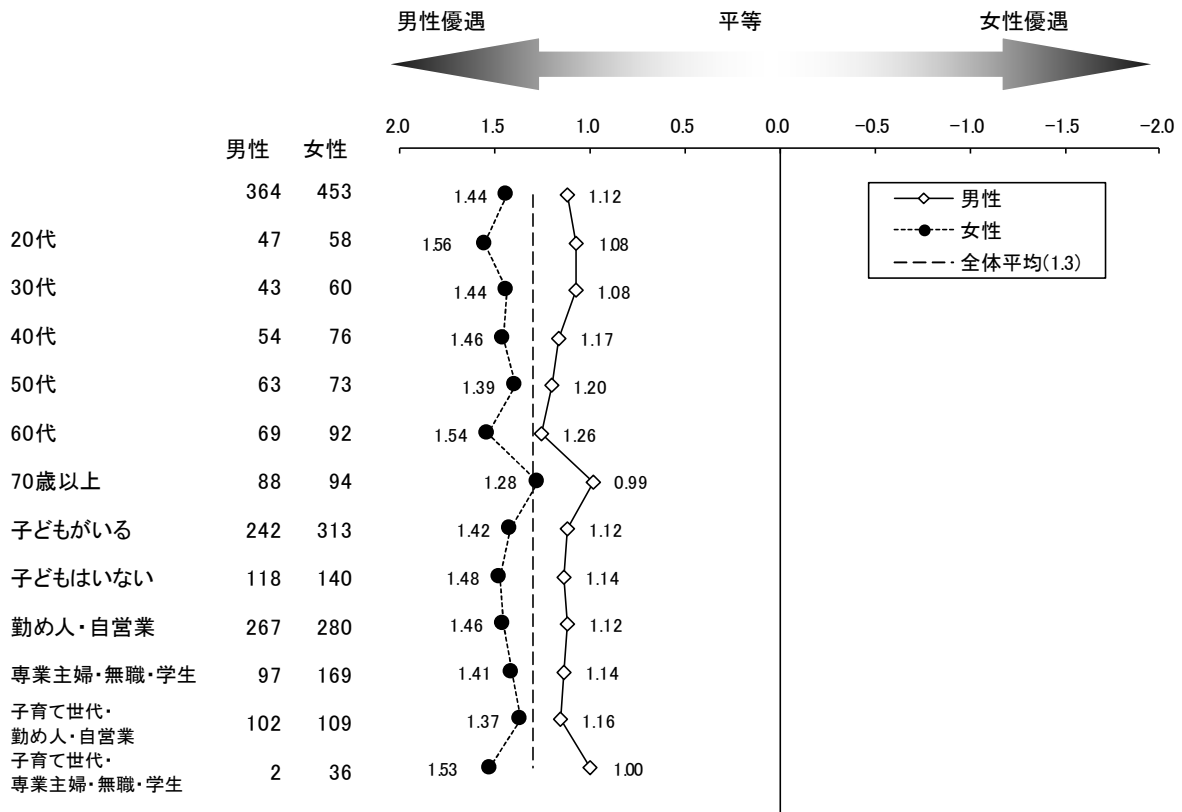
【性・年代別】



1 社会における制度・慣行について

【属性別 得点】

⑤政治の場で



【得点算出方法】

各選択肢を

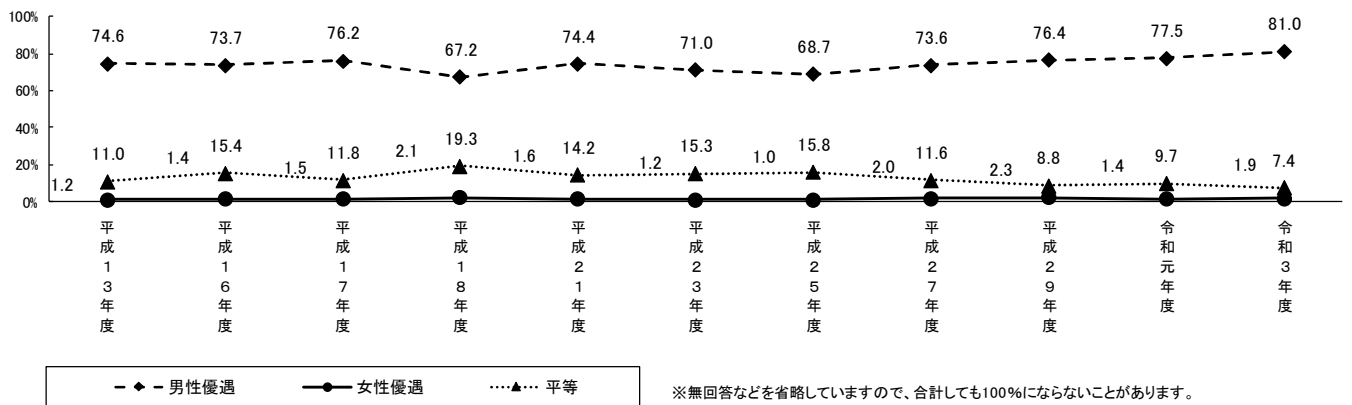
- 男性が非常に優遇 2点
- どちらかといえば男性が優遇 1点
- 平等 0点
- どちらかといえば女性が優遇 -1点
- 女性が非常に優遇 -2点

とし、平均点を算出しました。

※ 「子育て世代」とは「20～50代」で「子どもがいる」と回答した対象者を指します。

1 社会における制度・慣行について

【経年比較】



※『男性優遇』（「男性が非常に優遇」＋「どちらかといえば男性が優遇」）、『女性優遇』（「女性が非常に優遇」＋「どちらかといえば女性が優遇」）

	調査数	男性が非常に優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が非常に優遇されている	わからない	無回答
平成13年度	1,133	29.9%	44.7%	11.0%	1.1%	0.1%	9.4%	3.8%
平成16年度	800	30.3%	43.4%	15.4%	1.3%	0.1%	7.1%	2.5%
平成17年度	836	31.3%	44.9%	11.8%	1.1%	0.4%	7.1%	3.5%
平成18年度	570	25.3%	41.9%	19.3%	1.9%	0.2%	8.1%	3.3%
平成21年度	653	29.4%	45.0%	14.2%	1.4%	0.2%	7.8%	2.0%
平成23年度	577	27.2%	43.8%	15.3%	1.0%	0.2%	9.2%	3.3%
平成25年度	793	25.7%	43.0%	15.8%	0.9%	0.1%	10.3%	4.2%
平成27年度	899	30.9%	42.7%	11.6%	1.6%	0.4%	9.6%	3.2%
平成29年度	782	28.6%	47.8%	8.8%	2.0%	0.3%	11.1%	1.3%
令和元年度	744	31.9%	45.6%	9.7%	1.3%	0.1%	9.3%	2.2%
令和3年度	826	38.6%	42.4%	7.4%	1.7%	0.2%	8.8%	0.8%

⑥ 社会通念・慣習・しきたりなどで

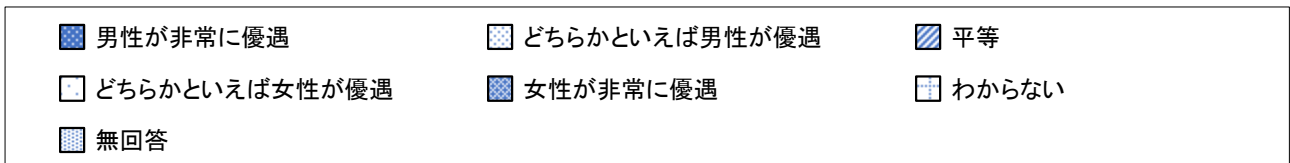
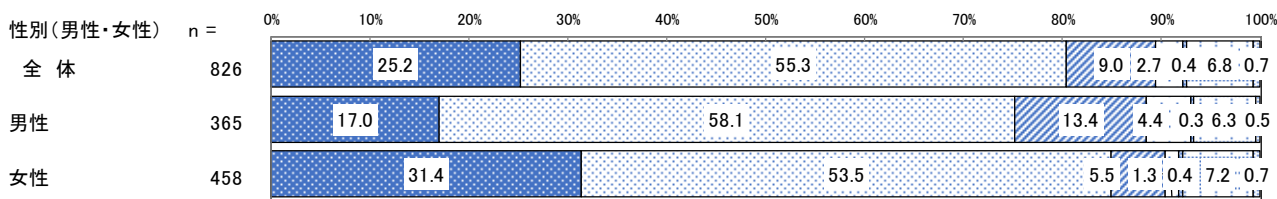
『男性優遇』と感じている人は8割で、50代、60代女性が特に『男性優遇』と感じています。

全体では、「男性が非常に優遇」(25.2%)と「どちらかといえば男性が優遇」(55.3%)を合わせた『男性優遇』が80.5%となっています。

性別で見ると、「男性が非常に優遇」は女性が31.4%、男性が17.0%となっており、意識の差が見られます。

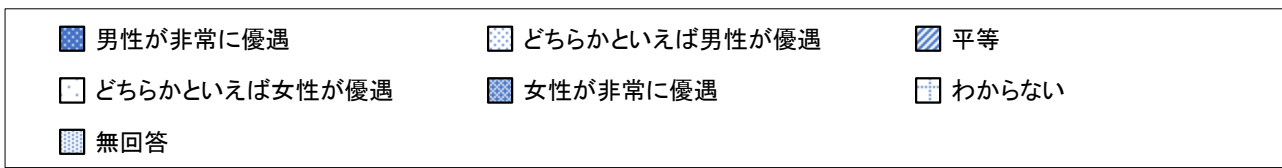
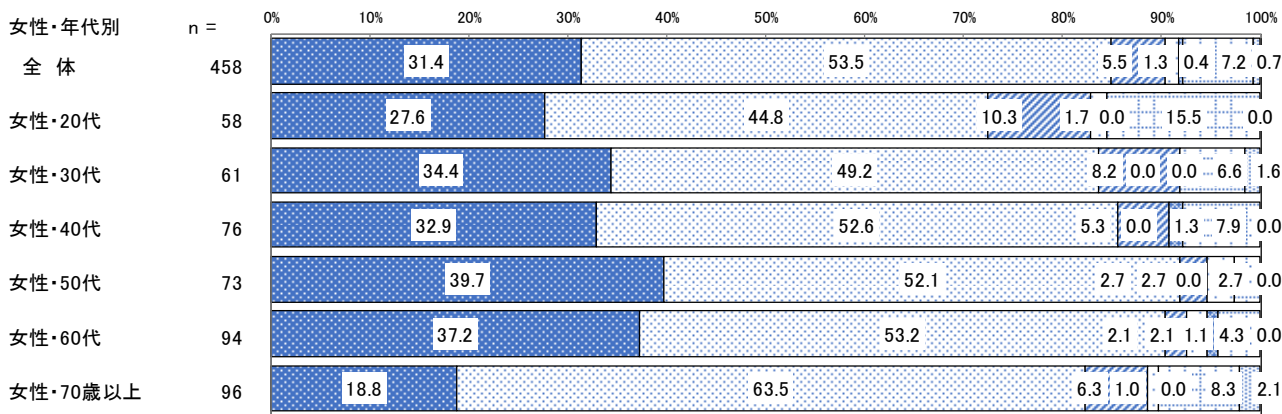
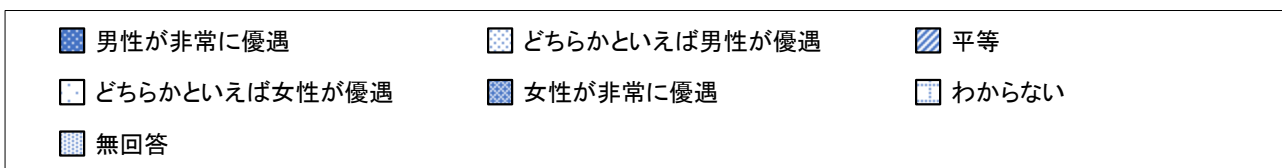
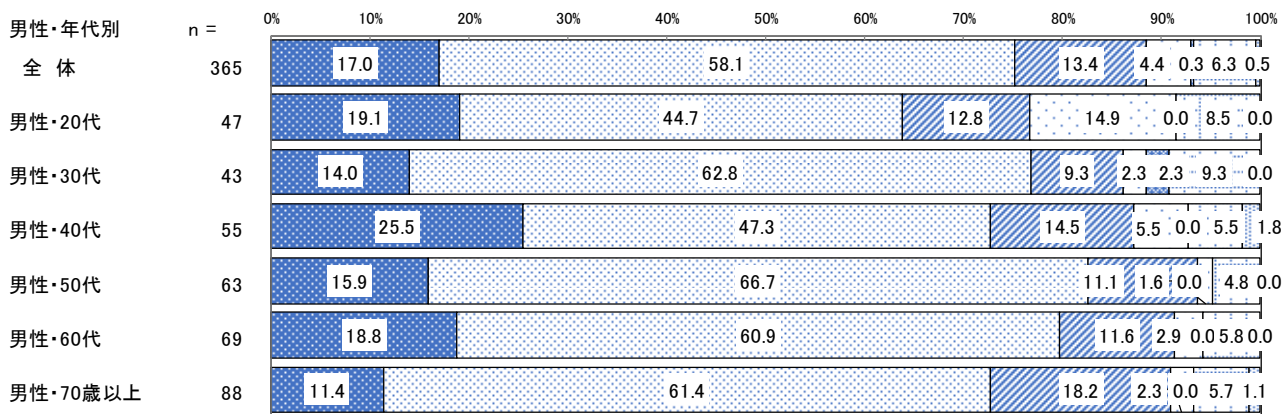
性・年代別で見ると、すべての年代で、男性に比べて女性の方が『男性優遇』(「男性が非常に優遇」+「どちらかといえば男性が優遇」)の割合が高くなっています。50代女性、60代女性は、『男性優遇』の割合が9割を超えています。20代は、男性、女性ともに、『男性優遇』の割合は他の年代と比べて低くなっています。

経年比較で見ると、『男性優遇』は増加傾向にあり、令和3年度が過去最も高い割合となっています。



1 社会における制度・慣行について

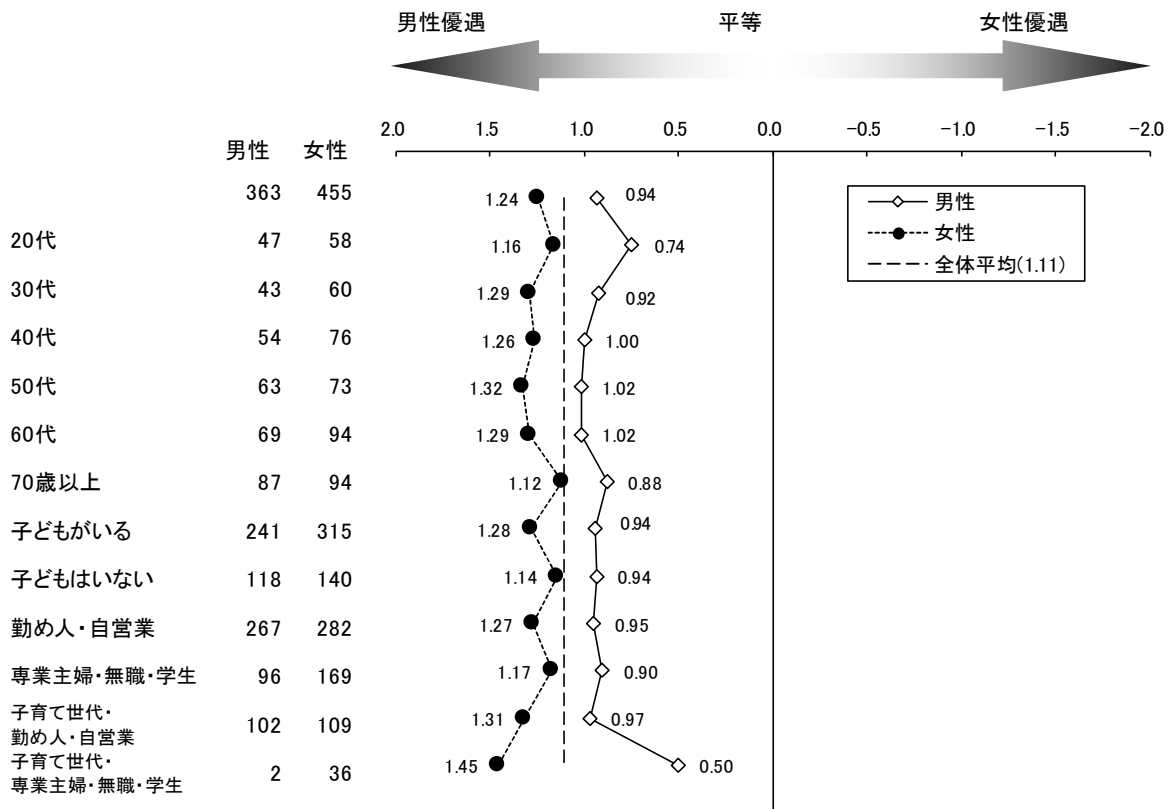
【性・年代別】



1 社会における制度・慣行について

【属性別 得点】

⑥社会通念・慣習・しきたりなどで



【得点算出方法】

各選択肢を

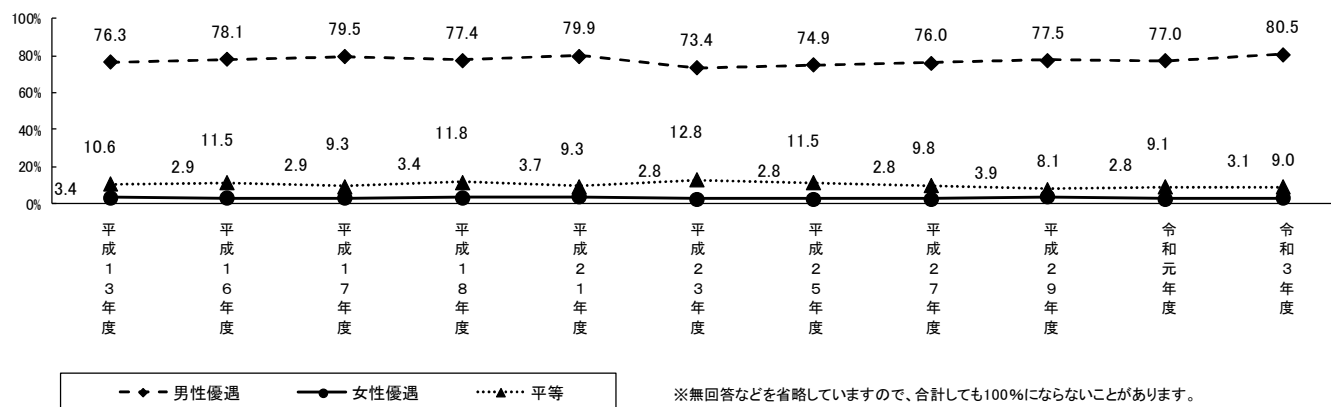
- 男性が非常に優遇 2点
- どちらかといえば男性が優遇 1点
- 平等 0点
- どちらかといえば女性が優遇 -1点
- 女性が非常に優遇 -2点

とし、平均点を算出しました。

※ 「子育て世代」とは「20～50代」で「子どもがいる」と回答した対象者を指します。

1 社会における制度・慣行について

【経年比較】



※『男性優遇』（「男性が非常に優遇」＋「どちらかといえば男性が優遇」）、『女性優遇』（「女性が非常に優遇」＋「どちらかといえば女性が優遇」）

	調査数	男性が非常に優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が非常に優遇されている	わからない	無回答
平成13年度	1,133	23.9%	52.4%	10.6%	2.5%	0.9%	6.6%	3.1%
平成16年度	800	23.0%	55.1%	11.5%	2.5%	0.4%	5.1%	2.4%
平成17年度	836	25.2%	54.3%	9.3%	2.4%	0.5%	5.5%	2.8%
平成18年度	570	22.1%	55.3%	11.8%	3.2%	0.2%	4.6%	3.0%
平成21年度	653	20.8%	59.1%	9.3%	3.5%	0.2%	5.5%	1.5%
平成23年度	577	23.1%	50.3%	12.8%	2.3%	0.5%	8.3%	2.8%
平成25年度	793	19.7%	55.2%	11.5%	2.4%	0.4%	6.9%	3.9%
平成27年度	899	21.9%	54.1%	9.8%	2.2%	0.6%	8.7%	2.8%
平成29年度	782	22.3%	55.2%	8.1%	2.9%	1.0%	9.5%	1.0%
令和元年度	744	22.4%	54.6%	9.1%	2.4%	0.4%	9.1%	1.9%
令和3年度	826	25.2%	55.3%	9.0%	2.7%	0.4%	6.8%	0.7%

《各分野の男女平等まとめ》

要旨

各分野の特徴を下表にまとめました。多くの分野で、男性より女性が『男性優遇』（「男性が非常に優遇」＋「どちらかといえば男性が優遇」）と感じる傾向があり、男女間の意識の違いが見られます。

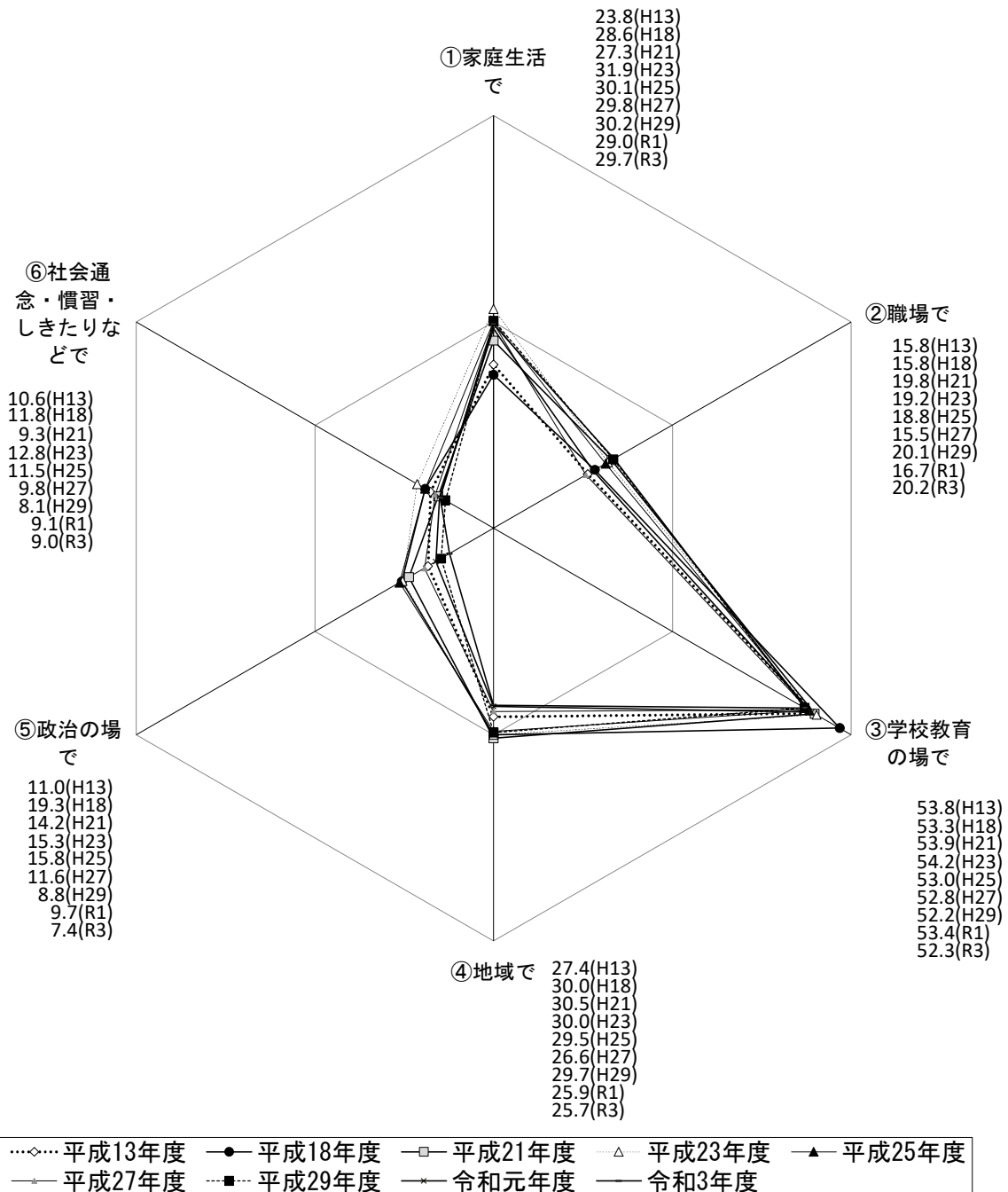
性別でみると、女性は【③学校教育の場で】以外では全て5割以上が『男性優遇』（「男性が非常に優遇」＋「どちらかといえば男性が優遇」）と感じています。男性は【①家庭生活で】【③学校教育の場で】【④地域で】以外は5割以上『男性優遇』（「男性が非常に優遇」＋「どちらかといえば男性が優遇」）。

また、経年比較では、平成13年から大きな変化がありません。

	① 家庭生活で	② 職場で	③ 学校教育の場で	④ 地域で（自治会・自主防 災会・NPOなど）	⑤ 政治の場で	⑥ 社会通念・慣習・しきた りなどで
全体の傾向	・『男性優遇』が 5割	・『男性優遇』が 6割弱	・「平等」が 5割	・『男性優遇』が 5割	・『男性優遇』が 8割	・『男性優遇』が 8割
『男性優遇』と 感じる傾向が強い 属性※	性別	・女性	・なし	・女性	・男性 ・女性	・男性 ・女性
	性・年齢別	・男性 60代以上 ・女性 30代以上	・男性40代、 60代以上 ・女性 30代以上	・なし	・男性 60代以上 ・女性 40代以上	・男性 全ての年代 ・女性 全ての年代
	子どもの有無別	・女性 子どもがいる	・女性 両方	・女性 両方	・女性 両方	・女性 両方
	職業の有無別	・女性 両方	・男性、女性 専業主婦、 無職、学生	・女性 両方	・女性 両方	・女性 両方
	（子育て世代別）	・女性 専業主婦、 無職、学生	・女性 専業主婦、 無職、学生	・女性 専業主婦、 無職、学生	・女性 両方	・女性 両方
経年比較	・『男性優遇』 緩やかな 増減	・大きな変化はない	・大きな変化はない	・『男性優遇』 今年度 過去最高値	・『男性優遇』 今年度 過去最高値	・『男性優遇』 今年度 過去最高値

※集計5割以上、あるいは、属性別得点で全体平均以上に男性優遇の得点が大きい場合

1 社会における制度・慣行について



4 男性が優遇される原因

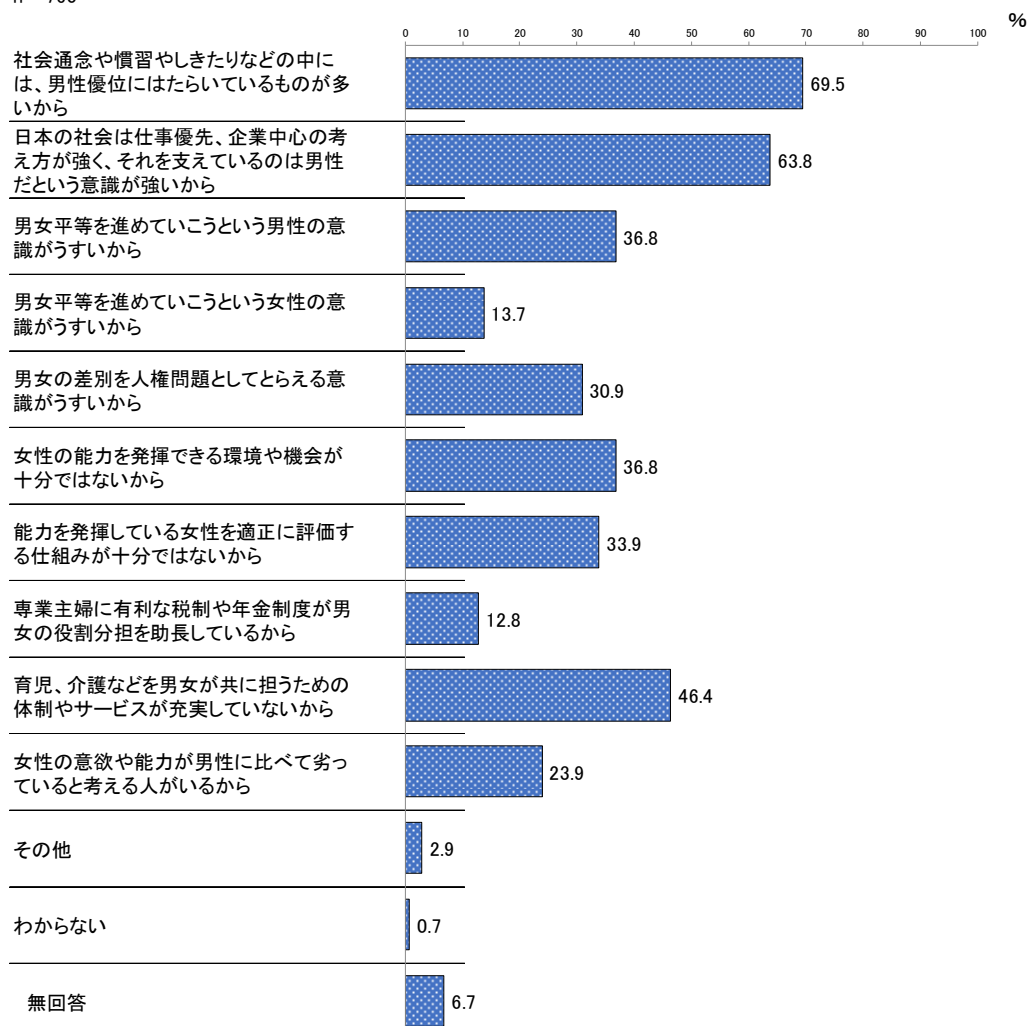
問3-2 問3で「1.男性が非常に優遇されている」または「2.どちらかといえば男性が優遇されている」とお答えの方に伺います。男性が優遇されている原因は何だと思えますか。
(あてはまるもの全てに○)

約7割の人が“社会通念や慣習やしきたり”、6割以上の人が“仕事優先社会”を男性優遇の原因だと思っています。

男性が優遇されている原因についてたずねたところ、「社会通念や慣習やしきたりなどの中には、男性優位にはたらいっているものが多いから」が69.5%と最も高く、次に「日本の社会は仕事優先、企業中心の考え方が強く、それを支えているのは男性だ」という意識が強いから」が63.8%となっています。

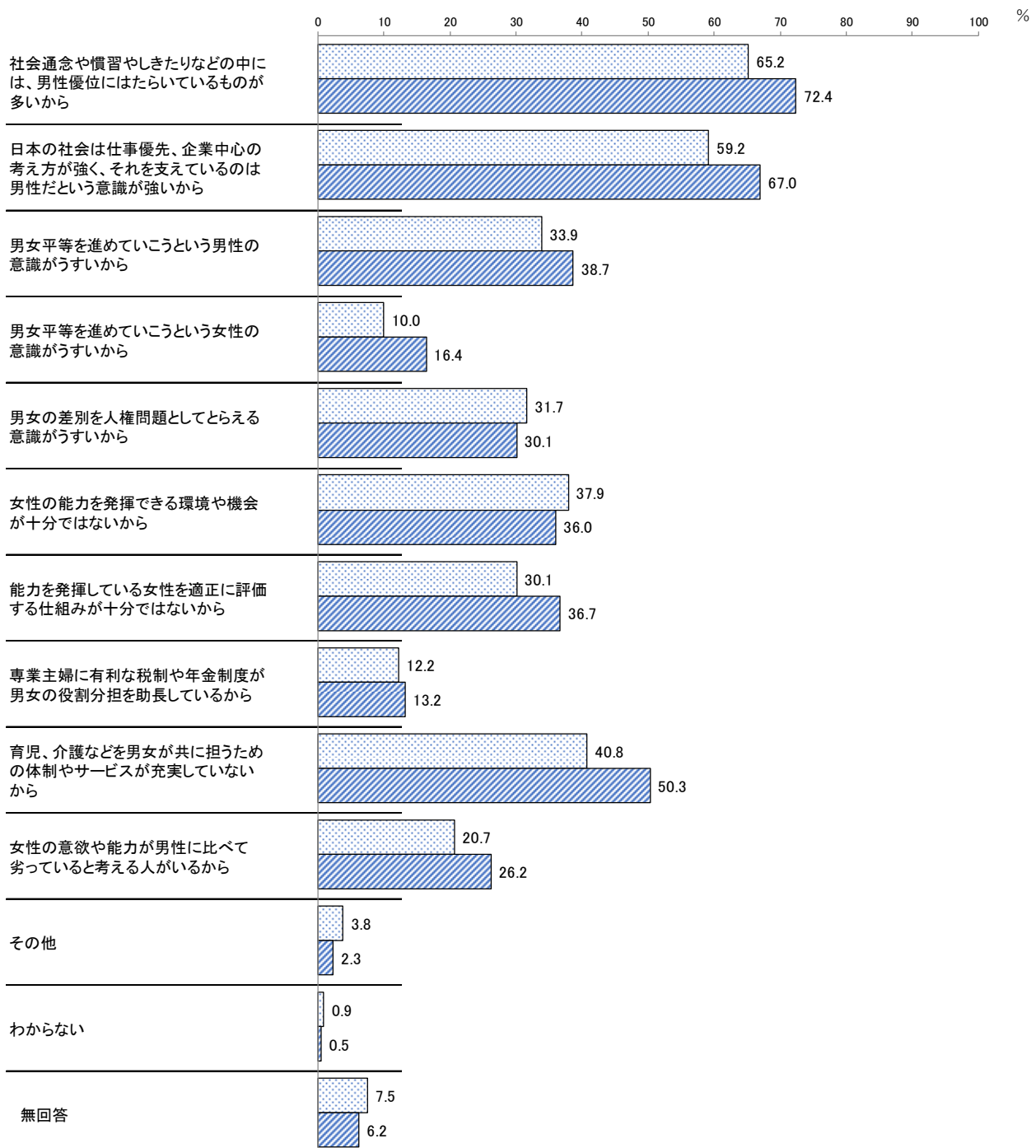
性別でみると、「女性の能力を發揮できる環境や機会が十分でないから」は1.9ポイント、「男女の差別を人権問題としてとらえる意識がうすいから」は1.6ポイント男性が女性を上回っている一方で、「育児、介護などを男女が共に担うための体制やサービスが充実していないから」は9.5ポイント、「日本の社会は仕事優先、企業中心の考え方が強く、それを支えているのは男性だ」という意識が強いから」は7.8ポイント女性が男性を上回っています。

n = 760



1 社会における制度・慣行について

【性別】



男性(n=319)

女性(n=439)

5 男女の役割を固定的に考えることに関する意識

問4 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」というような男女の役割を固定的に考えることについて、どのように思いますか。(1つに○)

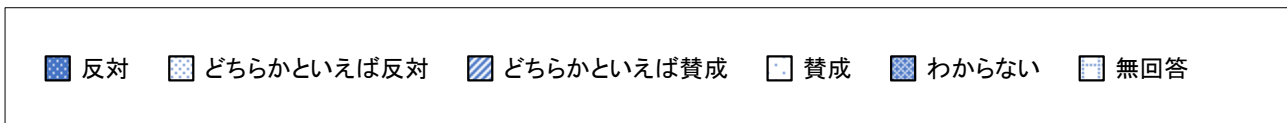
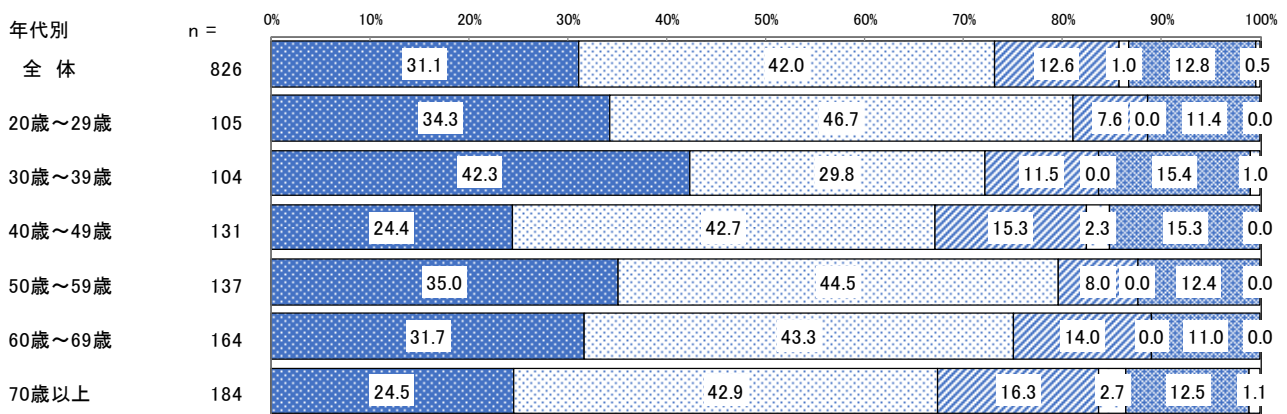
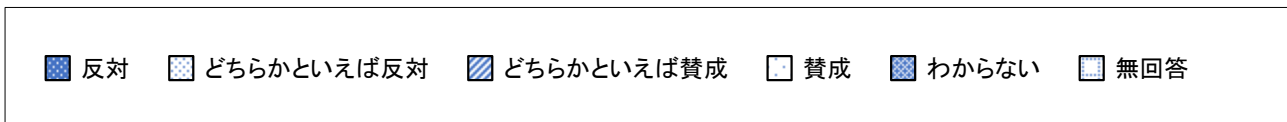
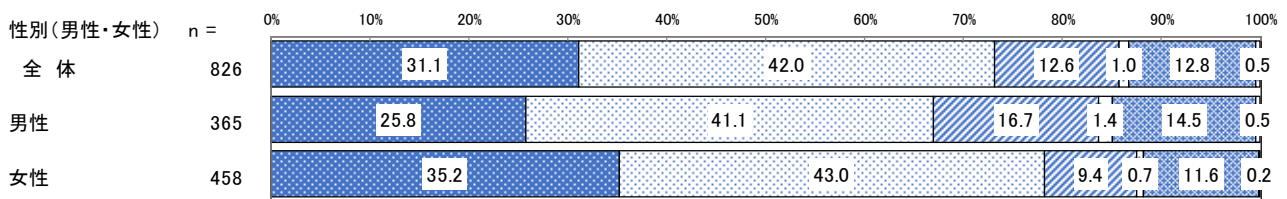
「反対」と「どちらかといえば反対」の合計が7割以上となっています。

固定的な性別役割分担意識に関する意識についてたずねたところ、全体でみると、『反対』（「反対」＋「どちらかといえば反対」）が73.1%、『賛成』（「賛成」＋「どちらかといえば賛成」）が13.6%となっています。

性別でみると、『反対』（「反対」＋「どちらかといえば反対」）は男性が66.9%、女性が78.2%となっています。

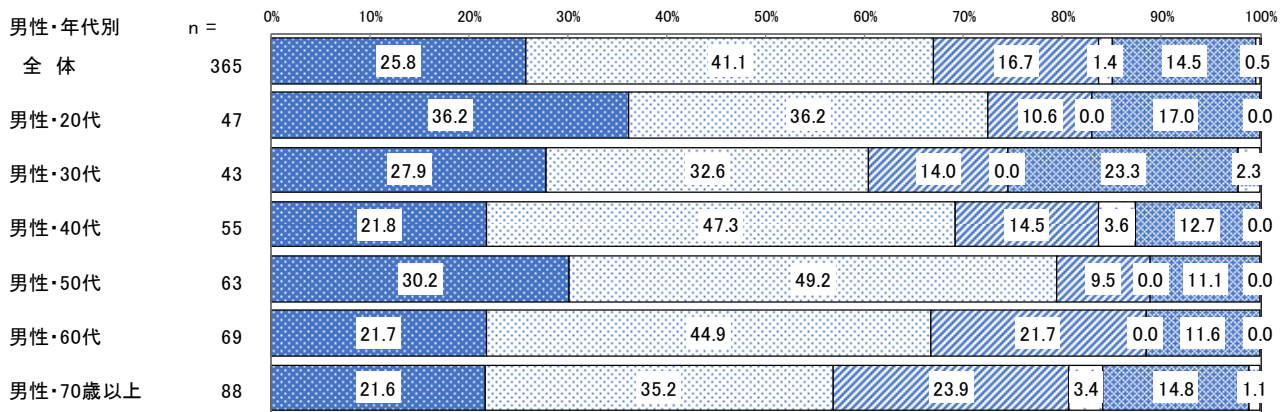
性・年代別で得点をみると、30代で男性と女性の差が大きく、女性が『反対』の傾向が強くなっています。

経年比較でみると、『反対』（「反対」＋「どちらかといえば反対」）は増加傾向で推移しており、令和3年度は9.8ポイント増加し73.1%となり、初めて7割を超えました。

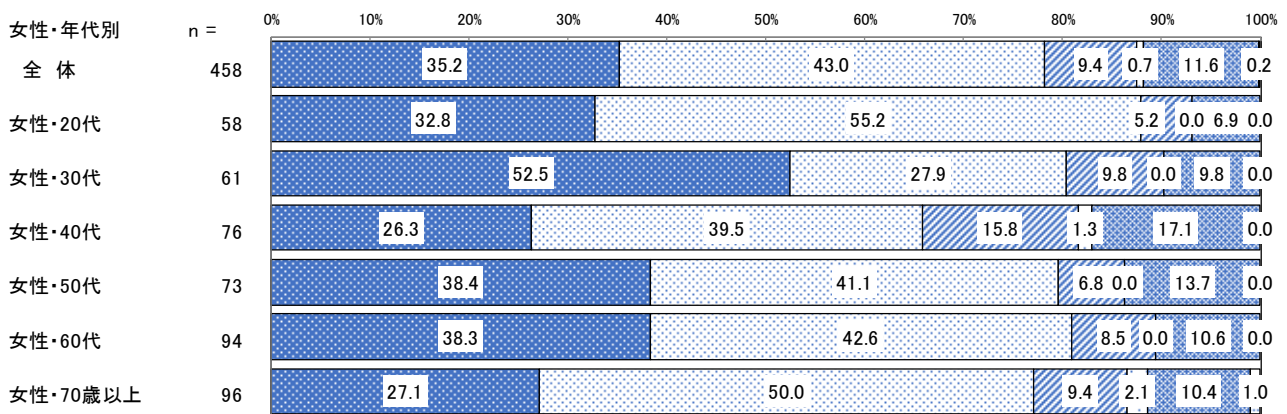


1 社会における制度・慣行について

【性・年代別】



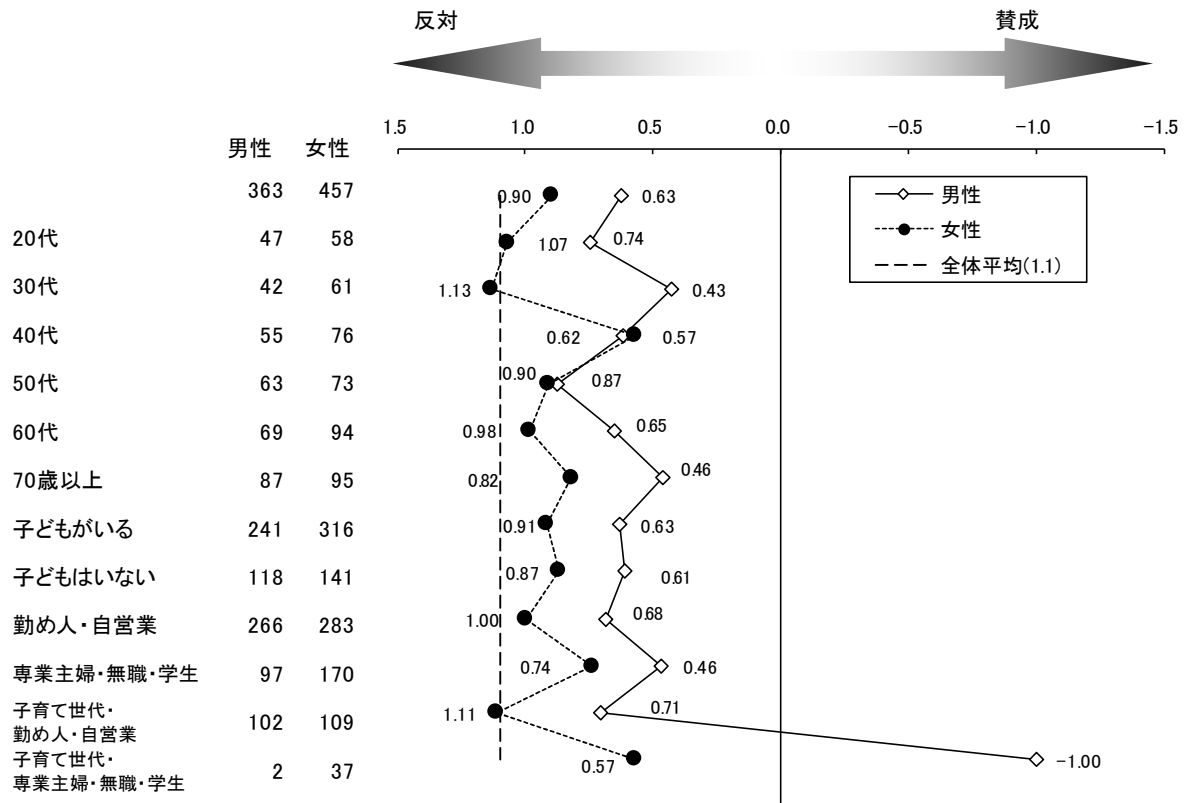
反対
 どちらかといえば反対
 どちらかといえば賛成
 賛成
 わからない
 無回答



反対
 どちらかといえば反対
 どちらかといえば賛成
 賛成
 わからない
 無回答

1 社会における制度・慣行について

【属性別 得点】



【得点算出方法】

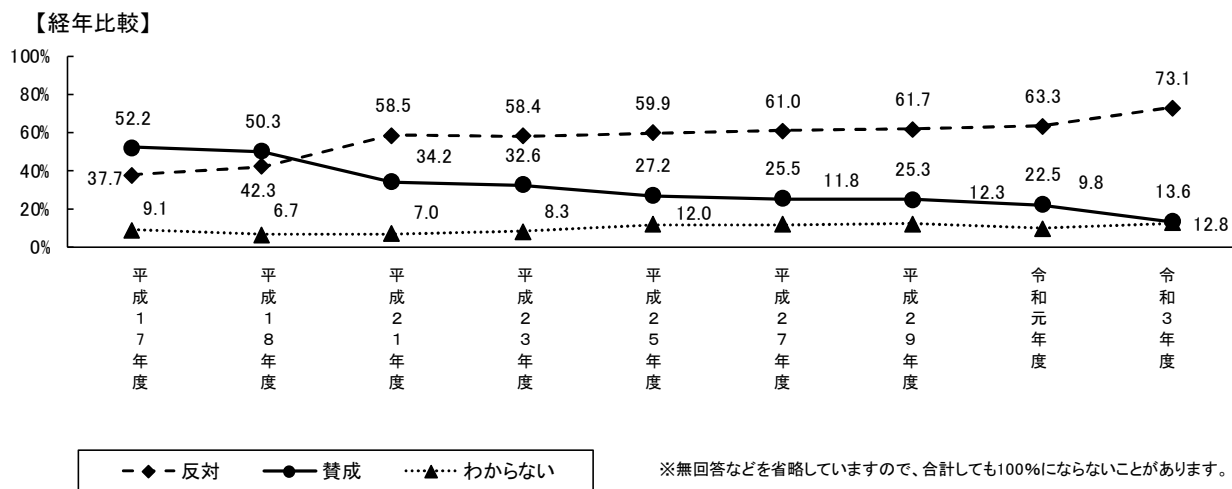
各選択肢を

反対	2点
どちらかといえば反対	1点
どちらかといえば賛成	-1点
賛成	-2点

とし、平均点を算出しました。

※ 「子育て世代」とは「20～50代」で「子どもがいる」と回答した対象者を指します。

1 社会における制度・慣行について



※『反対』（「反対」＋「どちらかといえば反対」）、『賛成』（「賛成」＋「どちらかといえば賛成」）

	調査数	同感しないほう	同感するほう	どちらとも いえない	わからない	無回答
平成13年度	1,133	40.6%	19.9%	34.2%	0.7%	4.6%
平成16年度	800	37.9%	17.9%	40.9%	1.0%	2.4%

	調査数	反対	どちらかといえば 反対	どちらかといえば 賛成	賛成	わからない	無回答
平成17年度	836	13.5%	24.2%	43.2%	9.0%	9.1%	1.1%
平成18年度	570	18.1%	24.2%	41.4%	8.9%	6.7%	0.7%
平成21年度	653	21.3%	37.2%	27.3%	6.9%	7.0%	0.3%
平成23年度	577	21.7%	36.7%	27.2%	5.4%	8.3%	0.7%
平成25年度	793	22.1%	37.8%	23.0%	4.2%	12.0%	1.0%
平成27年度	899	23.1%	37.9%	21.5%	4.0%	11.8%	1.7%
平成29年度	782	24.0%	37.7%	22.1%	3.2%	12.3%	0.6%
令和元年度	744	27.3%	36.0%	20.2%	2.3%	9.8%	4.4%
令和3年度	826	31.1%	42.0%	12.6%	1.0%	12.8%	0.5%

※平成13年度、16年度の選択肢は「同感しないほう」、「同感するほう」、「どちらともいえない」、「わからない」となっています。

「同感しないほう」を『反対』、「同感するほう」を『賛成』として経年比較をしています。

6 仕事、家事、育児、介護への男女のかかわり方について

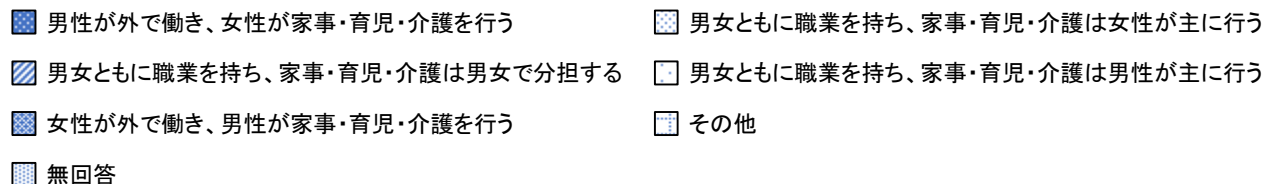
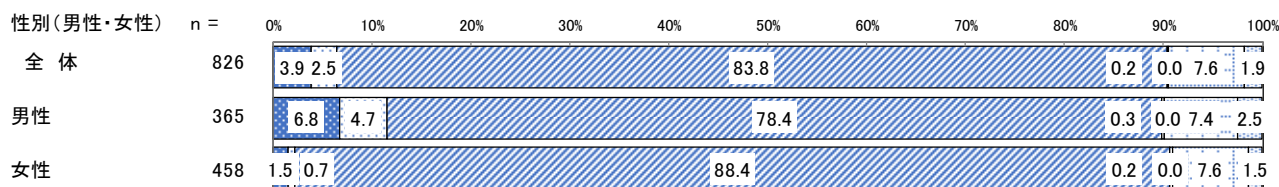
問4-2 仕事、家事、育児、介護について男女がどのようにかかわるべきだと思いますか。
(1つに○)

「男女ともに職業を持ち、家事・育児・介護は男女で分担する」が8割以上となっています。

仕事、家事、育児、介護への男女のかかわり方では、「男女ともに職業を持ち、家事・育児・介護は男女で分担する」が83.8%と突出して最も高く、他は、「男性が外で働き、女性が家事・育児・介護を行う」が3.9%、「男女ともに職業を持ち、家事・育児・介護は女性が主に行う」が2.5%など、すべて1割に満たない結果となりました。

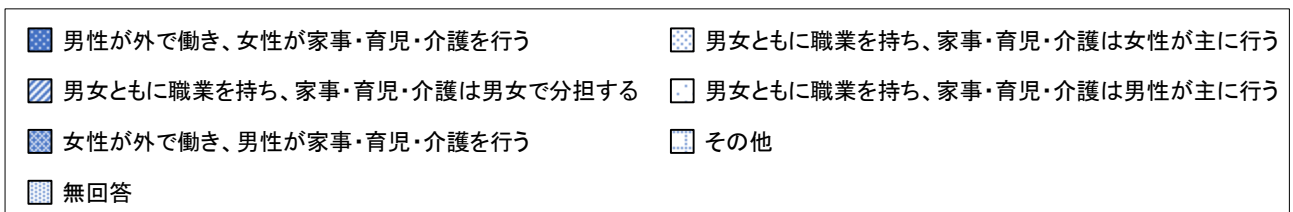
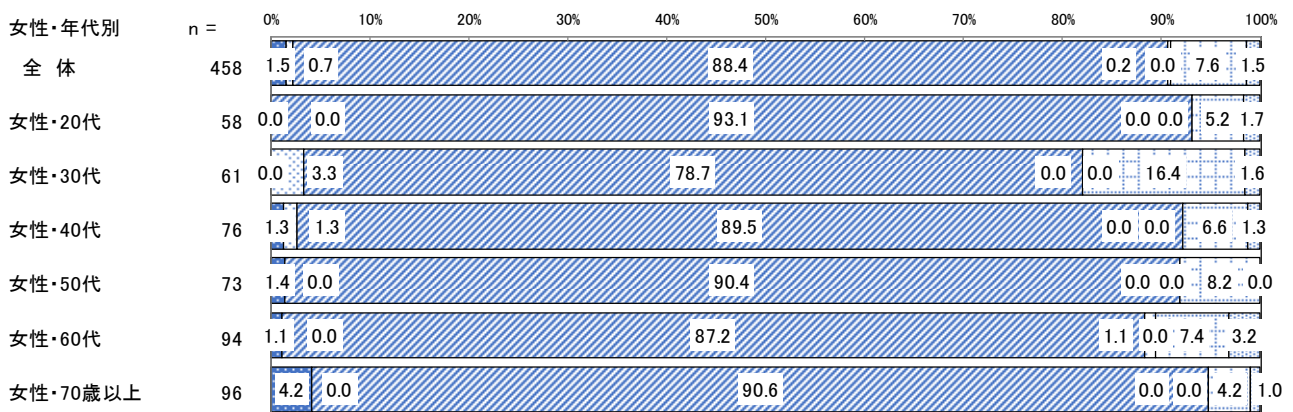
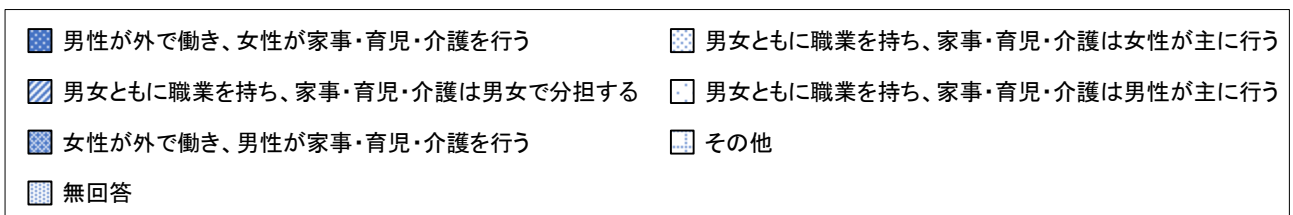
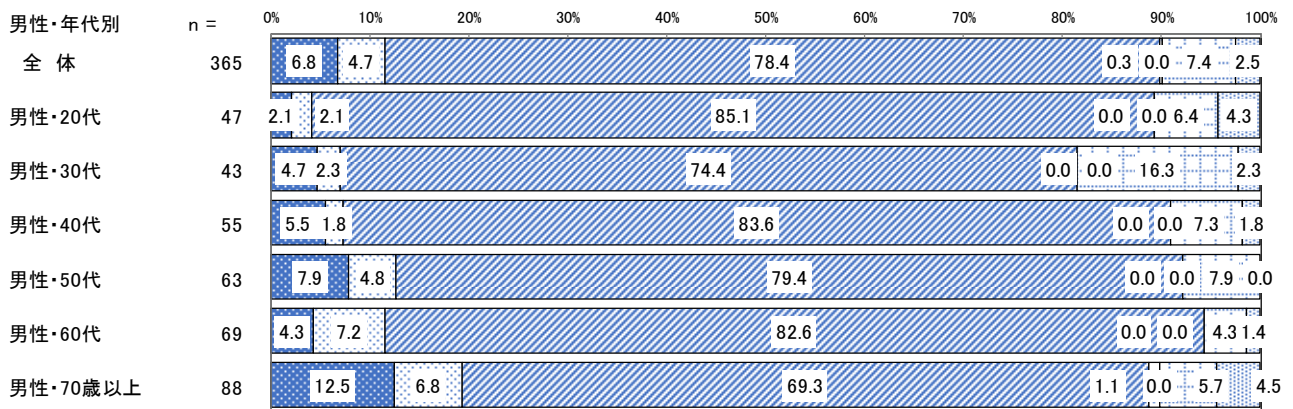
性・年代別でみると、いずれの年代も、「男性が外で働き、女性が家事・育児・介護を行う」と「男女ともに職業を持ち、家事・育児・介護は女性が主に行う」の割合が女性よりも男性のほうが高くなっています。

経年比較でみると、「男女ともに職業を持ち、家事・育児・介護は男女で分担する」が一貫して高い割合で推移しています。

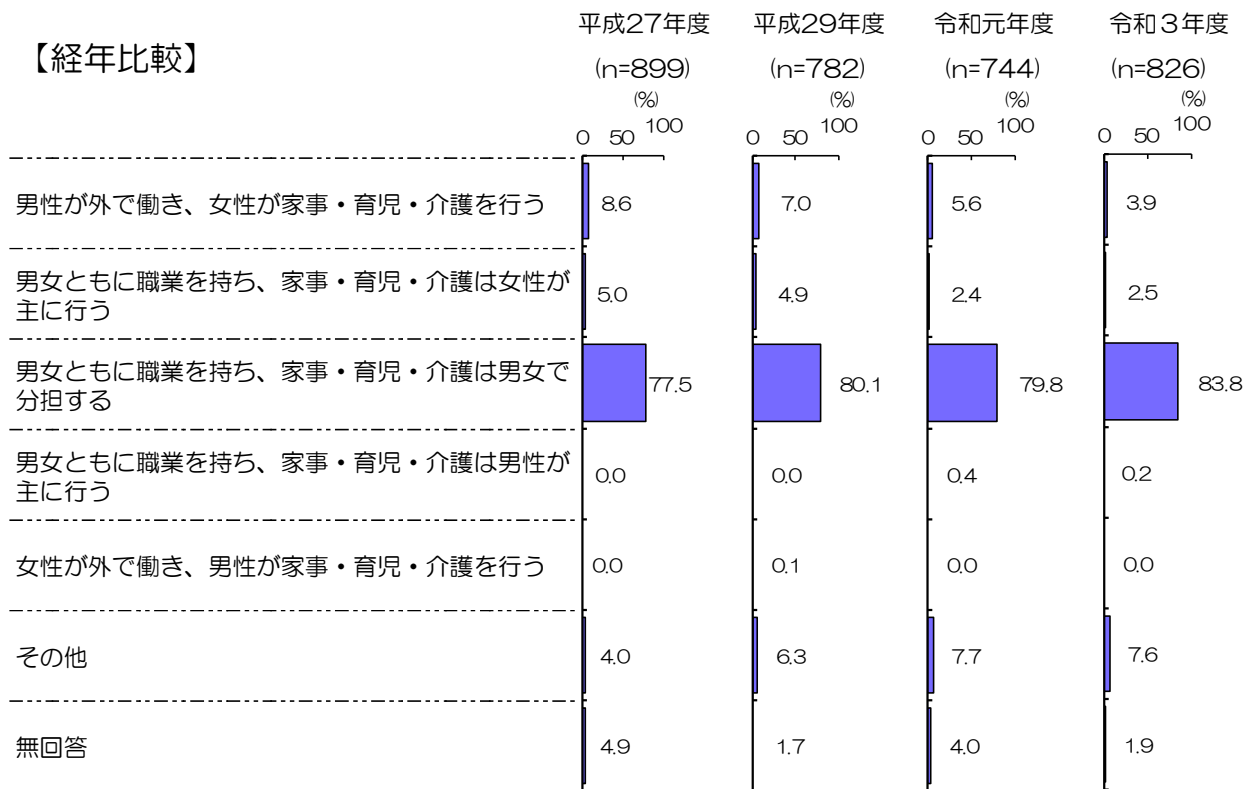


1 社会における制度・慣行について

【性・年代別】



1 社会における制度・慣行について



2 男女共同参画に関する教育・学習について

1 人権の尊重、男女平等を推進する教育

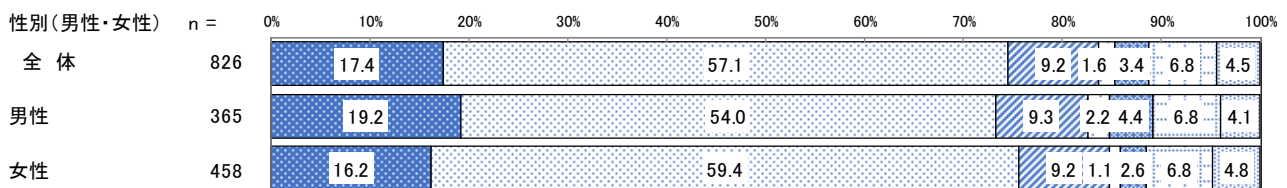
問5 あなたは、人権の尊重、男女平等を推進する教育を主にどこで行うべきだと考えますか。
(1つに○)

“学校教育”が5割以上、“家庭教育”が2割弱となっています。

人権の尊重、男女平等を推進する教育を行うべき場では、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校などの学校教育の場において行う」が57.1%と最も高く、次に「家族による家庭教育の場において行う」が17.4%、「職場などの社内教育の場において行う」が9.2%となっています。

性・年代別でみると、男性、女性ともに20代が「職場などの社内教育の場において行う」の割合が、他の年代よりも高くなっています。

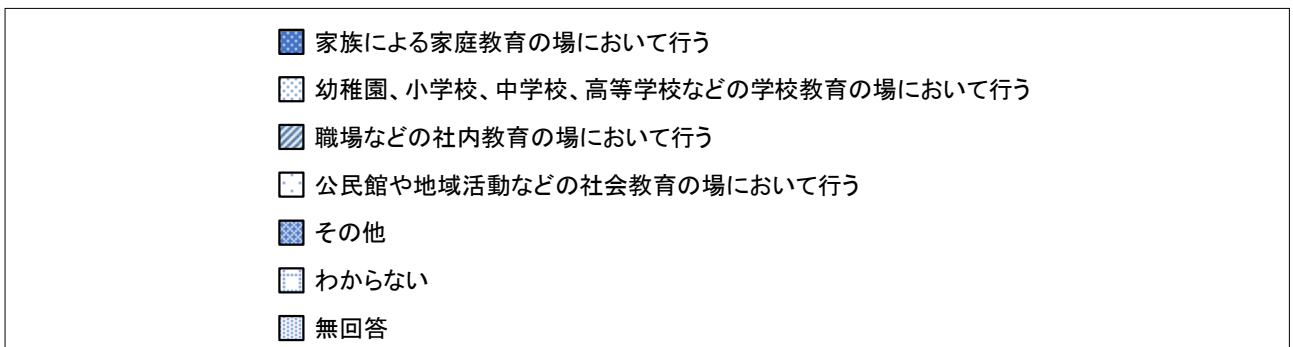
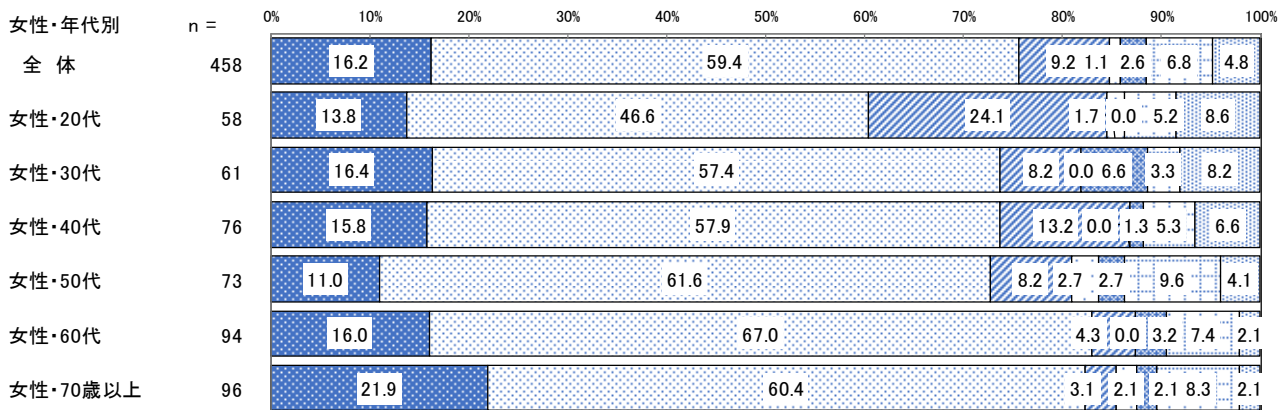
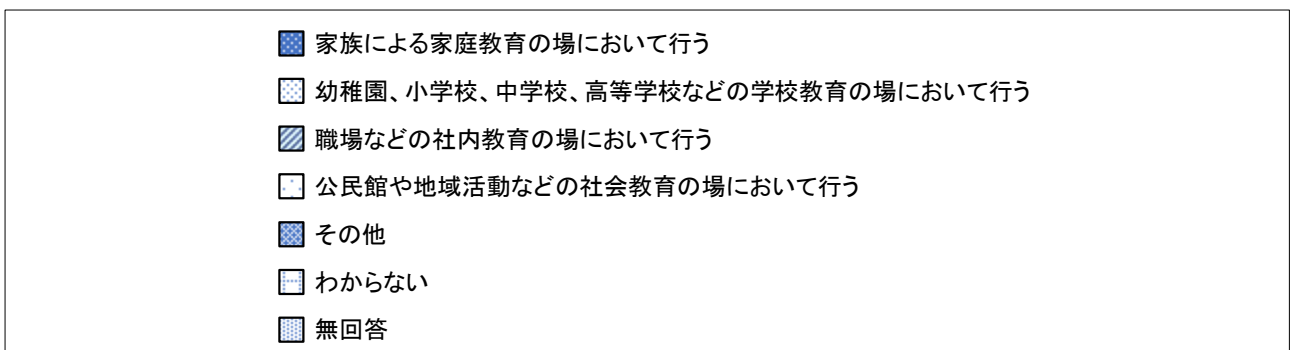
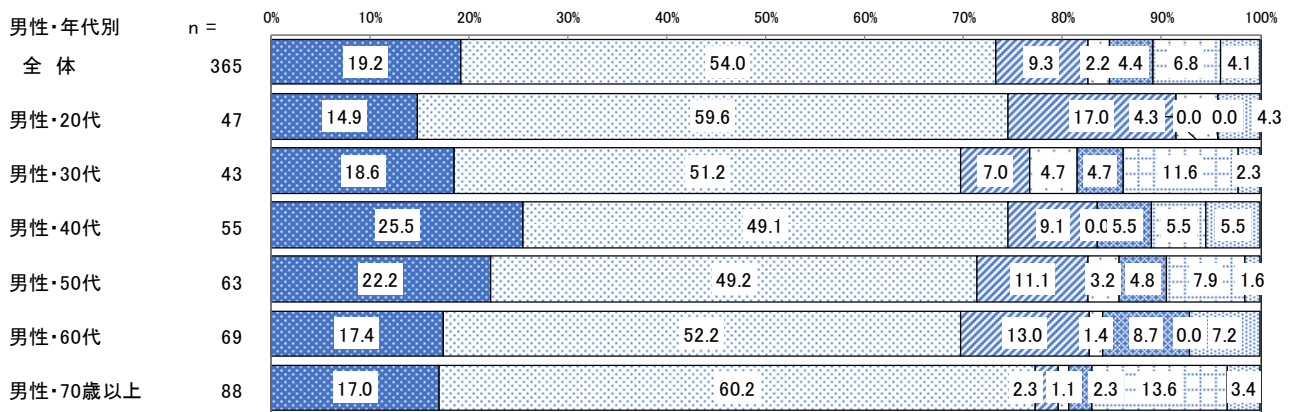
経年比較でみると、「家族による家庭教育の場において行う」が減少傾向にある一方で、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校などの学校教育の場において行う」が増加傾向で推移しています。



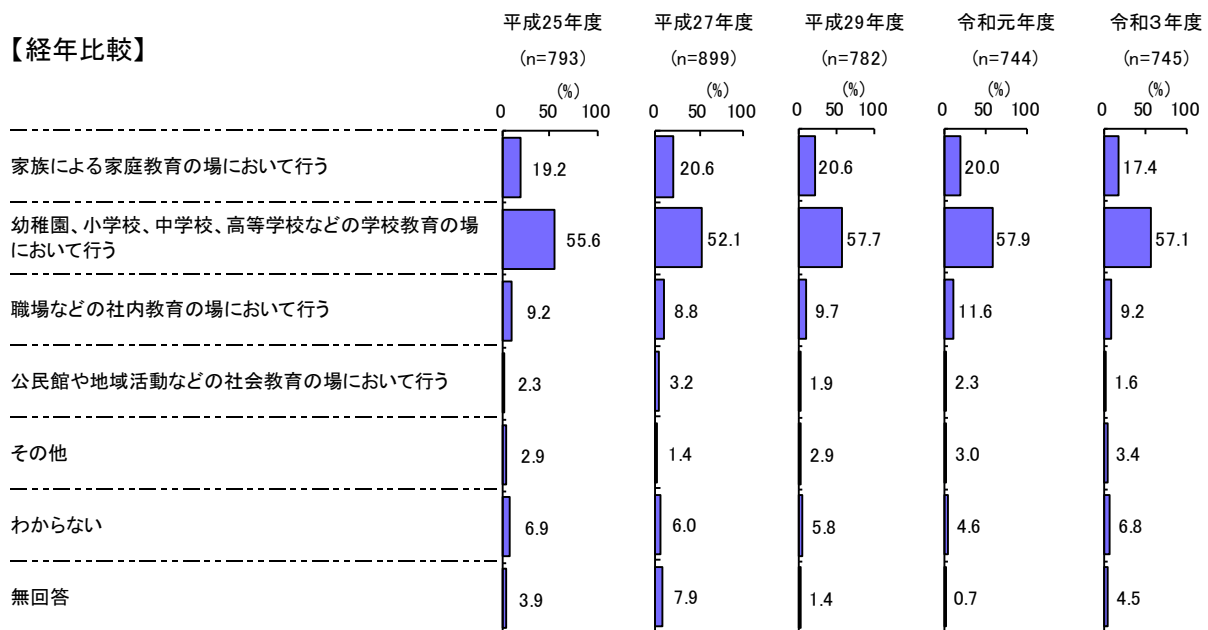
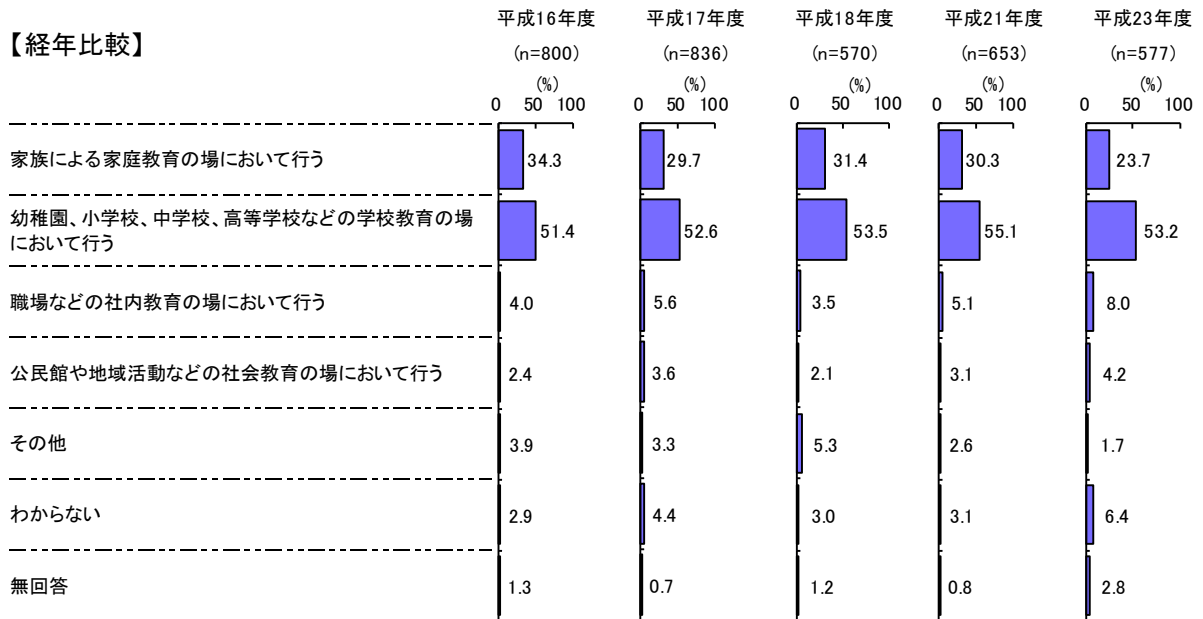
- 家族による家庭教育の場において行う
- 幼稚園、小学校、中学校、高等学校などの学校教育の場において行う
- 職場などの社内教育の場において行う
- 公民館や地域活動などの社会教育の場において行う
- その他
- わからない
- 無回答

2 男女共同参画に関する教育・学習について

【性・年代別】



2 男女共同参画に関する教育・学習について



3 パートナー間の暴力やセクシュアル・ハラスメントについて

1 ドメスティック・バイオレンスの経験

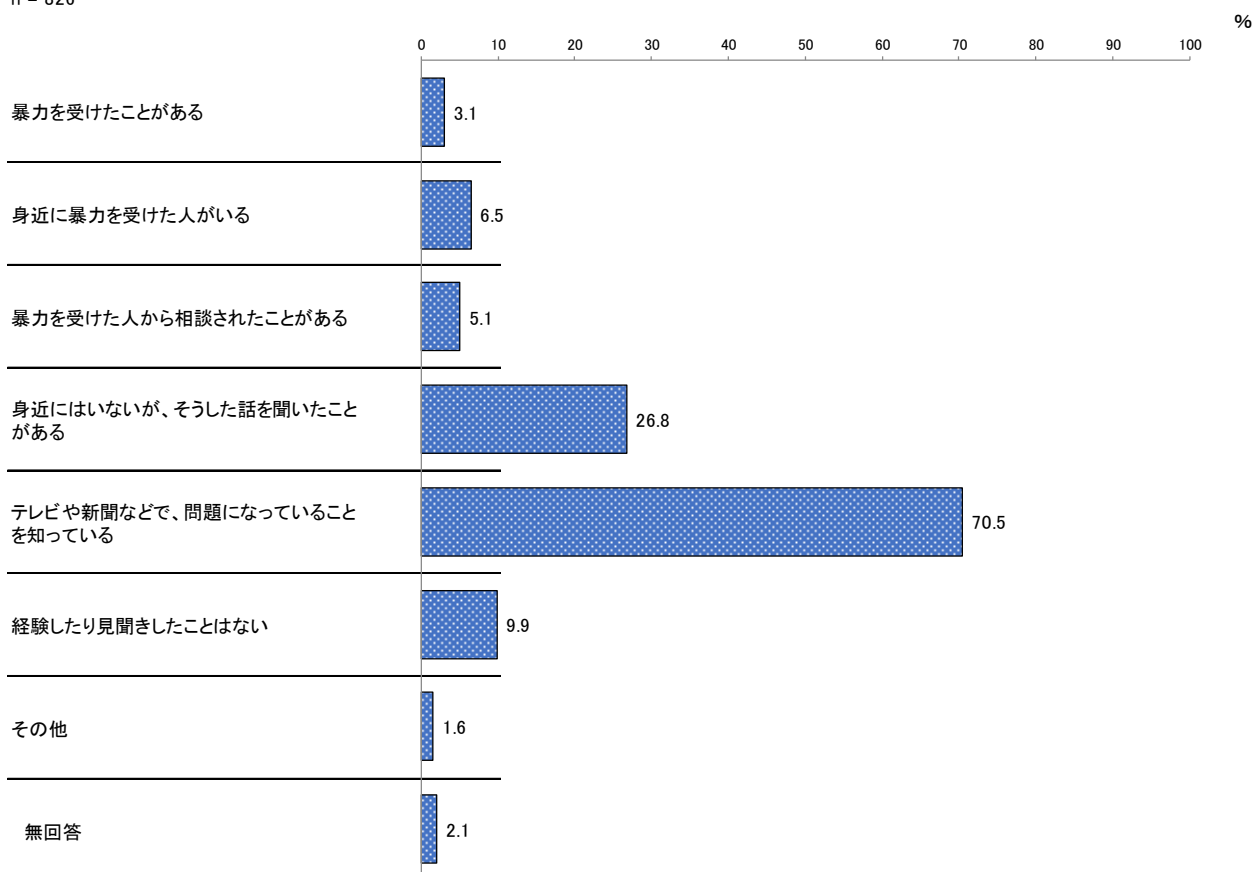
問6 過去1年間に、「夫婦・恋人など親しい間柄にあるパートナー間の暴力」（ドメスティック・バイオレンス）について、経験したり見聞きしたことがありますか。（あてはまるもの全てに○）

過去1年間に女性の3.5%、男性の2.7%が「暴力を受けたことがある」と回答しています。

過去1年間でのドメスティック・バイオレンスの経験または見聞きしたことについてたずねたところ、「テレビや新聞などで、問題になっていることを知っている」が70.5%と最も高く、次に「身近にはいないが、そうした話を聞いたことがある」が26.8%となっており、「暴力を受けたことがある」は3.1%となっています。

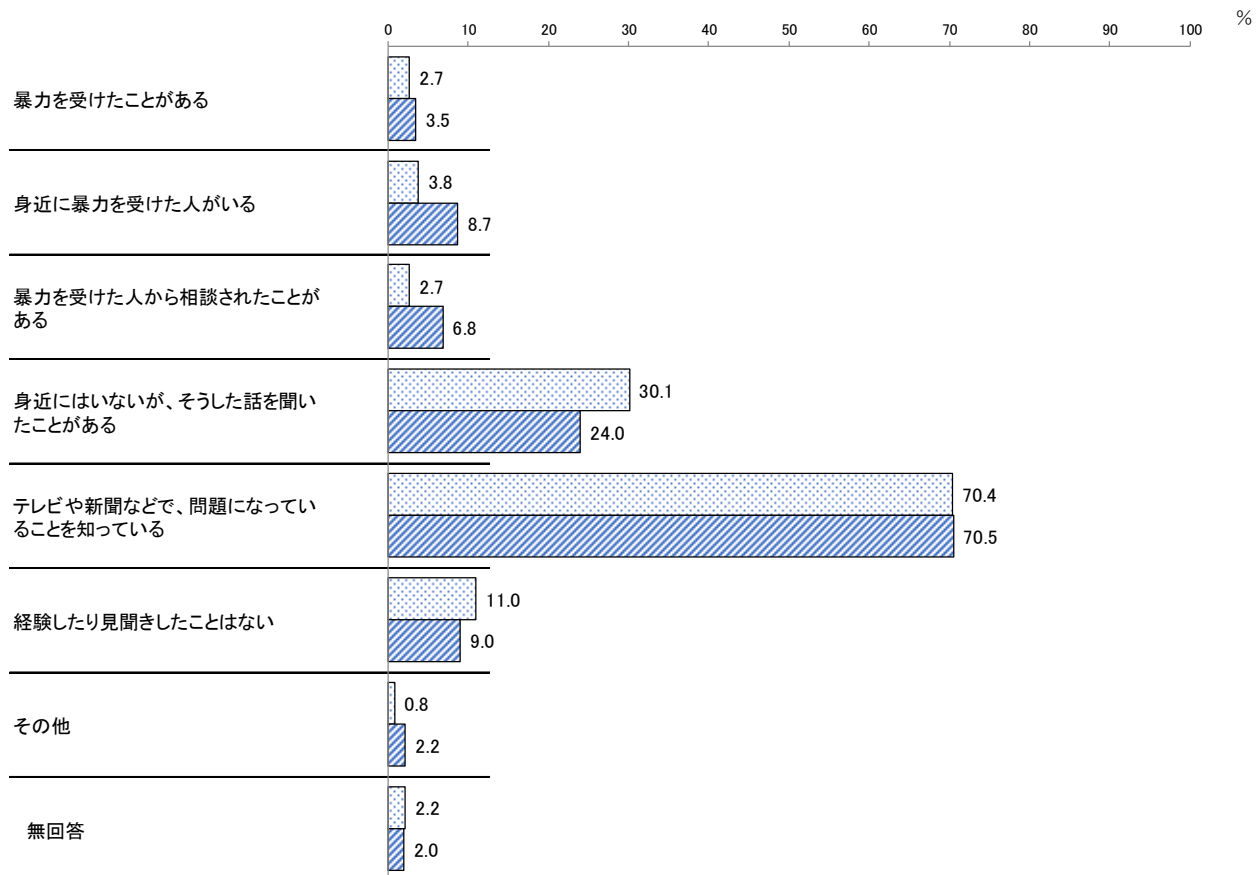
性別で見ると、女性の3.5%が「暴力を受けたことがある」と回答していますが、男性も2.7%が「暴力を受けたことがある」と回答しています。

n = 826



3 パートナー間の暴力やセクシュアル・ハラスメントについて

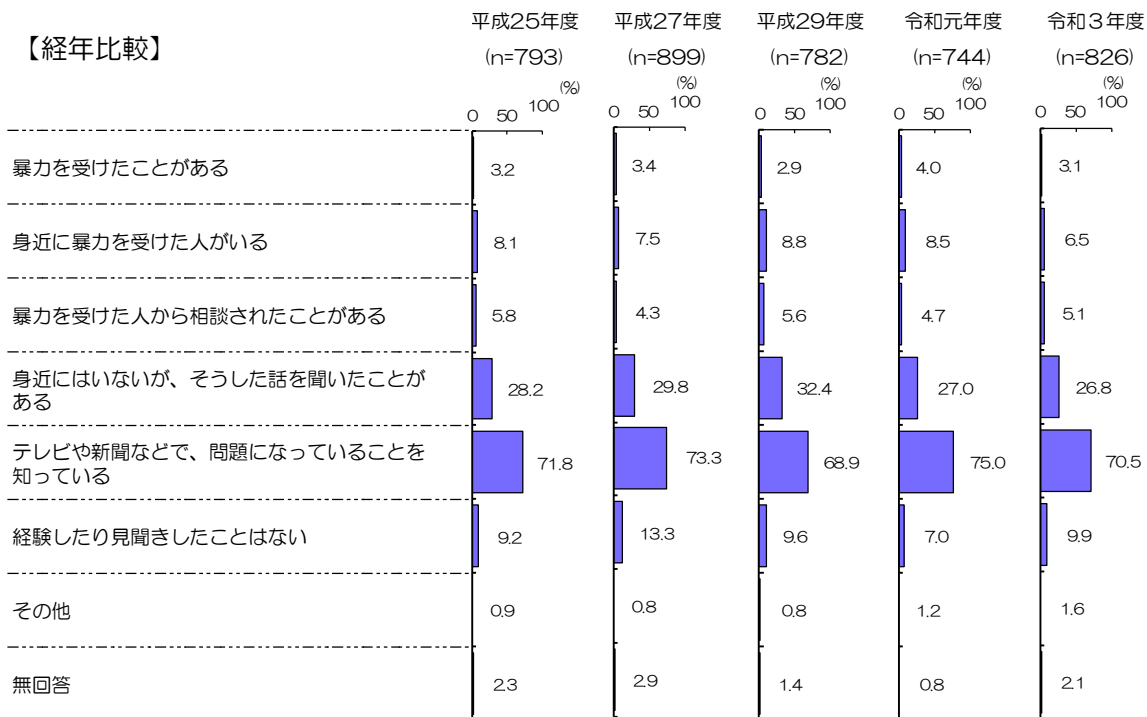
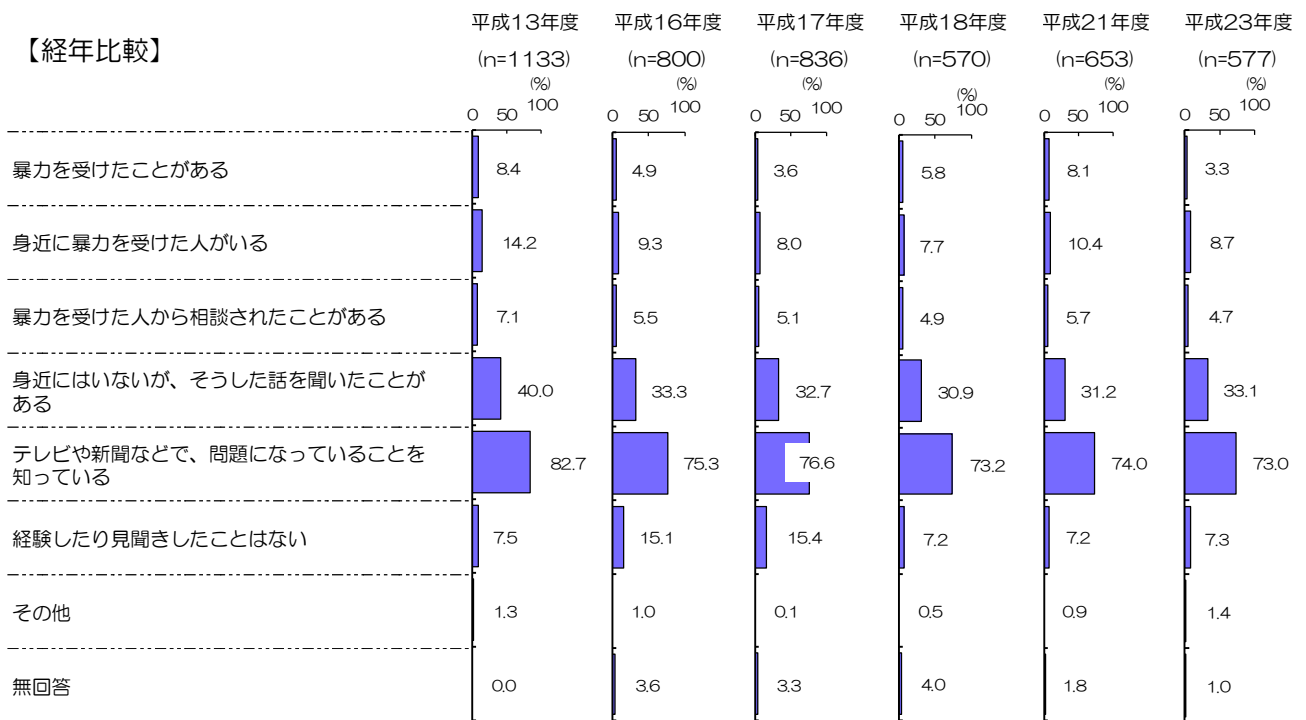
【性別】



■ 男性(n=365)

■ 女性(n=458)

3 パートナー間の暴力やセクシュアル・ハラスメントについて



2 ドメスティック・バイオレンスだと思ふ行為

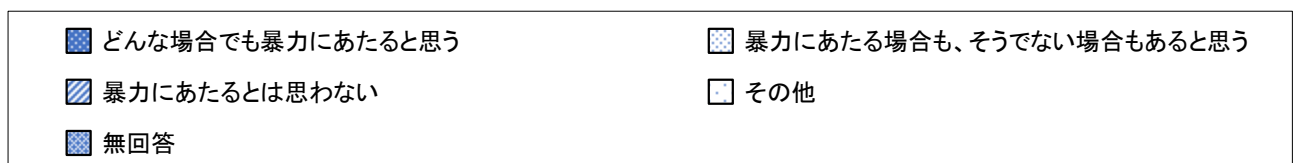
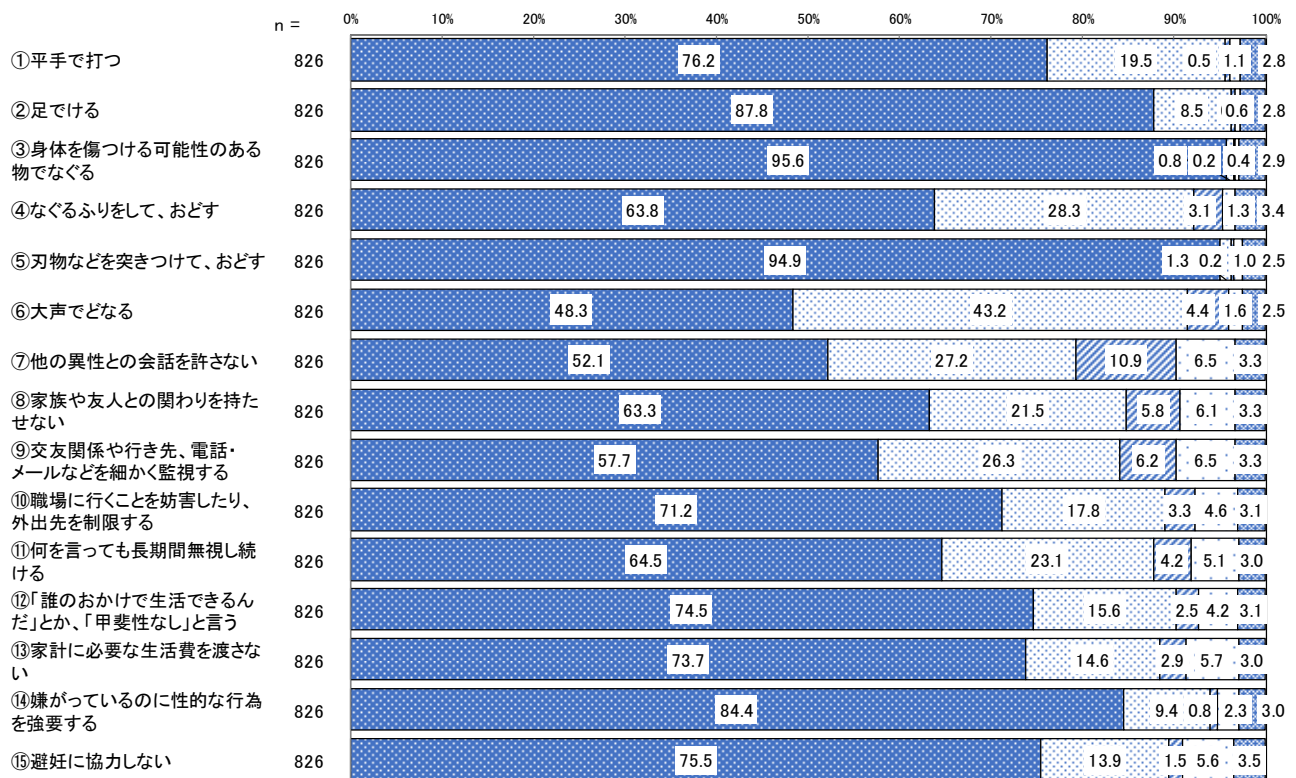
問6-2 あなたは、次のようなことが夫婦・恋人など親しい間柄にあるパートナー間で行われた場合、それを暴力だと思ひますか。①～⑮のそれぞれについて、「1」から「4」のうちあなたの考えに近い番号をお選びください。なお、ここでの「夫婦」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦も含まれます。

「足でける」、「身体を傷つける可能性のある物でなぐる」といった、身体に直接大きな危害を加えると思われる行為のほか、身体への脅迫、生活費を渡さない、性的な行為を強要するなどの行為が、暴力と判断している割合が高くなっています。

以下の15の行為について夫婦・恋人など親しい間柄にあるパートナー間で行われた場合、それを暴力と思うかをたずねたところ、「足でける」は8割以上、「身体を傷つける可能性のある物でなぐる」は9割以上と、身体に直接大きな危害を加えると思われる行為は、暴力と判断している割合が高くなっています。

また、「刃物などを突きつけて、おどす」は9割以上と、その他の威嚇行為よりも高い割合となっています。

その他、「嫌がっているのに性的な行為を強要する」が8割以上となっています。

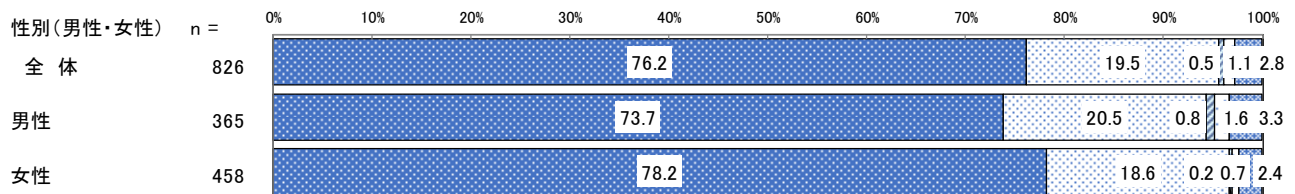


① 平手で打つ

「どんな場合でも暴力にあたると思う」が7割以上となっています。

【①平手で打つ】では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」割合が76.2%となっています。

性・年代別でみると、20代女性、30代女性は、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が他の年代と比べて高くなっています。



■ どんな場合でも暴力にあたると思う

■ 暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う

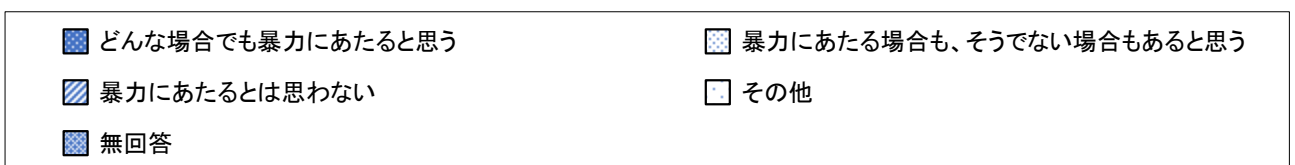
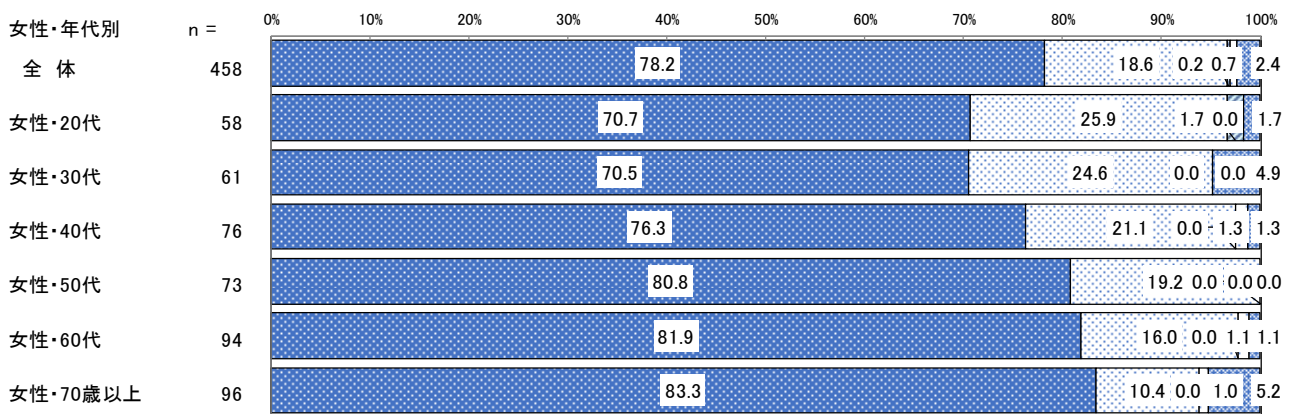
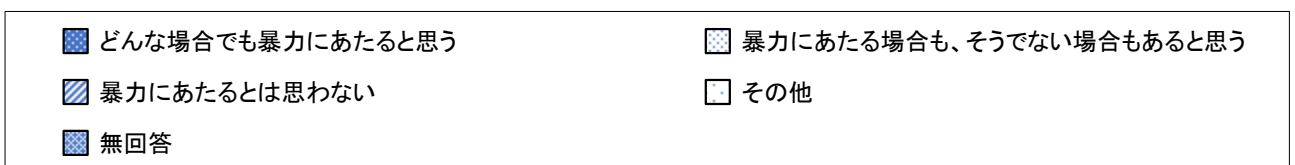
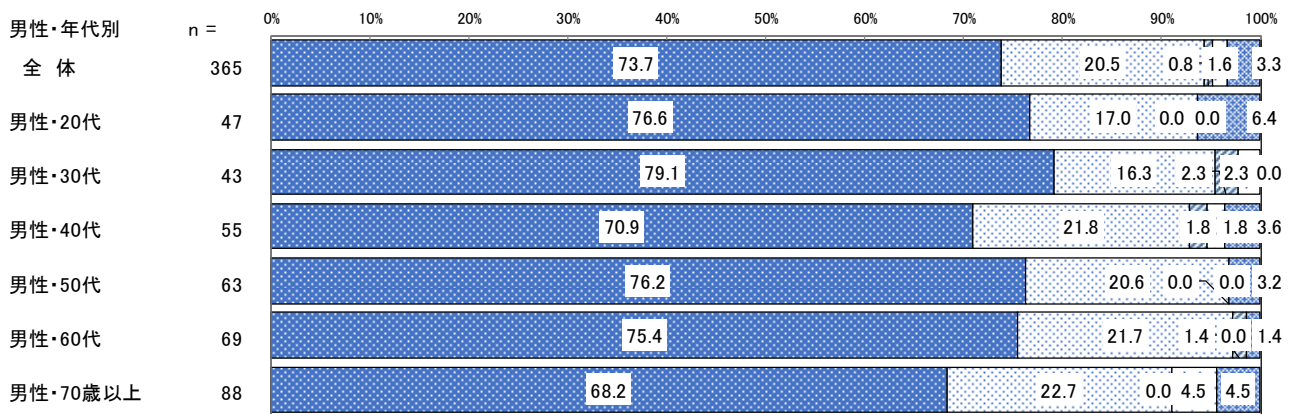
■ 暴力にあたるとは思わない

■ その他

■ 無回答

3 パートナー間の暴力やセクシュアル・ハラスメントについて

【性・年代別】

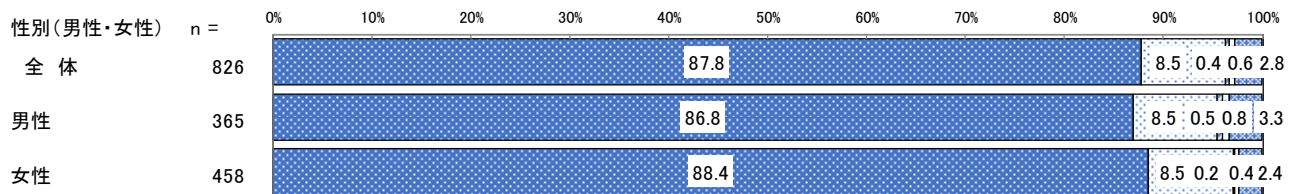


② 足でける

「どんな場合でも暴力にあたると思う」が8割以上となっています。

【②足でける】では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が87.8%となっています。

性・年代別でみると、20代女性は、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が他の年代と比べて高くなっています。



■ どんな場合でも暴力にあたると思う

■ 暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う

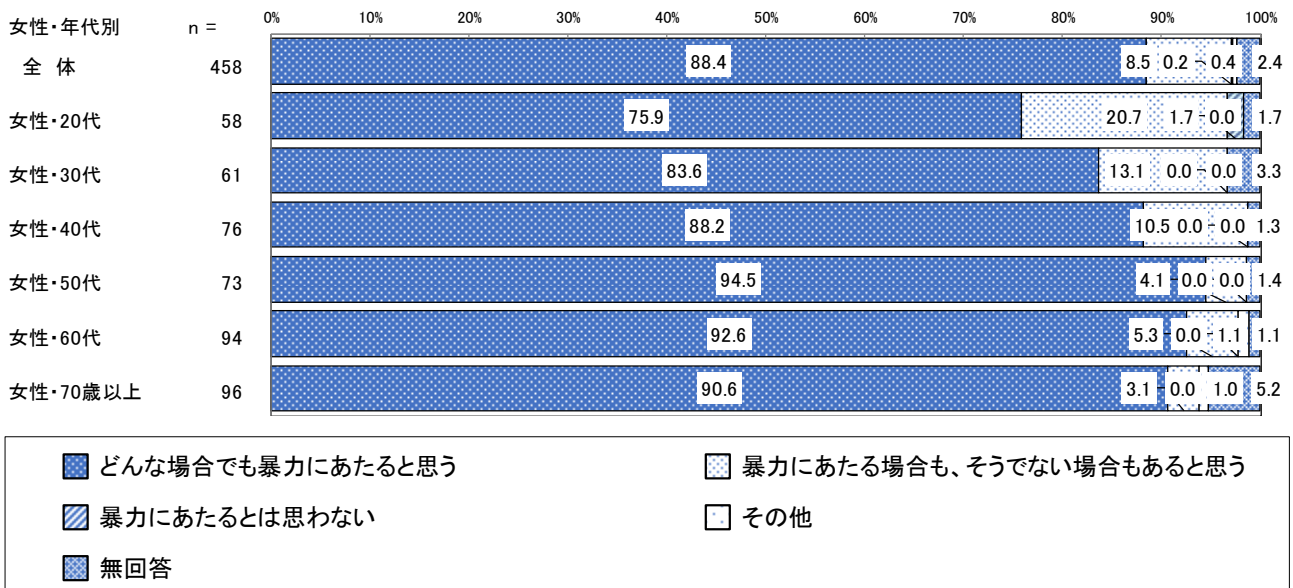
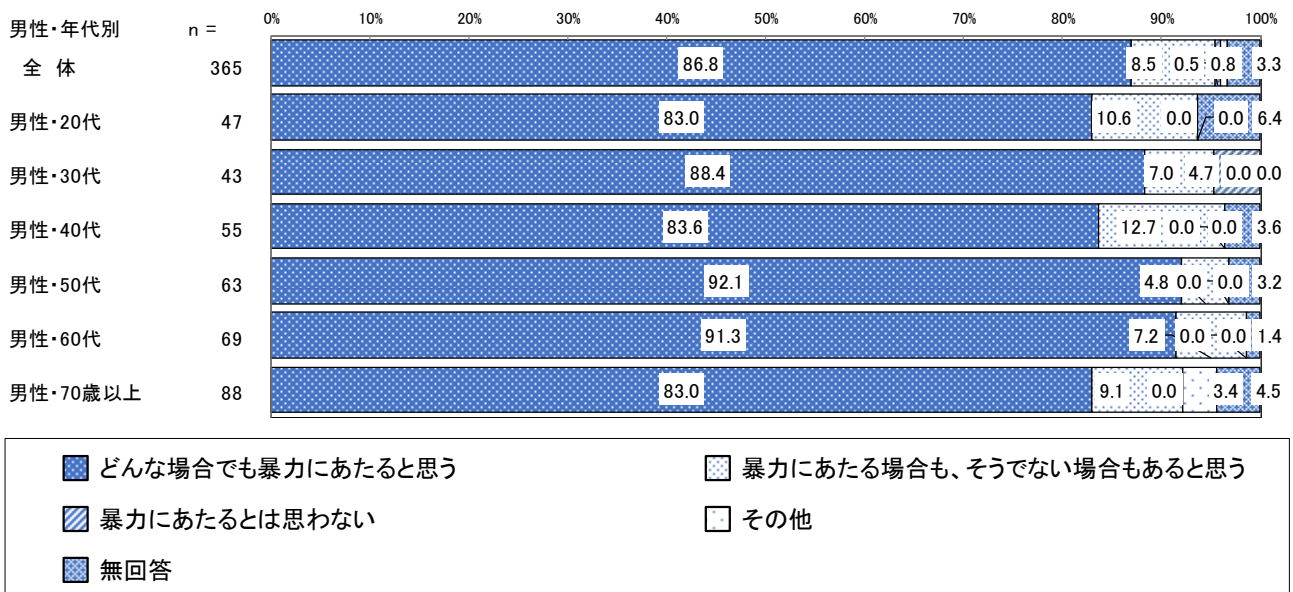
■ 暴力にあたるとは思わない

■ その他

■ 無回答

3 パートナー間の暴力やセクシュアル・ハラスメントについて

【性・年代別】



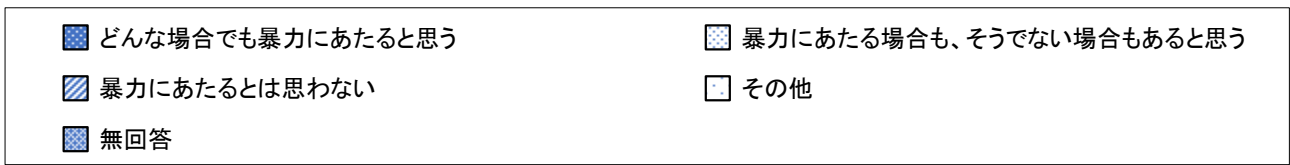
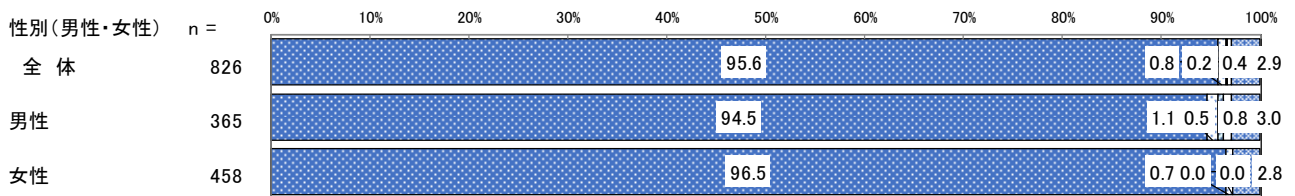
3 パートナー間の暴力やセクシュアル・ハラスメントについて

③身体を傷つける可能性のある物でなくる

「どんな場合でも暴力にあたると思う」が9割以上となっています。

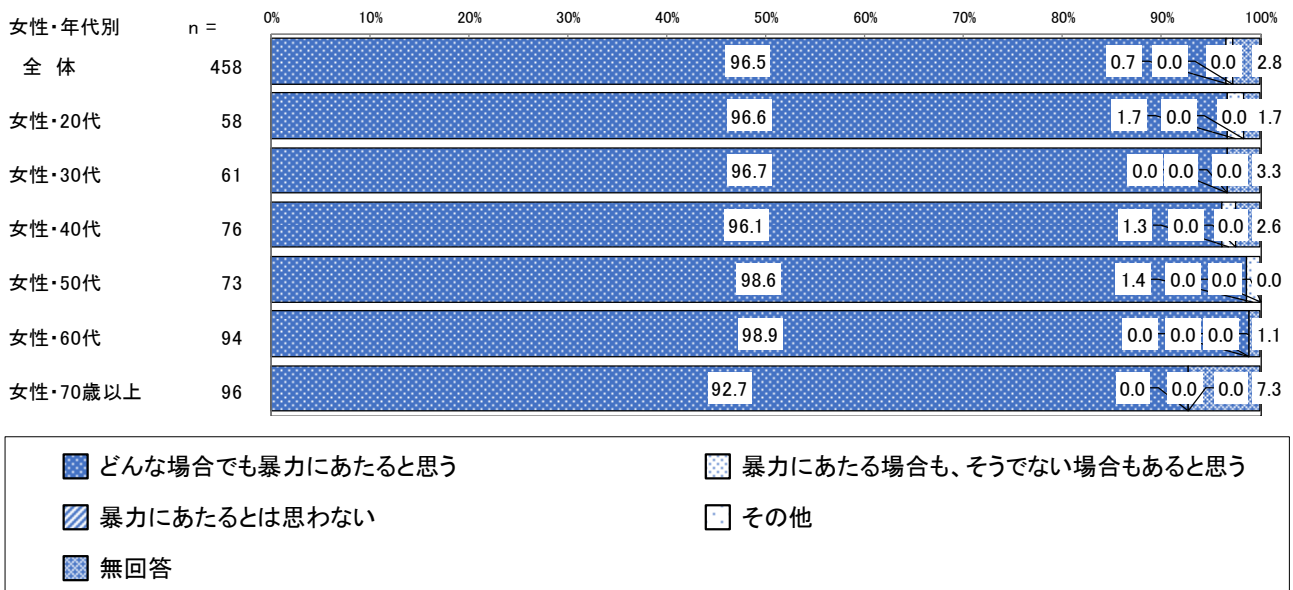
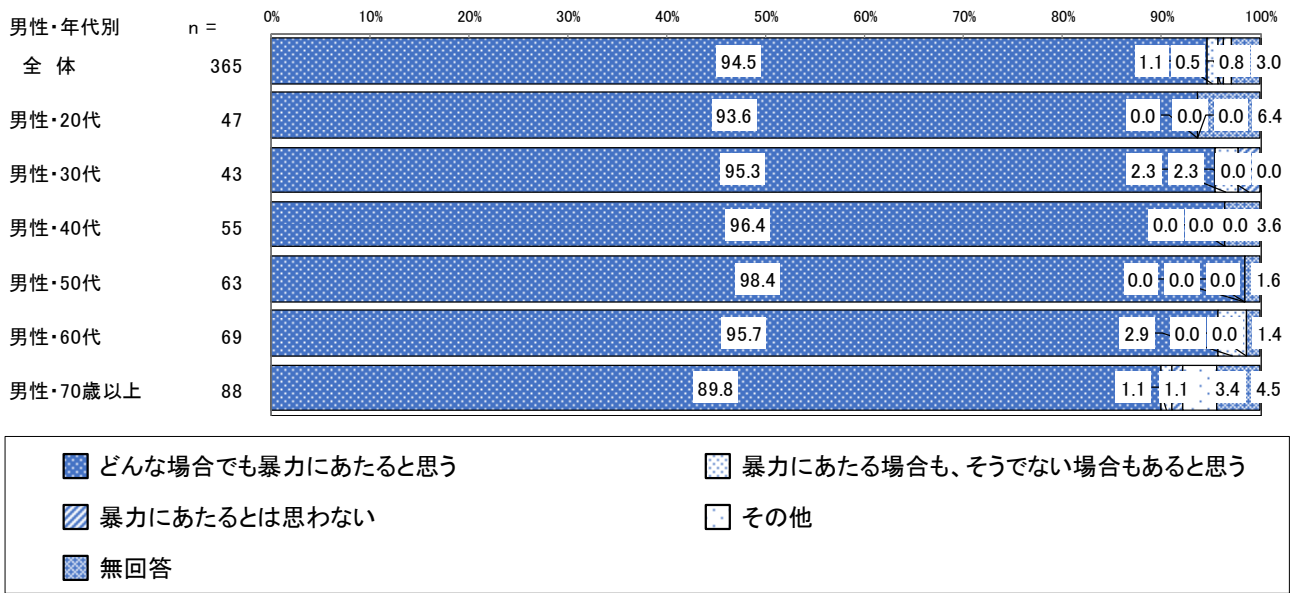
【③身体を傷つける可能性のある物でなくる】では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が95.6%となっています。

性・年代別でみると、男性、女性ともに全ての年代で9割となっている。



3 パートナー間の暴力やセクシュアル・ハラスメントについて

【性・年代別】



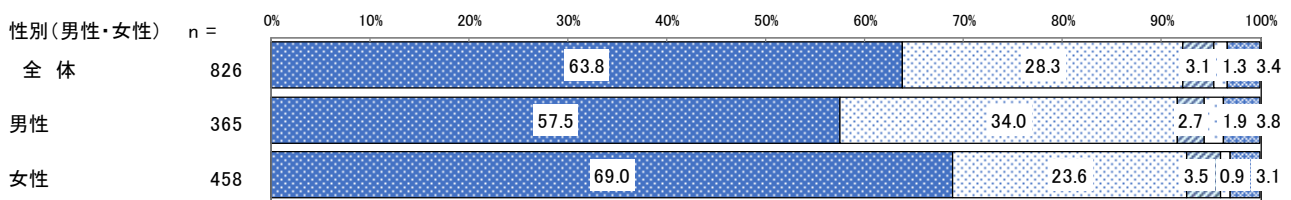
④ なぐるふりをして、おどす

「どんな場合でも暴力にあたると思う」が6割となっています。

【④なぐるふりをして、おどす】では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が63.8%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が28.3%となっています。

性別で見ると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は女性が69.0%、男性が57.5%と認識の差がみられます。

性・年代別で見ると、70歳以上男性は、他の同年代と比べて、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が低くなっています。



■ どんな場合でも暴力にあたると思う

■ 暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う

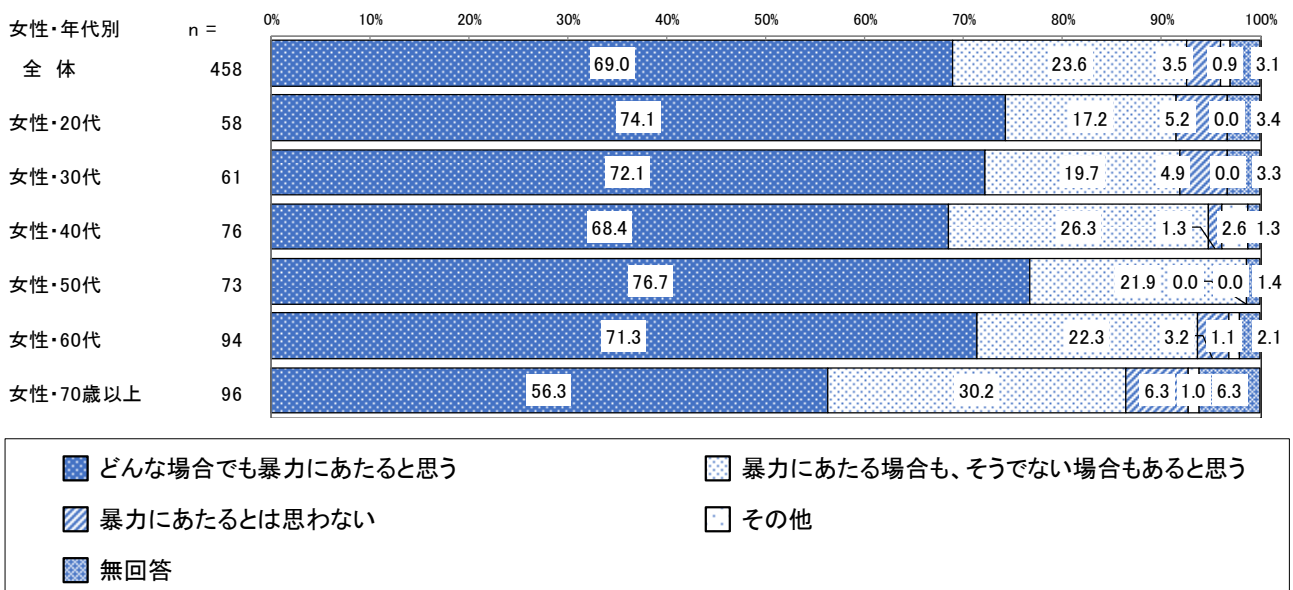
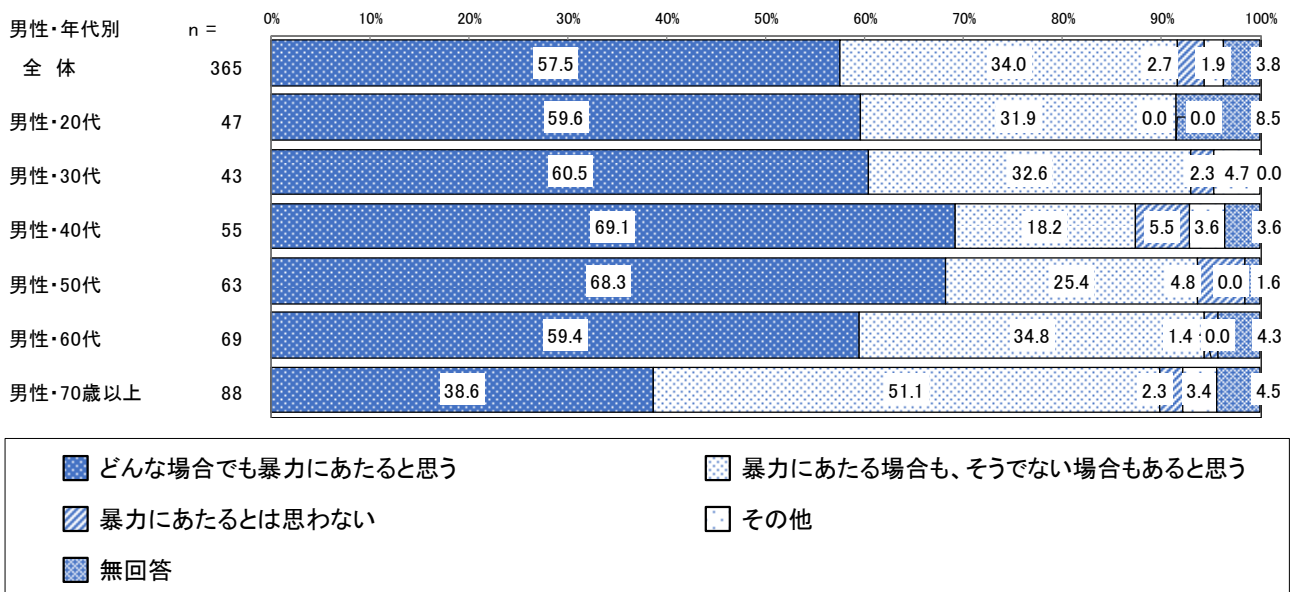
■ 暴力にあたるとは思わない

■ その他

■ 無回答

3 パートナー間の暴力やセクシュアル・ハラスメントについて

【性・年代別】

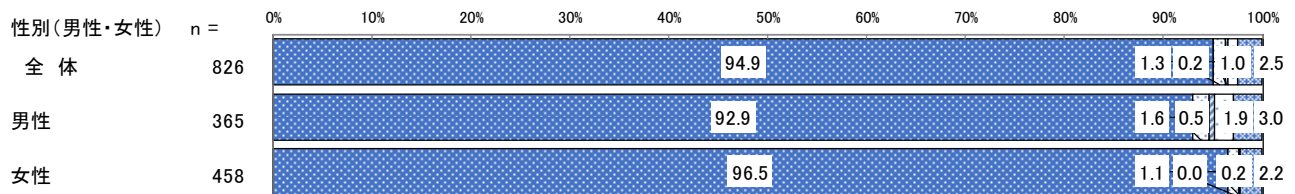


⑤ 刃物などを突きつけて、おどす

「どんな場合でも暴力にあたると思う」が9割以上となっています。

【⑤刃物などを突きつけて、おどす】は、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が94.9%となっています。

性・年代別で見ると、男性、女性ともに全ての年代で9割となっている。



■ どんな場合でも暴力にあたると思う

■ 暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う

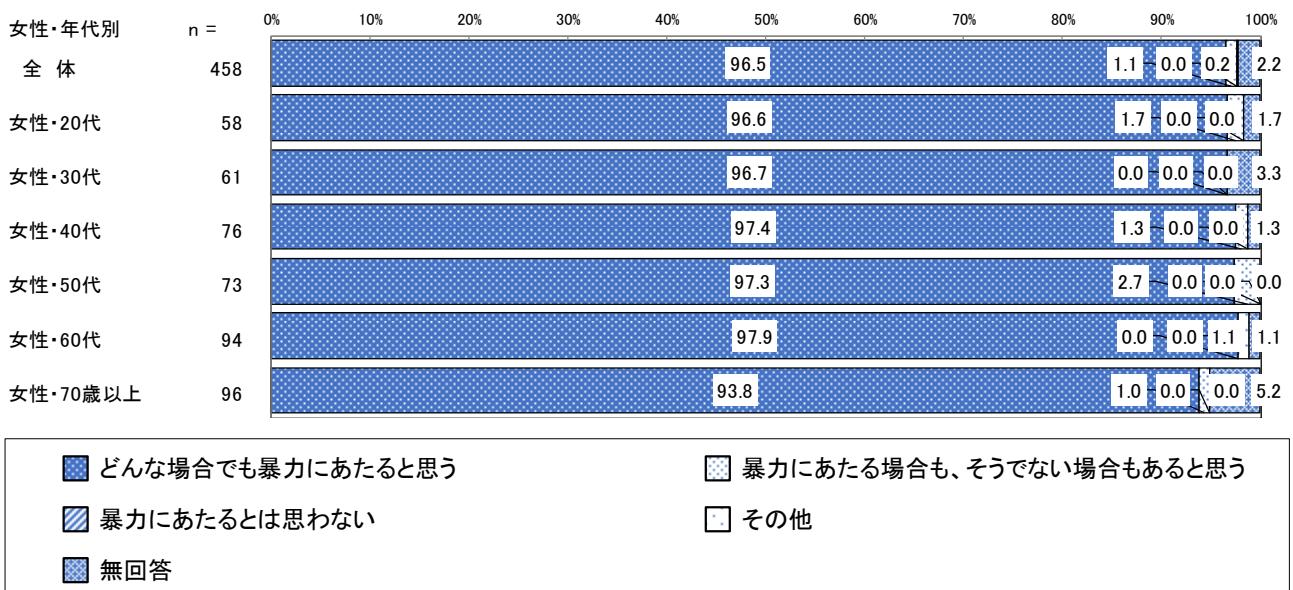
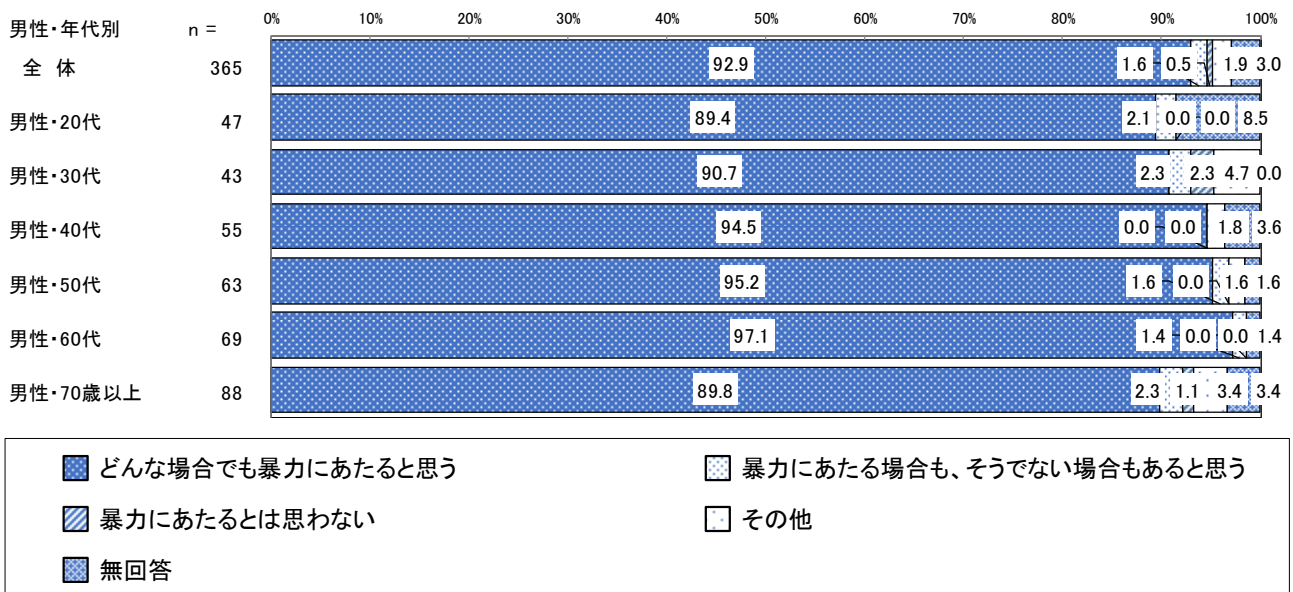
■ 暴力にあたるとは思わない

■ その他

■ 無回答

3 パートナー間の暴力やセクシュアル・ハラスメントについて

【性・年代別】



⑥ 大声でどなる

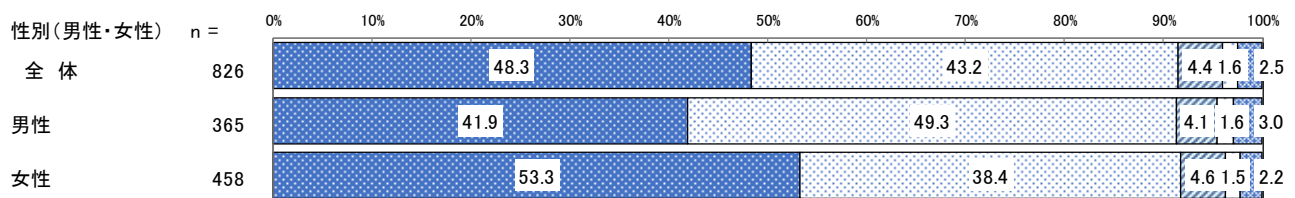
「どんな場合でも暴力にあたると思う」が4割以上。20代男性、30代女性では、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が高くなっています。

【⑥大声でどなる】では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が48.3%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が43.2%となっています。

性別でみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は女性が53.3%、男性が41.9%と認識の差がみられます。

性・年代別でみると、20代男性、30代女性は、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が他の年代と比べて高くなっています。50代女性、60代女性は、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が6割を超えています。

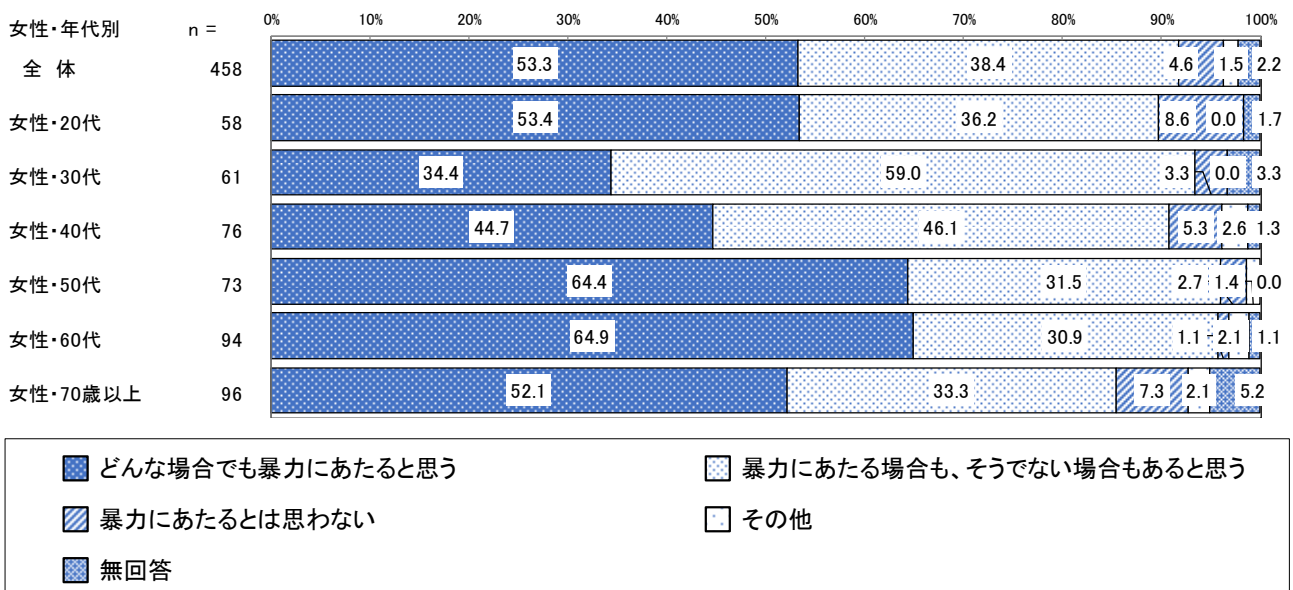
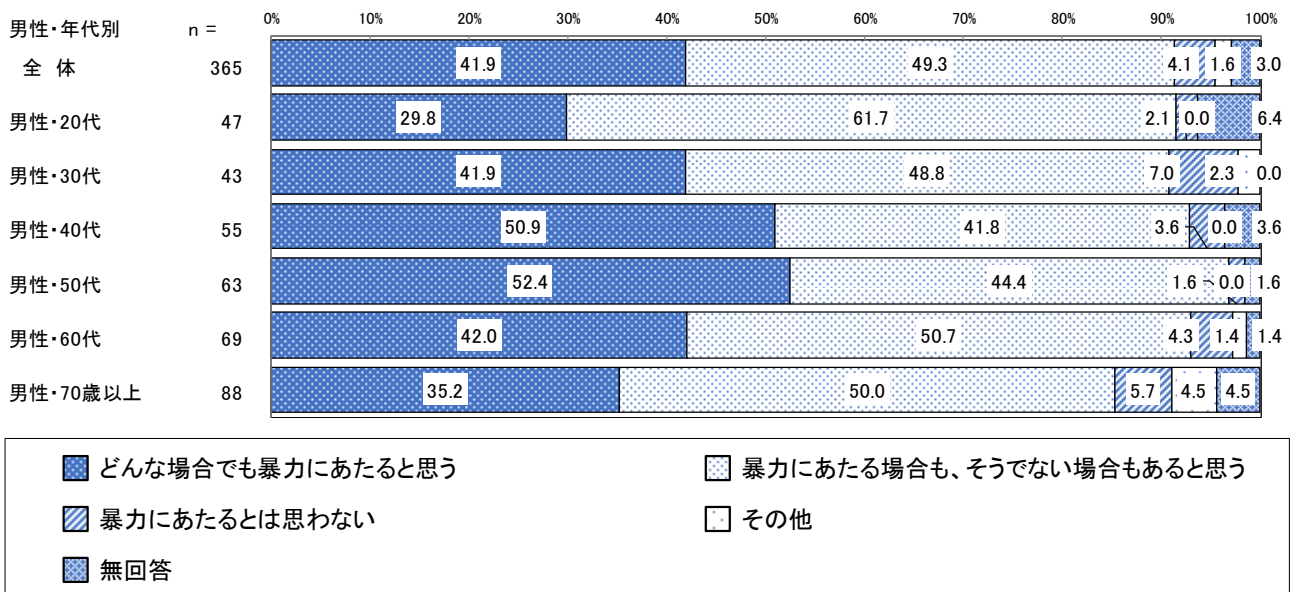
20代女性は、同年代の男性と比べて「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高くなっており、認識の差がみられます。



- どんな場合でも暴力にあたると思う
- 暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う
- 暴力にあたるとは思わない
- その他
- 無回答

3 パートナー間の暴力やセクシュアル・ハラスメントについて

【性・年代別】



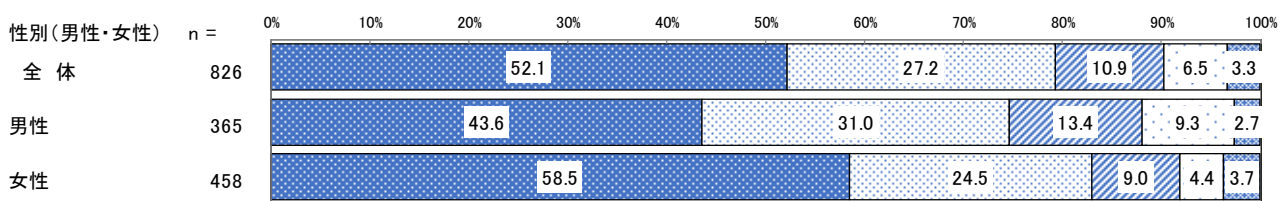
⑦ 他の異性との会話を許さない

「どんな場合でも暴力にあたると思う」が5割となっています。

【⑦他の異性との会話を許さない】では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が52.1%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が27.2%となっています。

性別でみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は女性が58.5%、男性が43.6%と認識の差がみられます。

性・年代別でみると、20代は、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が、女性が62.1%、男性が38.3%と20ポイント以上の差があり、認識の差がみられます。70歳以上は、男性、女性ともに「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が他の年代と比べて低くなっています。



■ どんな場合でも暴力にあたると思う

■ 暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う

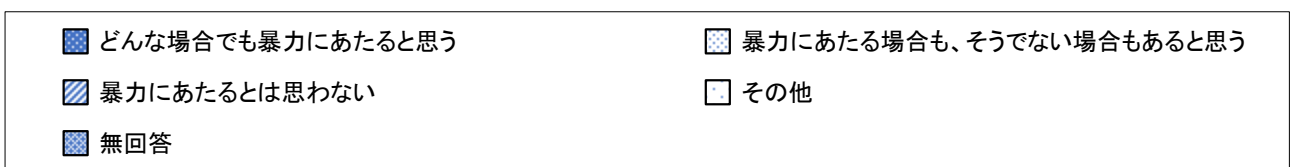
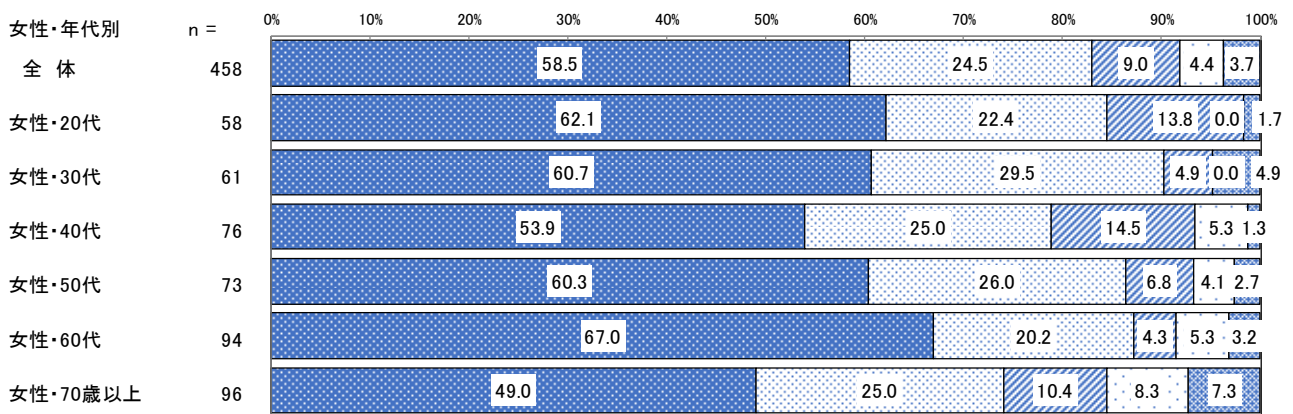
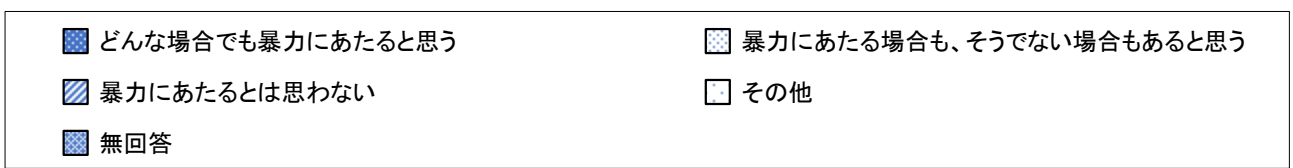
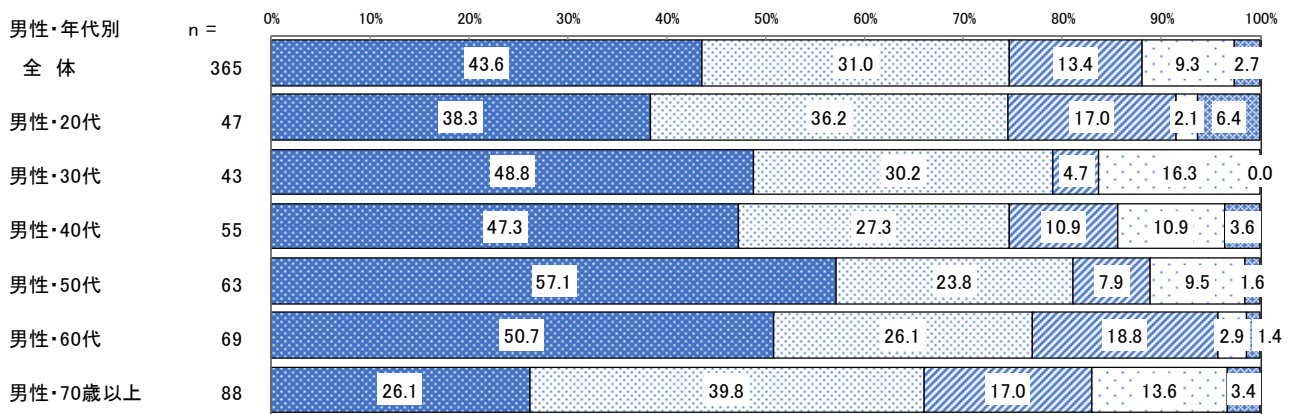
■ 暴力にあたるとは思わない

■ その他

■ 無回答

3 パートナー間の暴力やセクシュアル・ハラスメントについて

【性・年代別】



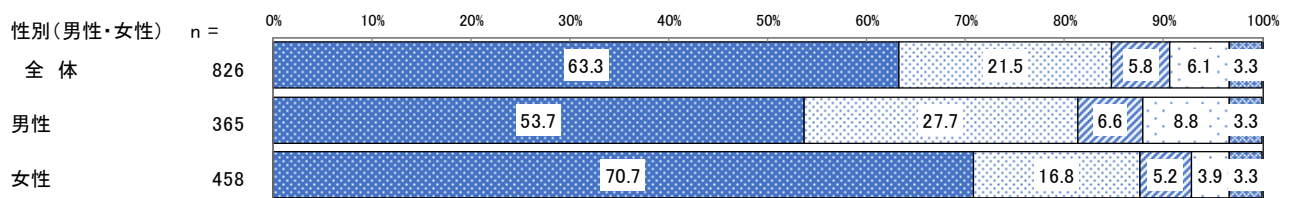
⑧ 家族や友人との関わりを持たせない

「どんな場合でも暴力にあたると思う」がおおよそ6割以上。20代女性では8割、30代、60代女性では8割近くとなっています。

【⑧家族や友人との関わりを持たせない】では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が63.3%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が21.5%となっています。

性別でみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は女性が70.7%、男性が53.7%と認識の差がみられます。

性・年代別でみると、20代は、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が、女性が81.0%、男性が57.4%と20ポイント以上の差があり、認識の差がみられます。また、20代女性、30代女性、60代女性は、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が7割以上となっています。



■ どんな場合でも暴力にあたると思う

■ 暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う

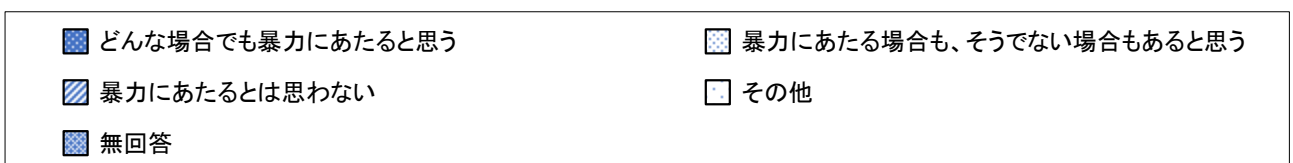
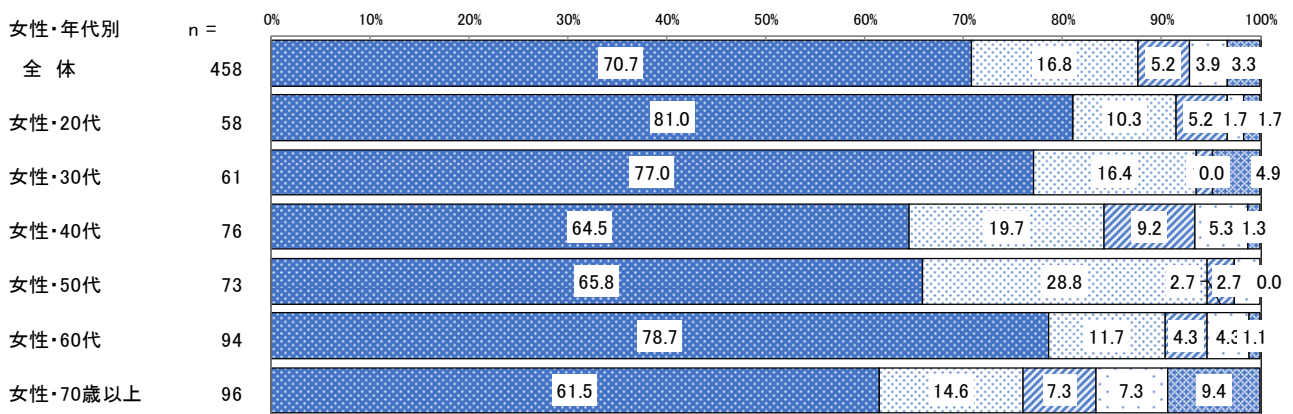
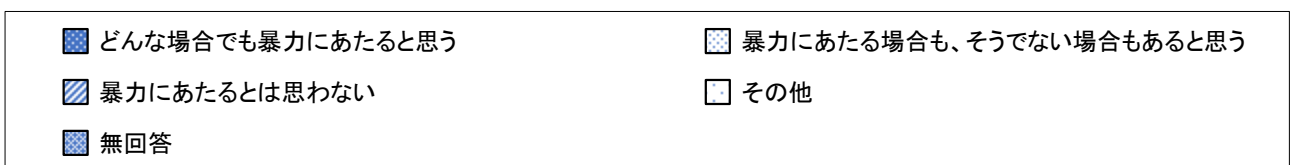
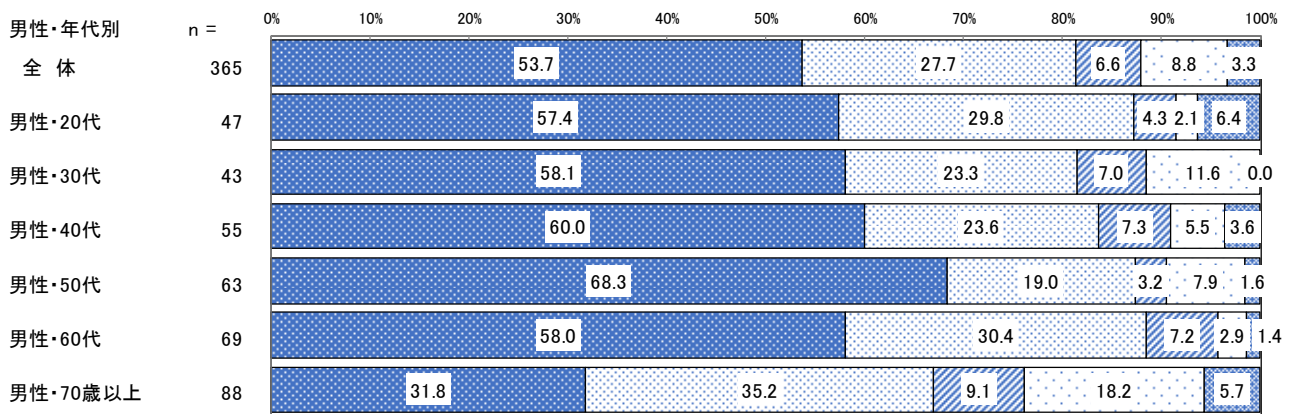
■ 暴力にあたるとは思わない

■ その他

■ 無回答

3 パートナー間の暴力やセクシュアル・ハラスメントについて

【性・年代別】

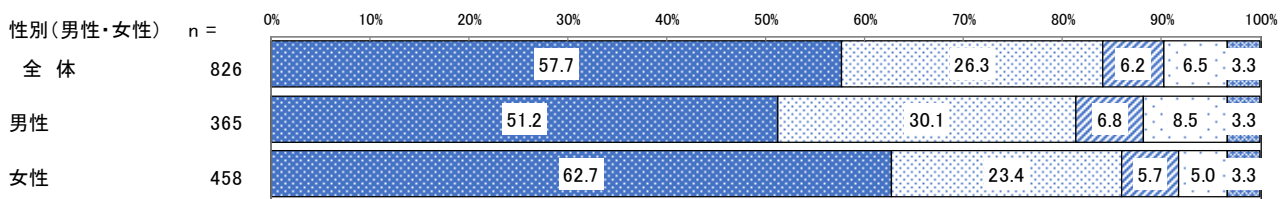


⑨ 交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する

「どんな場合でも暴力にあたると思う」が5割以上となっています。

【⑨交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する】では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が57.7%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が26.3%となっています。

性・年代別でみると、いずれの年代も、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が男性よりも女性の方が高くなっており、60代女性は7割となっています。



■ どんな場合でも暴力にあたると思う

■ 暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う

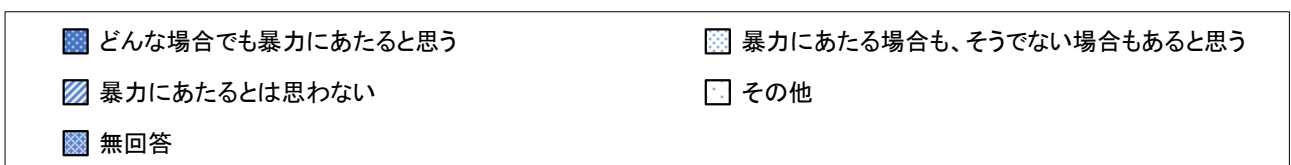
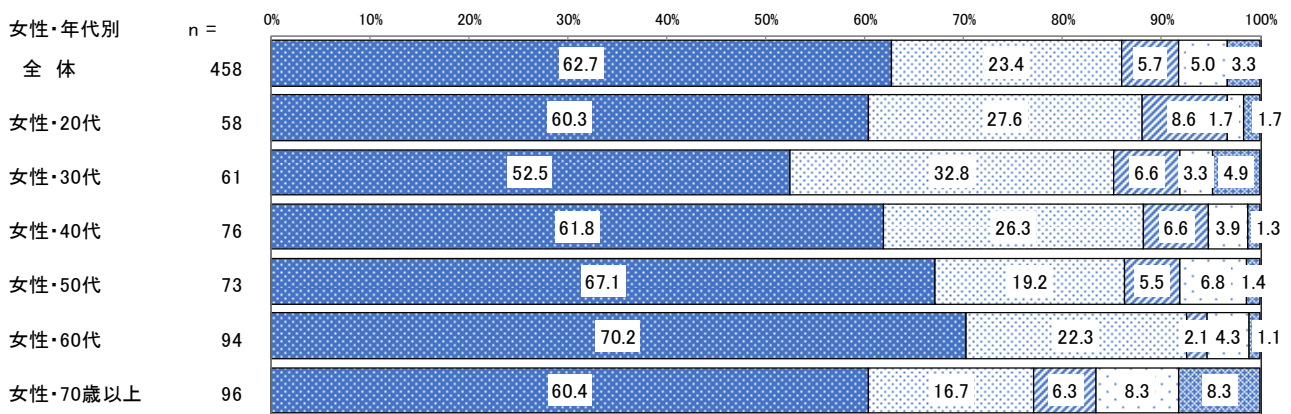
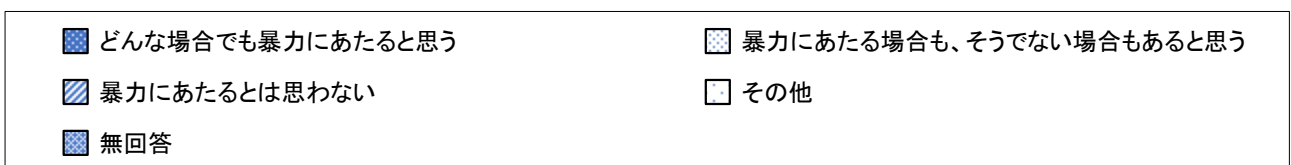
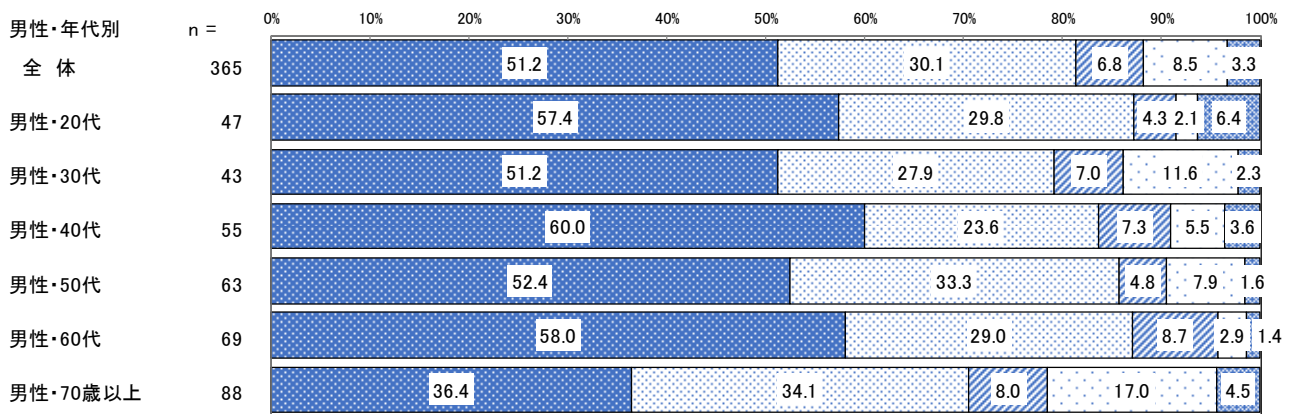
■ 暴力にあたるとは思わない

■ その他

■ 無回答

3 パートナー間の暴力やセクシュアル・ハラスメントについて

【性・年代別】



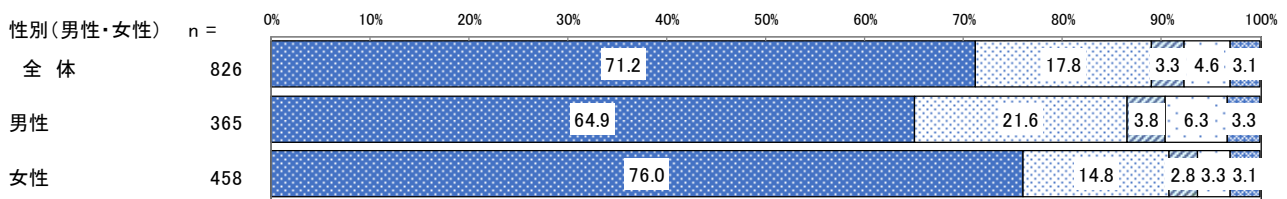
⑩ 職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する

「どんな場合でも暴力にあたると思う」が7割以上。50代女性、60代女性は8割となっています

【⑩職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する】では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が71.2%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が17.8%となっています。

性別で見ると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は女性が76.0%、男性が64.9%と認識の差がみられます。

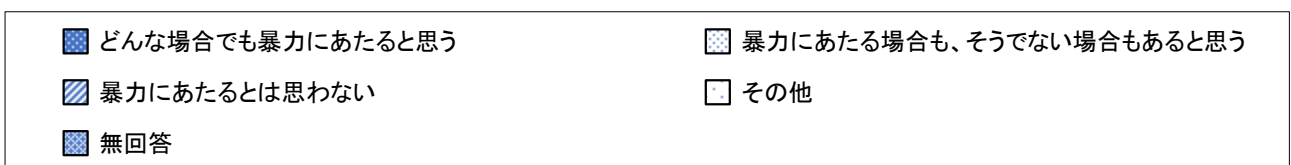
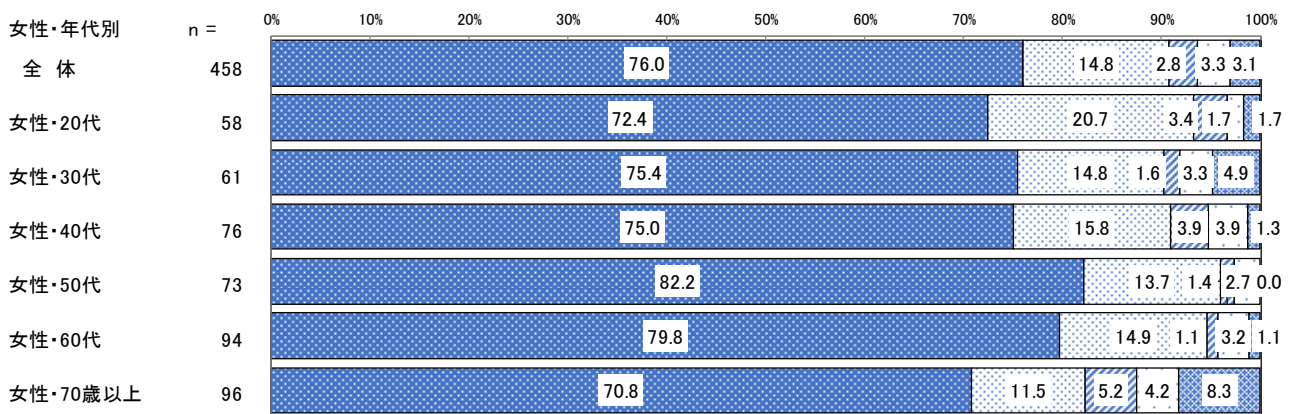
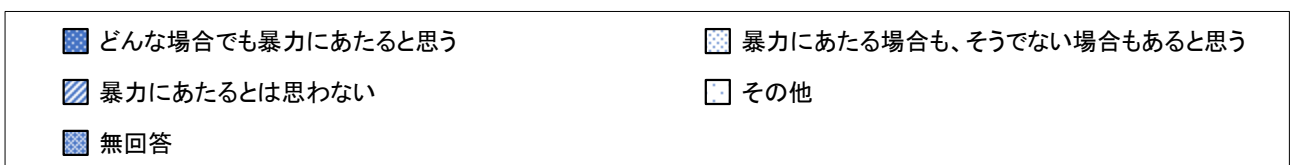
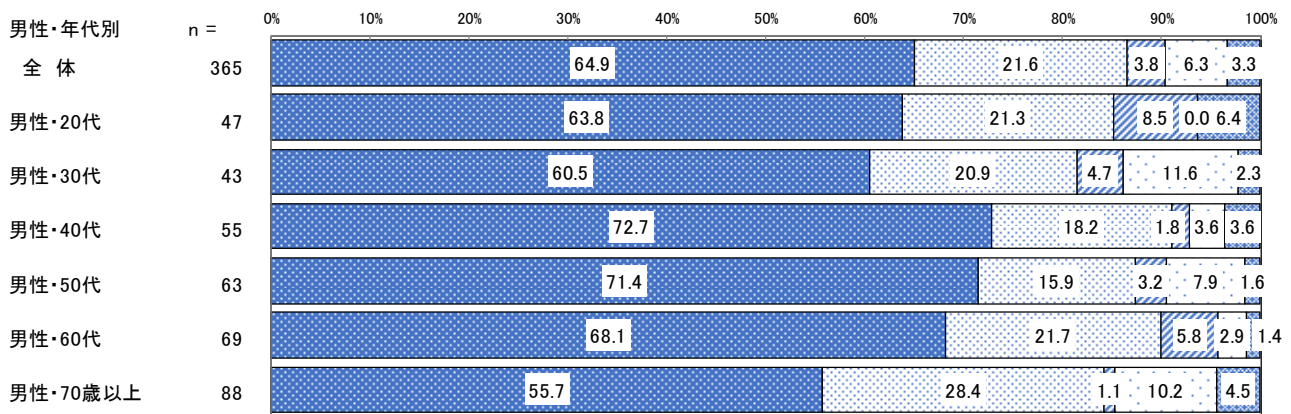
性・年代別で見ると、いずれの年代も「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が男性よりも女性の方が高くなっており、50代女性、60代女性は約8割となっています。



	どんな場合でも暴力にあたると思う		暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う
	暴力にあたるとは思わない		その他
	無回答		

3 パートナー間の暴力やセクシュアル・ハラスメントについて

【性・年代別】

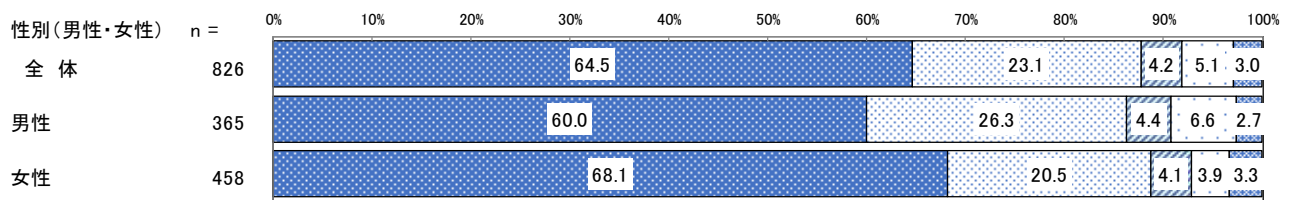


⑪ 何を言っても長期間無視し続ける

「どんな場合でも暴力にあたると思う」が6割以上。50代、60代では7割以上となっています。

【⑪何を言っても長期間無視し続ける】では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が64.5%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が23.1%となっています。

性・年代別でみると、50代、60代は、男性、女性ともに「どんな場合でも暴力にあたると思う」が7割以上となっています。



■ どんな場合でも暴力にあたると思う

■ 暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う

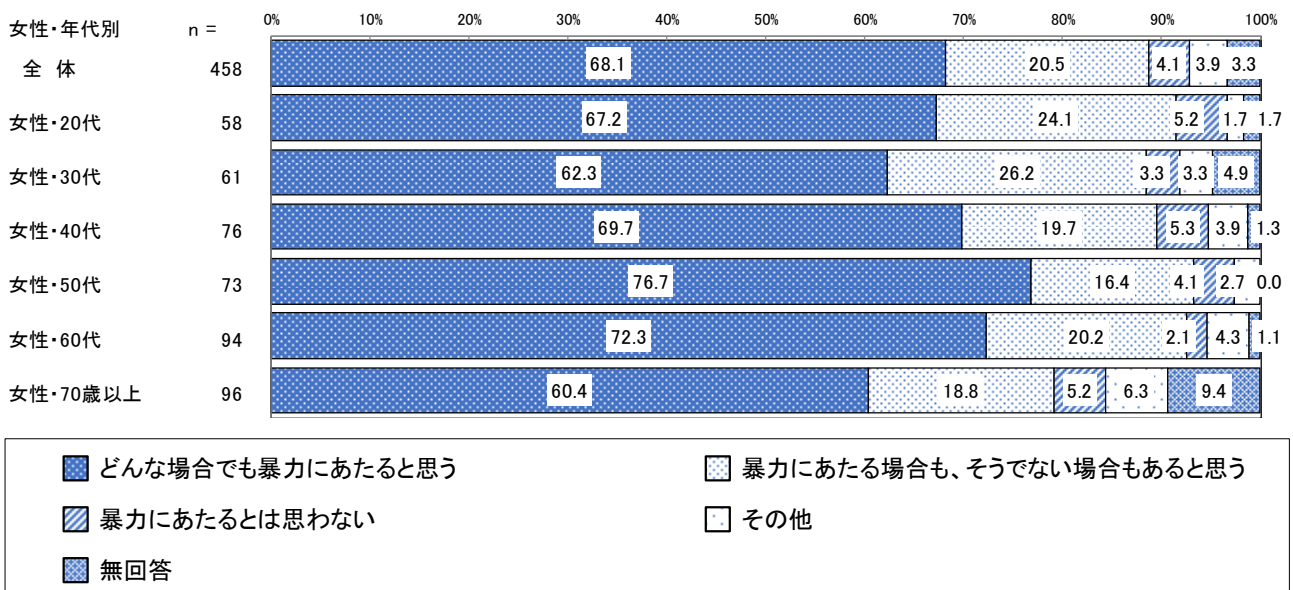
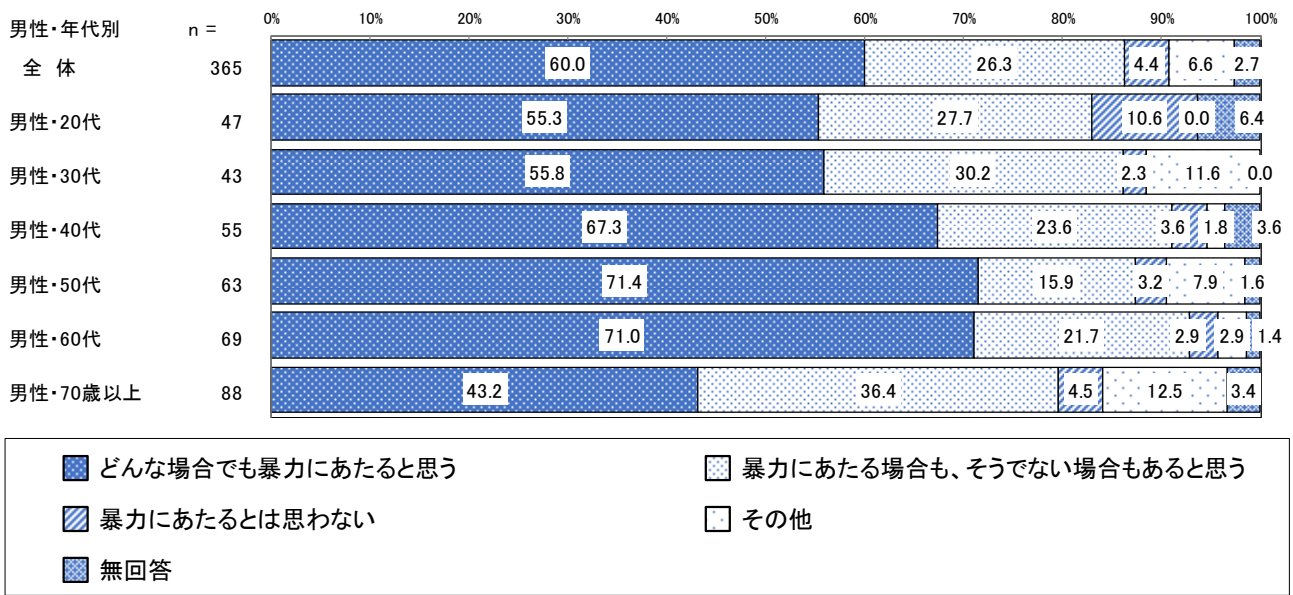
■ 暴力にあたるとは思わない

■ その他

■ 無回答

3 パートナー間の暴力やセクシュアル・ハラスメントについて

【性・年代別】

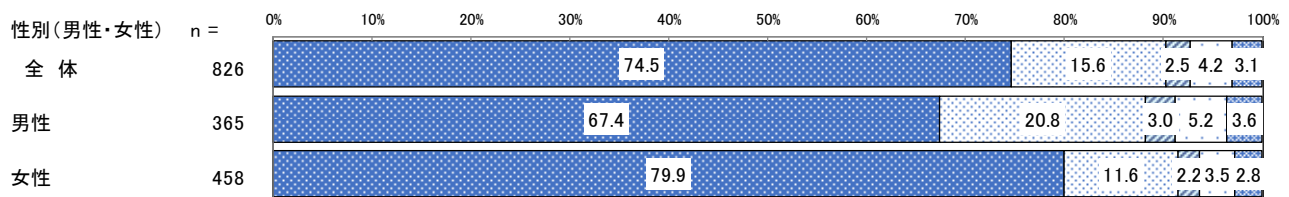


⑫ 「誰のおかげで生活できるんだ」とか、「甲斐性なし」と言う

「どんな場合でも暴力にあたると思う」が7割以上となっています。

【⑫「誰のおかげで生活できるんだ」とか、「甲斐性なし」と言う】では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が74.5%となっています。

性・年代別でみると、いずれの年代も「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が男性よりも女性の方が高くなっており、50代は、男性、女性ともに「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が他の年代と比べて高くなっています。



■ どんな場合でも暴力にあたると思う

■ 暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う

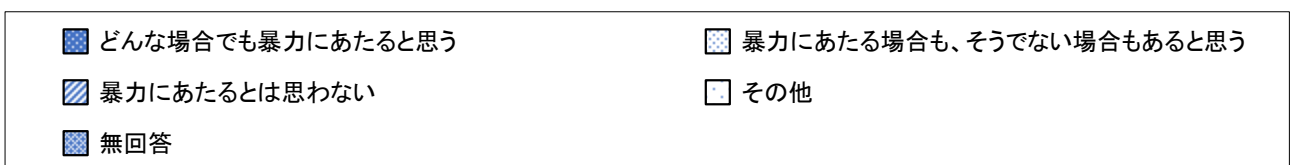
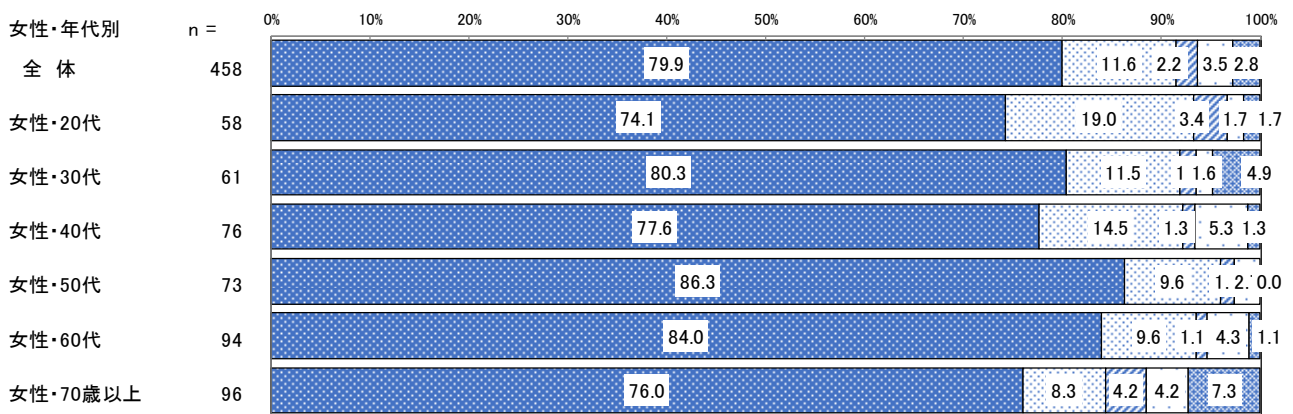
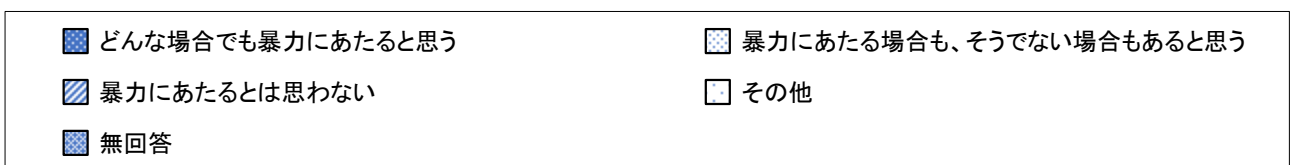
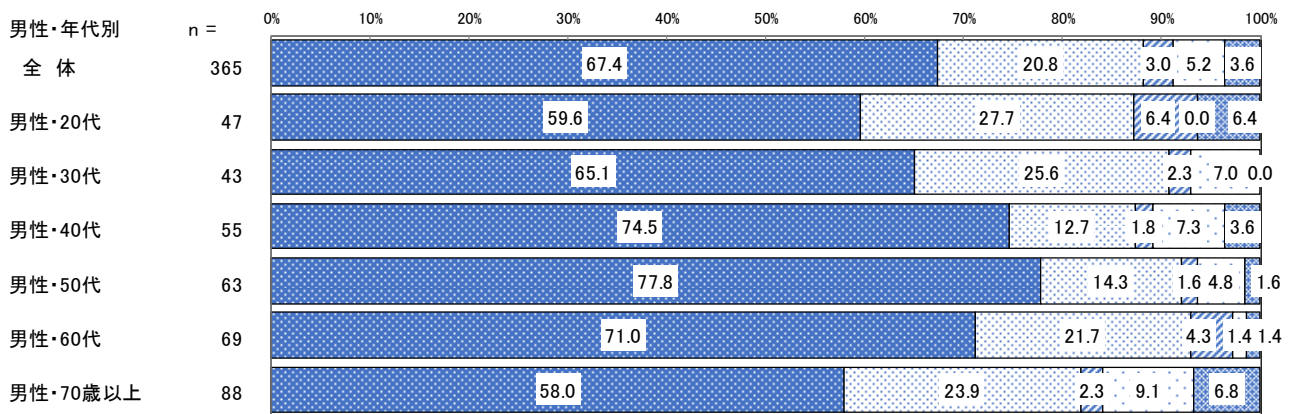
■ 暴力にあたるとは思わない

■ その他

■ 無回答

3 パートナー間の暴力やセクシュアル・ハラスメントについて

【性・年代別】

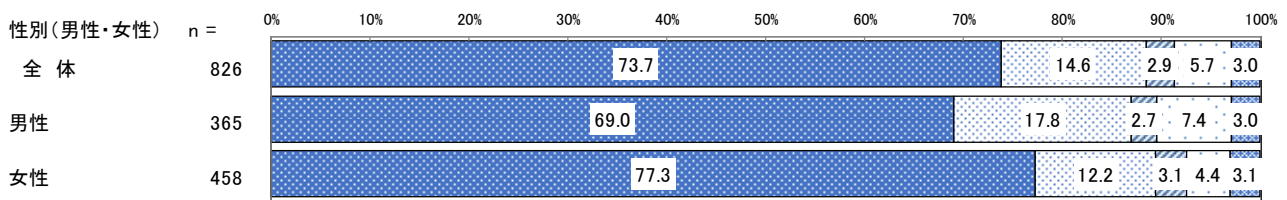


⑬ 家計に必要な生活費を渡さない

「どんな場合でも暴力にあたると思う」が7割以上となっています。

【⑬家計に必要な生活費を渡さない】では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が73.7%となっています。

性・年代別でみると、いずれの年代も「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が男性よりも女性の方が高くなっており、50代女性、60代女性は、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が8割以上となっています。



■ どんな場合でも暴力にあたると思う

■ 暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う

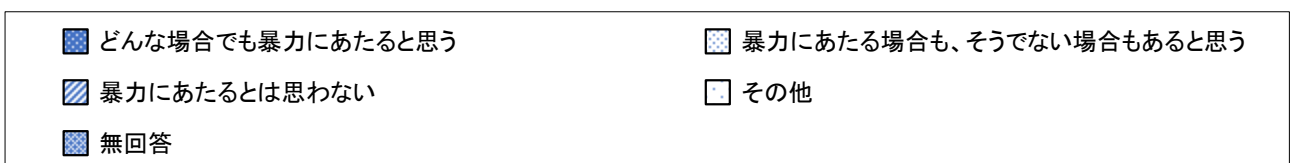
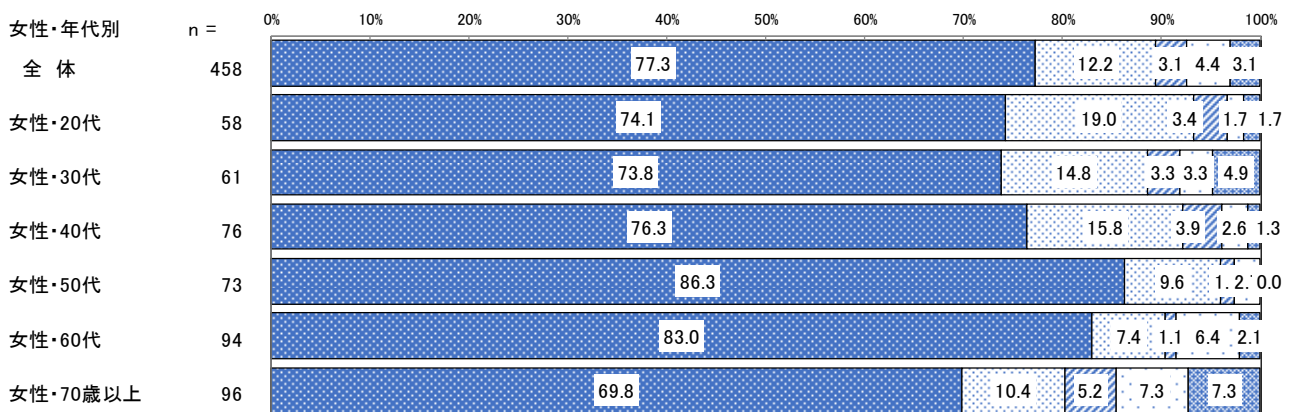
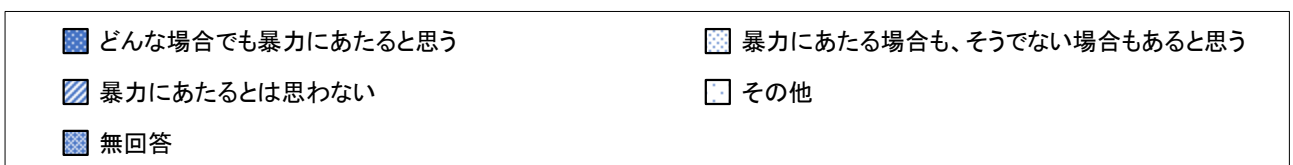
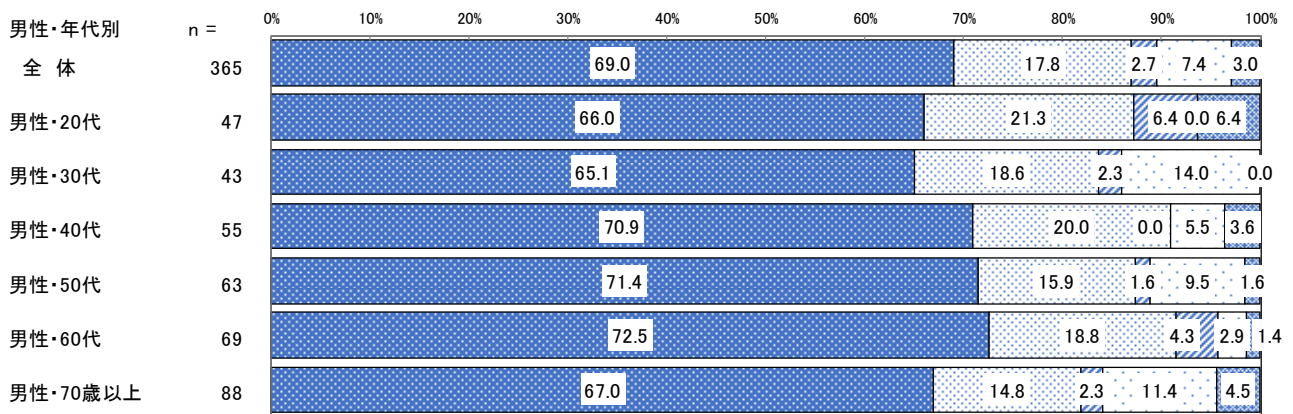
■ 暴力にあたるとは思わない

■ その他

■ 無回答

3 パートナー間の暴力やセクシュアル・ハラスメントについて

【性・年代別】

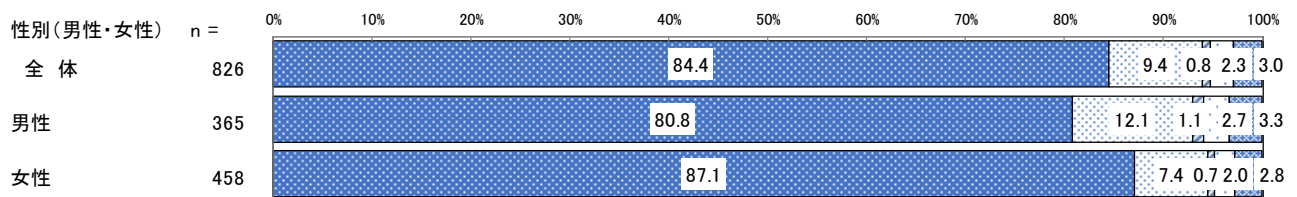


⑭ 嫌がっているのに性的な行為を強要する

「どんな場合でも暴力にあたると思う」が8割以上。20代女性、30代女性では9割以上となっています。

【⑭嫌がっているのに性的な行為を強要する】では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が84.4%となっています。

性・年代別で見ると、20代女性、30代女性は、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が9割以上となっています。



■ どんな場合でも暴力にあたると思う

■ 暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う

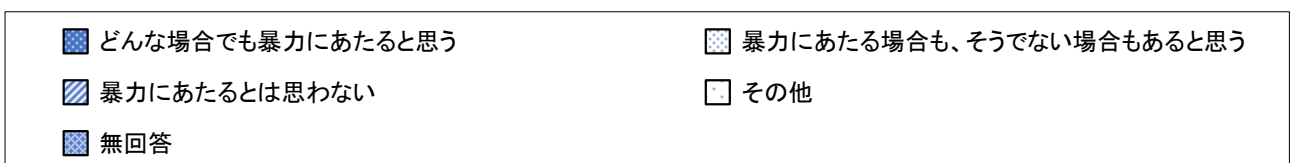
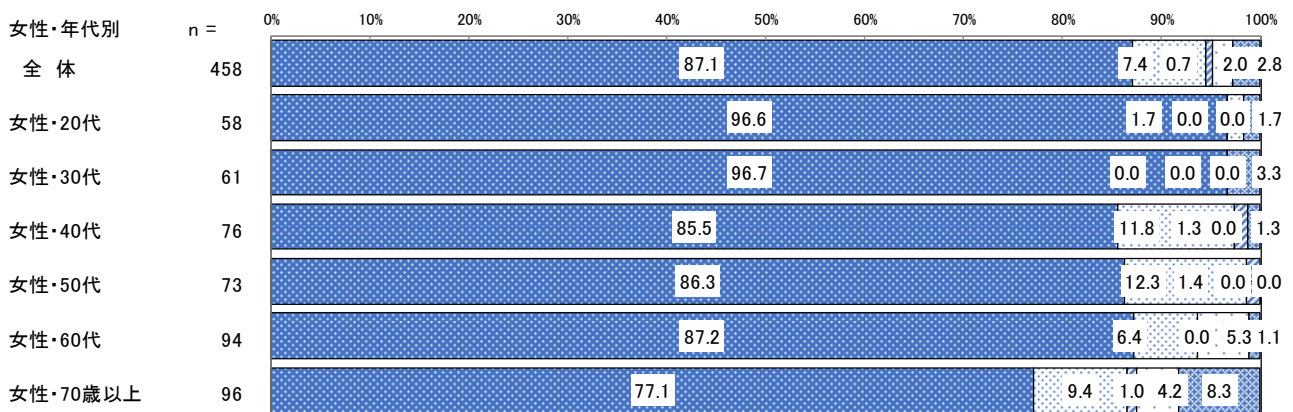
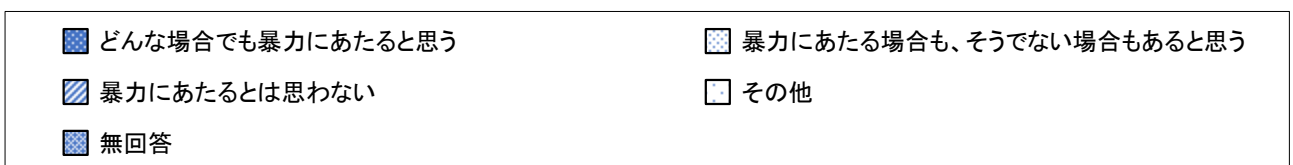
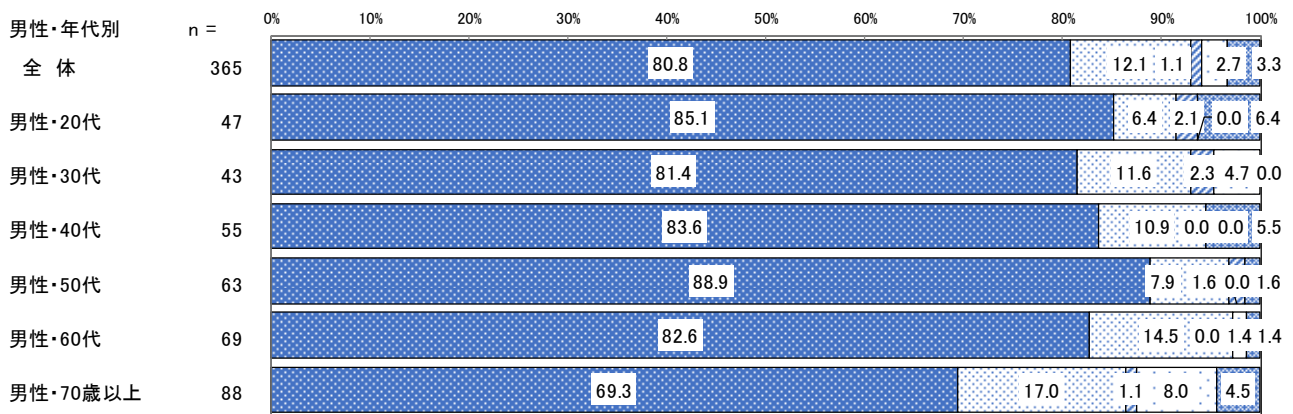
■ 暴力にあたるとは思わない

■ その他

■ 無回答

3 パートナー間の暴力やセクシュアル・ハラスメントについて

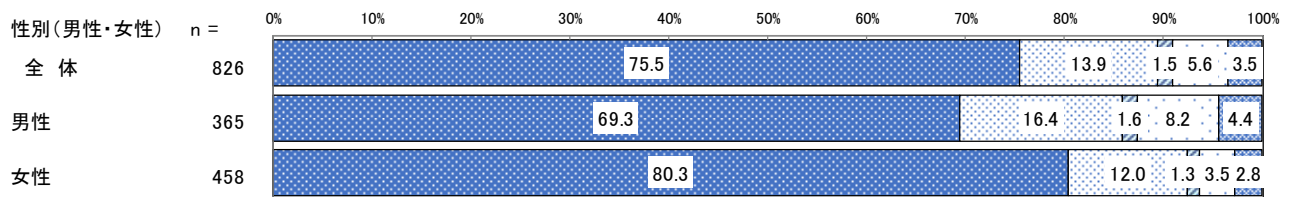
【性・年代別】



⑮ 避妊に協力しない

「どんな場合でも暴力にあたると思う」が7割以上。30代女性では9割を超えています。

【⑮避妊に協力しない】では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が75.5%となっています。性・年代別でみると、20代女性、30代女性は、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が9割と、高い割合となっています。70歳以上は、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が、女性が70.8%、男性が44.3%と20ポイント以上の差があり、認識の差がみられます。



■ どんな場合でも暴力にあたると思う

■ 暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う

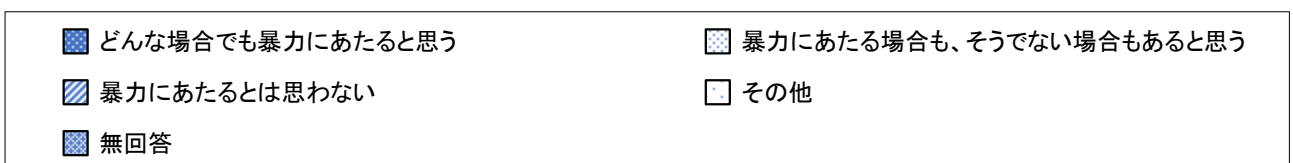
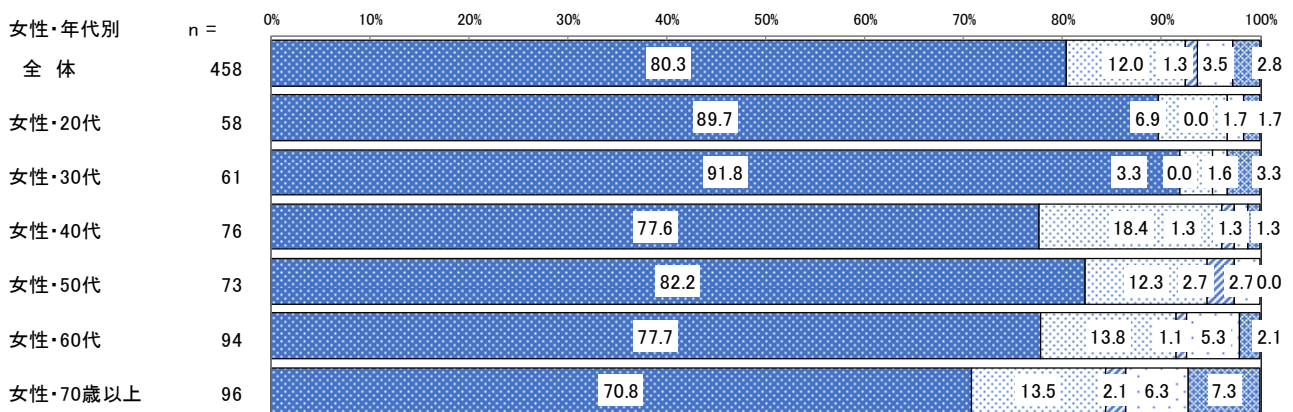
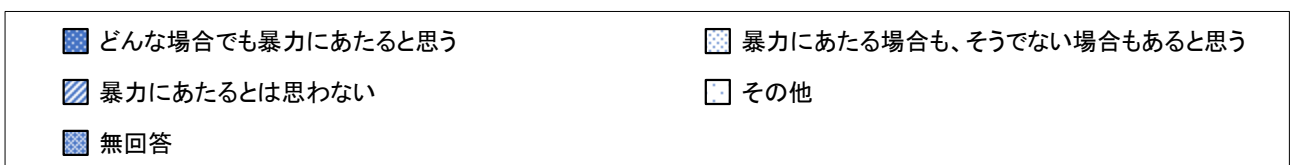
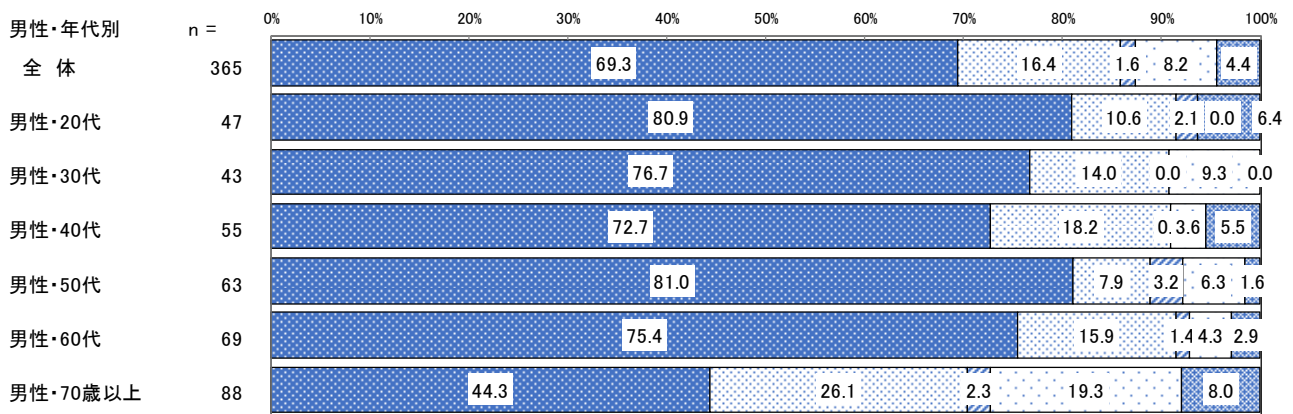
■ 暴力にあたるとは思わない

■ その他

■ 無回答

3 パートナー間の暴力やセクシュアル・ハラスメントについて

【性・年代別】



「ドメスティック・バイオレンスだと思ふ行為まとめ」

「職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する」や「家計に必要な生活費を渡さない」など“精神的”なものについては、50代、60代女性の割合が高く、「嫌がっているのに性的な行為を強要する」や「避妊に協力しない」については、20代、30代の女性の割合が高くなっています。

	「どんな場合でも暴力にあたると思う」割合	性・年代別の特徴
① 平手で打つ	7割	20代女性、30代女性は、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が他の年代と比べて高い。
② 足でける	8割	20代女性は、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が他の年代と比べて高い。
③ 身体を傷つける可能性のある物でなぐる	9割以上	男性、女性ともに全ての年代で9割。
④ なぐるふりをして、おどす	6割	70歳以上男性は、他の同年代と比べて、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が低い。
⑤ 刃物などを突きつけて、おどす	9割以上	男性、女性ともに全ての年代で9割。
⑥ 大声でどなる	4割	20代男性、30代女性は、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が他の年代と比べて高い。
⑦ 他の異性との会話を許さない	5割	70歳以上は、男性、女性ともに「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が他の年代と比べて低い。
⑧ 家族や友人との関わりを持たせない	6割	20代女性、30代女性、60代女性は、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が7割以上。
⑨ 交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する	5割	60代女性は、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が7割。
⑩ 職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する	7割	50代女性、60代女性は、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が8割。
⑪ 何を言っても長期間無視し続ける	6割	50代、60代は、男性、女性ともに「どんな場合でも暴力にあたると思う」が7割。
⑫ 「誰のおかげで生活できるんだ」とか、「甲斐性なし」と言う	7割	50代は、男性、女性ともに「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が他の年代と比べて高い。
⑬ 家計に必要な生活費を渡さない	7割	50代女性、60代女性は、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が8割。
⑭ 嫌がっているのに性的な行為を強要する	8割	20代女性、30代女性は、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が9割。
⑮ 避妊に協力しない	7割	20代女性、30代女性は、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が9割。

3 ドメスティック・バイオレンスだと思わない理由

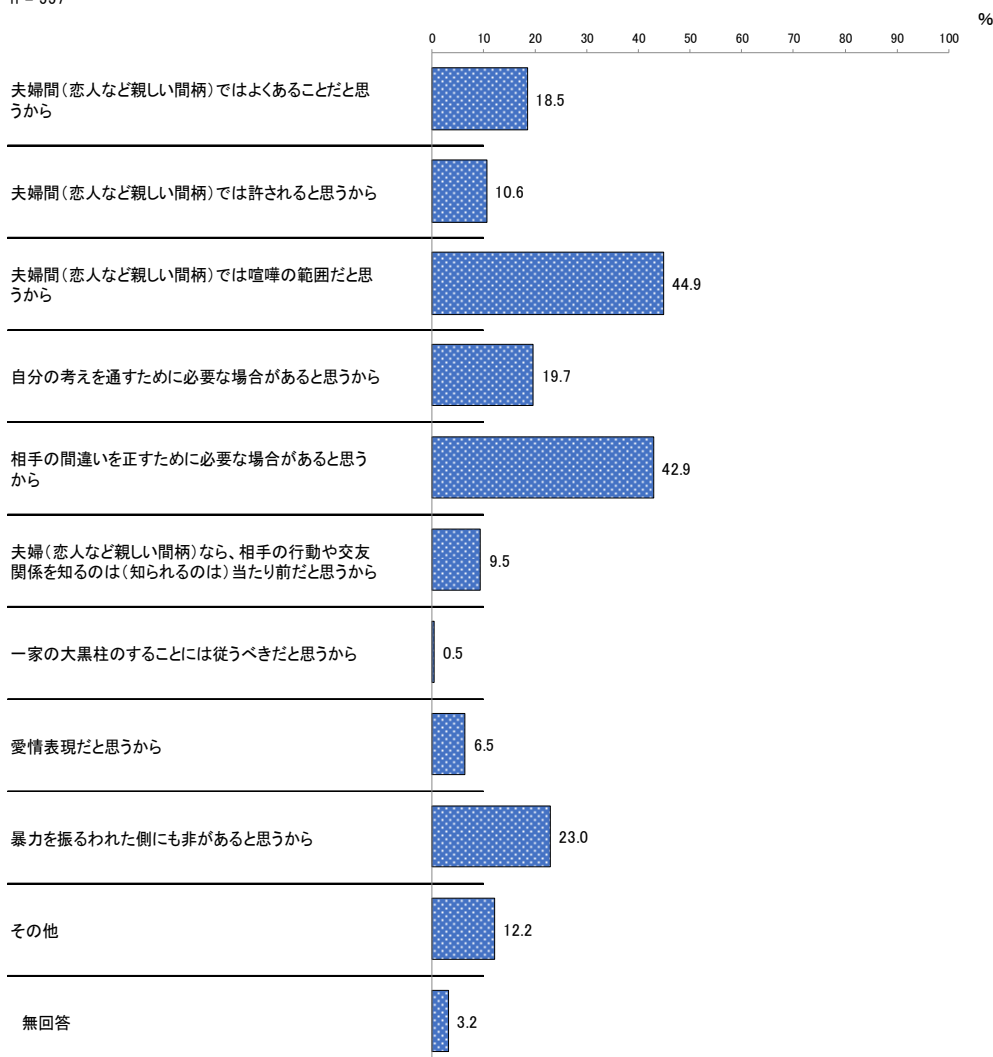
問6-3 (問6-2の①から⑮のうち1つでも「2」、「3」と答えた方に伺います。) そのような行為が「暴力にあたる場合でも、そうでない場合もあると思う」、「暴力にあたるとは思わない」と思ったのはなぜですか。(あてはまるもの全てに○)

「夫婦(恋人など親しい間柄)では喧嘩の範囲だと思うから」、「相手の間違いを正すために必要な場合があると思うから」が4割以上となっています。

暴力に当たるとは思わない理由では、「夫婦間(恋人など親しい間柄)では喧嘩の範囲だと思うから」が44.9%と最も高く、次に「相手の間違いを正すために必要な場合があると思うから」が42.9%、「暴力を振るわれた側にも非があると思うから」が23.0%となっています。

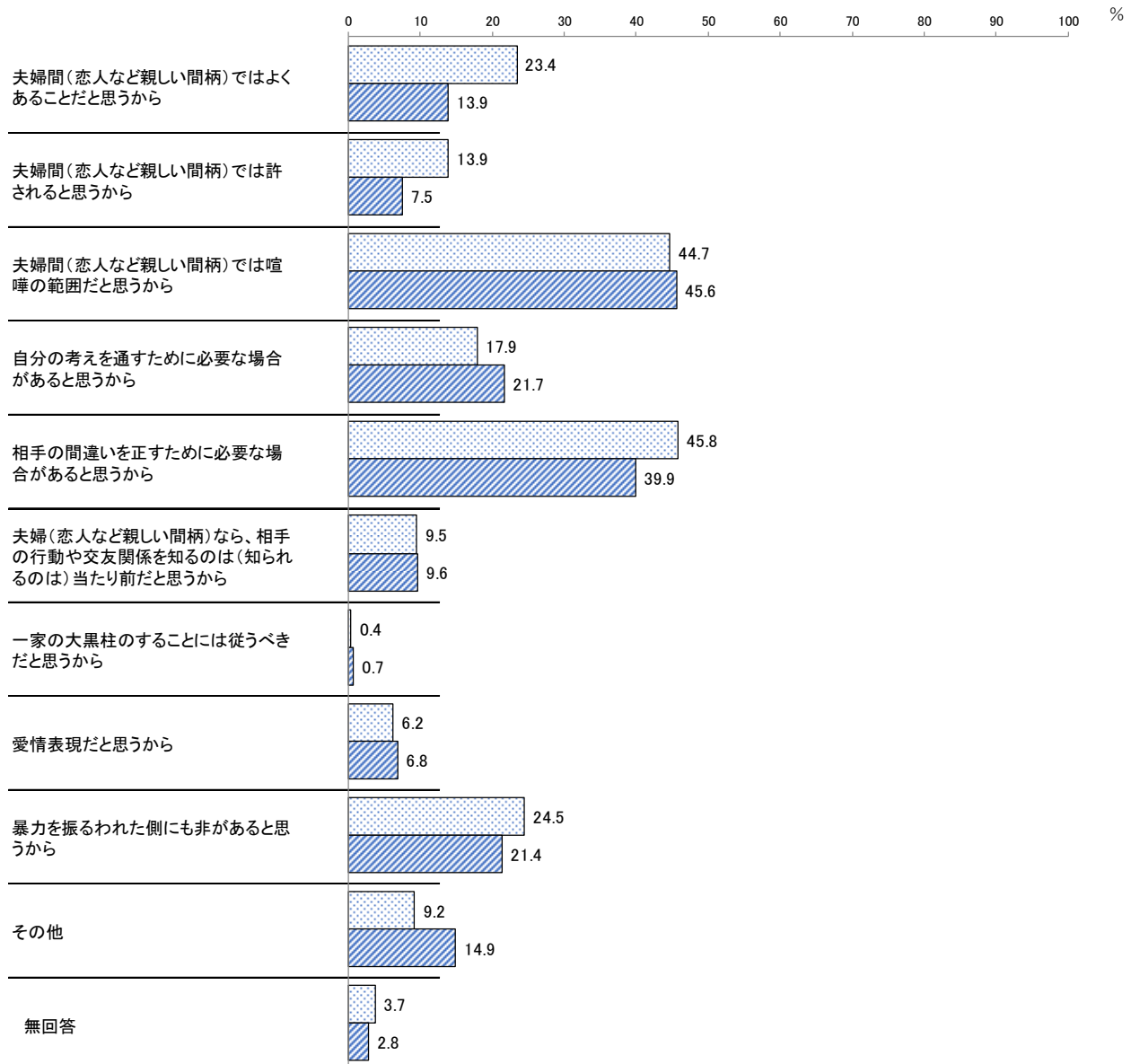
性別でみると、「夫婦間(恋人など親しい間柄)ではよくあることだと思うから」、「相手の間違いを正すために必要な場合があると思うから」などは男性の割合が高く、「夫婦間(恋人など親しい間柄)では喧嘩の範囲だと思うから」、「自分の考えを通すために必要な場合があると思うから」は女性の割合が高くなっています。

n = 557



3 パートナー間の暴力やセクシュアル・ハラスメントについて

【性別】



■ 男性(n=273)

■ 女性(n=281)

4 ドメスティック・バイオレンスをなくすために重要なこと

- 問7 「夫婦・恋人など親しい間柄にあるパートナー間の暴力」（ドメスティック・バイオレンス）をなくすためには、どうしたらよいとお考えになりますか。あなたが、重要であるとお考えのものをお選びください。（3つまでに○）

「被害者のための相談機関や保護施設を整備する」が5割強、「法律・制度の制定や見直しを行う」が4割強となり、自治体や国による被害者への積極的で具体的な対応が求められています。

ドメスティック・バイオレンスをなくすために重要だと考えるものでは、「被害者のための相談機関や保護施設を整備する」（53.1%）が最も高く、次に「法律・制度の制定や見直しを行う」（42.1%）、「捜査や裁判での担当者に女性を増やすなど、被害を受けた女性が届けやすい環境をつくる」（37.2%）、「学校における男女平等についての教育を充実させる」（31.0%）、「犯罪の取り締まりを強化する」（26.3%）となっています。

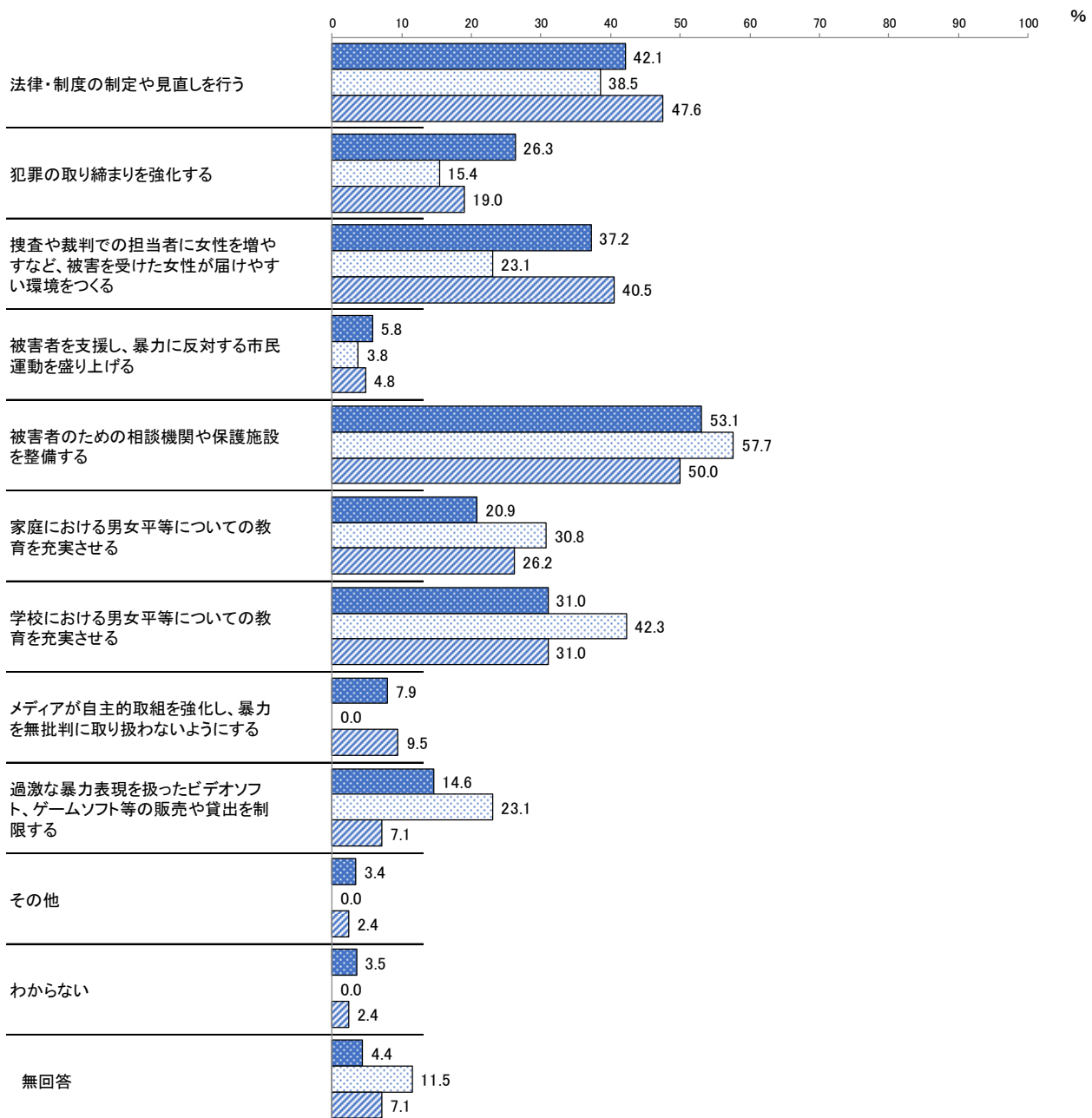
過去1年間でのドメスティック・バイオレンスの経験・見聞別でみると、「暴力を受けたことがある」では、「被害者のための相談機関や保護施設を整備する」（57.7%）が最も高く、次に「学校における男女平等についての教育を充実させる」（42.3%）となっています。

「暴力を受けた人から相談されたことがある」では、「被害者のための相談機関や保護施設を整備する」（50.0%）が最も高く、次に「法律・制度の制定や見直しを行う」（47.6%）となっています。

性別でみると、「被害者のための相談機関や保護施設を整備する」、「捜査や裁判での担当者に女性を増やすなど、被害を受けた女性が届けやすい環境をつくる」などは女性の割合が高く、「犯罪の取り締まりを強化する」、「学校における男女平等についての教育を充実させる」は男性の割合が高くなっています。

経年比較でみると、平成17年度以降、「過激な暴力表現を扱ったビデオソフト、ゲームソフト等の販売や貸出を制限する」が減少傾向にあります。

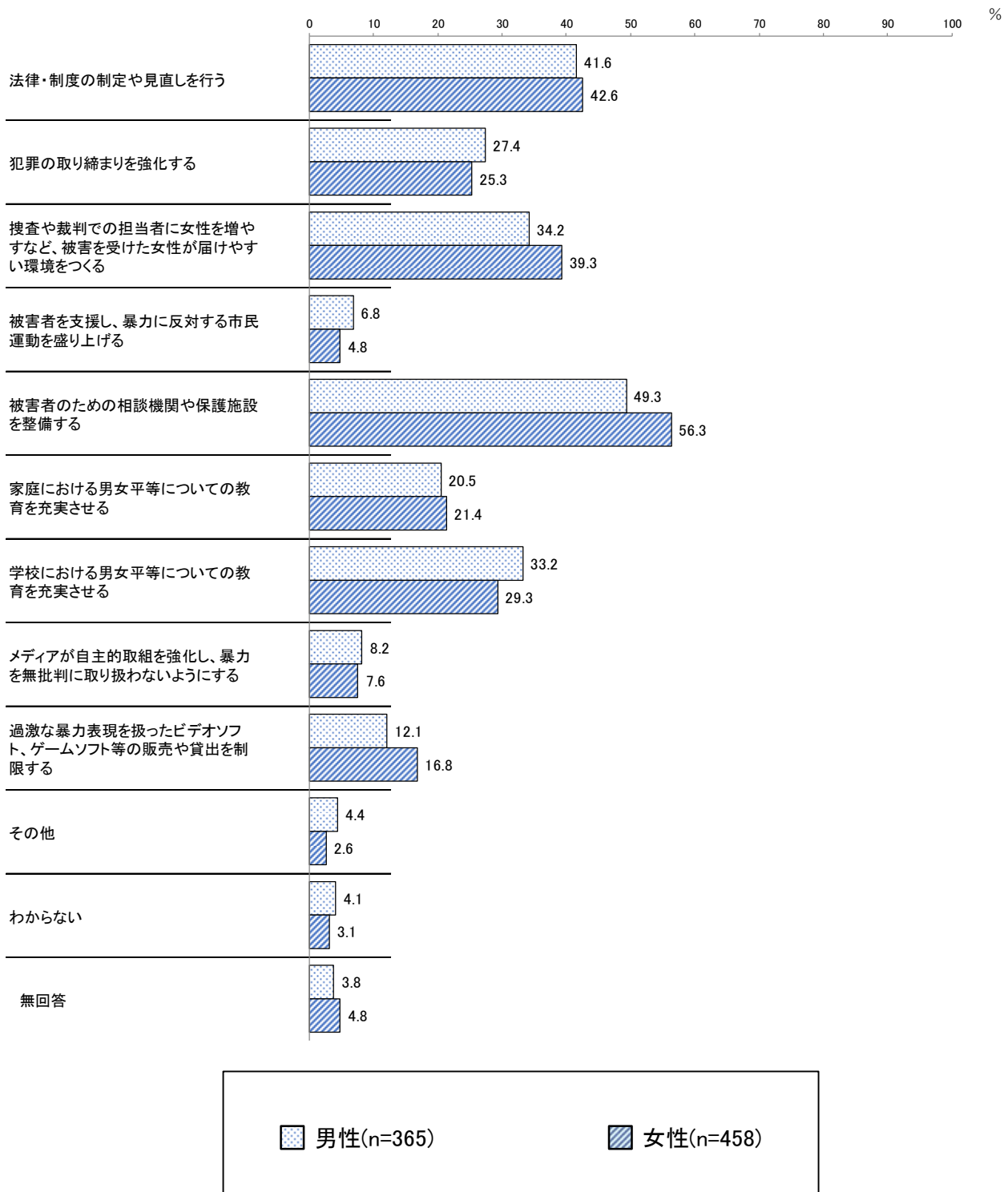
3 パートナー間の暴力やセクシュアル・ハラスメントについて



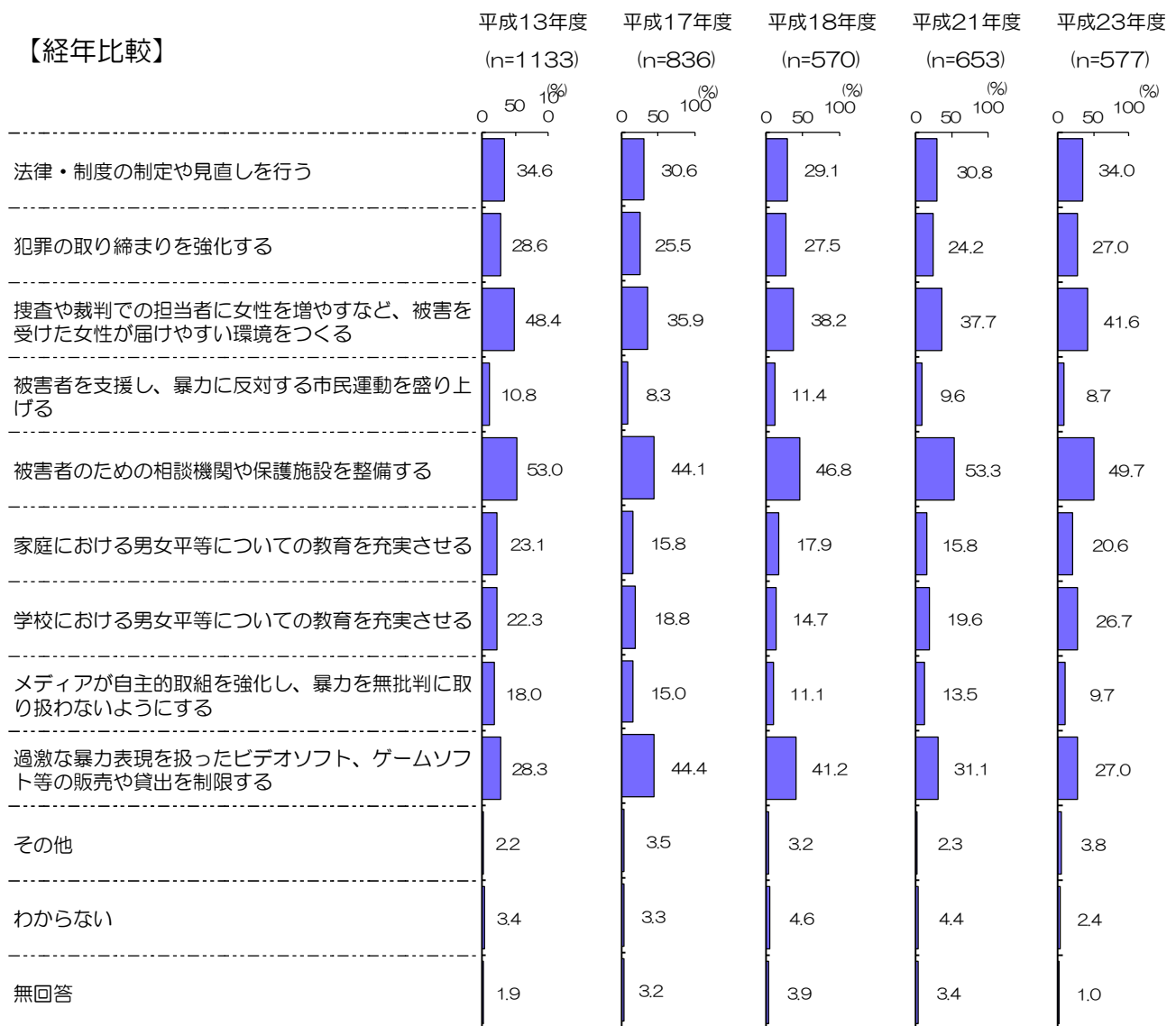
■ 全体 (n=826) □ 暴力を受けたことがある (n=26) ▨ 暴力を受けた人から相談されたことがある (n=42)

3 パートナー間の暴力やセクシュアル・ハラスメントについて

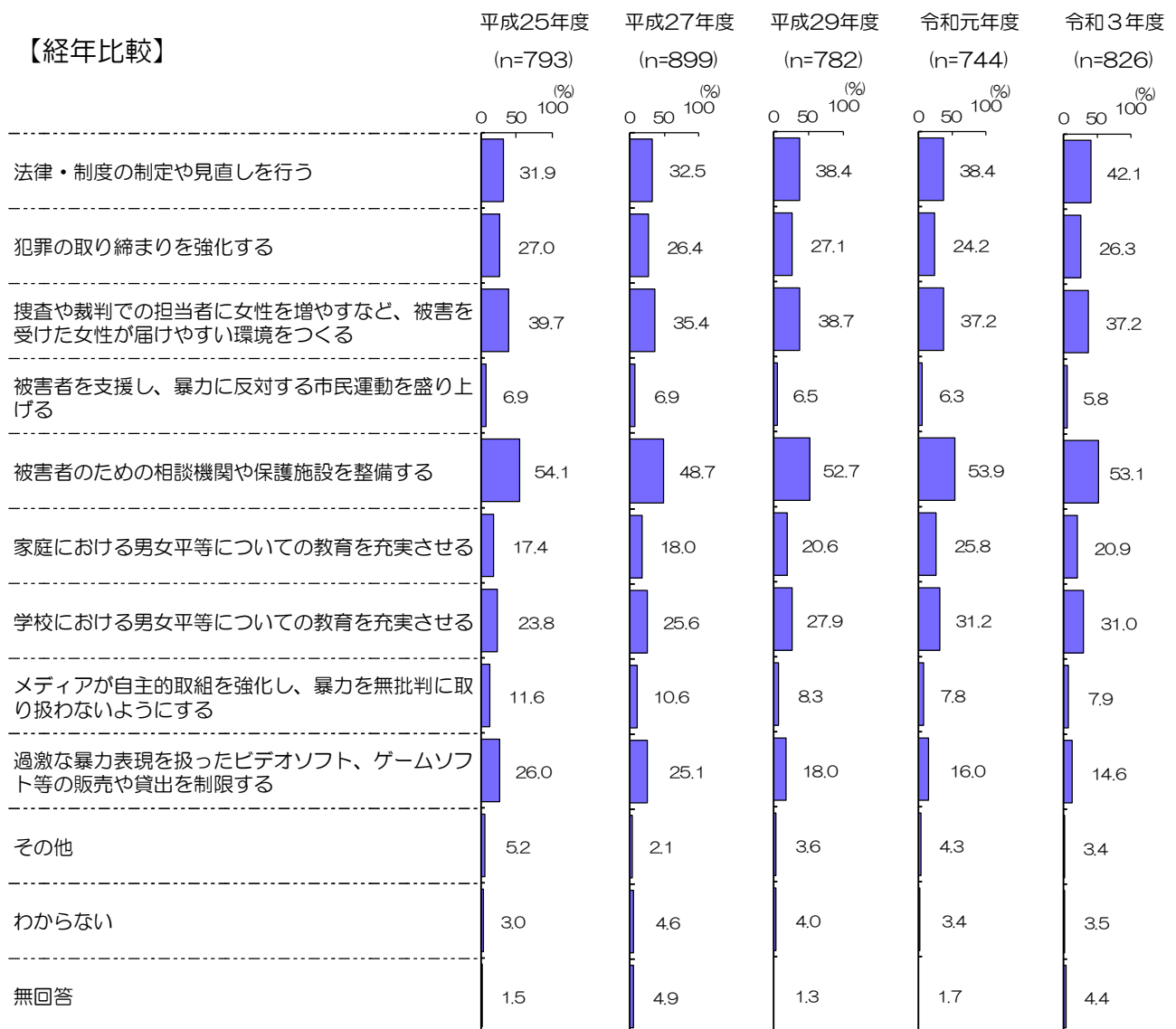
【性別】



3 パートナー間の暴力やセクシュアル・ハラスメントについて



3 パートナー間の暴力やセクシュアル・ハラスメントについて



5 セクシュアル・ハラスメントの経験

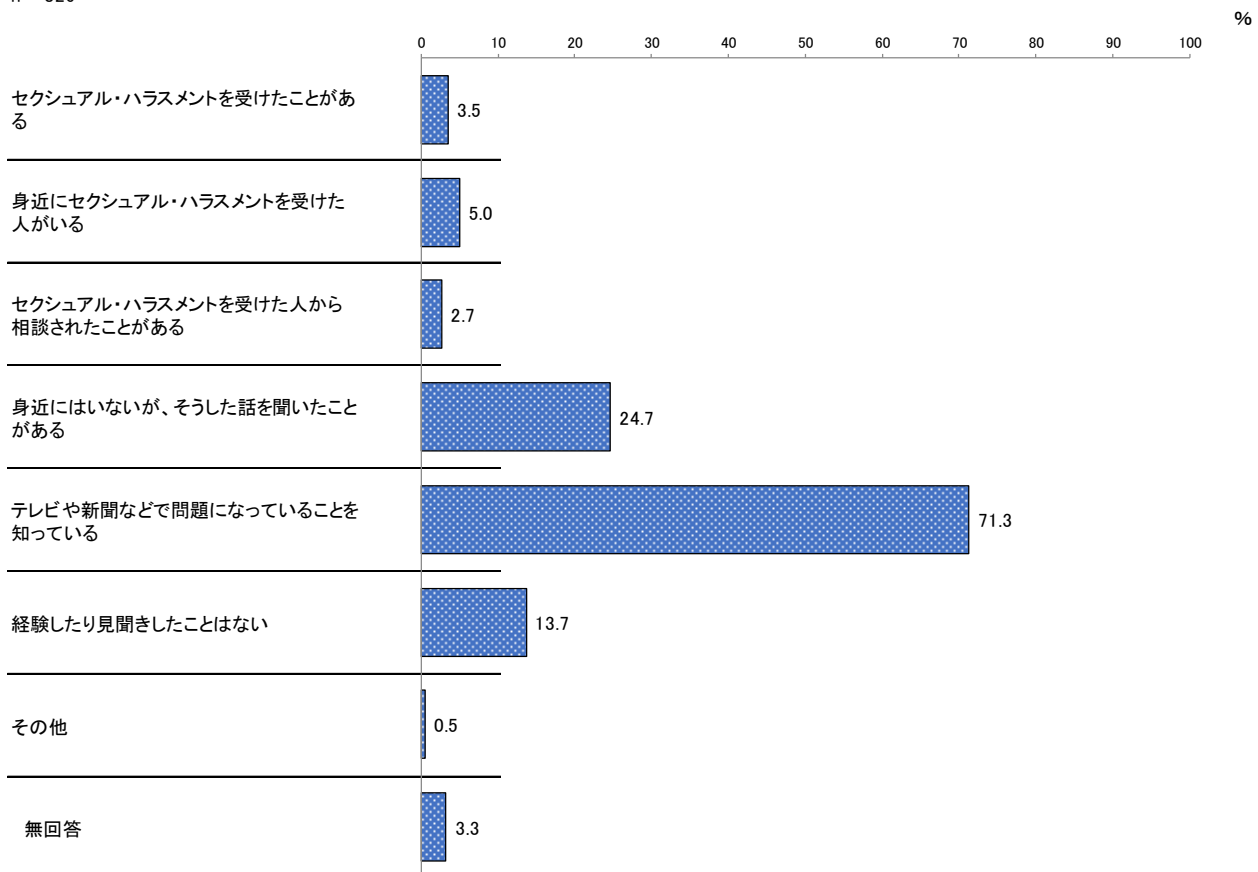
問8 過去1年間に、セクシュアル・ハラスメント（セクハラ・性的嫌がらせ）について経験したり、見聞きしたことがありますか。（あてはまるもの全てに○）

過去1年間に、セクシュアル・ハラスメントを経験した女性は5.5%、男性は1.1%。

過去1年間でセクシュアル・ハラスメントについてたずねたところ、「セクシュアル・ハラスメントを受けたことがある」は3.5%、「身近にセクシュアル・ハラスメントを受けた人がいる」は5.0%となっています。また、「テレビや新聞などで問題になっていることを知っている」は71.3%、次に「身近にはいないが、そうした話を聞いたことがある」は24.7%、「経験したり見聞きしたことはない」は13.7%となっています。

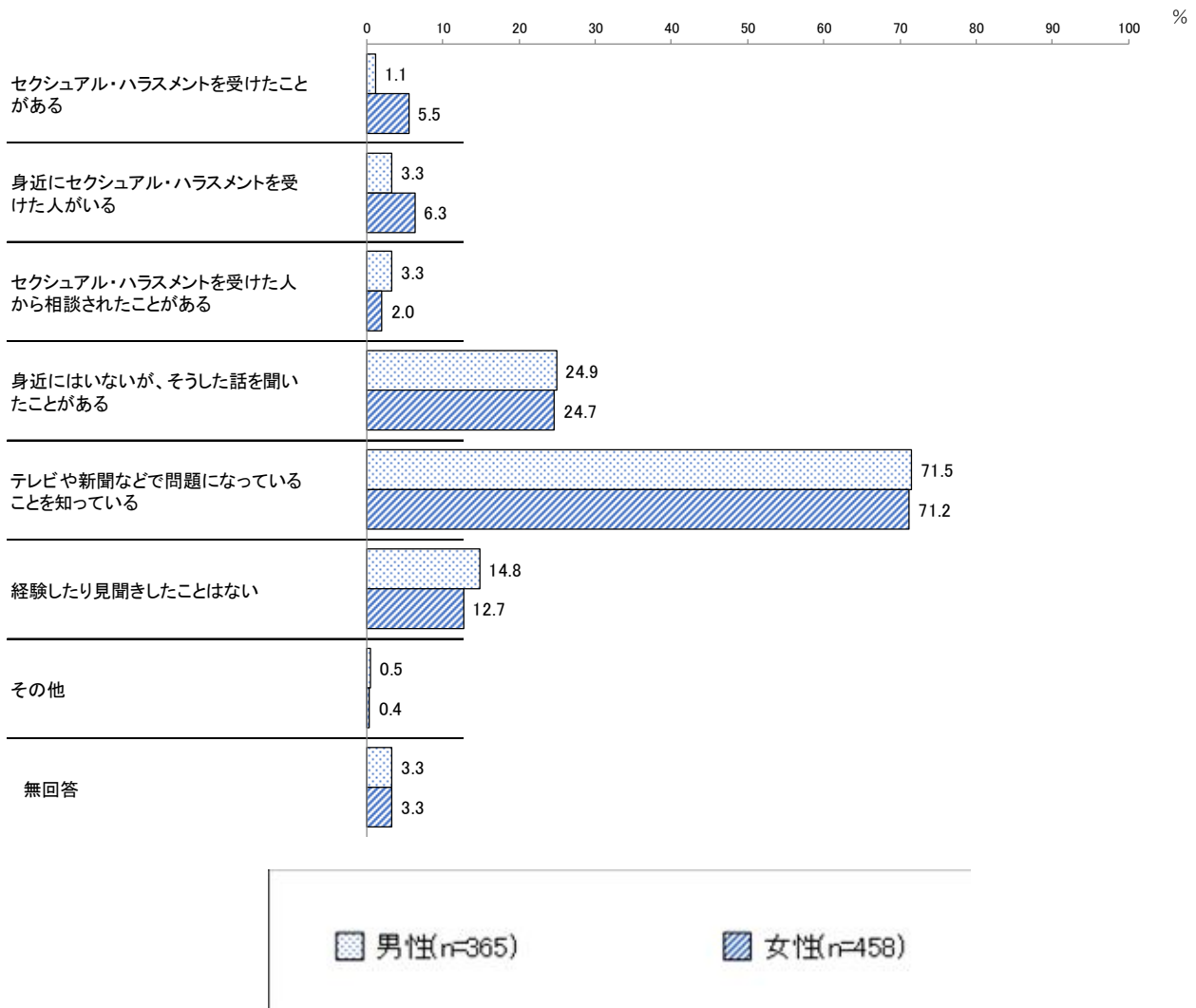
性別でみると、「セクシュアル・ハラスメントを受けたことがある」女性は5.5%、男性は1.1%となっています。

n = 826

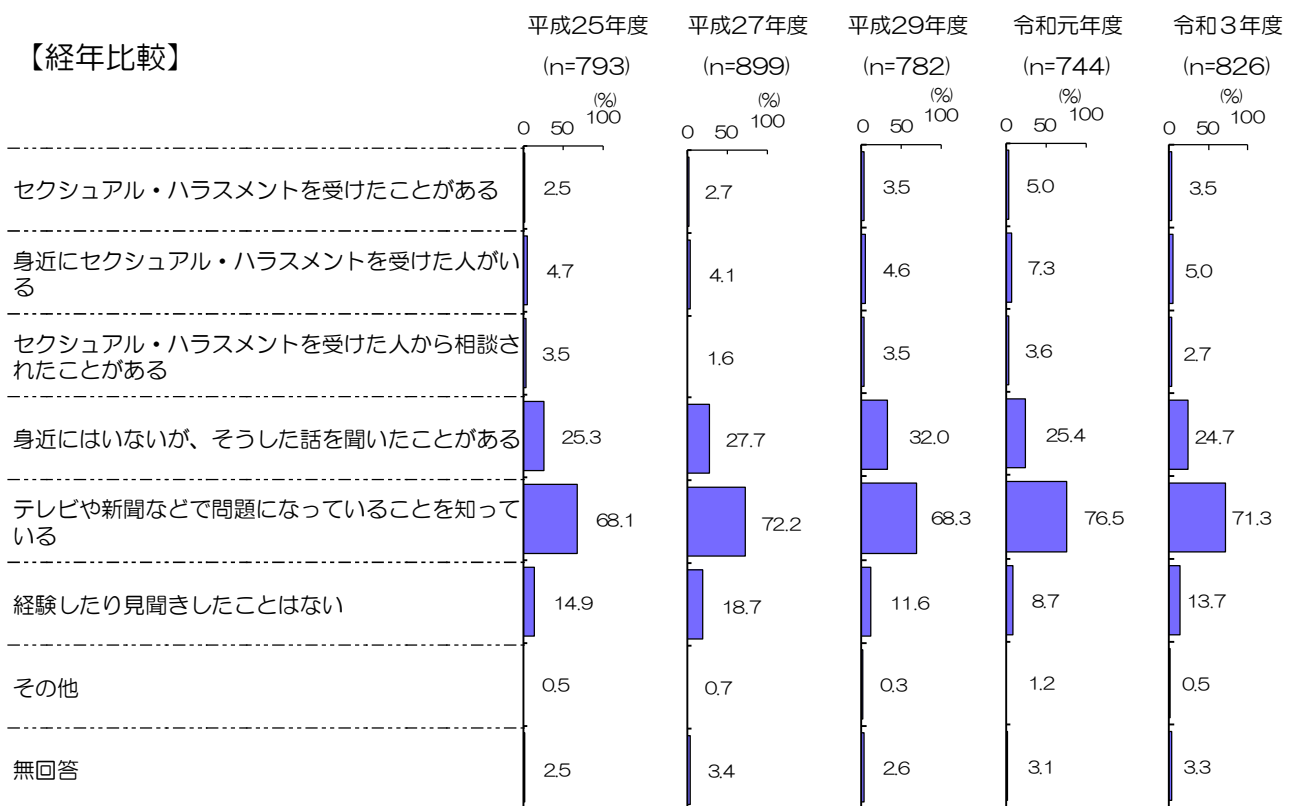
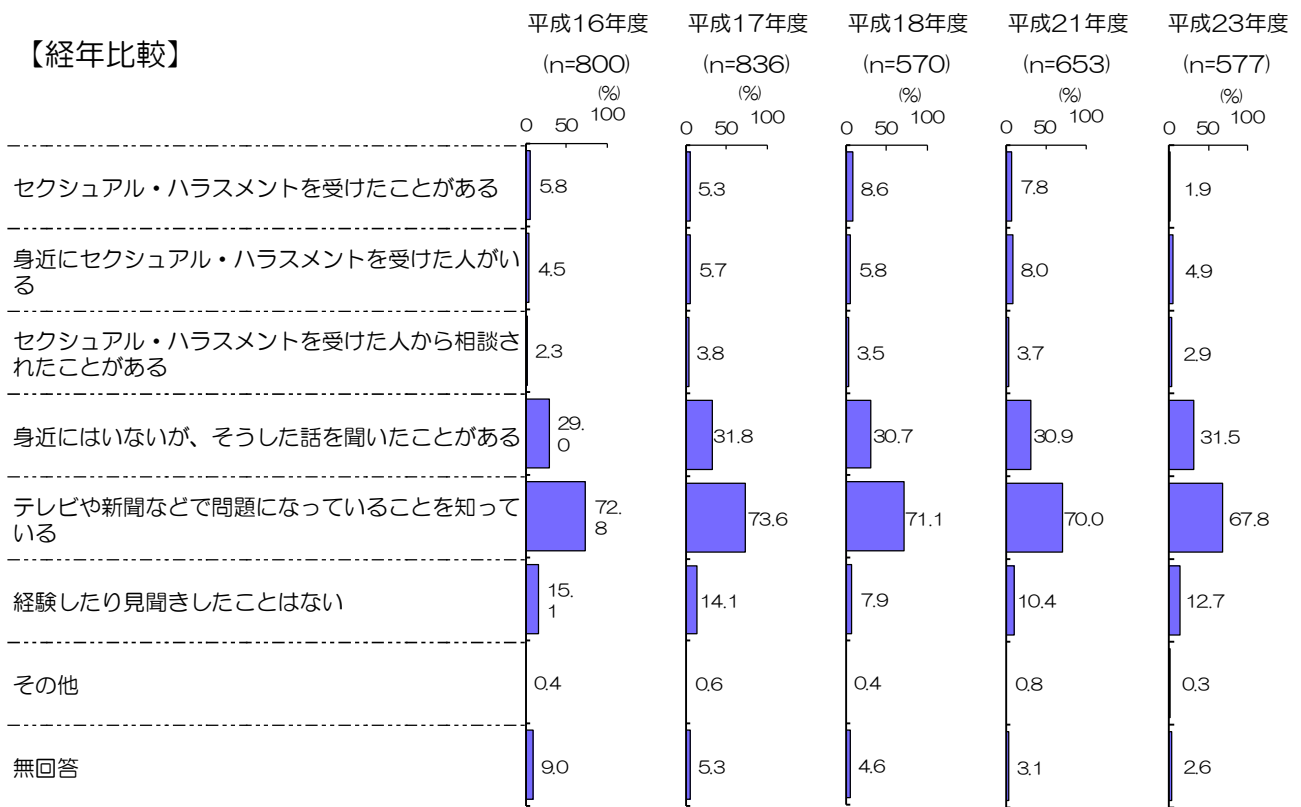


3 パートナー間の暴力やセクシュアル・ハラスメントについて

【性別】



3 パートナー間の暴力やセクシュアル・ハラスメントについて



6 マタニティ・ハラスメントの経験

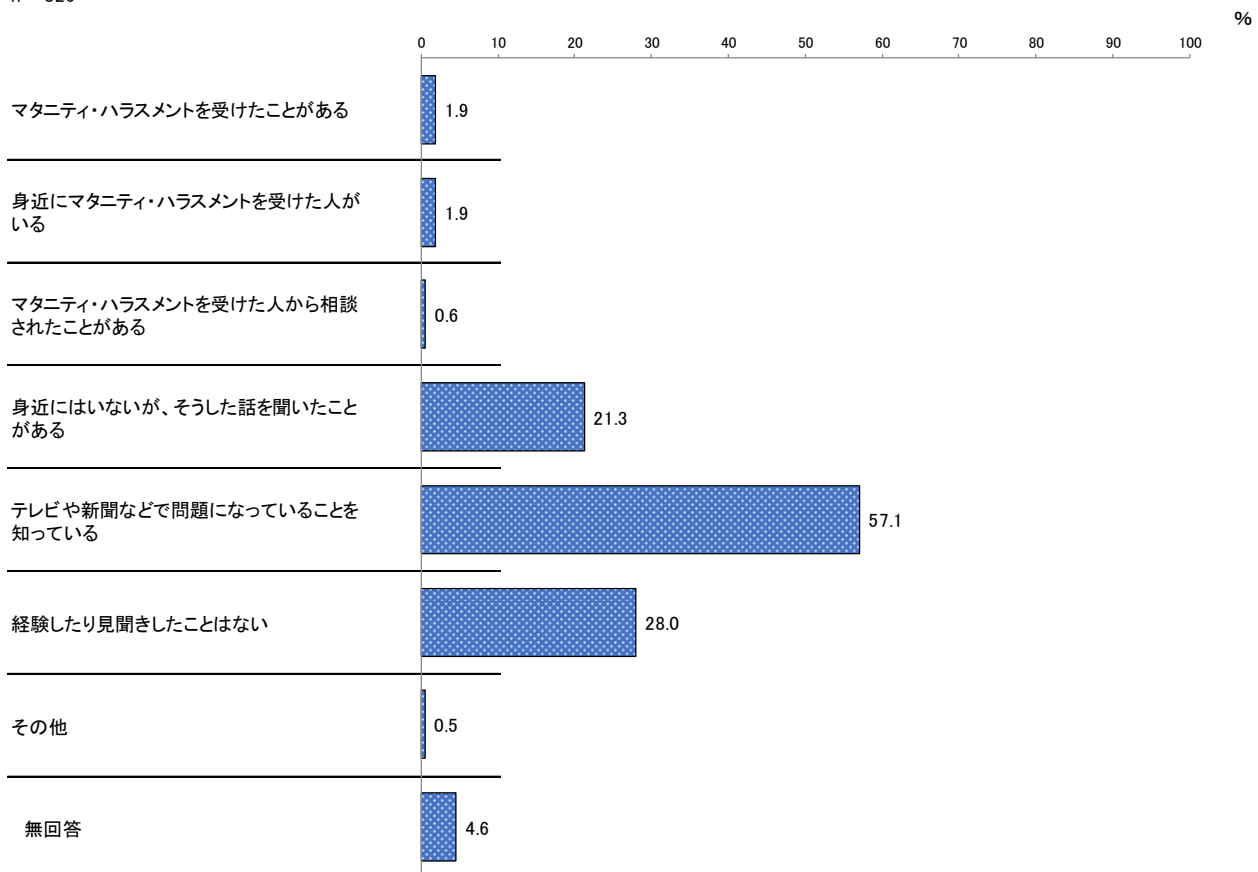
問9 過去1年間に、マタニティ・ハラスメント（妊娠・出産・育児等に関する嫌がらせ）について経験したり見聞きしたことがありますか。（あてはまるもの全てに○）

過去1年間に、マタニティ・ハラスメントを経験した女性は3.1%、男性は0.5%。

過去1年間でのマタニティ・ハラスメントについてたずねたところ、「マタニティ・ハラスメントを受けたことがある」は1.9%、「身近にマタニティ・ハラスメントを受けた人がいる」は1.9%となっています。また、「テレビや新聞などで問題になっていることを知っている」は57.1%、次に「経験したり見聞きしたことはない」は28.0%、「身近にはいないが、そうした話を聞いたことがある」は21.3%となっています。

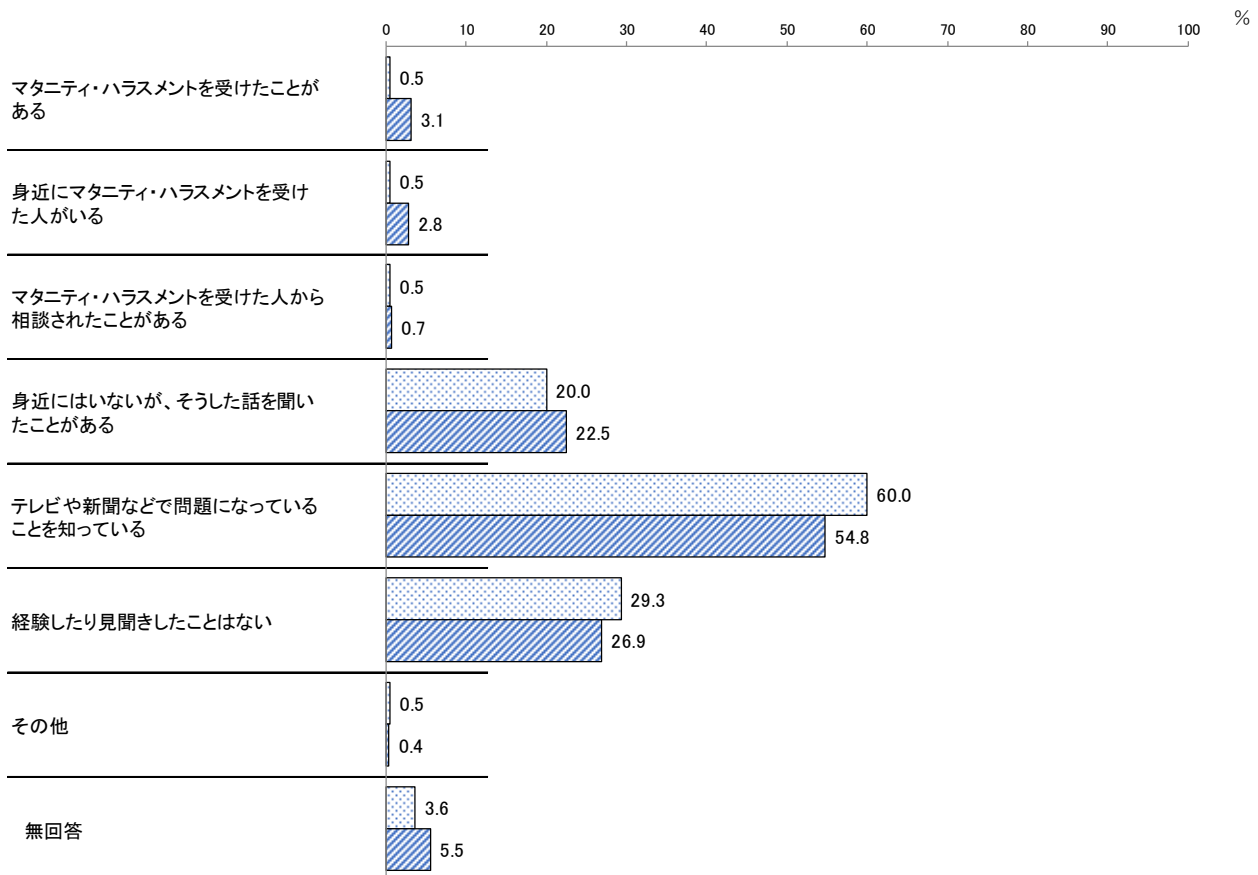
性別でみると、「マタニティ・ハラスメントを受けたことがある」女性は3.1%、男性は0.5%となっています。

n = 826



3 パートナー間の暴力やセクシュアル・ハラスメントについて

【性別】

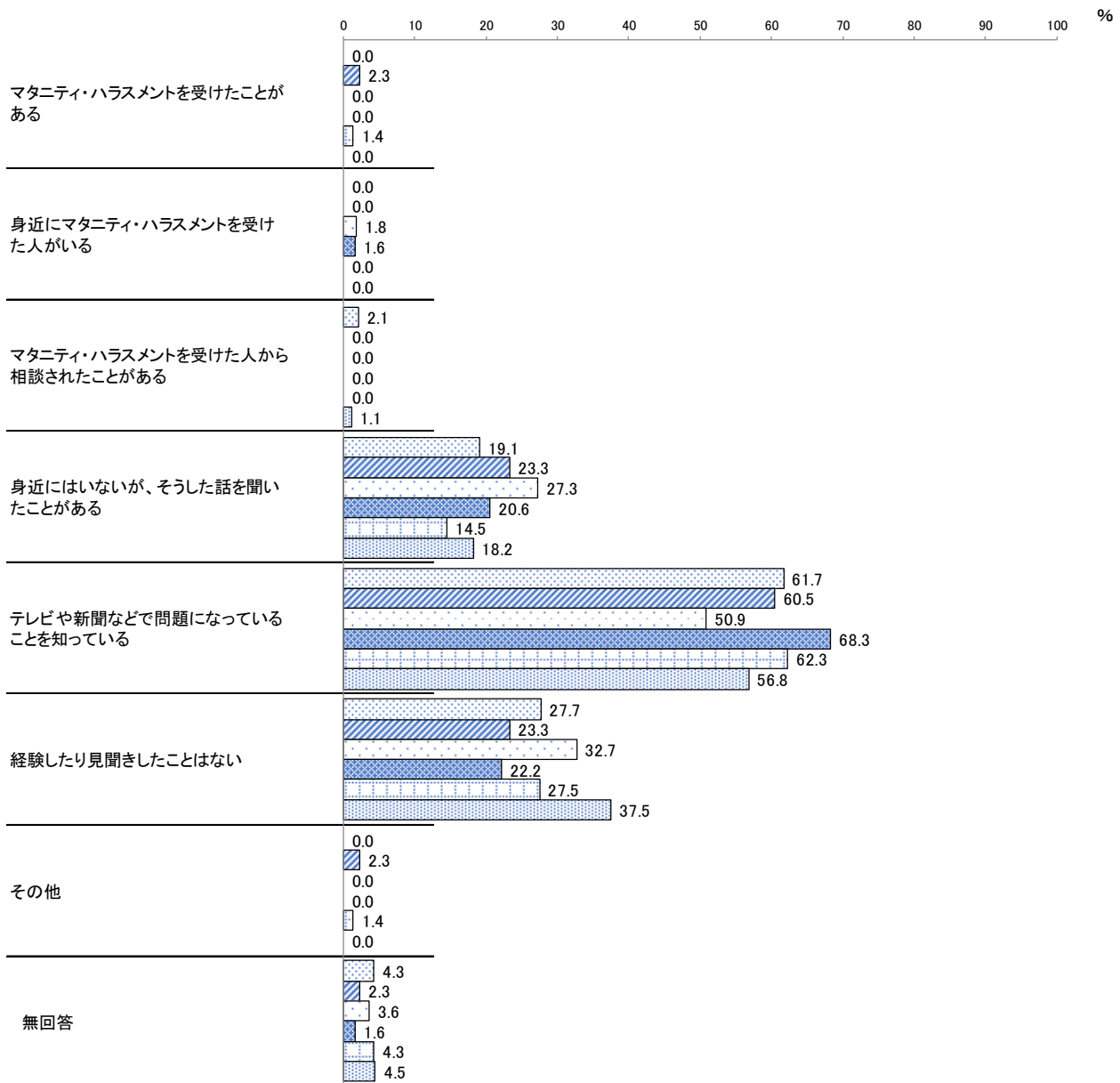


■ 男性(n=365)

■ 女性(n=458)

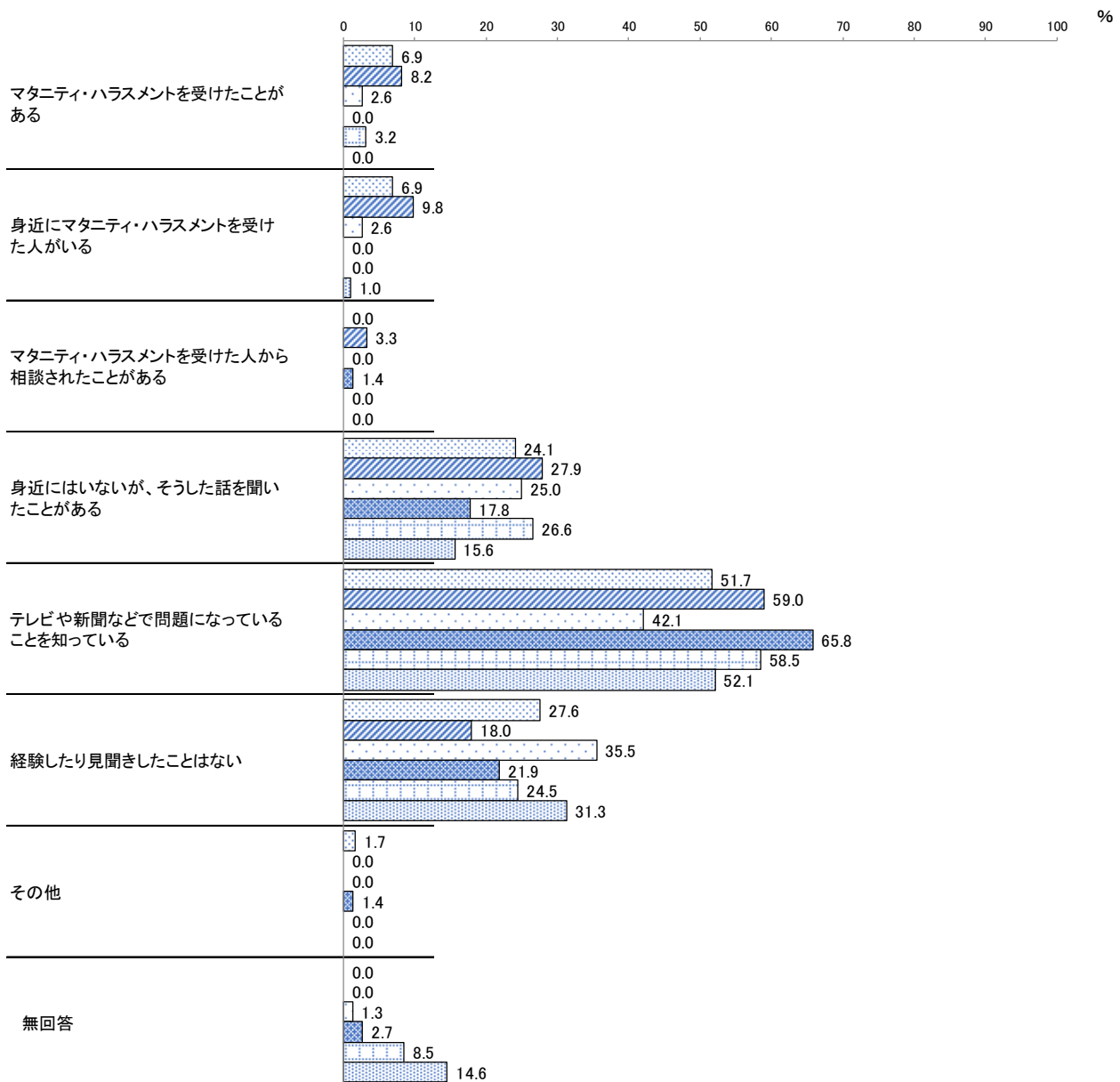
3 パートナー間の暴力やセクシュアル・ハラスメントについて

【性・年代別】



□ 男性・20代(n=47)	■ 男性・30代(n=43)	□ 男性・40代(n=55)
■ 男性・50代(n=63)	□ 男性・60代(n=69)	■ 男性・70歳以上(n=88)

3 パートナー間の暴力やセクシュアル・ハラスメントについて



□ 女性・20代(n=58)	■ 女性・30代(n=61)	□ 女性・40代(n=76)
■ 女性・50代(n=73)	□ 女性・60代(n=94)	■ 女性・70歳以上(n=96)

4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

1 家庭での役割分担

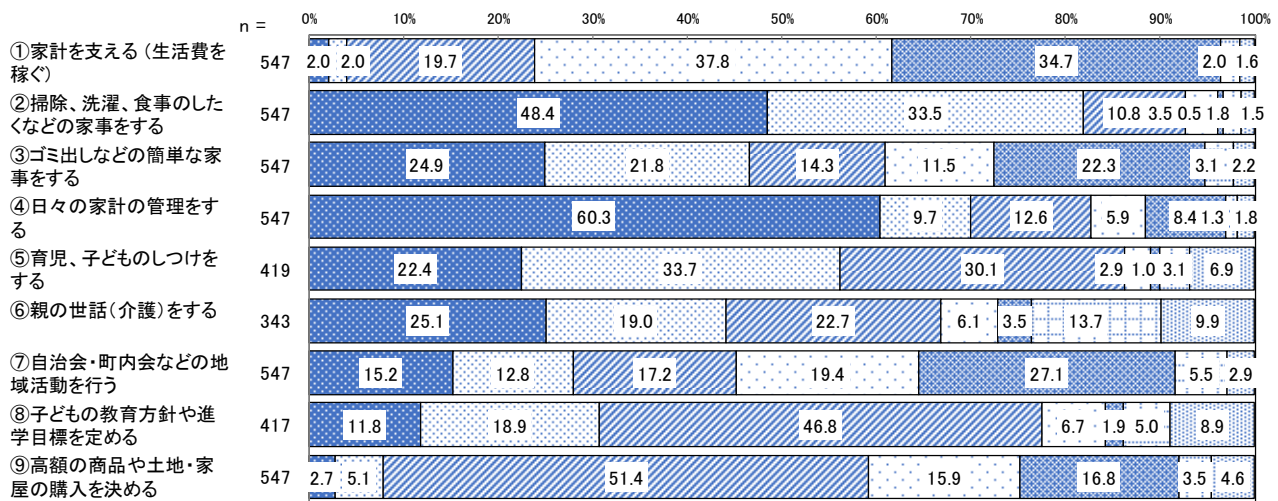
問10 現在、配偶者（事実婚・パートナーを含む）のいる方に伺います。あなたのご家庭では、次にあげる家庭での役割を、主にどなたが担っていますか。（それぞれ1つに○）

「夫は外で働き（家計を支える、地域活動を行う）、妻は家庭を守る（家事をする）べきである」という家庭内での性別役割分業の状況がいまだに現れています。

「主に妻」+「主に妻だが夫も分担」を合わせた『主に妻』の割合が高い項目は、【②掃除、洗濯、食事のしたくなどの家事をする】が81.9%、【④日々の家計の管理をする】が70.0%、【⑤育児、子どものしつけをする】が56.1%となっています。

「主に夫」+「主に夫だが妻も分担」を合わせた『主に夫』の割合が高い項目は、【①家計を支える（生活費を稼ぐ）】が72.5%、【⑦自治会・町内会などの地域活動を行う】が46.5%となっています。

「あなたと配偶者が同程度」（夫と妻が同程度）の割合が高い項目は、【⑨高額の商品や土地・家屋の購入を決める】が51.4%、【⑧子どもの教育方針や進学目標を決める】が46.8%となっています。



■ 主に妻 □ 主に妻だが夫も分担 ▨ 夫と妻が同程度 □ 主に夫だが妻も分担 ■ 主に夫 ▩ その他 ■ 無回答

※選択肢は「主にあなた」「主にあなただが配偶者も分担」「あなたと配偶者が同程度」「主に配偶者だがあなたも分担」「主に配偶者」だが、集計上、男性の場合は「あなた」を「夫」に、「配偶者」を「妻」に、女性の場合は「あなた」を「妻」に、「配偶者」を「夫」に変換しています。

※⑤⑥⑧については、他のグラフとの比較のため、集計上「同居の子どもや親がいない」を除外して集計しています。

4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

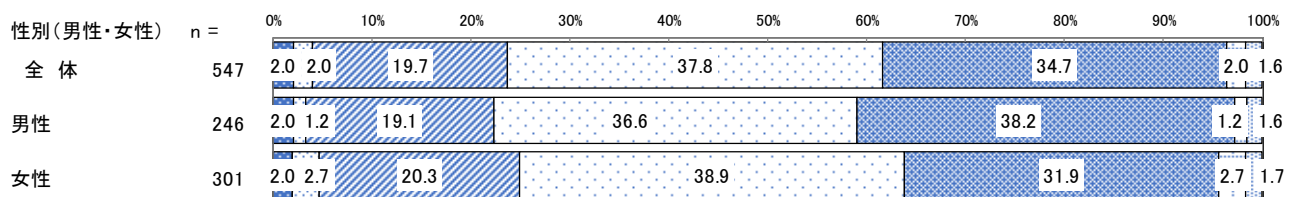
① 家計を支える(生活費を稼ぐ)

『主に夫』が7割となっています。

【①家計を支える(生活費を稼ぐ)】では、『主に夫』(72.5%、「主に夫」+「主に夫だが妻も分担」)が最も高くなっています。

性・年代別でみると、男性は『主にあなた』(「主にあなた」+「主にあなただが配偶者も分担」)、女性は『主に配偶者』(「主に配偶者」+「主に配偶者だがあなたも分担」)の割合がいずれの年代も高く、“主に夫”の分担となっており、特に、30代男性は『主にあなた』(86.9%、「主にあなた」+「主にあなただが配偶者も分担」)が高く、30代女性は『主に配偶者』(88.3%、「主に配偶者」+「主に配偶者だがあなたも分担」)が高くなっており、“主に夫”の割合が他の年代と比べて高くなっています。40代は、男性、女性ともに「あなたと配偶者が同程度」の割合が他の年代と比べて高くなっています。

経年比較でみると、『主に夫』が7割以上で推移しています。「夫と妻が同程度」は平成13年度以降で、令和3年度が最も高くなっています。

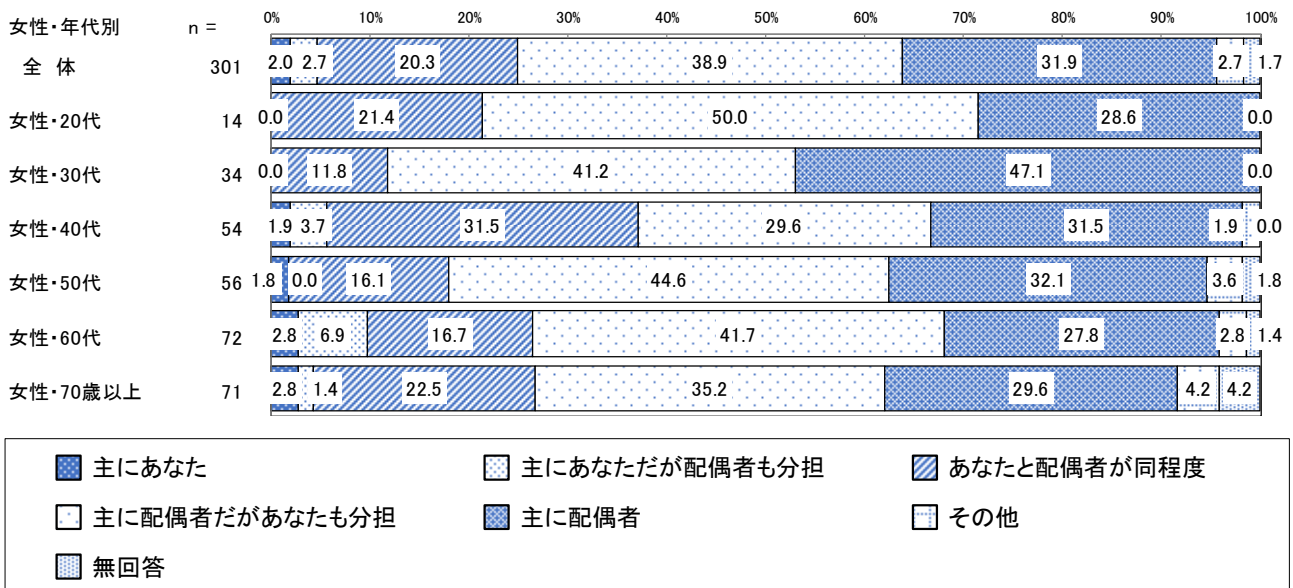
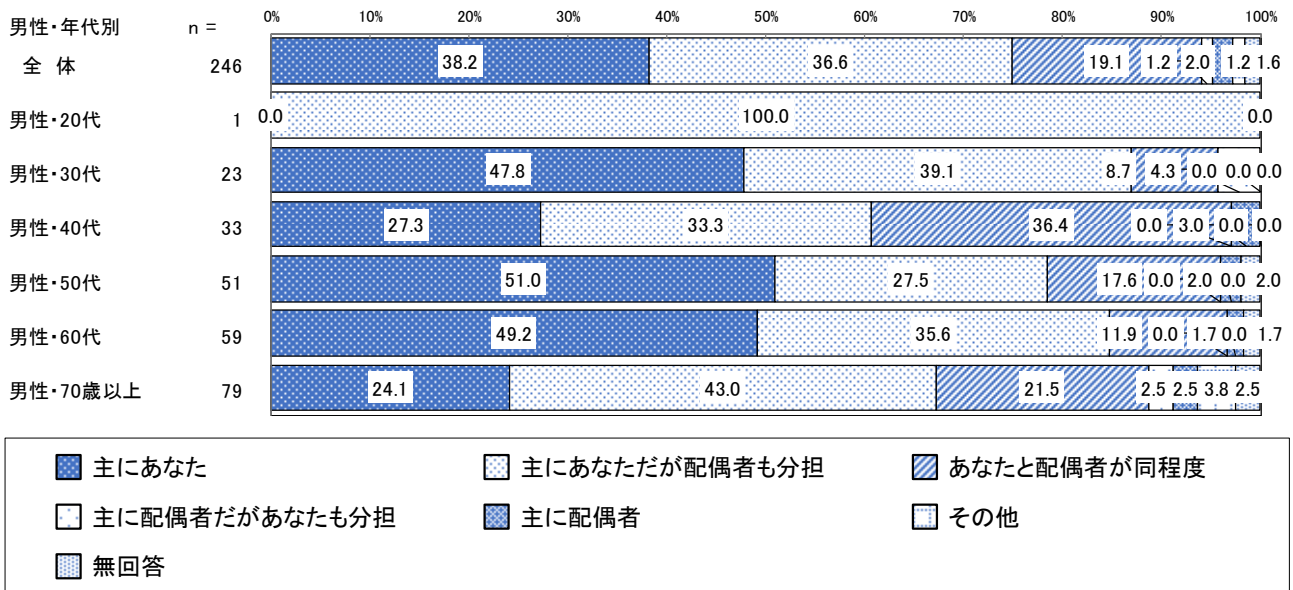


■ 主に妻 ■ 主に妻だが夫も分担 ■ 夫と妻が同程度 ■ 主に夫だが妻も分担 ■ 主に夫 ■ その他 ■ 無回答

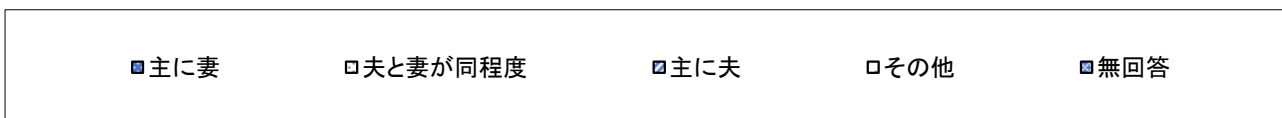
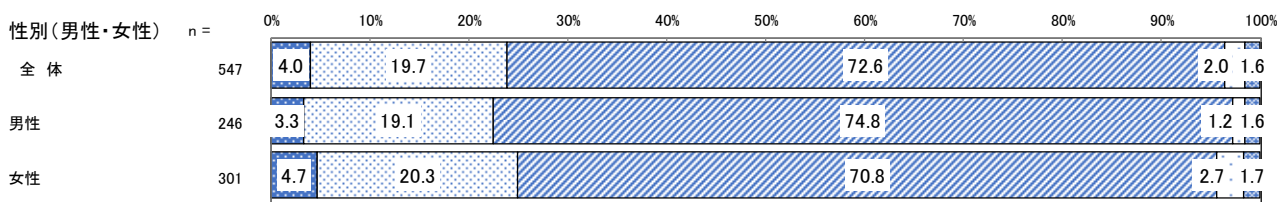
※選択肢は「主にあなた」「主にあなただが配偶者も分担」「あなたと配偶者が同程度」「主に配偶者だがあなたも分担」「主に配偶者」だが、集計上、男性の場合は「あなた」を「夫」に、「配偶者」を「妻」に、女性の場合は「あなた」を「妻」に、「配偶者」を「夫」に変換しています。

4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

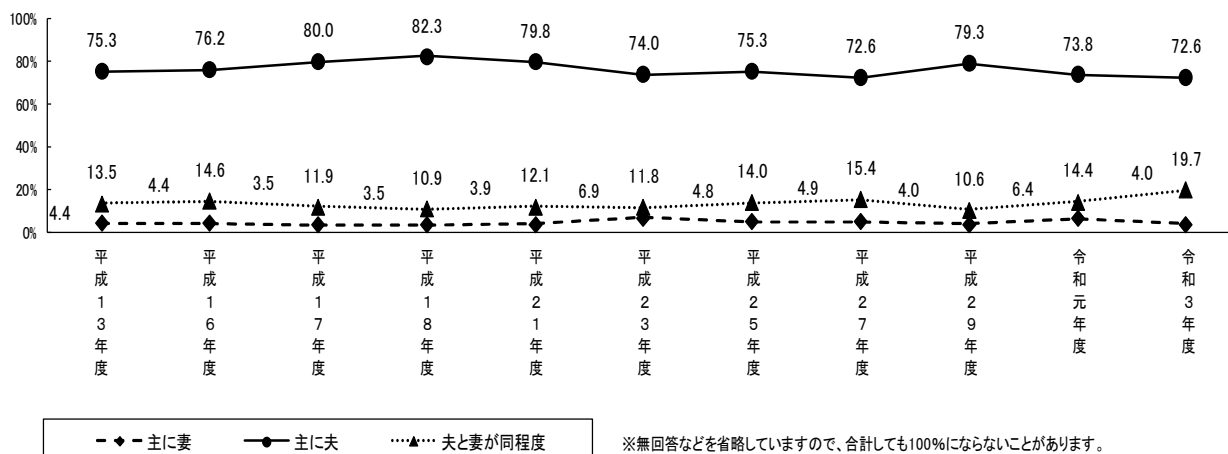
【性・年代別】



4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について



【経年比較】



※『主に妻』（「主に妻」＋「主に妻だが夫も分担」）、『主に夫』（「主に夫」＋「主に夫だが妻も分担」）

※令和3年度の選択肢は「主にあなた」「主にあなただが配偶者も分担」「あなたと配偶者が同程度」「主に配偶者だがあなたも分担」

「主に配偶者」だが、集計上、男性の場合は「あなた」を「夫」に、「配偶者」を「妻」に、女性の場合は「あなた」を「妻」に、「配偶者」を「夫」に変換しています。

	調査数	主に妻	主に妻だが夫も分担	夫と妻が同程度	主に夫だが妻も分担	主に夫	その他	無回答
平成13年度	916	3.4%	1.0%	13.5%	35.0%	40.3%	2.0%	4.8%
平成16年度	636	3.1%	1.3%	14.6%	30.8%	45.4%	1.3%	3.5%
平成17年度	637	1.9%	1.6%	11.9%	30.5%	49.5%	1.3%	3.5%
平成18年度	457	2.4%	1.1%	10.9%	31.5%	50.8%	0.9%	2.4%
平成21年度	536	1.5%	2.4%	12.1%	35.8%	44.0%	1.7%	2.4%
平成23年度	424	3.8%	3.1%	11.8%	32.3%	41.7%	2.8%	4.5%
平成25年度	571	2.5%	2.3%	14.0%	33.3%	42.0%	2.1%	3.9%
平成27年度	637	2.2%	2.7%	15.4%	33.8%	38.8%	1.9%	5.3%
平成29年度	547	2.9%	1.1%	10.6%	37.1%	42.2%	2.2%	3.8%
令和元年度	515	3.3%	3.1%	14.4%	34.6%	39.2%	2.1%	3.3%
令和3年度	547	2.0%	2.0%	19.7%	37.8%	34.7%	2.0%	1.6%

4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

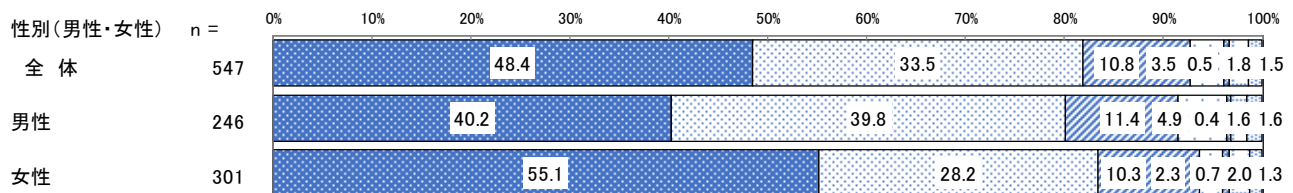
② 掃除、洗濯、食事のしたくなどの家事をする

『主に妻』が8割以上となっています。

【②掃除、洗濯、食事のしたくなどの家事をする】では、『主に妻』(81.9%、「主に妻」＋「主に妻だが夫も分担」)が最も高くなっています。

性・年代別でみると、いずれの年代も、男性は、『主に配偶者』(「主に妻」＋「主に配偶者だがあなたも分担」)が最も高く、女性は、『主にあなた』(「主にあなた」＋「主にあなただが配偶者も分担」)が高くなっており、「主に妻」の分担となっています。20代女性は、「あなたと配偶者が同程度」の割合が他の年代と比べて高くなっています。

経年比較でみると、「主に妻」が8割以上で推移していますが、やや減少傾向にあります。

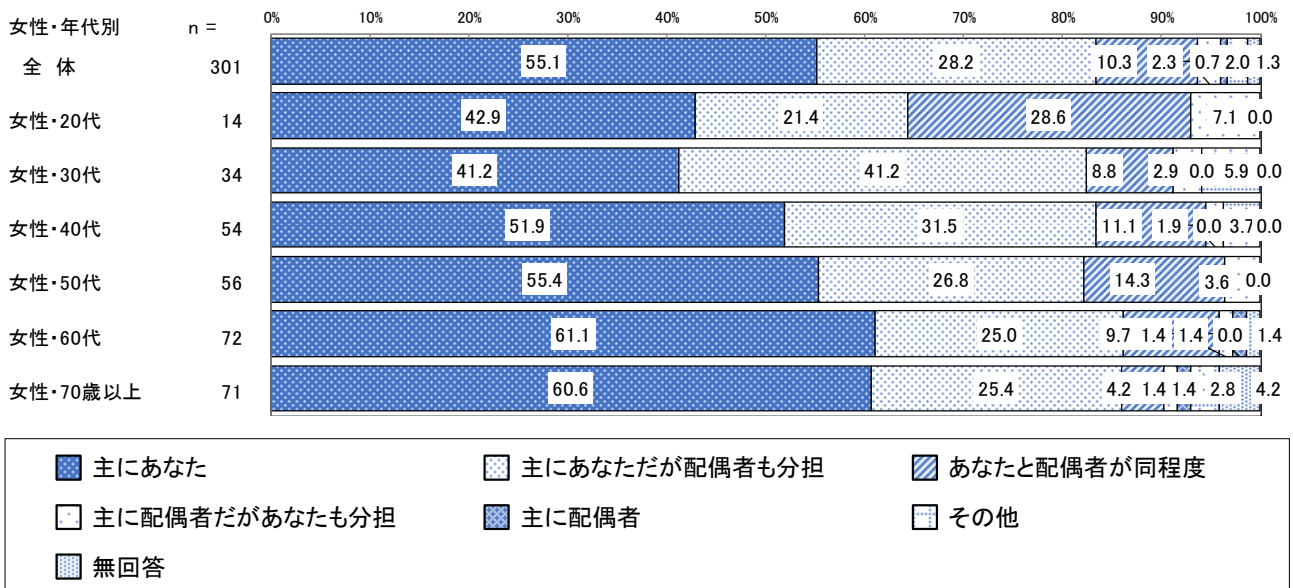
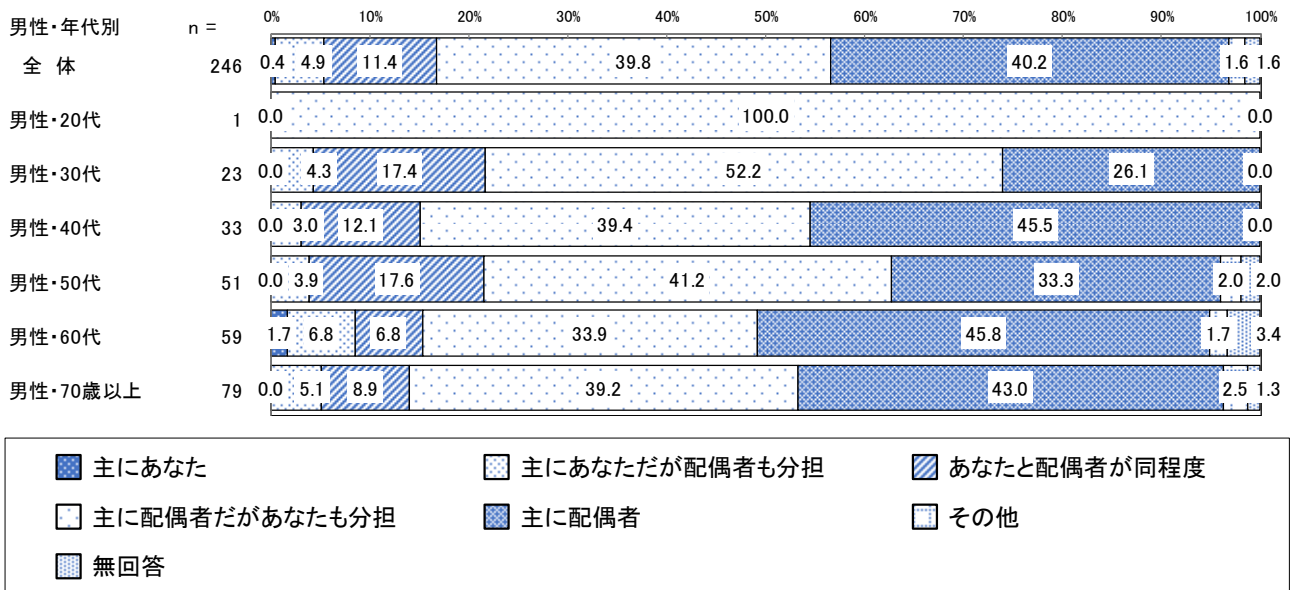


■ 主に妻 ■ 主に妻だが夫も分担 ■ 夫と妻が同程度 ■ 主に夫だが妻も分担 ■ 主に夫 ■ その他 ■ 無回答

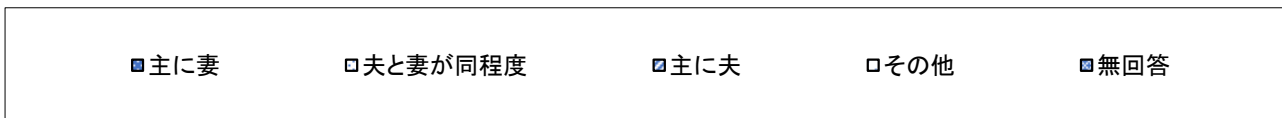
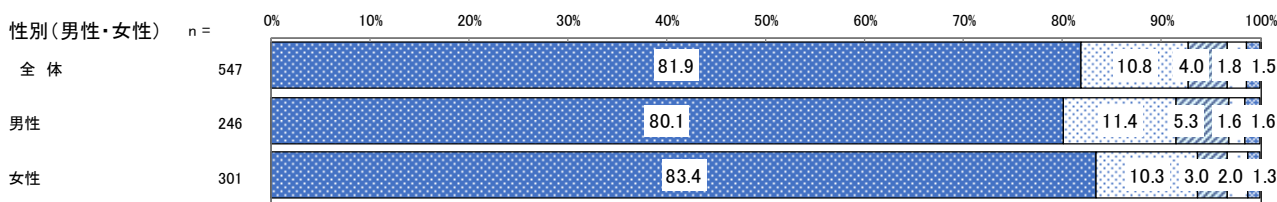
※選択肢は「主にあなた」「主にあなただが配偶者も分担」「あなたと配偶者が同程度」「主に配偶者だがあなたも分担」「主に配偶者」だが、集計上、男性の場合は「あなた」を「夫」に、「配偶者」を「妻」に、女性の場合は「あなた」を「妻」に、「配偶者」を「夫」に変換しています。

4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

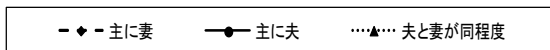
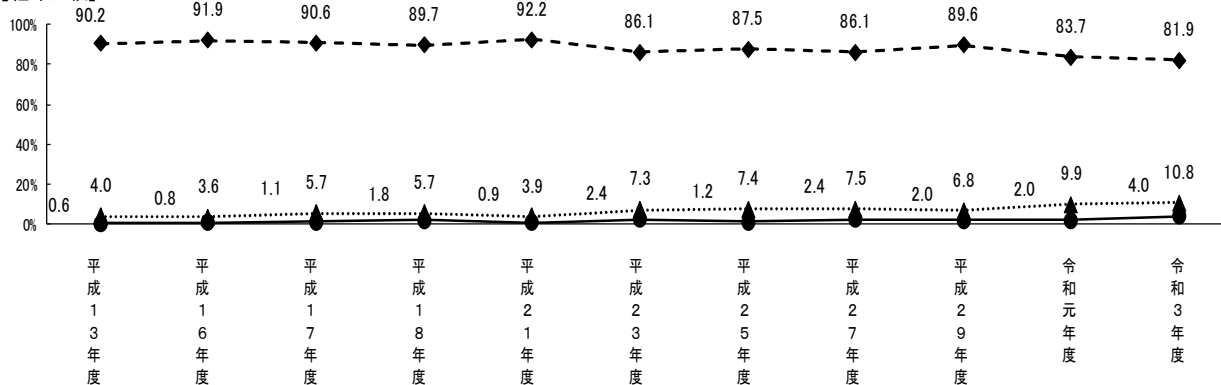
【性・年代別】



4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について



【経年比較】



※無回答などを省略していますので、合計しても100%にならないことがあります。

※『主に妻』（「主に妻」＋「主に妻だが夫も分担」）、『主に夫』（「主に夫」＋「主に夫だが妻も分担」）

※令和3年度の選択肢は「主にあなた」「主にあなただが配偶者も分担」「あなたと配偶者が同程度」「主に配偶者だがあなたも分担」

「主に配偶者」だが、集計上、男性の場合は「あなた」を「夫」に、「配偶者」を「妻」に、女性の場合は「あなた」を「妻」に、「配偶者」を「夫」に変換しています。

	調査数	主に妻	主に妻だが夫も分担	夫と妻が同程度	主に夫だが妻も分担	主に夫	その他	無回答
平成13年度	916	68.9%	21.3%	4.0%	0.3%	0.3%	1.4%	3.7%
平成16年度	636	68.6%	23.3%	3.6%	0.2%	0.6%	1.1%	2.7%
平成17年度	637	67.8%	22.8%	5.7%	0.8%	0.3%	0.9%	1.7%
平成18年度	457	64.3%	25.4%	5.7%	1.1%	0.7%	0.7%	2.2%
平成21年度	536	60.1%	32.1%	3.9%	0.7%	0.2%	0.9%	2.1%
平成23年度	424	62.0%	24.1%	7.3%	0.5%	1.9%	0.5%	3.8%
平成25年度	571	58.3%	29.2%	7.4%	1.2%	0.0%	0.9%	3.0%
平成27年度	637	56.4%	29.7%	7.5%	1.3%	1.1%	1.1%	3.0%
平成29年度	547	56.1%	33.5%	6.8%	1.5%	0.5%	0.4%	1.3%
令和元年度	515	50.1%	33.6%	9.9%	1.0%	1.0%	1.7%	2.7%
令和3年度	547	48.4%	33.5%	10.8%	3.5%	0.5%	1.8%	1.5%

4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

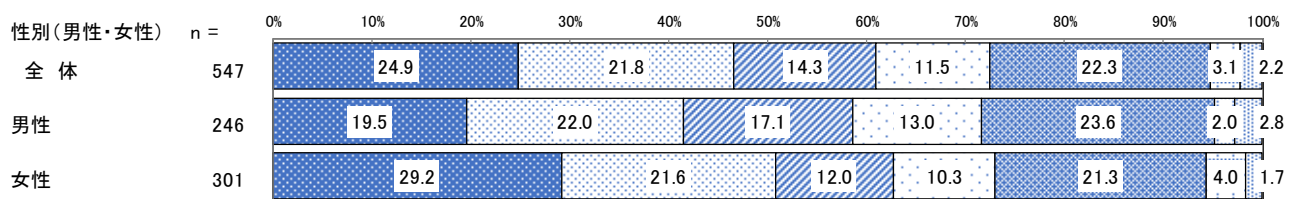
③ ゴミ出しなどの簡単な家事をする

『主に妻』が5割弱となっています。

【③ゴミ出しなどの簡単な家事をする】では、『主に妻』（46.7%、「主に妻」＋「主に妻だが夫も分担」）が最も高く、次に『主に夫』（33.8%、「主に夫」＋「主に夫だが妻も分担」）、「夫と妻が同程度」（14.3%）となっています。

性・年代別でみると、30代男性は、「あなたと配偶者が同程度」、40代男性は、『主に配偶者』（「主に配偶者」＋「主に配偶者だがあなたも分担」）の割合が他の年代と比べて高くなっています。60代の男性は、『主にあなた』（「主にあなた」＋「主にあなただけが配偶者も分担」）が42.3%であるのに対し、同年代の女性は、『主に配偶者』（「主に配偶者」＋「主に配偶者だがあなたも分担」）が20.8%と20ポイント以上の差があり、男女間での認識の差がみられます。

経年比較でみると、『主に夫』（「主に夫」＋「主に夫だが妻も分担」）が緩やかに増加し、『主に妻』（「主に妻」＋「主に妻だが夫も分担」）が緩やかに減少しています。

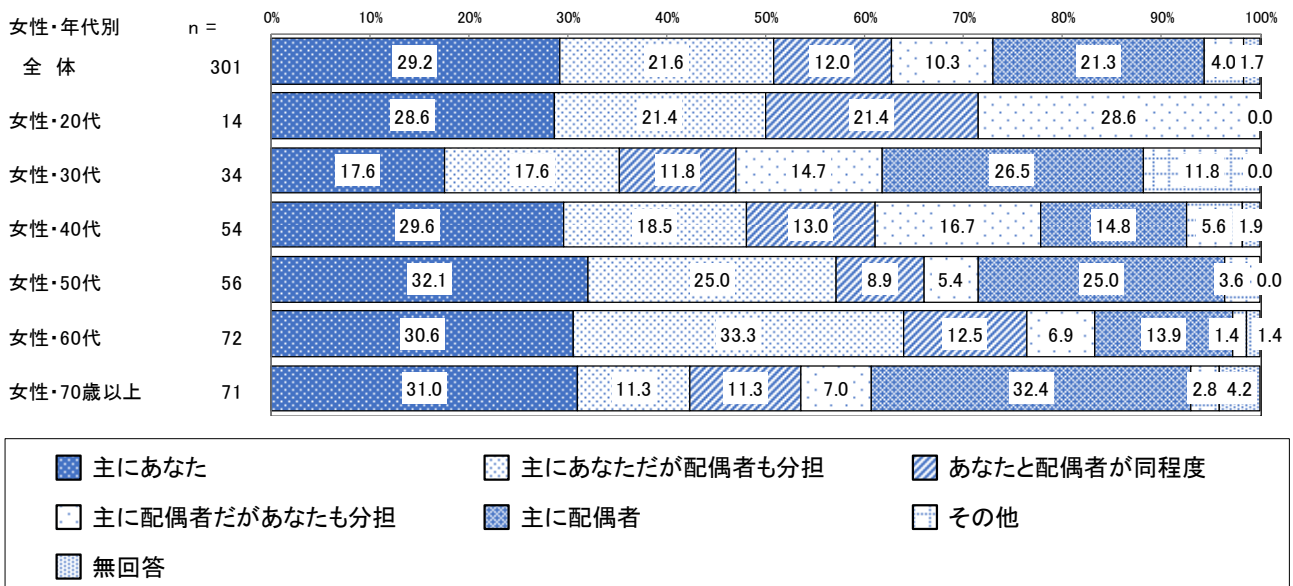
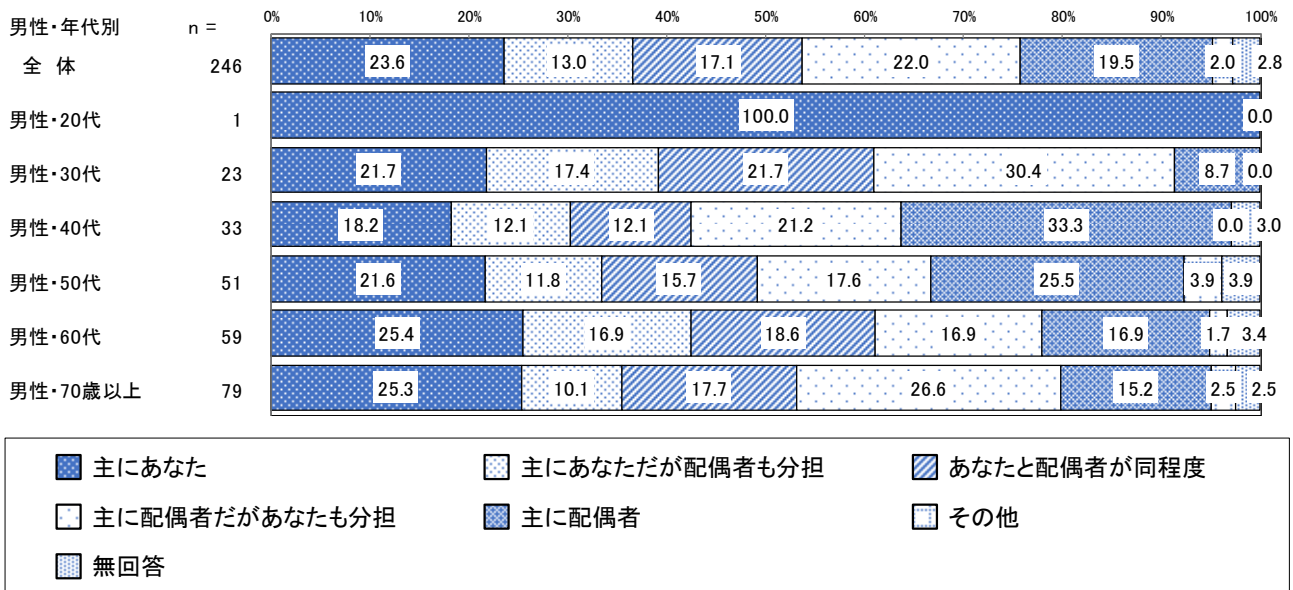


■ 主に妻 ■ 主に妻だが夫も分担 ■ 夫と妻が同程度 ■ 主に夫だが妻も分担 ■ 主に夫 ■ その他 ■ 無回答

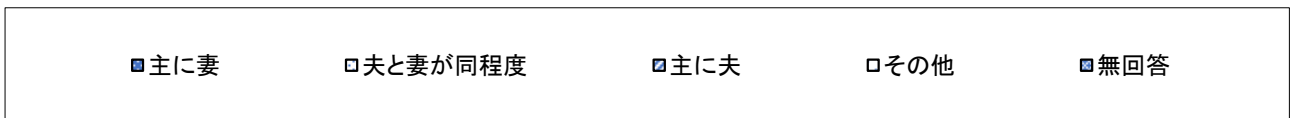
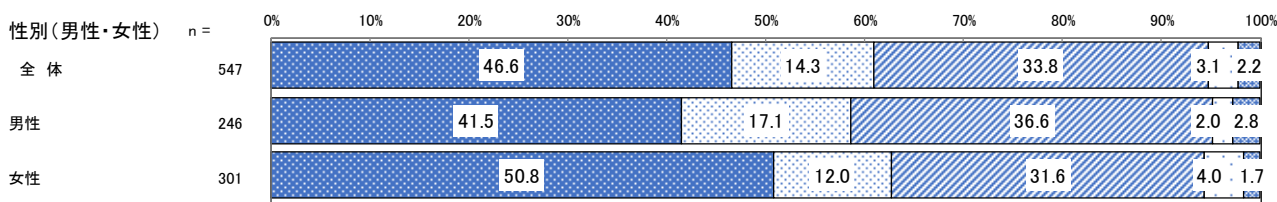
※選択肢は「主にあなた」「主にあなただけが配偶者も分担」「あなたと配偶者が同程度」「主に配偶者だがあなたも分担」「主に配偶者」だが、集計上、男性の場合は「あなた」を「夫」に、「配偶者」を「妻」に、女性の場合は「あなた」を「妻」に、「配偶者」を「夫」に変換しています。

4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

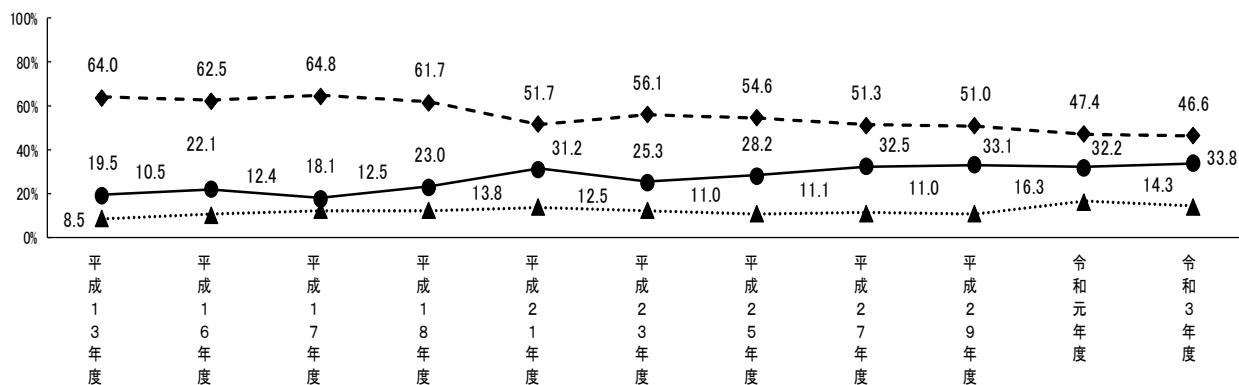
【性・年代別】



4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について



【経年比較】



◆- - 主に妻 ●- 主に夫 ▲..... 夫と妻が同程度 ※無回答などを省略していますので、合計しても100%にならないことがあります。

※『主に妻』（「主に妻」＋「主に妻だが夫も分担」）、『主に夫』（「主に夫」＋「主に夫だが妻も分担」）

※令和3年度の選択肢は「主にあなた」「主にあなただが配偶者も分担」「あなたと配偶者が同程度」「主に配偶者だがあなたも分担」

「主に配偶者」だが、集計上、男性の場合は「あなた」を「夫」に、「配偶者」を「妻」に、女性の場合は「あなた」を「妻」に、「配偶者」を「夫」に変換しています。

	調査数	主に妻	主に妻だが夫も分担	夫と妻が同程度	主に夫だが妻も分担	主に夫	その他	無回答
平成13年度	916	41.2%	22.8%	8.5%	7.3%	12.2%	3.8%	4.1%
平成16年度	636	38.1%	24.4%	10.5%	7.5%	14.6%	1.4%	3.5%
平成17年度	637	39.1%	25.7%	12.4%	5.5%	12.6%	2.7%	2.0%
平成18年度	457	36.8%	24.9%	12.5%	7.7%	15.3%	0.9%	2.0%
平成21年度	536	33.0%	18.7%	13.8%	11.2%	20.0%	2.1%	1.3%
平成23年度	424	36.8%	19.3%	12.5%	8.3%	17.0%	1.7%	4.5%
平成25年度	571	32.0%	22.6%	11.0%	9.3%	18.9%	2.3%	3.9%
平成27年度	637	28.9%	22.4%	11.1%	8.0%	24.5%	2.4%	2.7%
平成29年度	547	29.1%	21.9%	11.0%	9.5%	23.6%	2.7%	2.2%
令和元年度	515	24.9%	22.5%	16.3%	9.5%	22.7%	2.3%	1.7%
令和3年度	547	24.9%	21.8%	14.3%	11.5%	22.3%	3.1%	2.2%

4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

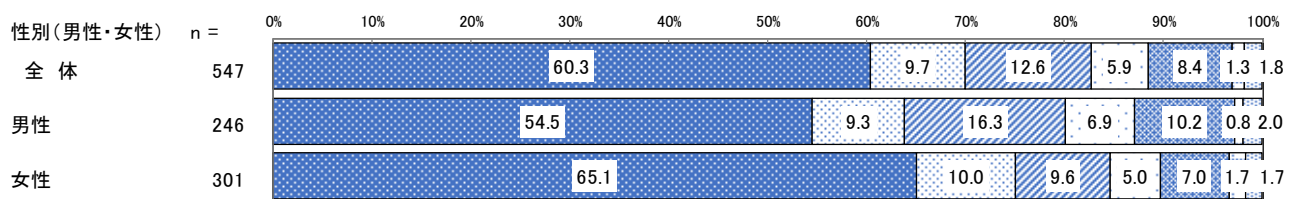
④ 日々の家計の管理をする

『主に妻』が7割となっています。

【④日々の家計の管理をする】では、『主に妻』（70.0%、「主に妻」＋「主に妻だが夫も分担」）が最も高くなっています。

性・年代別でみると、男性は「主に配偶者」、女性は「主にあなた」がいずれの年代も5割を超えており、「主に妻」の分担となっています。20代女性は、「夫と妻が同程度」の割合が他の年代と比べて割合が高くなっています。40代の男性は、『主にあなた』（「主にあなた」＋「主にあなただけが配偶者も分担」）が24.3%であるのに対し、同年代の女性は、『主に配偶者』（「主に配偶者」＋「主に配偶者だがあなたも分担」）が3.8%と20ポイント以上の差があり、男女間での認識の差がみられます。

経年比較でみると、『主に夫』（「主に夫」＋「主に夫だが妻も分担」）が緩やかに増加し、『主に妻』（「主に妻」＋「主に妻だが夫も分担」）が緩やかに減少しています。

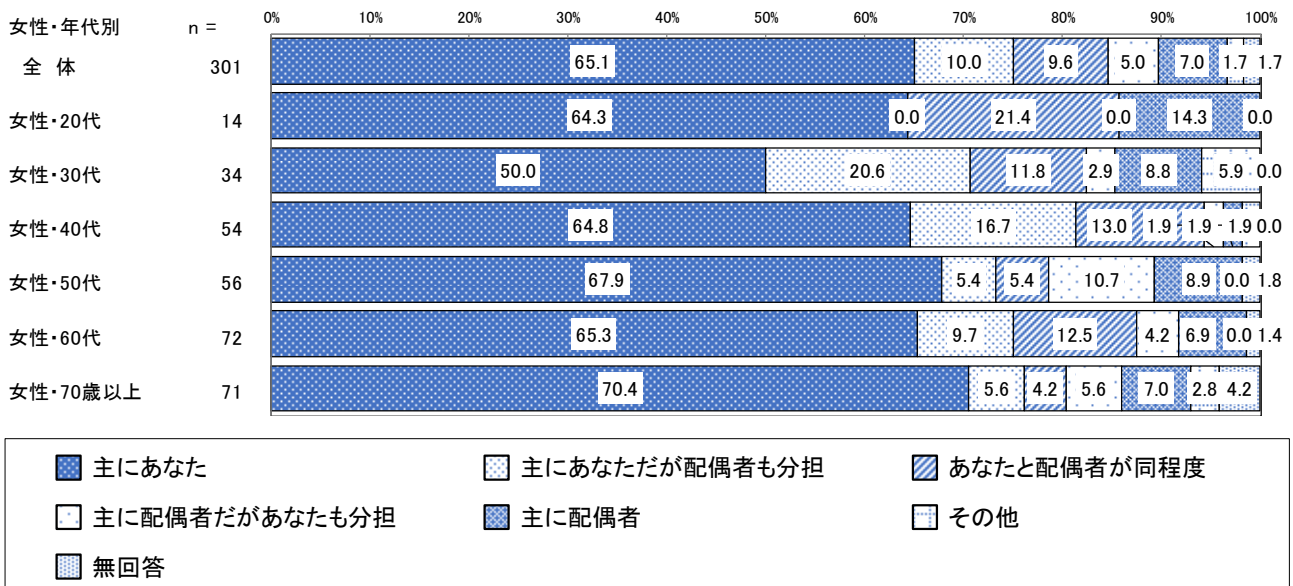
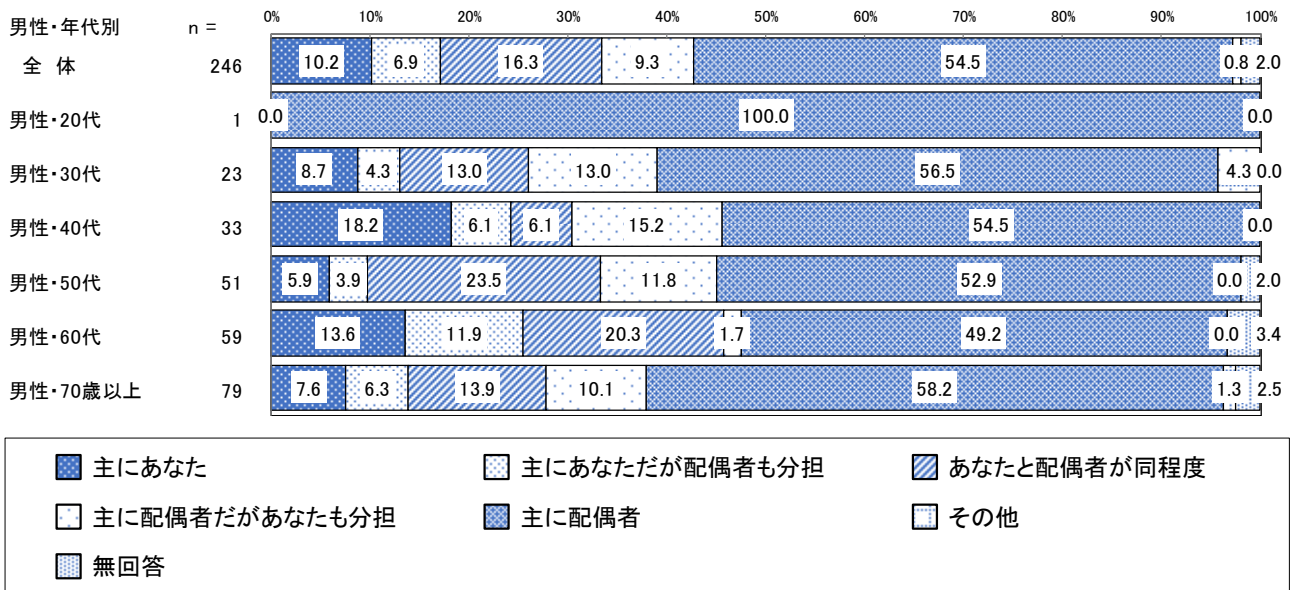


■ 主に妻 ■ 主に妻だが夫も分担 ■ 夫と妻が同程度 ■ 主に夫だが妻も分担 ■ 主に夫 ■ その他 ■ 無回答

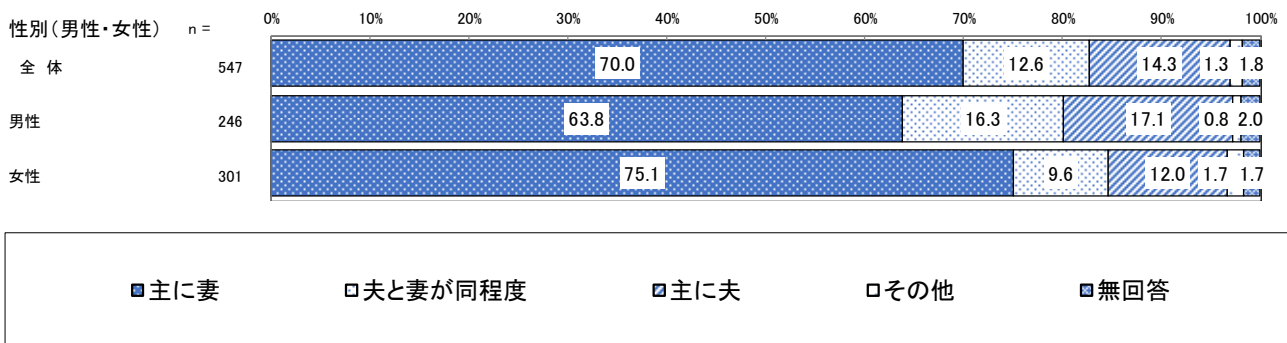
※選択肢は「主にあなた」「主にあなただけが配偶者も分担」「あなたと配偶者が同程度」「主に配偶者だがあなたも分担」「主に配偶者」だが、集計上、男性の場合は「あなた」を「夫」に、「配偶者」を「妻」に、女性の場合は「あなた」を「妻」に、「配偶者」を「夫」に変換しています。

4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

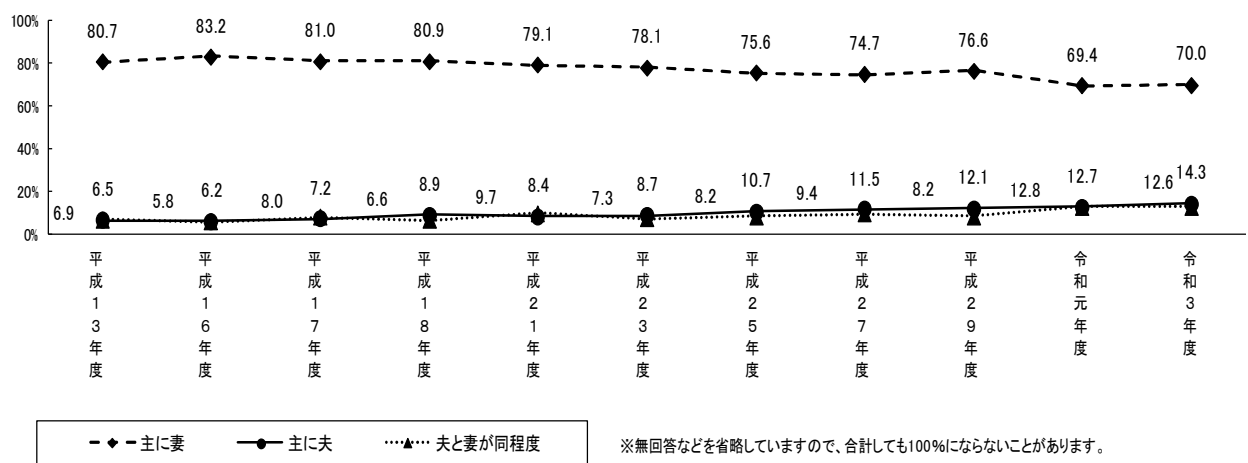
【性・年代別】



4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について



【経年比較】



※『主に妻』（「主に妻」＋「主に妻だが夫も分担」）、『主に夫』（「主に夫」＋「主に夫だが妻も分担」）

※令和3年度の選択肢は「主にあなた」「主にあなただが配偶者も分担」「あなたと配偶者が同程度」「主に配偶者だがあなたも分担」

「主に配偶者」だが、集計上、男性の場合は「あなた」を「夫」に、「配偶者」を「妻」に、女性の場合は「あなた」を「妻」に、「配偶者」を「夫」に変換しています。

	調査数	主に妻	主に妻だが夫も分担	夫と妻が同程度	主に夫だが妻も分担	主に夫	その他	無回答
平成13年度	916	71.1%	9.6%	6.9%	3.8%	2.7%	1.4%	4.5%
平成16年度	636	70.6%	12.6%	5.8%	3.5%	2.7%	1.3%	3.6%
平成17年度	637	70.0%	11.0%	8.0%	3.0%	4.2%	1.1%	2.7%
平成18年度	457	66.7%	14.2%	6.6%	3.9%	5.0%	0.7%	2.8%
平成21年度	536	65.7%	13.4%	9.7%	4.9%	3.5%	1.3%	1.5%
平成23年度	424	68.4%	9.7%	7.3%	3.3%	5.4%	1.4%	4.5%
平成25年度	571	65.8%	9.8%	8.2%	5.1%	5.6%	1.1%	4.4%
平成27年度	637	63.9%	10.8%	9.4%	4.4%	7.1%	1.1%	3.3%
平成29年度	547	63.6%	13.0%	8.2%	4.8%	7.3%	2.0%	1.1%
令和元年度	515	57.9%	11.5%	12.8%	4.9%	7.8%	2.7%	2.5%
令和3年度	547	60.3%	9.7%	12.6%	5.9%	8.4%	1.3%	1.8%

4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

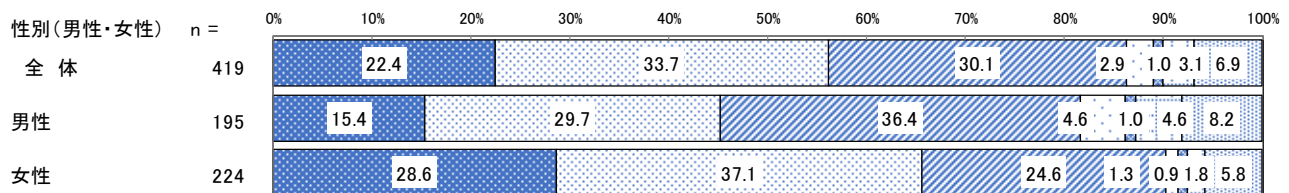
⑤ 育児、子どものしつけをする

『主に妻』が5割以上となっています。

【⑤育児、子どものしつけをする】では、『主に妻』(56.1%、「主に妻」+「主に妻だが夫も分担」)が最も高く、次に、「夫と妻が同程度」(30.1%)となっています。

性・年代別でみると、20代、30代の男性は、『主に配偶者』(「主に配偶者」+「主に配偶者だがあなたも分担」)が、同年代の女性は、『主にあなた』(「主にあなた」+「主にあなただが配偶者も分担」)の割合が他の年代と比べて高くなっています。50代男性は、「あなたと配偶者が同程度」の割合が高くなっています

経年比較でみると、『主に妻』の割合は減少傾向にあります。



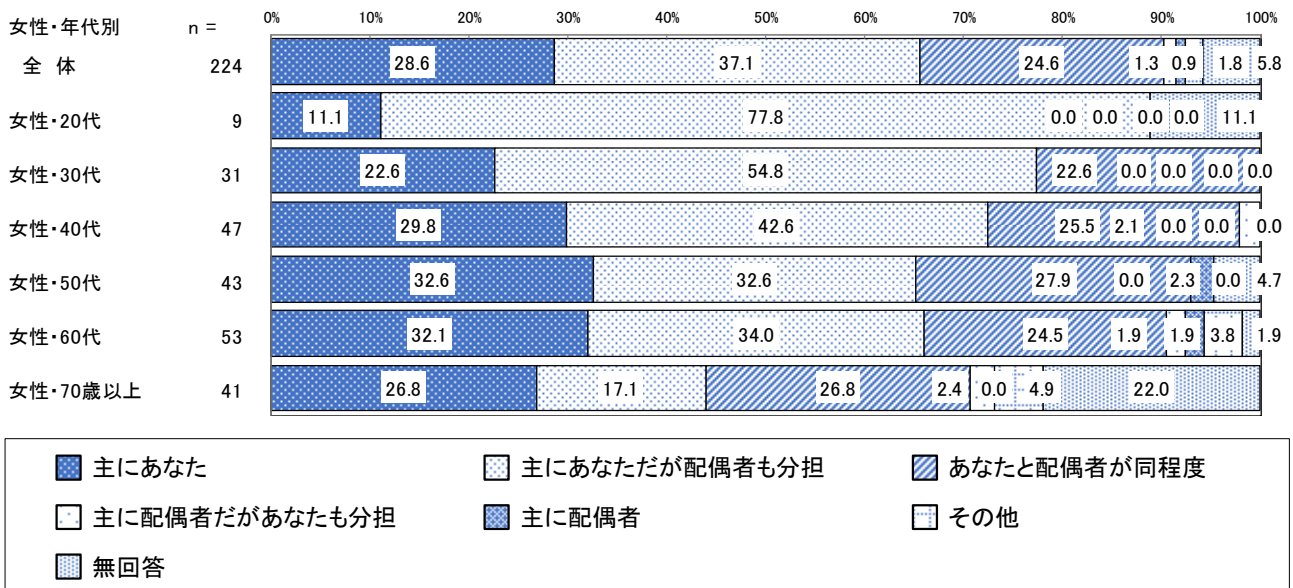
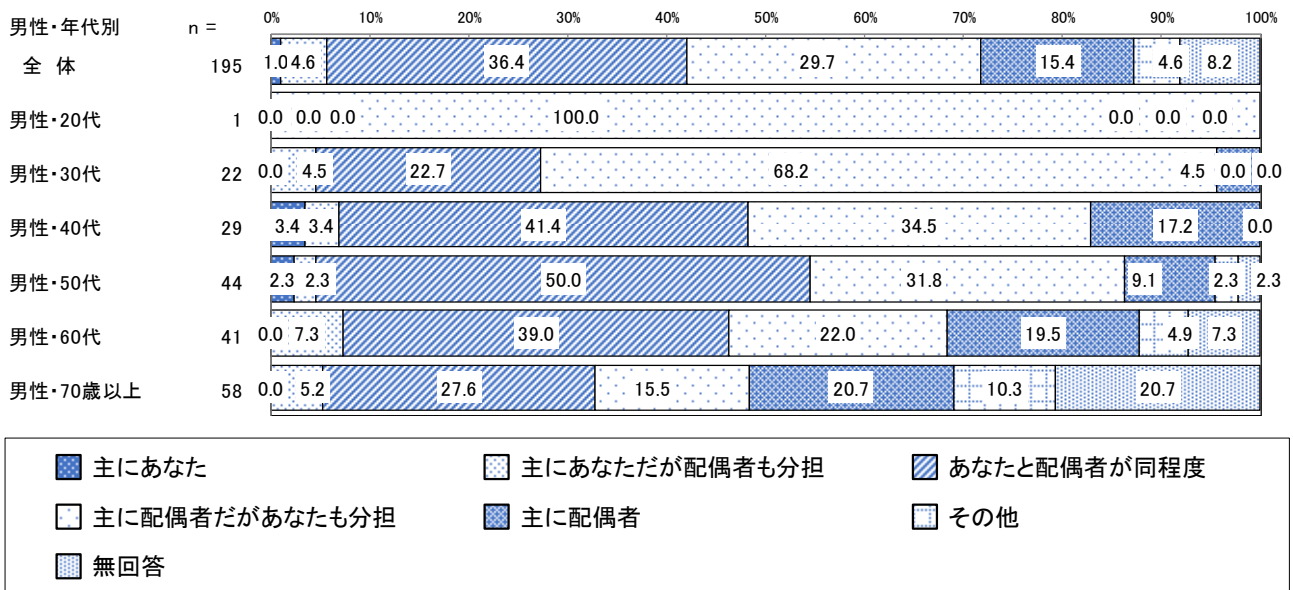
■ 主に妻 ■ 主に妻だが夫も分担 ■ 夫と妻が同程度 ■ 主に夫だが妻も分担 ■ 主に夫 ■ その他 ■ 無回答

※選択肢は「主にあなた」「主にあなただが配偶者も分担」「あなたと配偶者が同程度」「主に配偶者だがあなたも分担」「主に配偶者」だが、集計上、男性の場合は「あなた」を「夫」に、「配偶者」を「妻」に、女性の場合は「あなた」を「妻」に、「配偶者」を「夫」に変換しています。

※選択肢「同居の子どもや親がいない」は除外して集計しています。

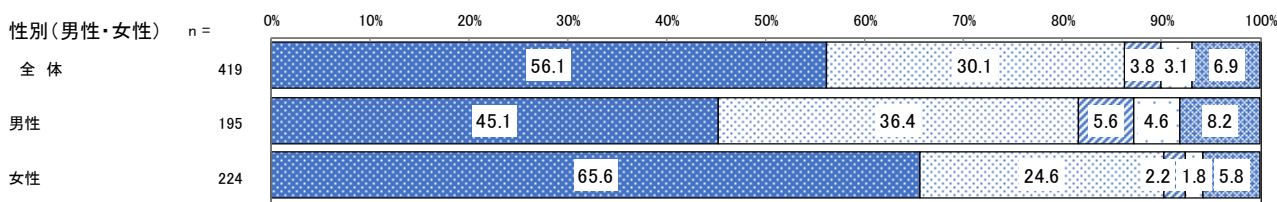
4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

【性・年代別】



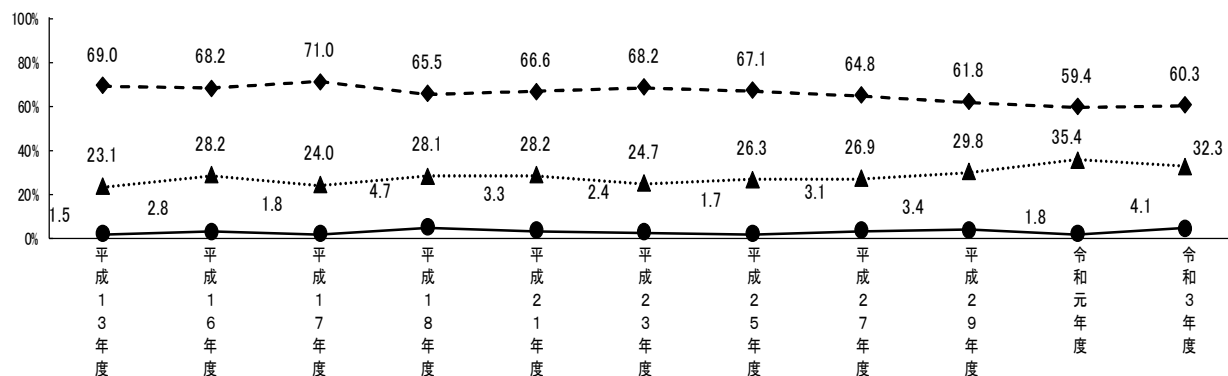
※選択肢「同居の子どもや親がいない」は除外して集計しています。

4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について



■ 主に妻 □ 夫と妻が同程度 ■ 主に夫 □ その他 ■ 無回答

【経年比較】



◆ 主に妻 ● 主に夫 ▲ 夫と妻が同程度 ※無回答などを省略していますので、合計しても100%にならないことがあります。

※『主に妻』（「主に妻」＋「主に妻だが夫も分担」）、『主に夫』（「主に夫」＋「主に夫だが妻も分担」）

※令和3年度の選択肢は「主にあなた」「主にあなただが配偶者も分担」「あなたと配偶者が同程度」「主に配偶者だがあなたも分担」

「主に配偶者」だが、集計上、男性の場合は「あなた」を「夫」に、「配偶者」を「妻」に、女性の場合は「あなた」を「妻」に、「配偶者」を「夫」に変換しています。

	調査数	主に妻	主に妻だが夫も分担	夫と妻が同程度	主に夫だが妻も分担	主に夫	その他
平成13年度	689	33.5%	35.5%	23.1%	0.4%	1.1%	6.4%
平成16年度	494	31.8%	36.4%	28.2%	2.2%	0.6%	0.8%
平成17年度	497	30.0%	41.0%	24.0%	1.4%	0.4%	3.2%
平成18年度	356	25.8%	39.7%	28.1%	3.3%	1.4%	1.7%
平成21年度	425	30.1%	36.5%	28.2%	2.8%	0.5%	1.9%
平成23年度	296	30.7%	37.5%	24.7%	1.4%	1.0%	4.7%
平成25年度	410	31.2%	35.9%	26.3%	1.5%	0.2%	4.9%
平成27年度	457	26.7%	38.1%	26.9%	2.4%	0.7%	5.3%
平成29年度	406	24.6%	37.2%	29.8%	3.2%	0.2%	4.9%
令和元年度	379	21.4%	38.0%	35.4%	1.1%	0.8%	3.4%
令和3年度	390	24.1%	36.2%	32.3%	3.1%	1.0%	3.3%

※経年比較の条件を揃えるため、全体から「同居の子どもや親がいない」「無回答」を除いて再集計しています。

4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

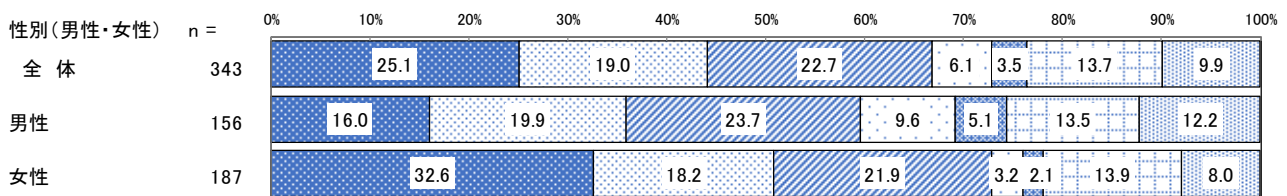
⑥ 親の世話（介護）をする

『主に妻』が4割以上となっています。

【⑥親の世話（介護）をする】では、『主に妻』（44.1%、「主に妻」＋「主に妻だが夫も分担」）が最も高くなっています。

性・年代別でみると、50代、60代の男性は、『主に配偶者』（「主に配偶者」＋「主に配偶者だがあなたも分担」）が高く、同年代の女性は『主にあなた』（「主にあなた」＋「主にあなただが配偶者も分担」）が高くなっており、『主に妻』の割合が他の年代と比べて高くなっています。

経年比較でみると、『主に妻』は減少傾向で推移していますが、令和3年度は増加しています。また、「夫と妻が同程度」が緩やかな増加傾向にありましたが、令和3年度は前回調査から約7ポイント減少しています。



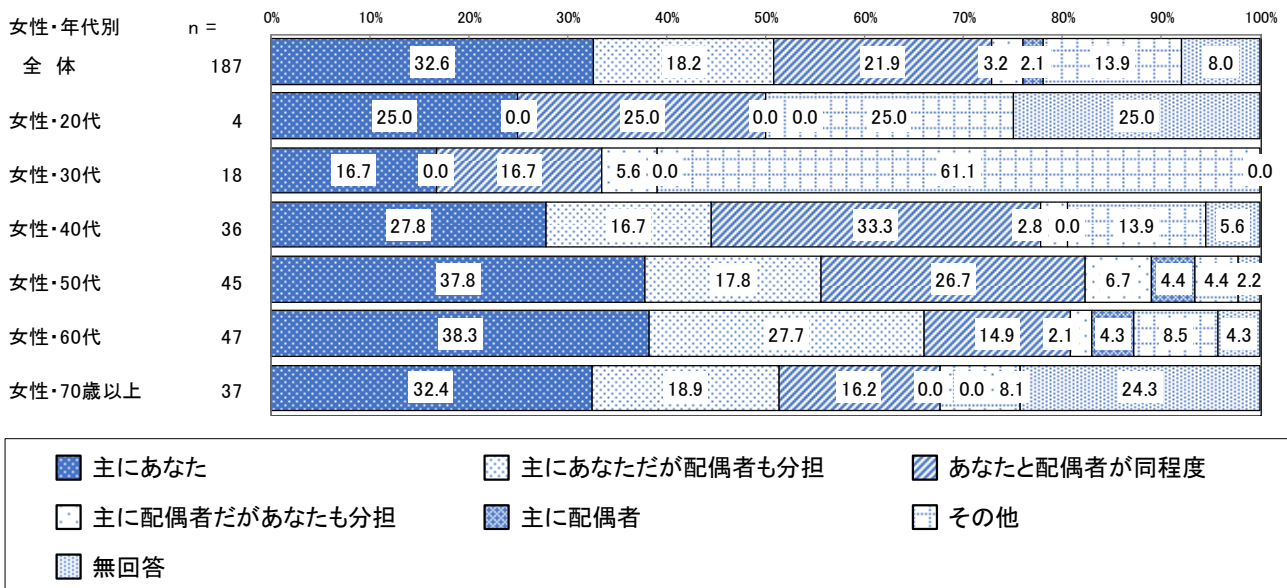
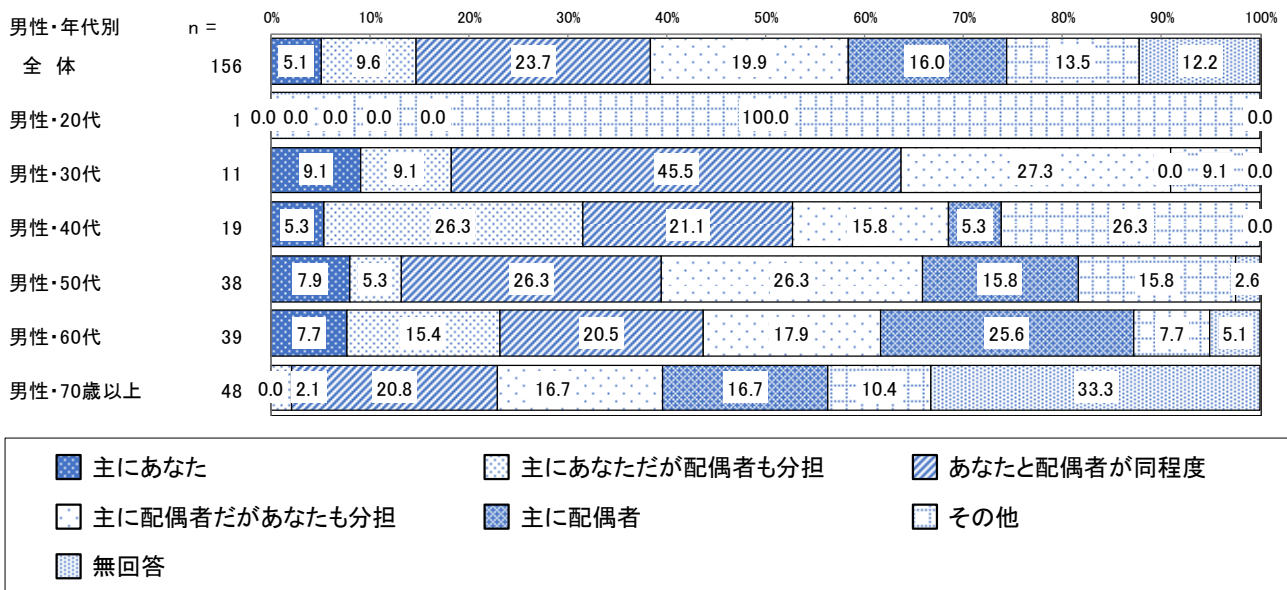
■ 主に妻 ■ 主に妻だが夫も分担 ■ 夫と妻が同程度 ■ 主に夫だが妻も分担 ■ 主に夫 ■ その他 ■ 無回答

※選択肢は「主にあなた」「主にあなただが配偶者も分担」「あなたと配偶者が同程度」「主に配偶者だがあなたも分担」「主に配偶者」だが、集計上、男性の場合は「あなた」を「夫」に、「配偶者」を「妻」に、女性の場合は「あなた」を「妻」に、「配偶者」を「夫」に変換しています。

※選択肢「同居の子どもや親がいない」は除外して集計しています。

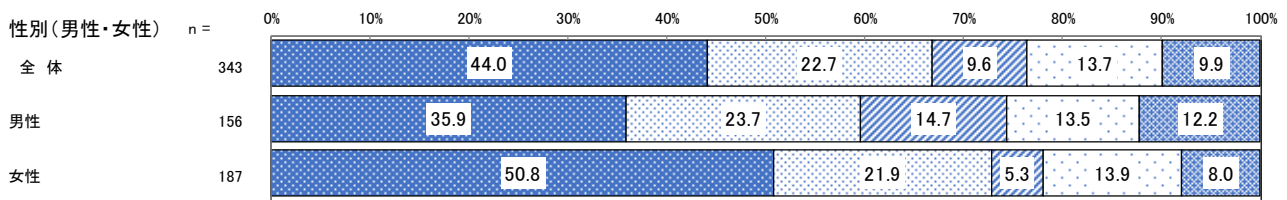
4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

【性・年代別】



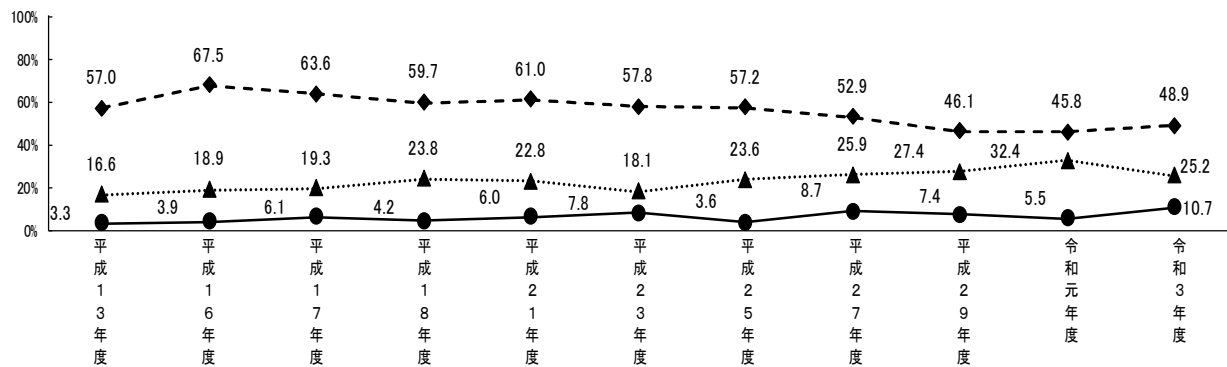
※選択肢「同居の子どもや親がいない」は除外して集計しています。

4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について



■ 主に妻 □ 夫と妻が同程度 ■ 主に夫 □ その他 ■ 無回答

【経年比較】



◆ - 主に妻 ● - 主に夫 ▲ - 夫と妻が同程度

※無回答などを省略していますので、合計しても100%にならないことがあります。

※『主に妻』（「主に妻」＋「主に妻だが夫も分担」）、『主に夫』（「主に夫」＋「主に夫だが妻も分担」）

※令和3年度の選択肢は「主にあなた」「主にあなただが配偶者も分担」「あなたと配偶者が同程度」「主に配偶者だがあなたも分担」

「主に配偶者」だが、集計上、男性の場合は「あなた」を「夫」に、「配偶者」を「妻」に、女性の場合は「あなた」を「妻」に、「配偶者」を「夫」に変換しています。

	調査数	主に妻	主に妻だが夫も分担	夫と妻が同程度	主に夫だが妻も分担	主に夫	その他
平成13年度	474	34.4%	22.6%	16.6%	1.9%	1.4%	23.2%
平成16年度	344	41.2%	26.3%	18.9%	3.0%	0.9%	9.8%
平成17年度	367	37.7%	25.9%	19.3%	3.8%	2.3%	11.1%
平成18年度	261	33.3%	26.4%	23.8%	1.6%	2.6%	12.3%
平成21年度	302	31.5%	29.5%	22.8%	4.3%	1.7%	10.3%
平成23年度	204	31.9%	26.0%	18.1%	3.9%	3.9%	16.2%
平成25年度	276	36.6%	20.7%	23.6%	2.9%	0.7%	15.6%
平成27年度	367	28.6%	24.3%	25.9%	4.4%	4.4%	12.5%
平成29年度	310	24.8%	21.3%	27.4%	3.2%	4.2%	19.0%
令和元年度	275	21.8%	24.0%	32.4%	1.8%	3.6%	16.4%
令和3年度	309	27.8%	21.0%	25.2%	6.8%	3.9%	15.2%

※経年比較の条件を揃えるため、全体から「同居の子どもや親がない」「無回答」を除いて再集計しています。

4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

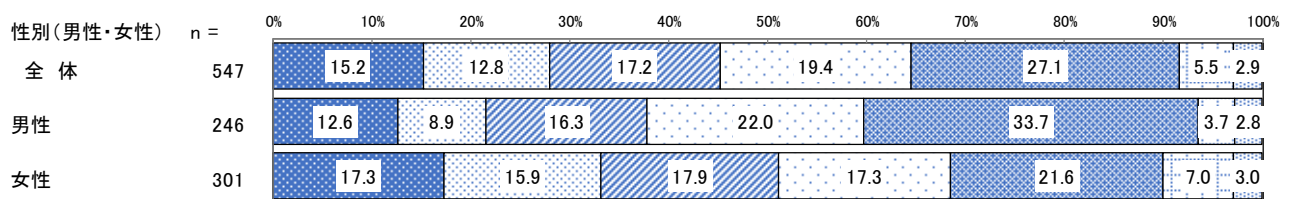
⑦ 自治会・町内会などの地域活動を行う

『主に夫』が5割弱。60代男性では6割以上となっています。

【⑦自治会・町内会などの地域活動を行う】では、『主に夫』(46.5%、「主に夫」＋「主に夫だが妻も分担」)が最も高く、次に『主に妻』(28.0%、「主に妻」＋「主に妻だが夫も分担」)、「夫と妻が同程度」(17.2%)となっています。

性・年代別でみると、60代男性は、『主にあなた』(「主にあなた」＋「主にあなただが配偶者も分担」)の割合が他の年代に比べて高くなっています。30代女性は、「あなたと配偶者が同程度」の割合が他の年代と比べて高くなっていますが、同年代の男性と比べて20ポイント以上の差がみられません。

経年比較でみると、『主に夫』が4割以上で推移しています。『主に妻』が前回調査よりも約7ポイント高くなっています。また、平成27年度以降、「夫と妻が同程度」がやや増加傾向にありましたが、令和3年度は減少しました。

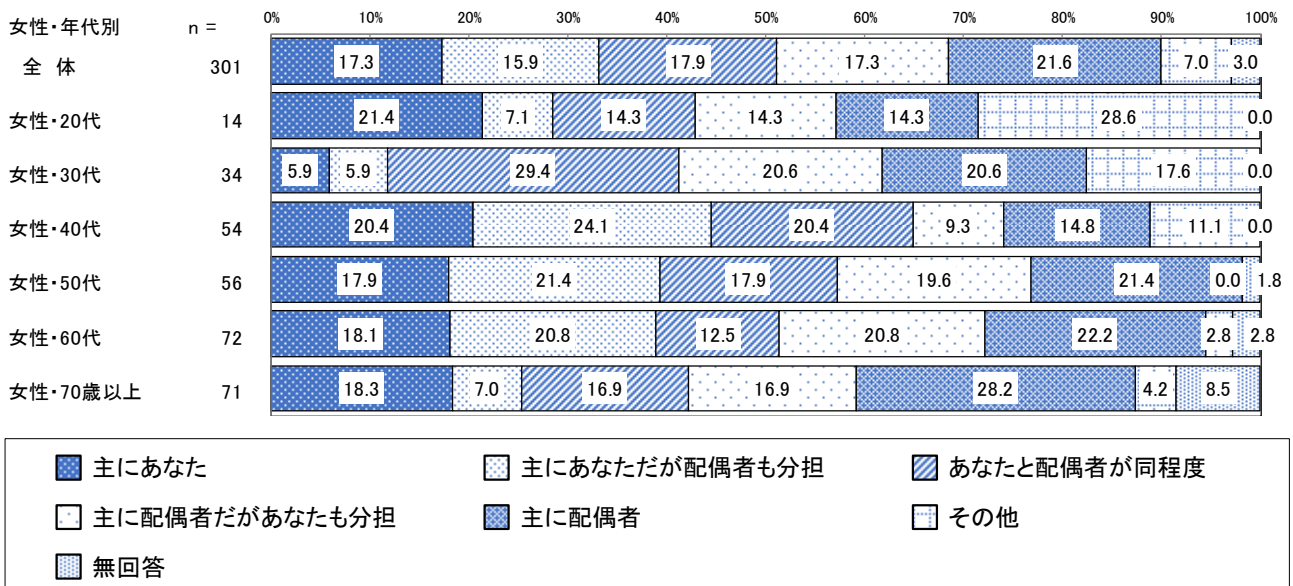
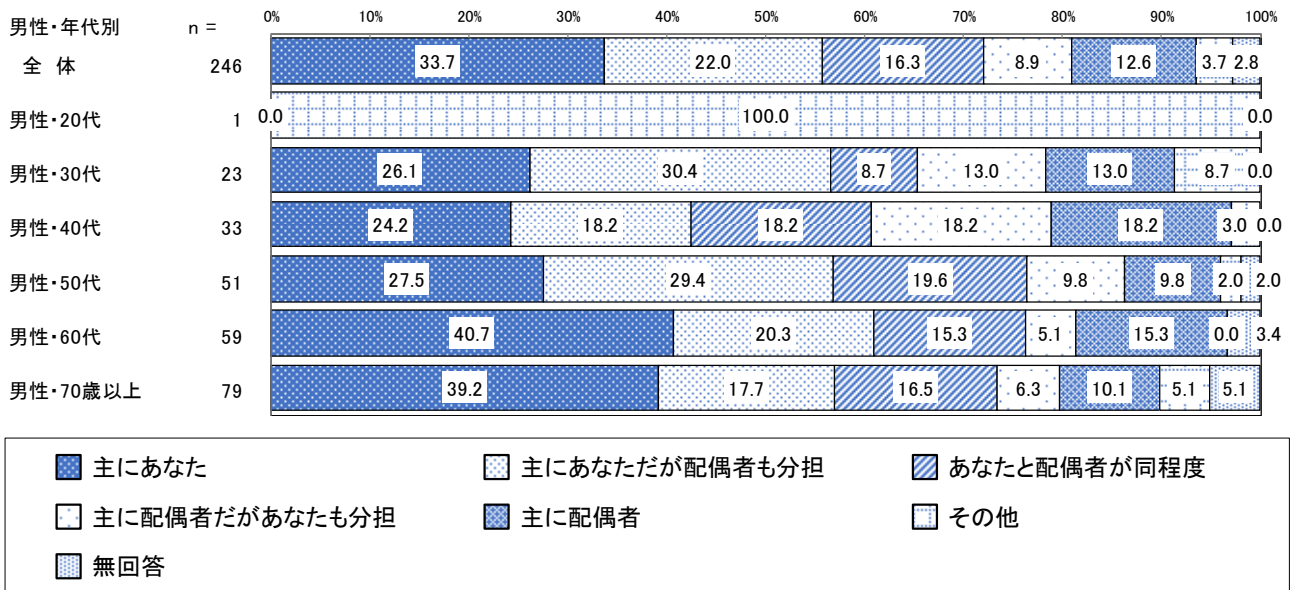


■ 主に妻 ■ 主に妻だが夫も分担 ■ 夫と妻が同程度 ■ 主に夫だが妻も分担 ■ 主に夫 ■ その他 ■ 無回答

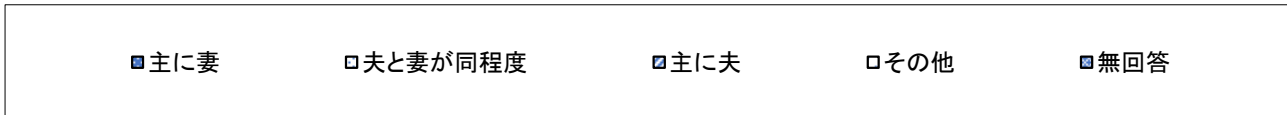
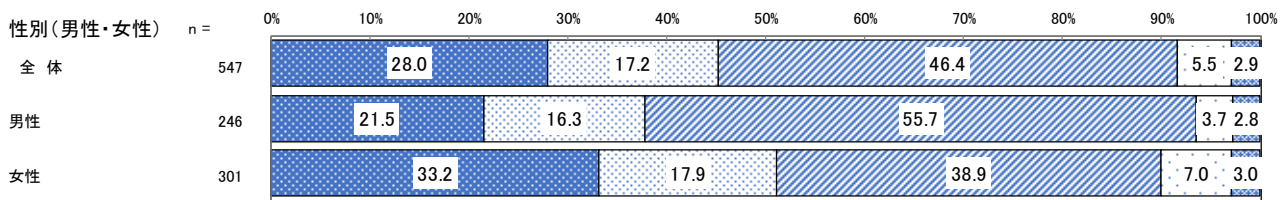
※選択肢は「主にあなた」「主にあなただが配偶者も分担」「あなたと配偶者が同程度」「主に配偶者だがあなたも分担」「主に配偶者」だが、集計上、男性の場合は「あなた」を「夫」に、「配偶者」を「妻」に、女性の場合は「あなた」を「妻」に、「配偶者」を「夫」に変換しています。

4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

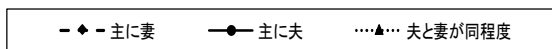
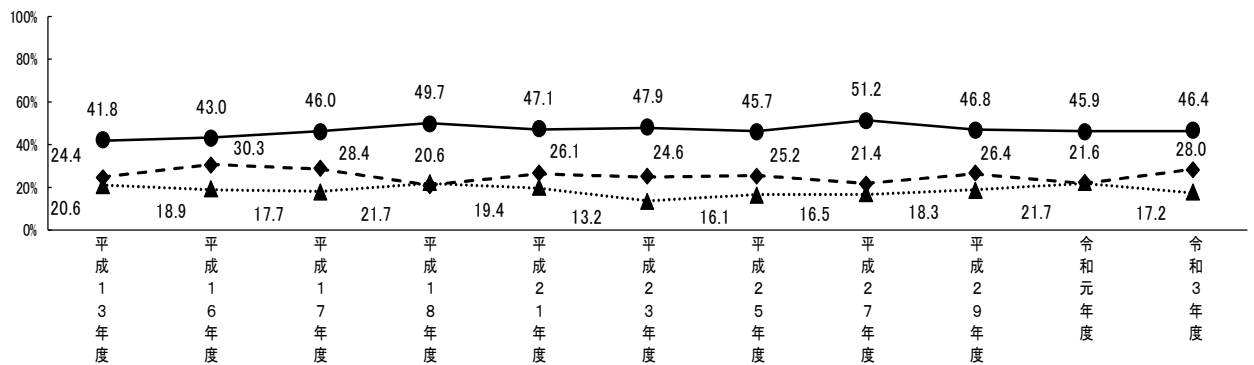
【性・年代別】



4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について



【経年比較】



※無回答などを省略していますので、合計しても100%にならないことがあります。

※『主に妻』（「主に妻」＋「主に妻だが夫も分担」）、『主に夫』（「主に夫」＋「主に夫だが妻も分担」）

※令和3年度の選択肢は「主にあなた」「主にあなたが配偶者も分担」「あなたと配偶者が同程度」「主に配偶者だがあなたも分担」

「主に配偶者」だが、集計上、男性の場合は「あなた」を「夫」に、「配偶者」を「妻」に、女性の場合は「あなた」を「妻」に、「配偶者」を「夫」に変換しています。

	調査数	主に妻	主に妻だが夫も分担	夫と妻が同程度	主に夫だが妻も分担	主に夫	その他	無回答
平成13年度	916	13.5%	10.9%	20.6%	21.5%	20.3%	6.8%	6.3%
平成16年度	636	16.0%	14.3%	18.9%	19.7%	23.3%	3.1%	4.7%
平成17年度	637	16.2%	12.2%	17.7%	20.9%	25.1%	3.8%	4.1%
平成18年度	457	11.2%	9.4%	21.7%	21.7%	28.0%	4.2%	3.9%
平成21年度	536	15.7%	10.4%	19.4%	22.8%	24.3%	5.0%	2.4%
平成23年度	424	14.2%	10.4%	13.2%	19.8%	28.1%	6.6%	7.8%
平成25年度	571	14.5%	10.7%	16.1%	19.1%	26.6%	7.9%	5.1%
平成27年度	637	11.8%	9.6%	16.5%	21.7%	29.5%	5.2%	5.8%
平成29年度	547	16.3%	10.1%	18.3%	21.6%	25.2%	6.2%	2.4%
令和元年度	515	13.8%	7.8%	21.7%	21.6%	24.3%	6.8%	4.1%
令和3年度	547	15.2%	12.8%	17.2%	19.4%	27.1%	5.5%	2.9%

4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

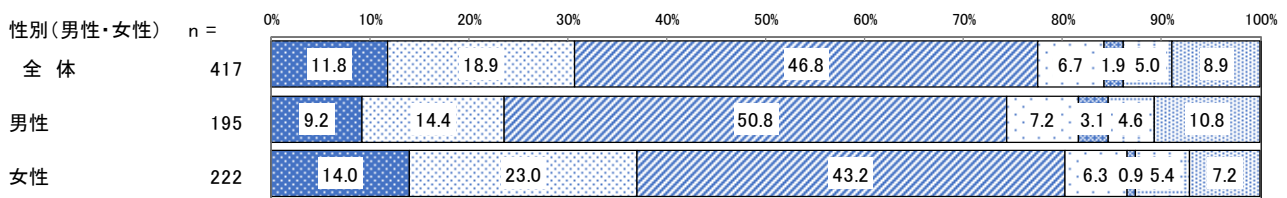
⑧ 子どもの教育方針や進学目標を決める

「夫と妻が同程度」が4割以上となっています。

【⑧子どもの教育方針や進学目標を決める】では、「夫と妻が同程度」(46.8%)が最も高く、次に、『主に妻』(30.7%、「主に妻」+「主に妻だが夫も分担」)となっています。

性・年代別でみると、男性は、いずれの年代も、「あなたと配偶者が同程度」の割合が高くなっています。女性も「あなたと配偶者が同程度」の割合が高い傾向にありますが、『主にあなた』(「主にあなた」+「主にあなただが配偶者も分担」)と答える割合も高くなっており、男女間での認識の差が見られます。

経年比較でみると、『主に妻』が前回調査よりも約6.7ポイント増加した一方、「夫と妻が同程度」はポイント減少しています。



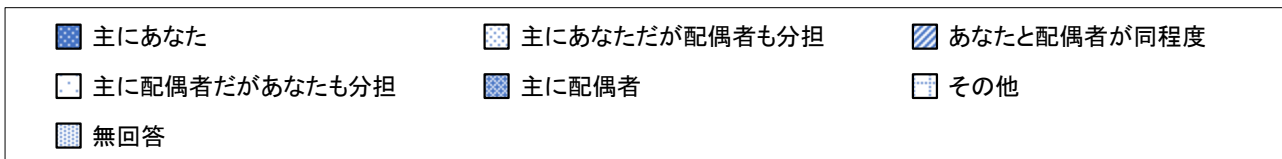
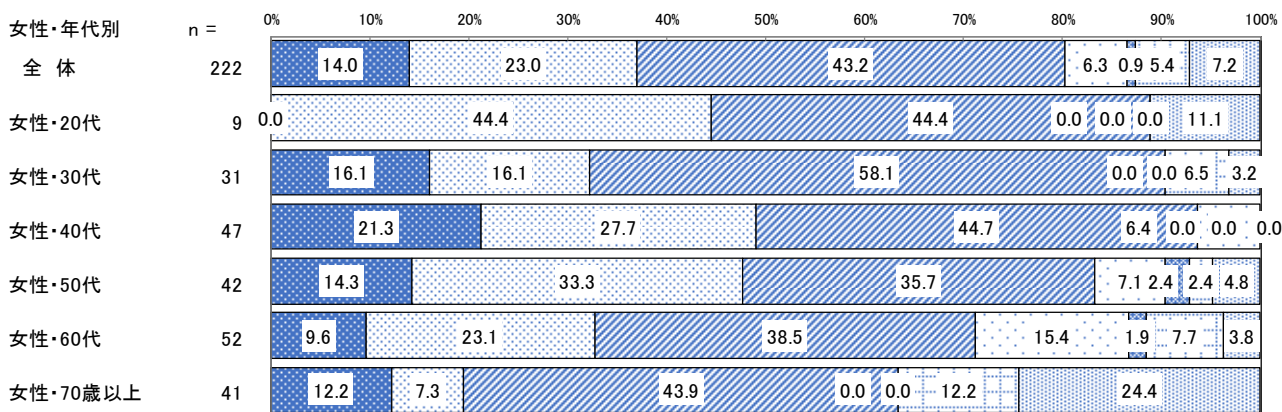
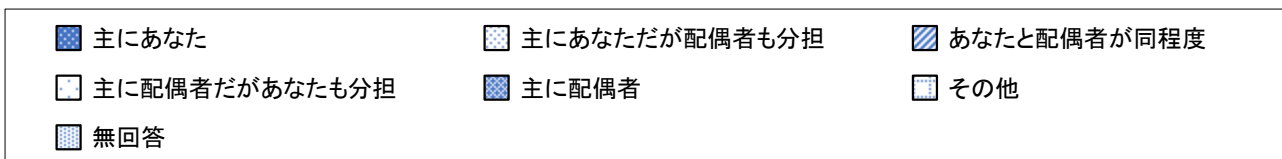
主に妻
 主に妻だが夫も分担
 夫と妻が同程度
 主に夫だが妻も分担
 主に夫
 その他
 無回答

※選択肢は「主にあなた」「主にあなただが配偶者も分担」「あなたと配偶者が同程度」「主に配偶者だがあなたも分担」「主に配偶者」だが、集計上、男性の場合は「あなた」を「夫」に、「配偶者」を「妻」に、女性の場合は「あなた」を「妻」に、「配偶者」を「夫」に変換しています。

※選択肢「同居の子どもや親がいない」は除外して集計しています。

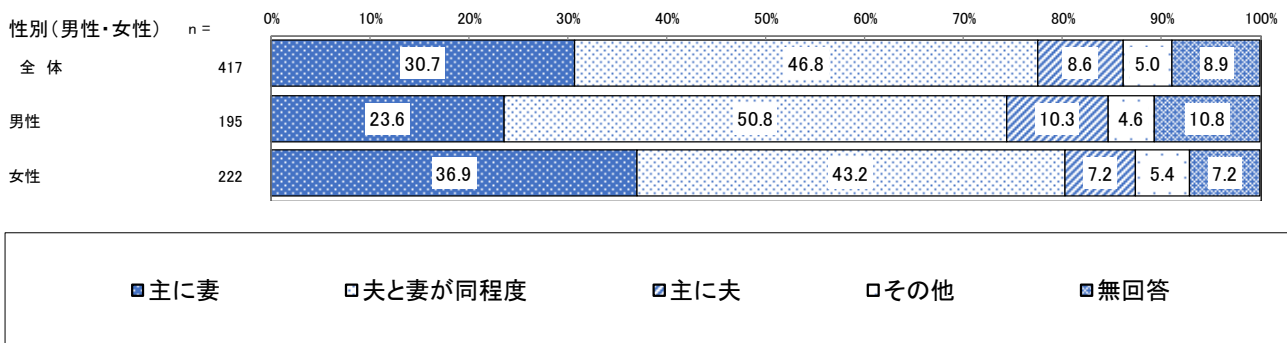
4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

【性・年代別】

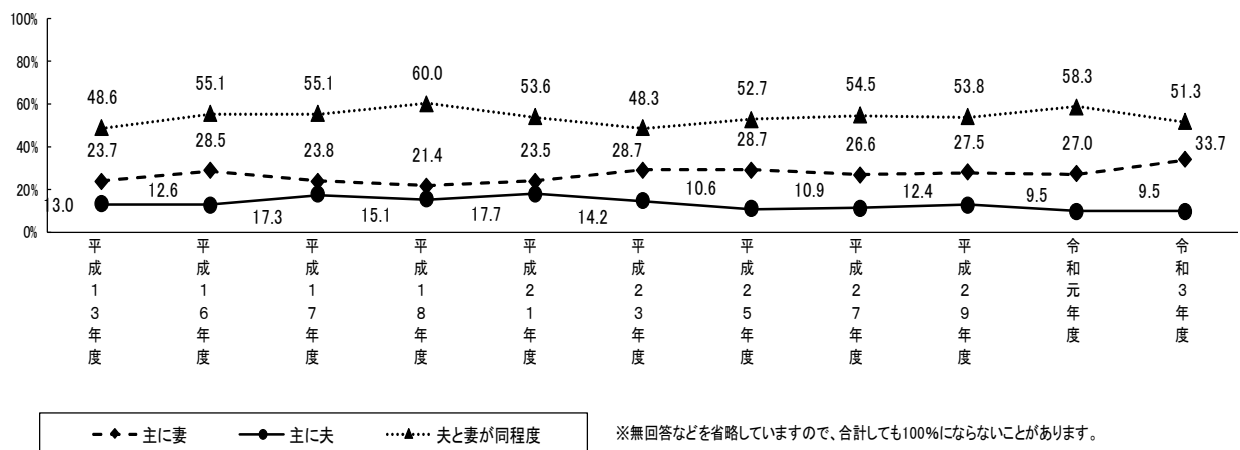


※選択肢「同居の子どもや親がいない」は除外して集計しています。

4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について



【経年比較】



※『主に妻』（「主に妻」＋「主に妻だが夫も分担」）、『主に夫』（「主に夫」＋「主に夫だが妻も分担」）

※令和3年度の選択肢は「主にあなた」「主にあなただが配偶者も分担」「あなたと配偶者が同程度」「主に配偶者だがあなたも分担」

「主に配偶者」だが、集計上、男性の場合は「あなた」を「夫」に、「配偶者」を「妻」に、女性の場合は「あなた」を「妻」に、「配偶者」を「夫」に変換しています。

	調査数	主に妻	主に妻だが夫も分担	夫と妻が同程度	主に夫だが妻も分担	主に夫	その他
平成13年度	763	8.3%	15.4%	48.6%	8.6%	4.4%	14.6%
平成16年度	485	10.4%	18.1%	55.1%	10.1%	2.5%	3.9%
平成17年度	490	11.2%	12.6%	55.1%	11.8%	5.5%	3.6%
平成18年度	345	6.6%	14.8%	60.0%	10.7%	4.4%	3.4%
平成21年度	418	8.4%	15.1%	53.6%	14.4%	3.3%	5.3%
平成23年度	296	12.2%	16.6%	48.3%	9.5%	4.7%	8.8%
平成25年度	404	14.1%	14.6%	52.7%	7.9%	2.7%	7.9%
平成27年度	451	11.3%	15.3%	54.5%	7.3%	3.5%	8.0%
平成29年度	403	10.9%	16.6%	53.8%	9.2%	3.2%	6.2%
令和元年度	367	8.7%	18.3%	58.3%	6.8%	2.7%	5.2%
令和3年度	380	12.9%	20.8%	51.3%	7.4%	2.1%	5.5%

※経年比較の条件を揃えるため、全体から「同居の子どもや親がいない」「無回答」を除いて再集計しています。

4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

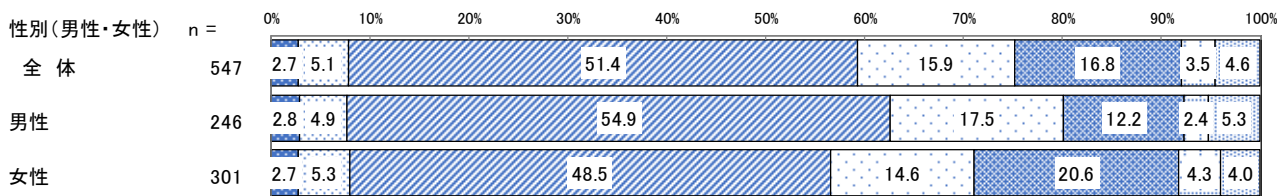
⑨ 高額の商品や土地・家屋の購入を決める

「夫と妻が同程度」が5割となっています。

【⑨高額の商品や土地・家屋の購入を決める】では、「夫と妻が同程度」(51.4%)が最も高く、次に『主に夫』(32.7%、「主に夫」+「主に夫だが妻も分担」)、『主に妻』(7.8%、「主に妻」+「主に妻だが夫も分担」)となっています。

性・年代別でみると、50代男性、30代女性が、「あなたと配偶者が同程度」の割合が他の年代と比べて高くなっています。50代の女性は、『主に配偶者』(「主に配偶者」+「主に配偶者だがあなたも分担」)が48.2%であるのに対し、同年代の男性は、『主にあなた』(「主にあなた」+「主にあなただが配偶者も分担」)が23.6%と20ポイント以上の差があり、男女間での認識の差がみられます。

経年比較でみると、「夫と妻が同程度」は前回調査から引き続き5割以上となっています。

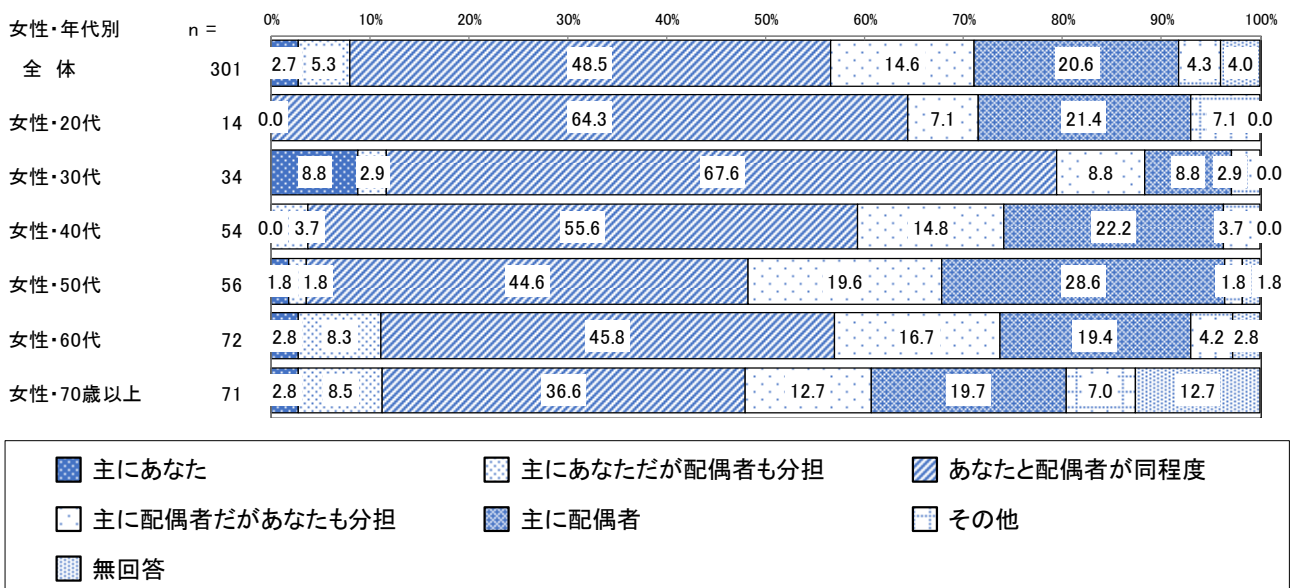
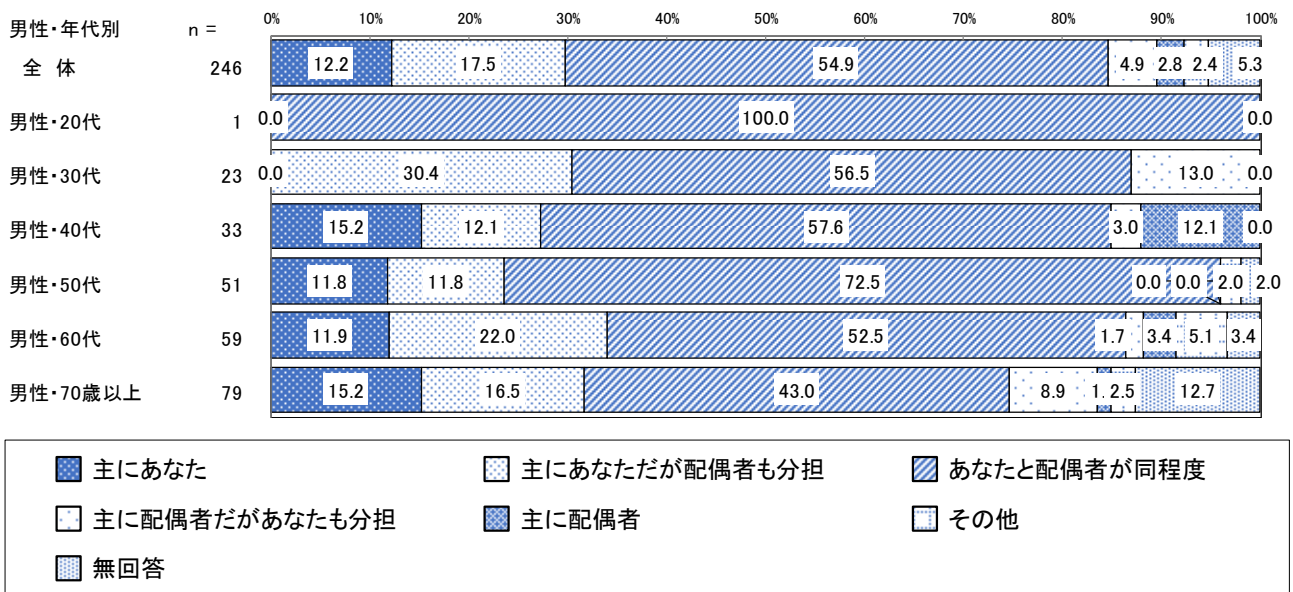


主に妻
 主に妻だが夫も分担
 夫と妻が同程度
 主に夫だが妻も分担
 主に夫
 その他
 無回答

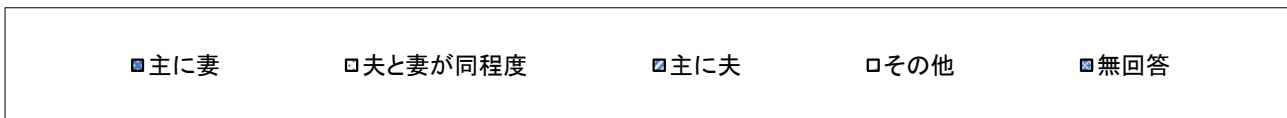
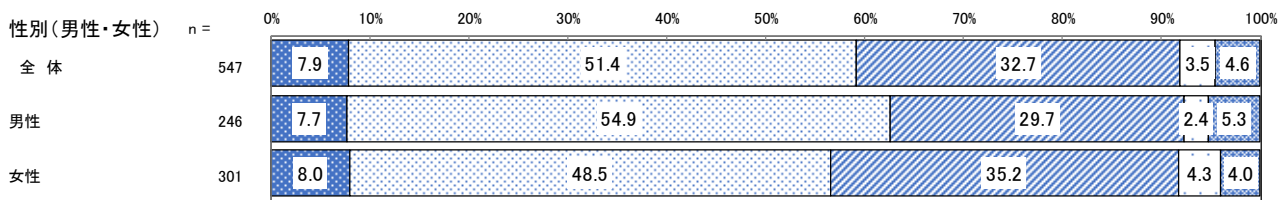
※選択肢は「主にあなた」「主にあなただが配偶者も分担」「あなたと配偶者が同程度」「主に配偶者だがあなたも分担」「主に配偶者」だが、集計上、男性の場合は「あなた」を「夫」に、「配偶者」を「妻」に、女性の場合は「あなた」を「妻」に、「配偶者」を「夫」に変換しています。

4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

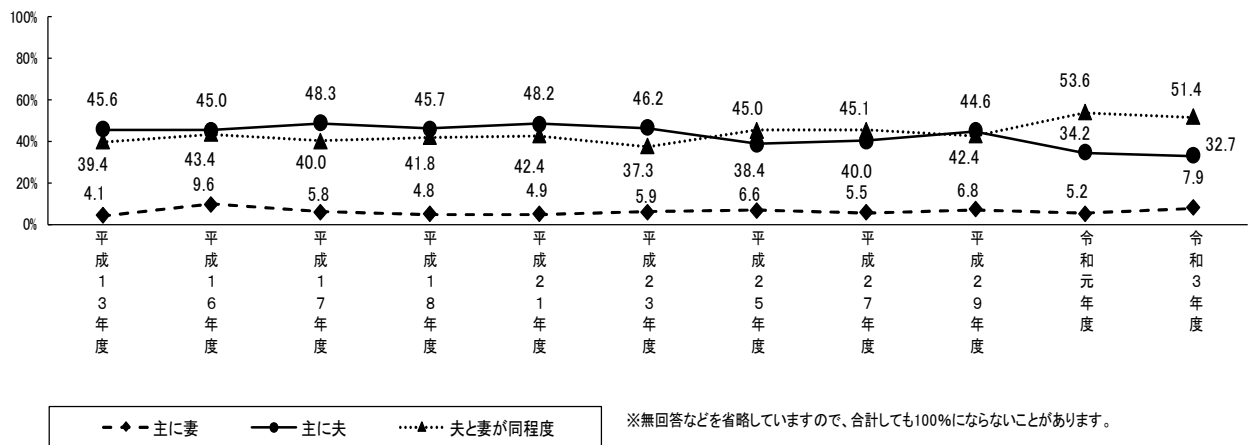
【性・年代別】



4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について



【経年比較】



※無回答などを省略していますので、合計しても100%にならないことがあります。

※『主に妻』（「主に妻」＋「主に妻だが夫も分担」）、『主に夫』（「主に夫」＋「主に夫だが妻も分担」）

※令和3年度の選択肢は「主にあなた」「主にあなたが配偶者も分担」「あなたと配偶者が同程度」「主に配偶者だがあなたも分担」

「主に配偶者」だが、集計上、男性の場合は「あなた」を「夫」に、「配偶者」を「妻」に、女性の場合は「あなた」を「妻」に、「配偶者」を「夫」に変換しています。

	調査数	主に妻	主に妻だが夫も分担	夫と妻が同程度	主に夫だが妻も分担	主に夫	その他	無回答
平成13年度	916	2.0	2.1	39.4	22.6	23.0	3.6	7.3
平成16年度	636	6.6	3.0	43.4	19.2	25.8	2.0	4.7
平成17年度	637	2.5	3.3	40.0	22.6	25.7	2.0	3.8
平成18年度	457	2.6	2.2	41.8	23.4	22.3	2.6	5.0
平成21年度	536	2.1	2.8	42.4	22.6	25.6	2.2	2.4
平成23年度	424	3.5	2.4	37.3	20.0	26.2	2.8	7.8
平成25年度	571	2.6	4.0	45.0	15.8	22.6	4.4	5.6
平成27年度	637	1.6	3.9	45.1	16.8	23.2	2.2	7.2
平成29年度	547	3.1	3.7	42.4	18.8	25.8	2.6	3.7
令和元年度	515	2.3	2.9	53.6	15.0	19.2	2.9	4.1
令和3年度	547	2.7	5.1	51.4	15.9	16.8	3.5	4.6

4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

「家庭での役割分担まとめ」

夫（男性）が「家計を支える」、「地域活動を行う」、妻（女性）は「家事」、「家計の管理」が高い割合を示しました。

各家庭での役割について特徴的な傾向を下表にまとめました。

		① 家計を支える (生活費を稼ぐ)	② 掃除、洗濯、食事のした くなどの家事をする	③ ゴミ出しなどの 簡単な家事をする	④ 日々の家計の 管理をする	⑤ 育児、子どもの しつけをする	⑥ 親の世話(介護)をする	⑦ 自治会・町内会など の地域活動を行う	⑧ 子どもの教育方針や 進学目標を決める	⑨ 高額の商品や土地・ 家屋の購入を決める
全体の傾向		『主に夫』 7割	『主に妻』 8割	『主に妻』 5割弱	『主に妻』 7割	『主に妻』 5割強	『主に妻』 4割強	『主に夫』 5割弱	同程度 4割強	同程度 5割
属性別の傾向・特徴	性別	・男性 『主に夫』 7割 ・女性 『主に夫』 7割	・男性 『主に妻』 8割 ・女性 『主に妻』 8割	・男性 『主に妻』 4割 ・女性 『主に妻』 5割	・男性 『主に妻』 6割 ・女性 『主に妻』 7割	・男性 『主に妻』 4割 ・女性 『主に妻』 6割	・男性 『主に妻』 3割 ・女性 『主に妻』 5割	・男性 『主に夫』 5割 ・女性 『主に夫』 4割弱	・男性 同程度 5割 ・女性 同程度 4割	・男性 同程度 5割 ・女性 同程度 5割弱
	年代別	・各年代 『主に夫』	・各年代 『主に妻』	・各年代 やや 『主に妻』	・各年代 『主に妻』	・年代が 若いほど 『主に妻』 の傾向	・50代、60代 『主に妻』 の傾向	・各年代 やや 『主に夫』	・年代が 若いほど 同程度の 傾向	・各年代 同程度
経年比較		『主に夫』 7割以上 で推移	『主に妻』 8割以上 で推移	『主に妻』 減少傾向	『主に妻』 約7割 で推移	『主に妻』 減少傾向	『主に妻』 減少傾向	『主に夫』 4割以上 で推移	『主に妻』 増加傾向	『主に夫』 減少傾向

※選択肢は「主にあなた」「主にあなただが配偶者も分担」「あなたと配偶者が同程度」「主に配偶者だがあなたも分担」「主に配偶者」だが、集計上、男性の場合は「あなた」を「夫」に、「配偶者」を「妻」に、女性の場合は「あなた」を「妻」に、「配偶者」を「夫」に変換しています。

4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

2 家事にかかる時間・分担

問11 あなたと配偶者（事実婚・パートナーを含む）の家事について伺います。あなたと配偶者は、それぞれ1日の中で、家事を何時間ぐらいしていますか。平日と休日に分けてお答えください。

男性は平日・休日いずれも「1分～2時間」が最も高く、「0分」は1割弱。一方、女性は平日・休日いずれも「2時間超～4時間」が最も高く、「0分」は1%未満となりました。

「あなた（回答者）」が男性の場合、平日は「1分～2時間」が85.3%、休日も同様に「1分～2時間」が82.1%と最も高く、女性の場合は、平日は「2時間超～4時間」が43.6%、休日も同様に「2時間超～4時間」が39.2%と最も高くなりました。

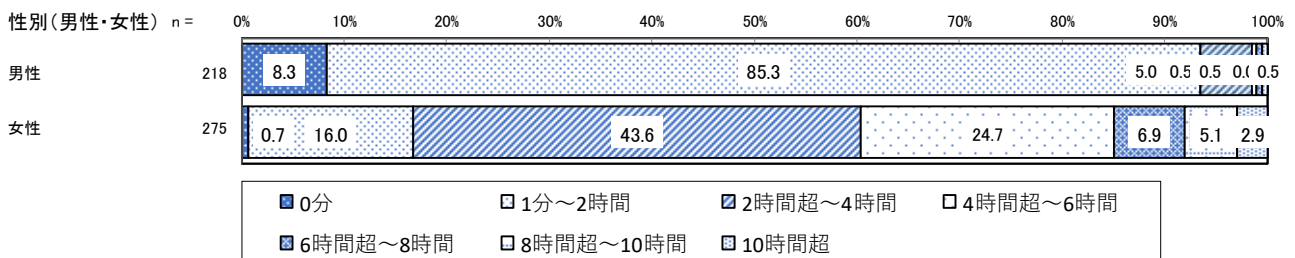
一方、配偶者の家事の時間をたずねると、男性は、配偶者（主に女性）の家事の時間は約4割が「2時間超～4時間」、約3割が「1分～2時間」と回答しているのに対し、女性は配偶者（主に男性）の家事の時間は「1分～2時間」が7割と最も高くなりました。

なお、男性の1日当たりの家事平均時間は、平日1.11時間、休日1.49時間となっています。

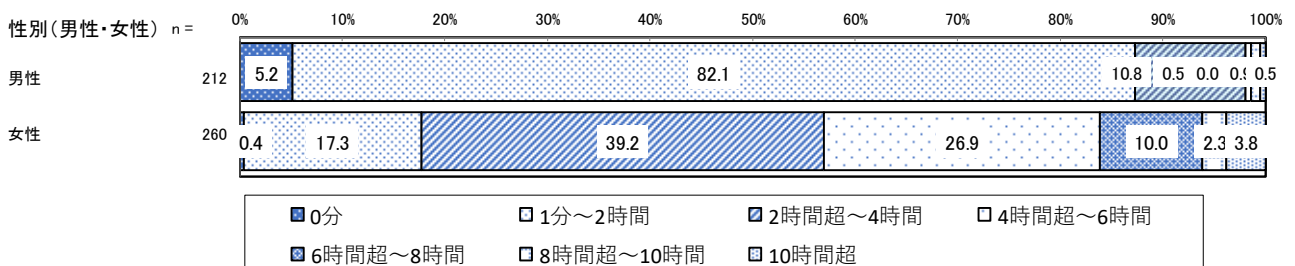
また、女性の1日当たりの家事平均時間は、平日4.47時間、休日4.61時間となっており、男性の家事時間の約4倍となっています。

【あなた（回答者）】

・平日



・休日

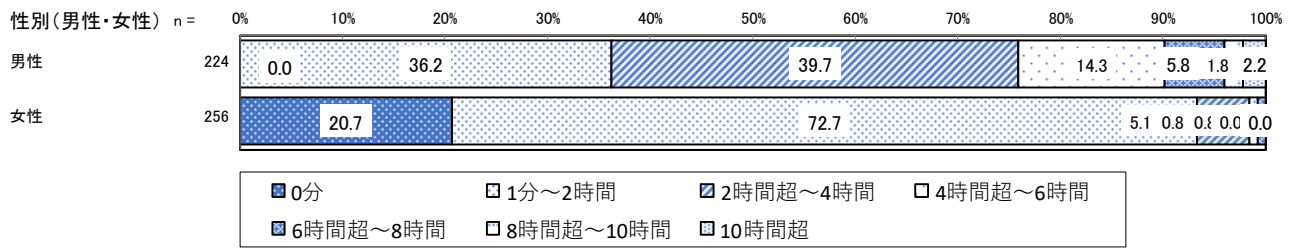


※全体から「無回答」を除いて再集計しています。

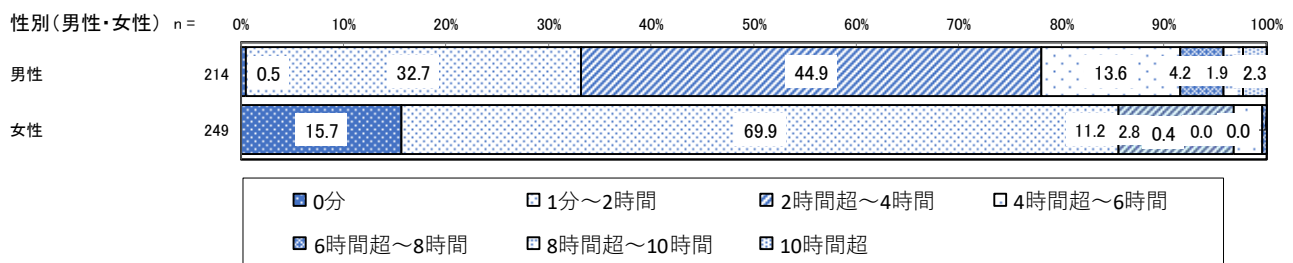
4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

【配偶者】

・平日



・休日



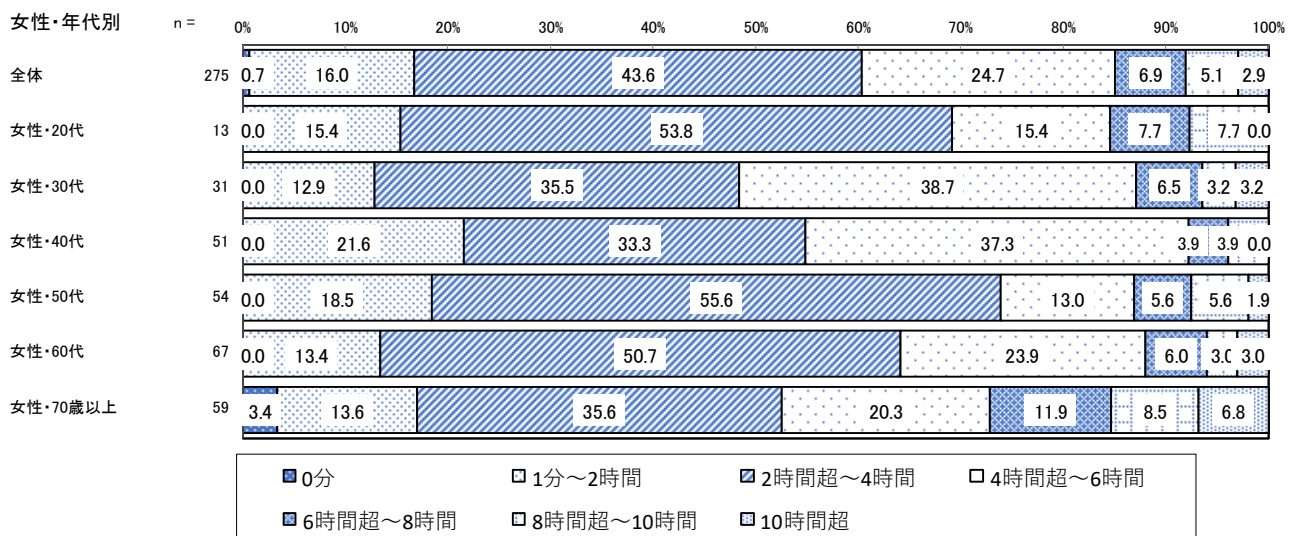
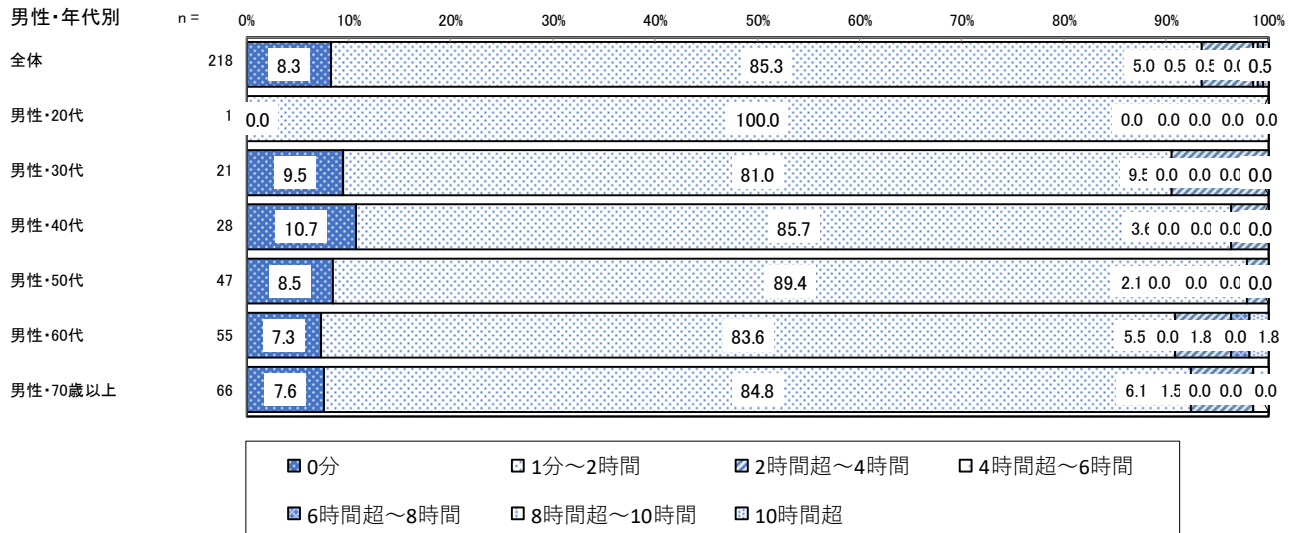
※全体から「無回答」を除いて再集計しています。

4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

【性・年代別】

●あなた（回答者）

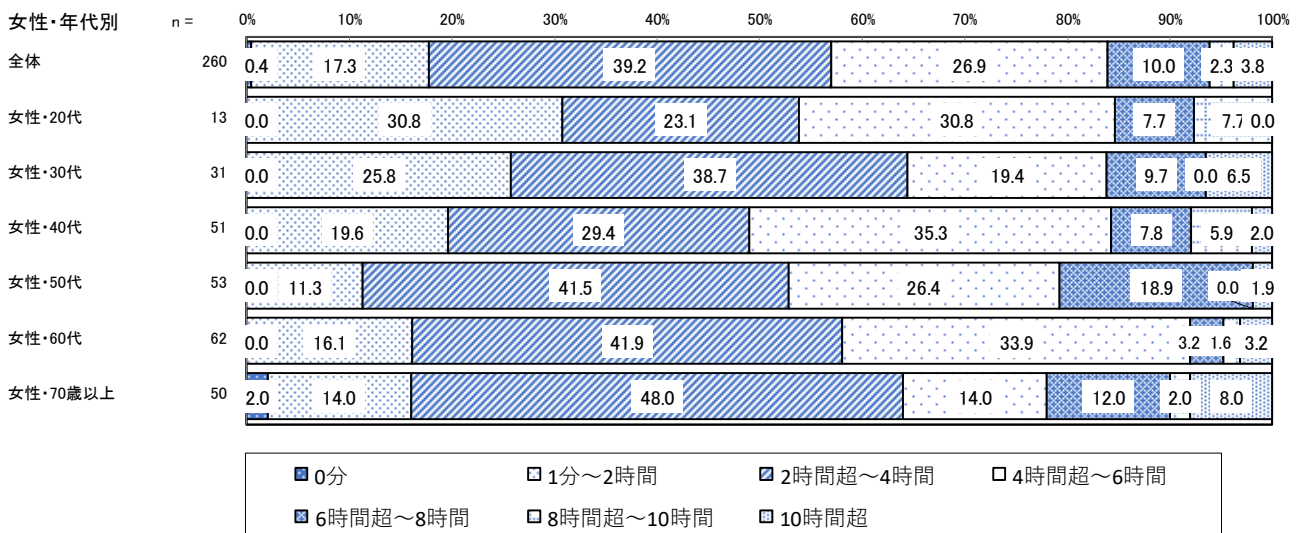
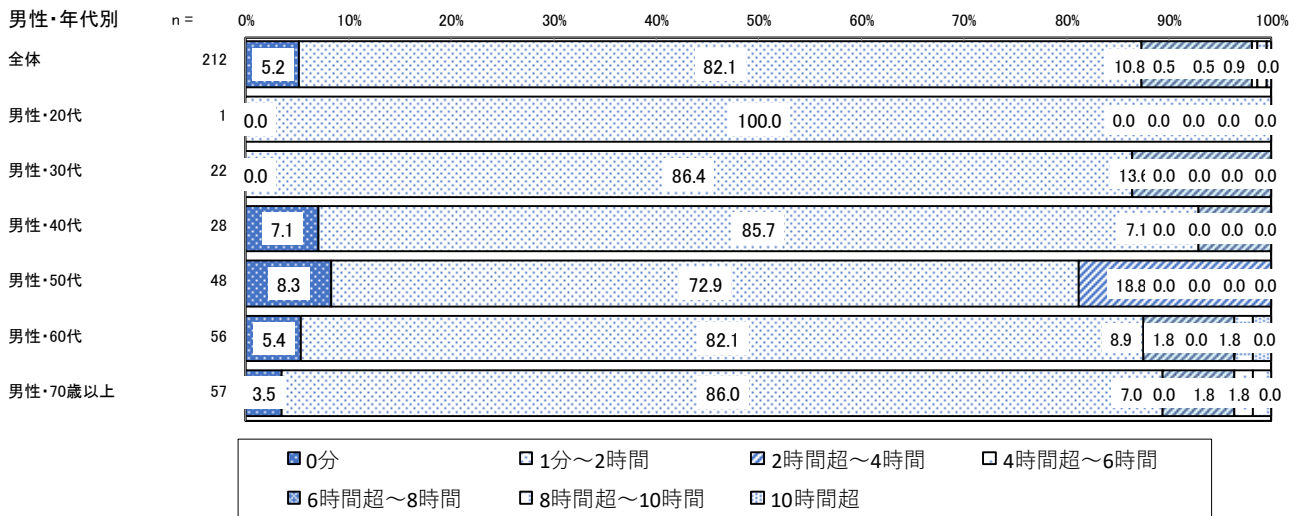
・平日



※全体から「無回答」を除いて再集計しています。

4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

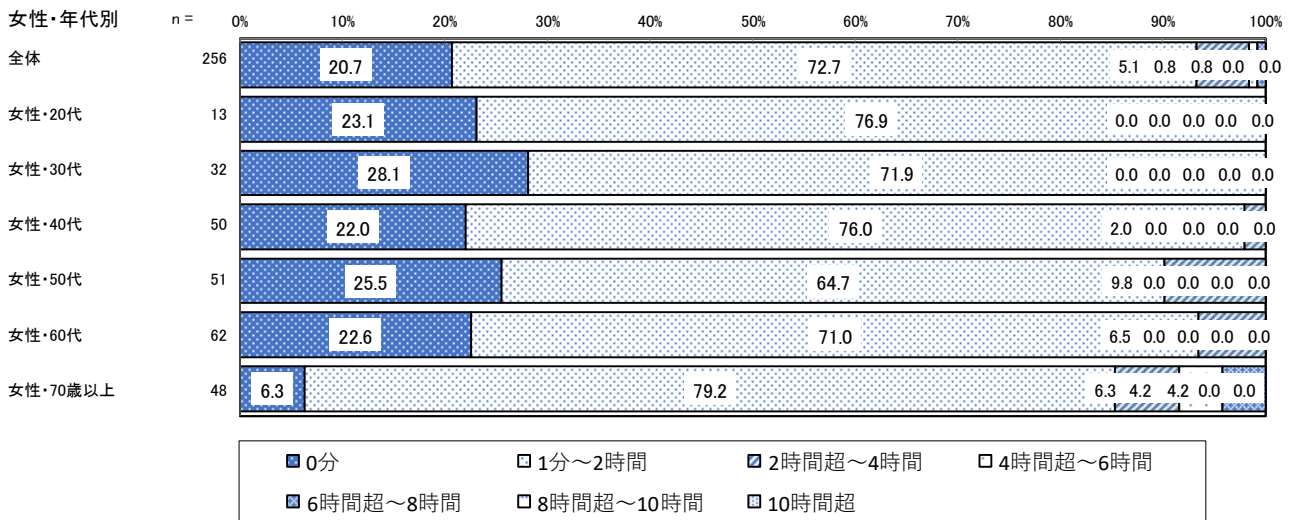
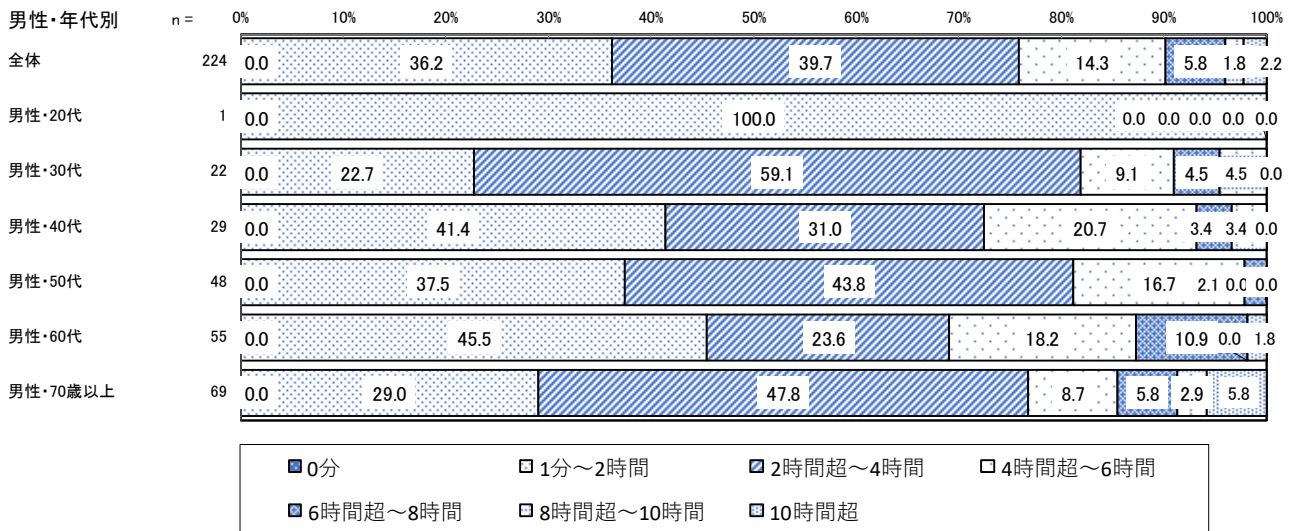
・休日



※全体から「無回答」を除いて再集計しています。

4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

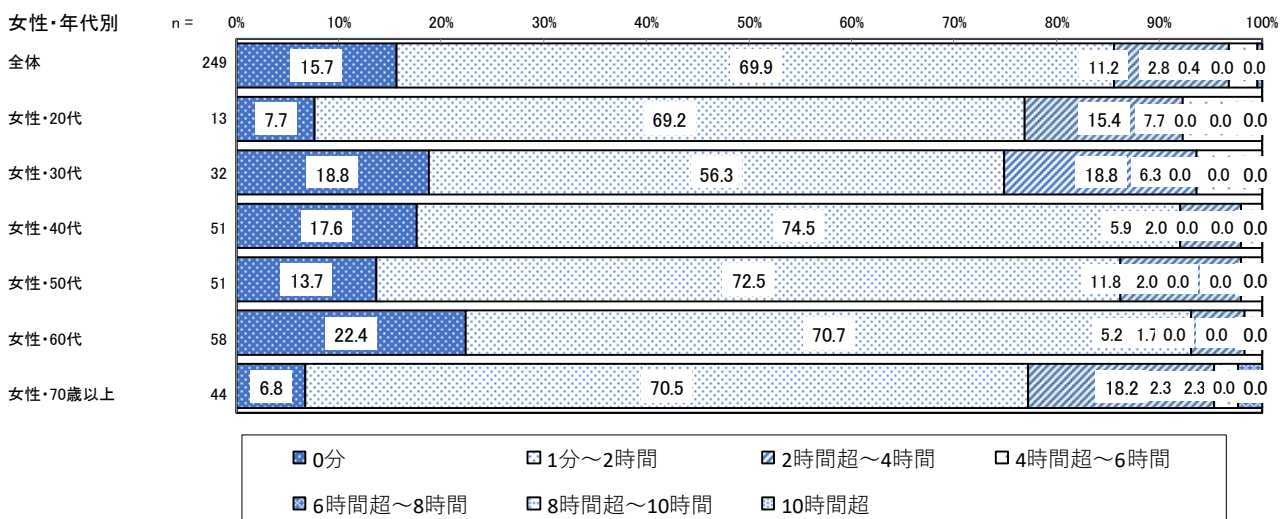
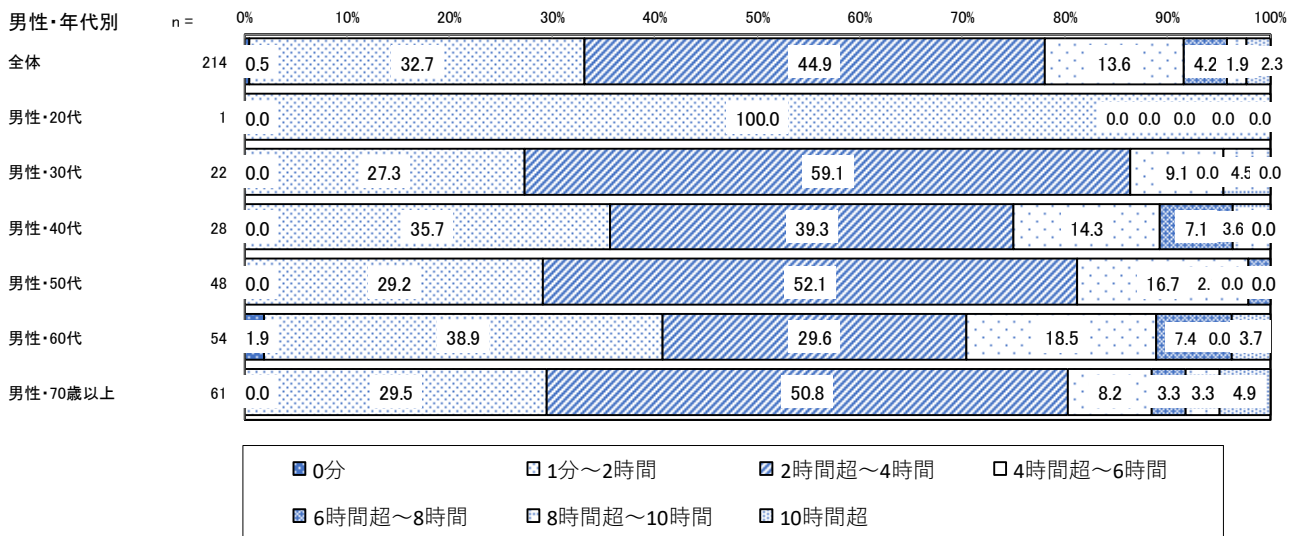
●配偶者
・平日



※全体から「無回答」を除いて再集計しています。

4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

・休日



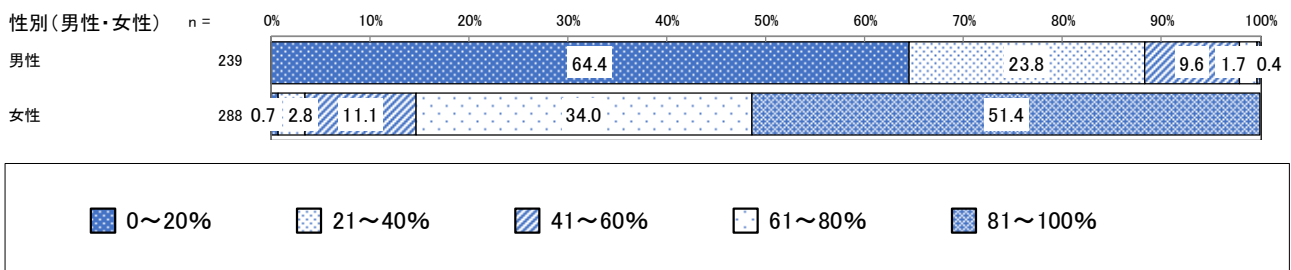
※全体から「無回答」を除いて再集計しています。

4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

問11-2 日頃、家事の分担はどのようにしていますか。全体を100%としてお答えください。

男性は「0～20%」が6割、女性は「81～100%」が5割と正反対の結果となりました。

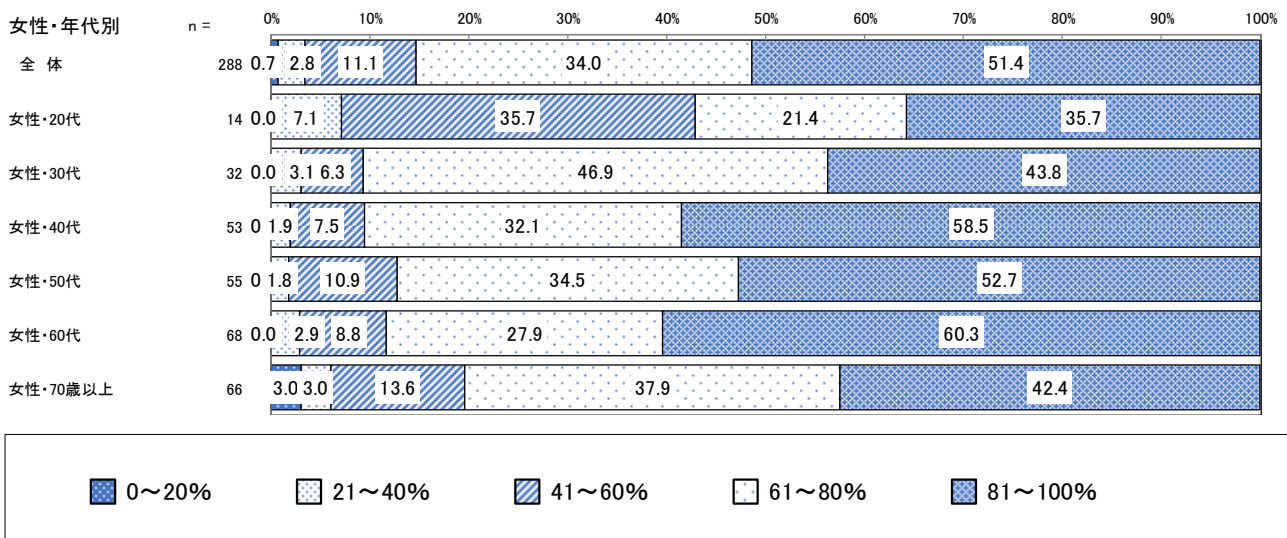
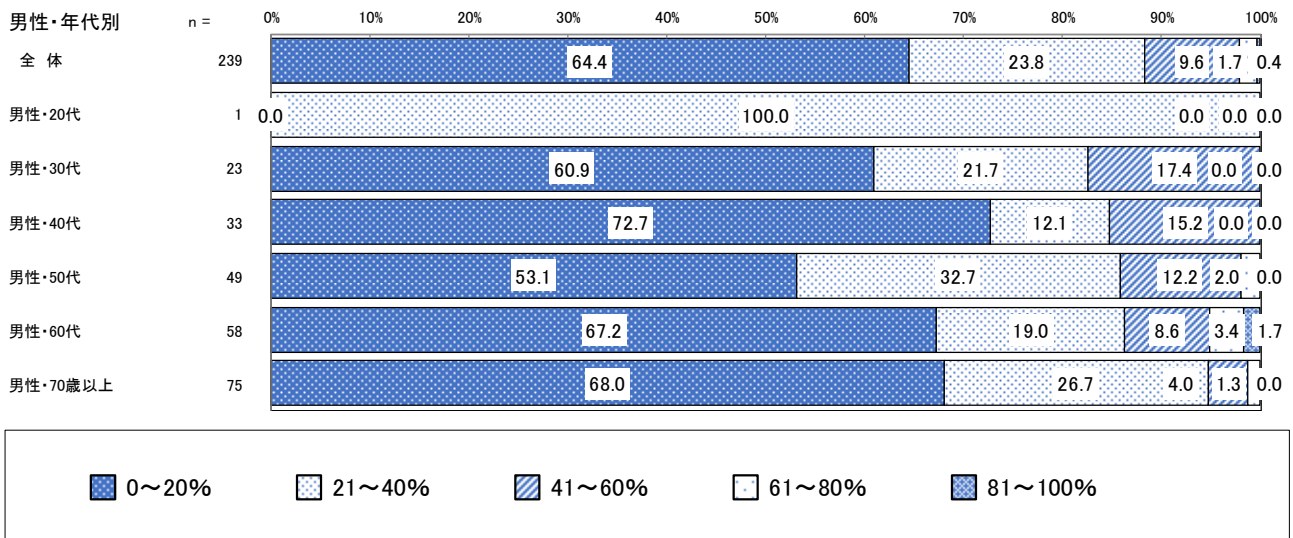
男性は「0～20%」が64.4%、女性は「81～100%」が51.4%と最も高くなっています。男性は「0～20%」が最も高く、「81～100%」まで数値が上がるにつれて割合が減っていく傾向があり、一方で女性は「81～100%」が最も高く、「0～20%」まで数値が下がるにつれて割合が減っていく傾向がみられます。



※全体から「無回答」を除いて再集計しています。

4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

【性・年代別】



4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

3 育児にかかる時間・分担

問12 あなたと配偶者は、それぞれ1日の中で、育児を何時間ぐらいしていますか。平日と休日に分けてお答えください。

男性は平日・休日いずれも「1分～2時間」が最も高くなっています。女性は、平日は「4時間超～6時間」が、休日は「10時間超」が最も高くなっています。

「あなた（回答者）」の育児の時間については、男性は「1分～2時間」が平日は79.9%、休日は47.4%で最も高くなっています。女性は平日が「4時間超～6時間」（26.4%）、休日が「10時間超」（33.8%）で最も高くなっています。

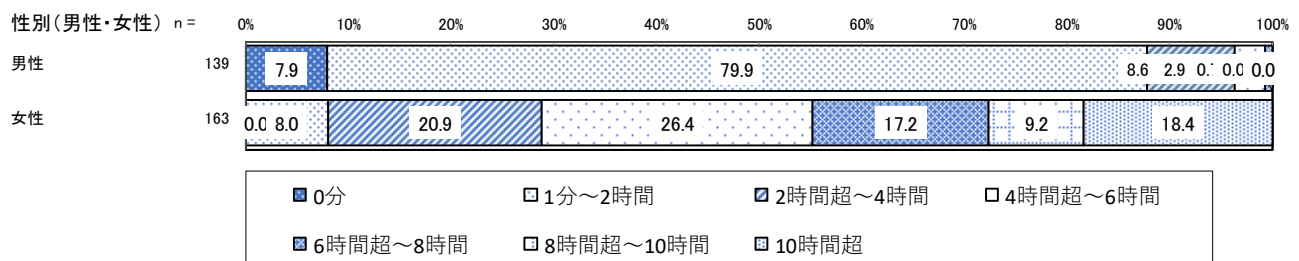
また、配偶者の育児の時間についての回答は、男性は配偶者（主に女性）の育児の時間は「2時間超～4時間」とする回答が最も割合が高く、女性自身が回答している上述の数値よりも低く見積もっている傾向がみられました。

なお、男性の1日当たりの育児平均時間は、平日1.35時間、休日3.04時間となっています。

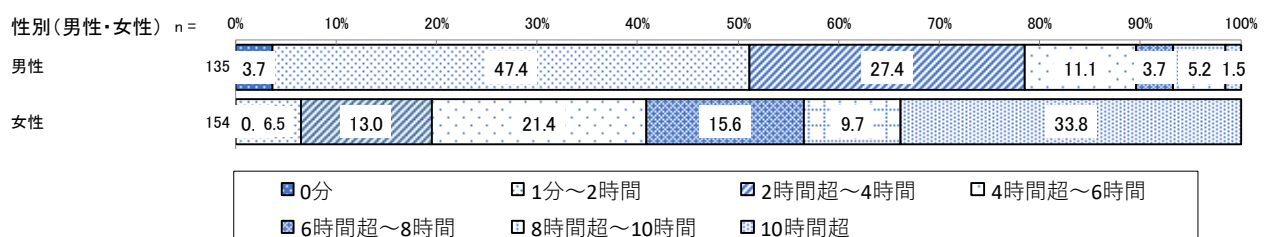
また、女性の1日当たりの育児平均時間は、平日7.23時間、休日8.71時間となっており、男性の育児時間の約4倍となっています。

●あなた（回答者）

・平日



・休日

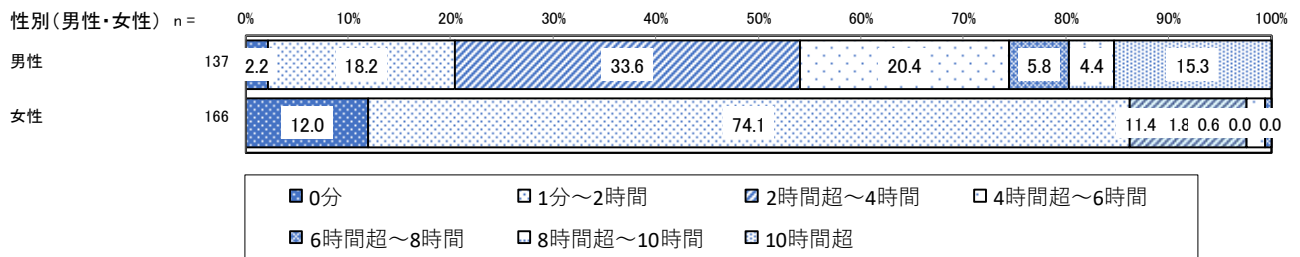


※全体から「無回答」を除いて再集計しています。

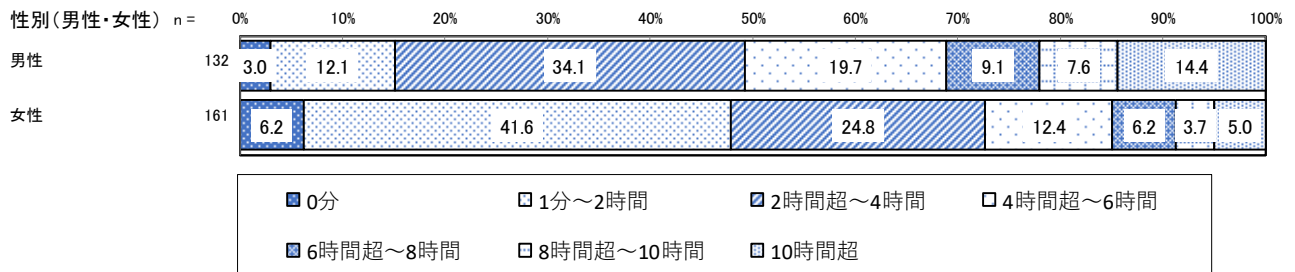
4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

●配偶者

・平日



・休日



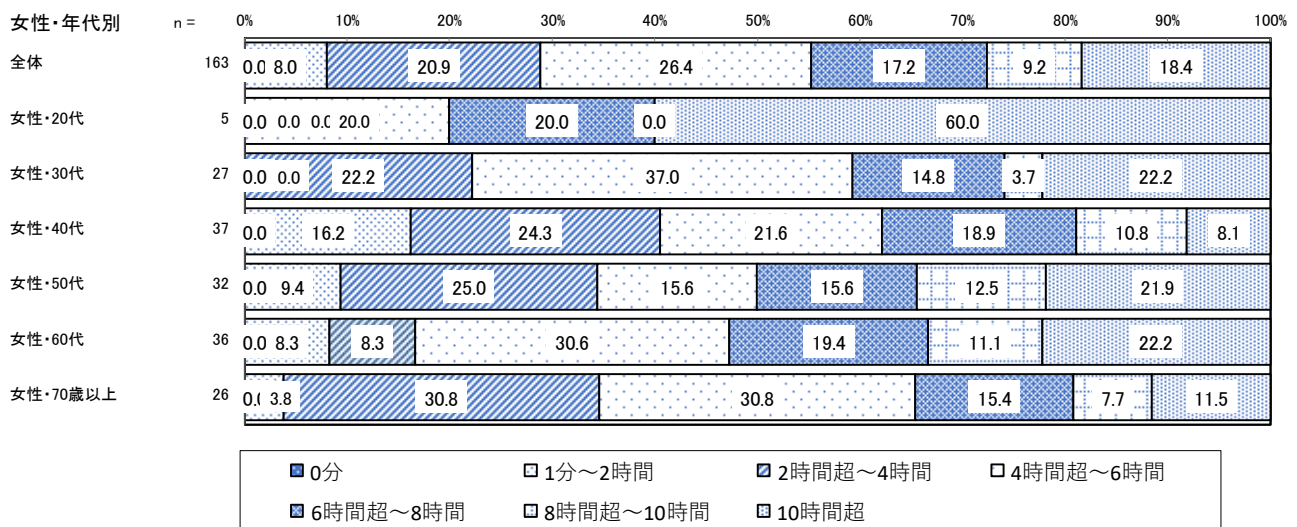
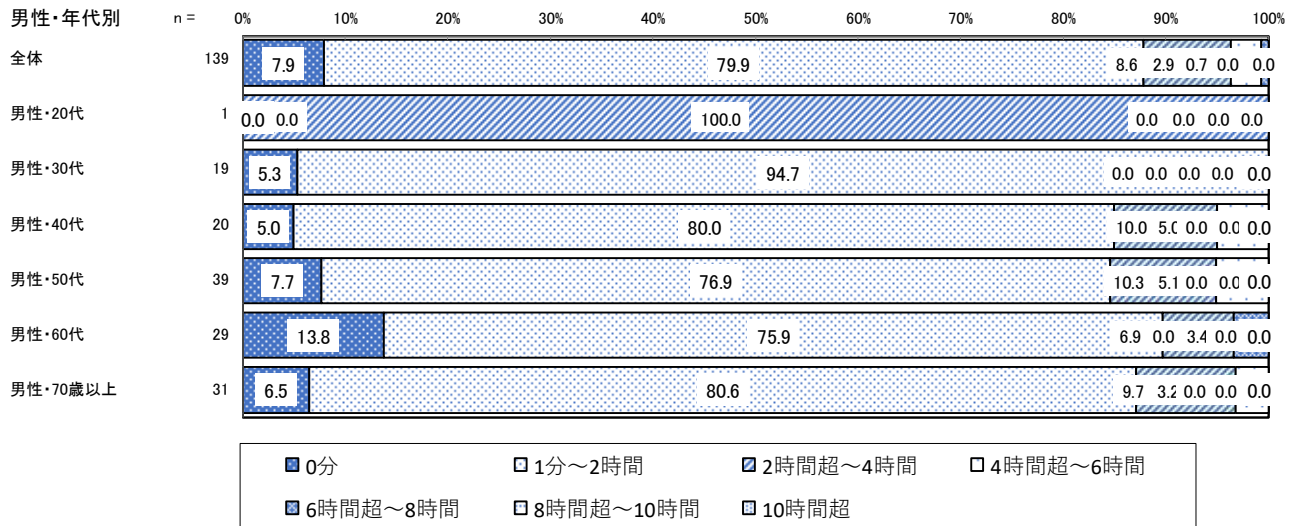
※全体から「無回答」を除いて再集計しています。

4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

【性・年代別】

●あなた（回答者）

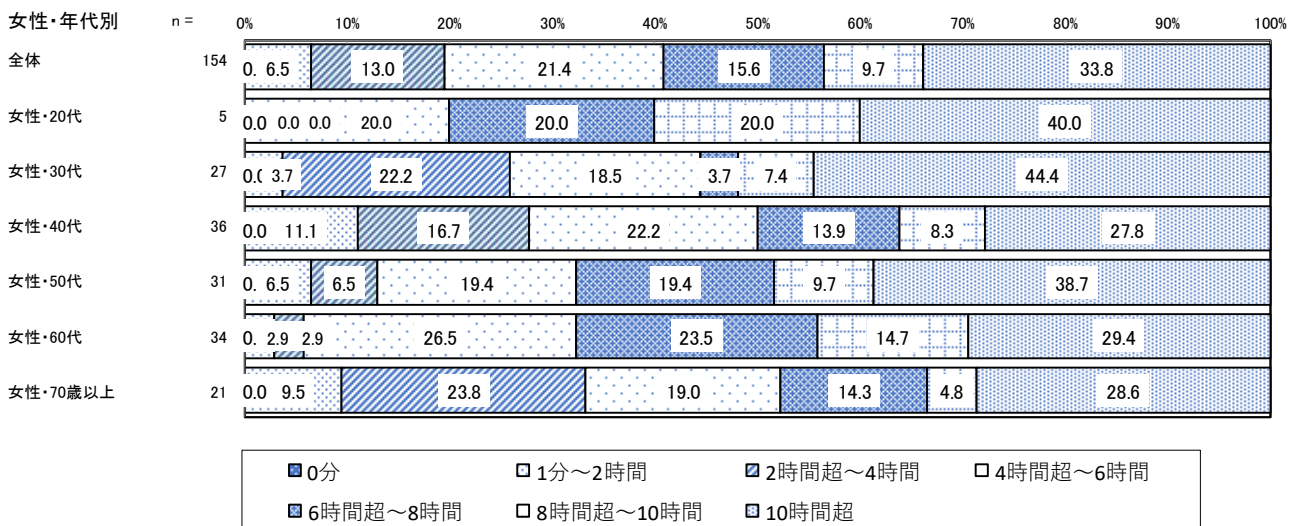
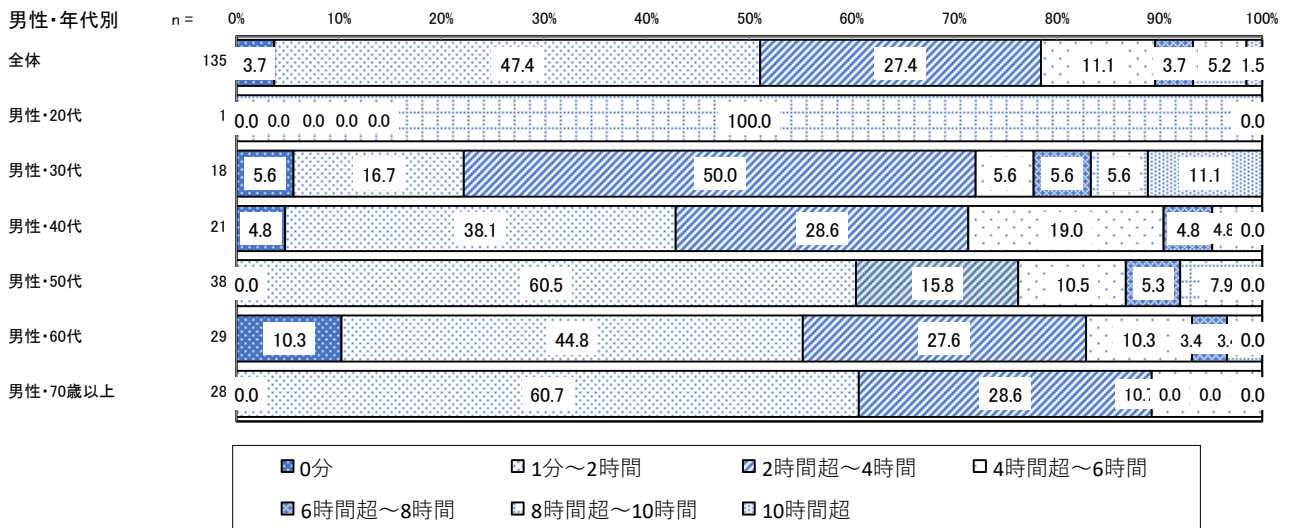
・平日



※全体から「無回答」を除いて再集計しています。

4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

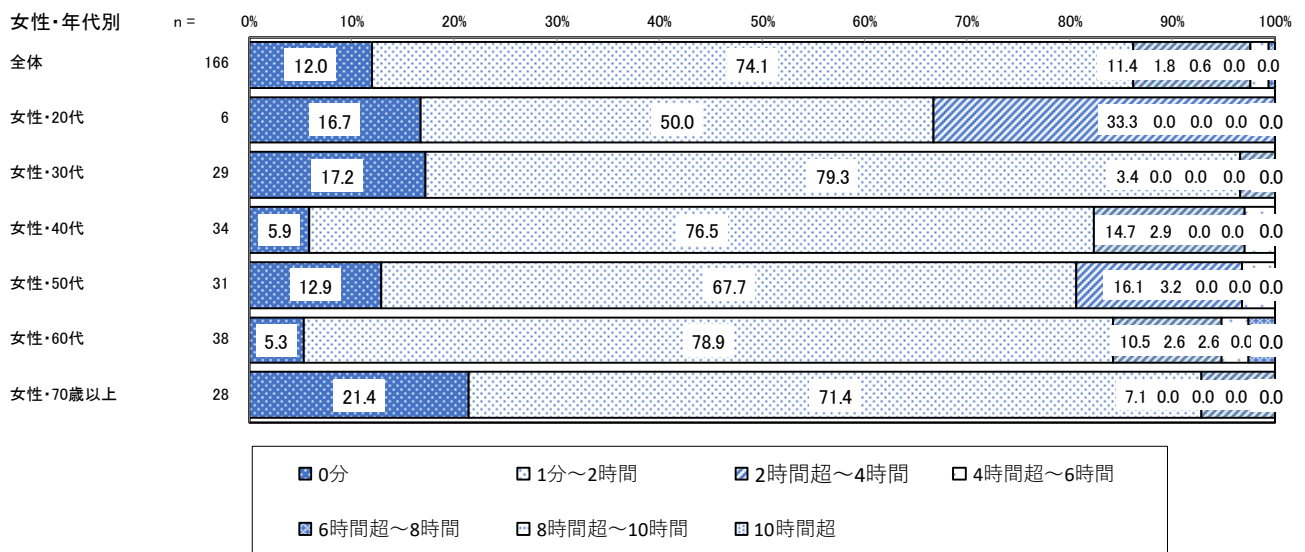
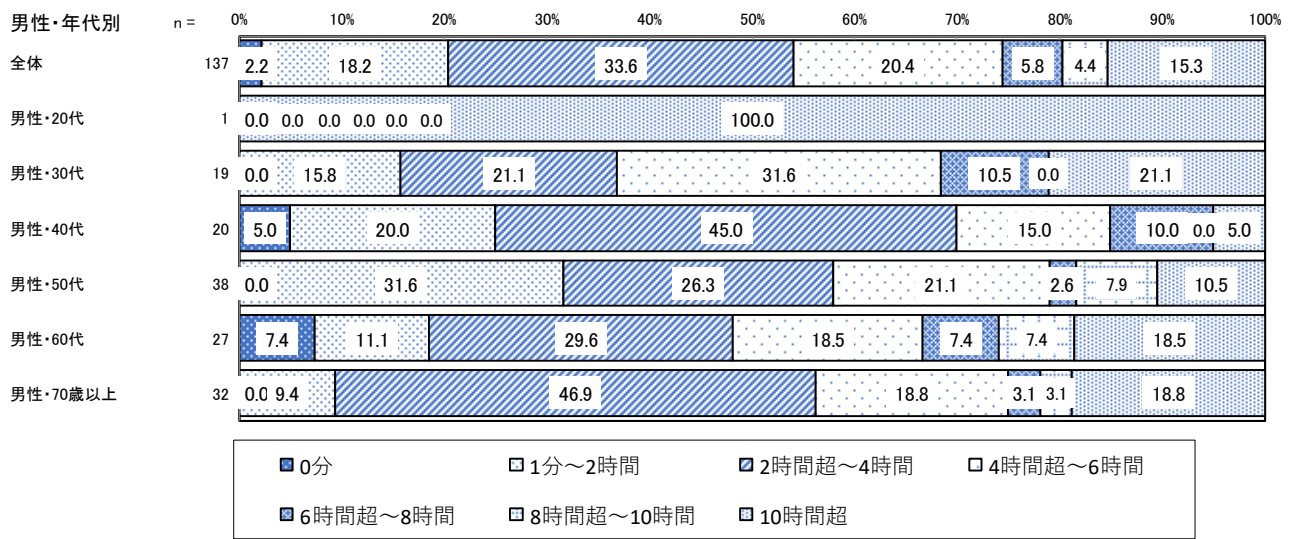
・休日



※全体から「無回答」を除いて再集計しています。

4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

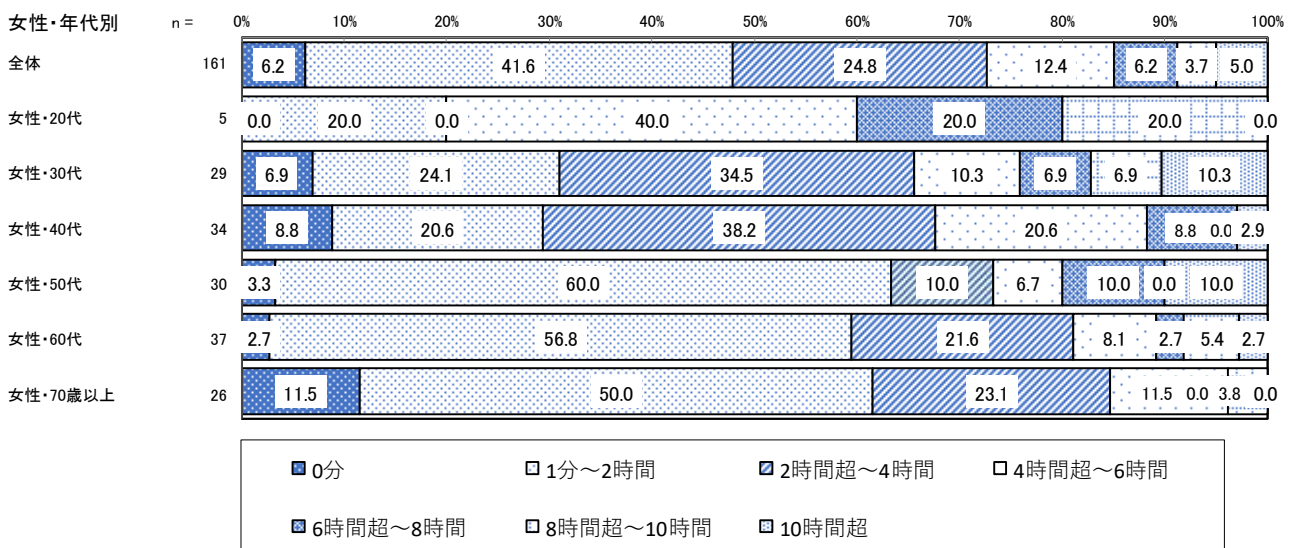
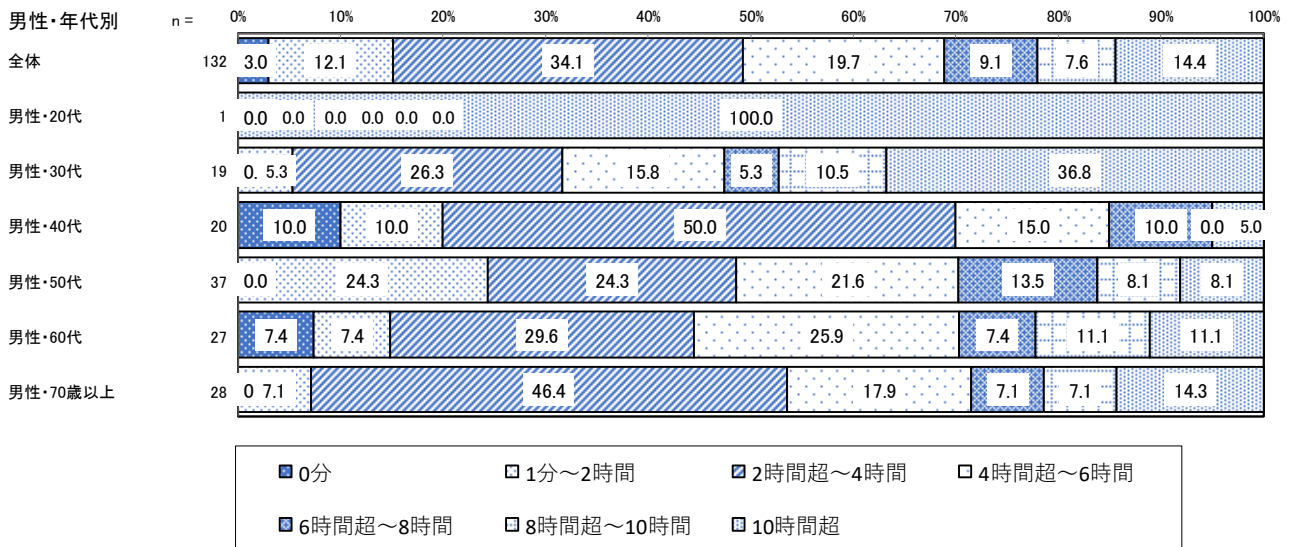
●配偶者
・平日



※全体から「無回答」を除いて再集計しています。

4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

・休日



※全体から「無回答」を除いて再集計しています。

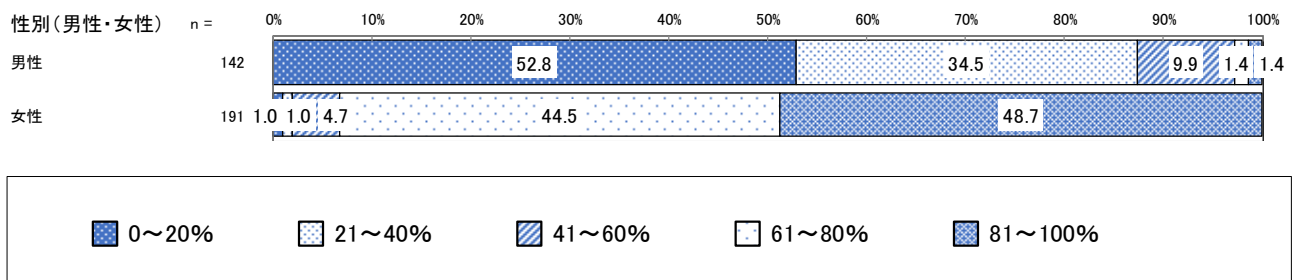
4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

問12-2 日頃、育児の分担はどのようにしていますか。全体を100%としてお答えください。

男性は「0～20%」が5割、女性は「81～100%」が約5割で最も高くなっています。

男性は「0～20%」が52.8%と最も高く、次に「21～40%」が34.5%となっています。女性は「81～100%」が48.7%で最も高く、次に「61～80%」が44.5%となっています。

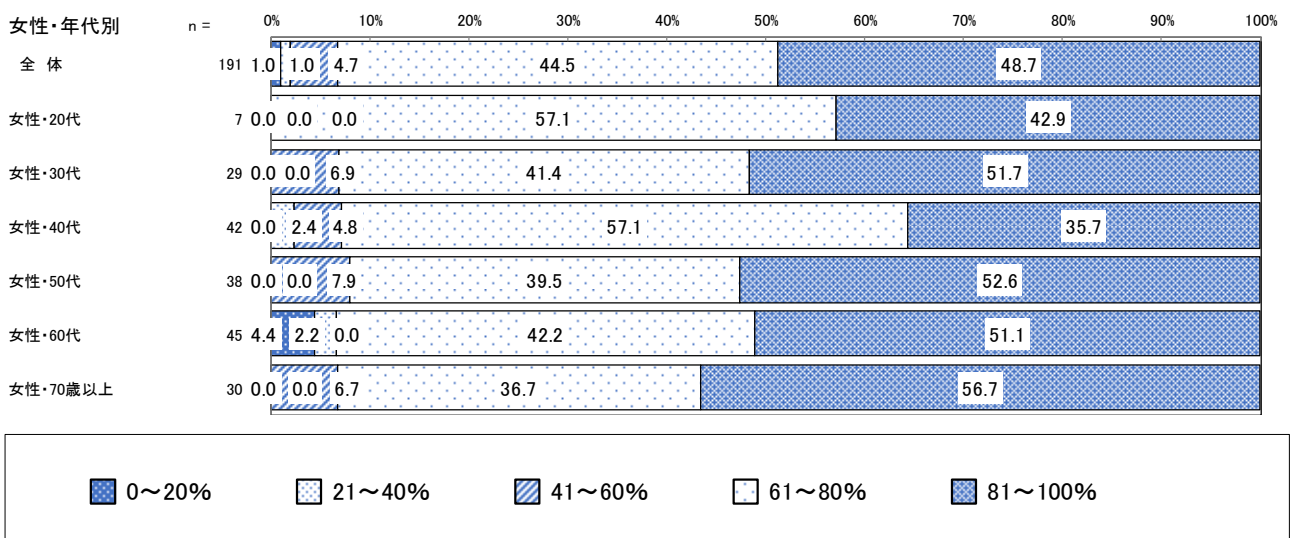
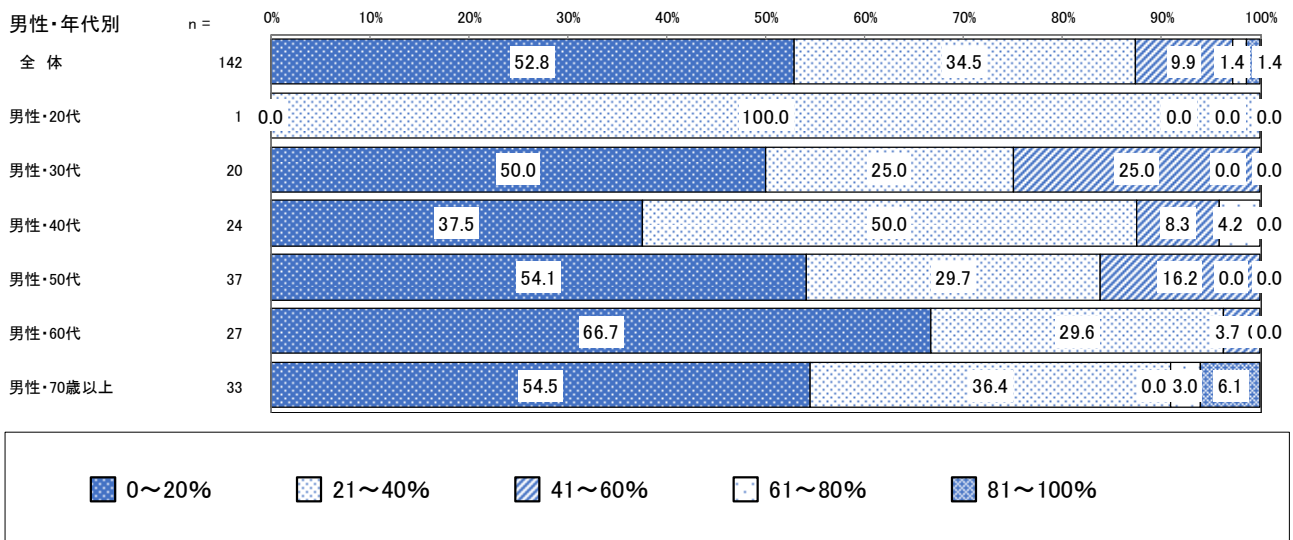
年代別にみても、男性が低いパーセンテージが多く、女性は高いパーセンテージが多くなっています。サンプル数の少ない20代は除いたとしても、30代の比較的若い世代においても傾向は変わっていません。



※全体から「無回答」を除いて再集計しています。

4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

【性・年代別】



※全体から「無回答」を除いて再集計しています。

4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

4 子育てしやすい環境づくりに必要な行政の取組

問13 子どもを育てやすい環境づくりをするには、行政としてどのような取組が必要だと思いますか。(3つまでに○)

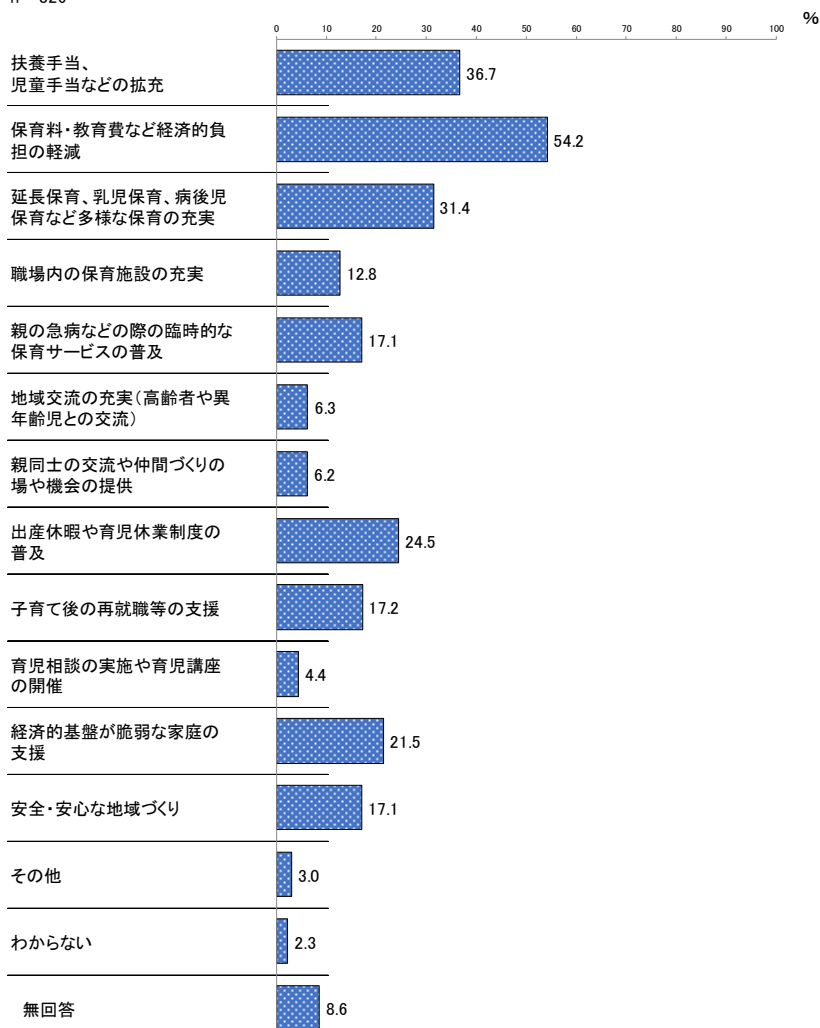
「保育料・教育費など経済的負担の軽減」が約5割、「扶養手当、児童手当などの拡充」が3割強と、経済的な支援が求められています。

子育て環境改善のために必要な行政の取組では、「保育料・教育費など経済的負担の軽減」(54.2%)が最も高く、次に「扶養手当、児童手当などの拡充」(36.7%)、「延長保育、乳児保育、病後児保育など多様な保育の充実」(31.4%)の順となっています。

性別でみると、男性は、「保育料・教育費など経済的負担の軽減」、「扶養手当、児童手当などの拡充」といった経済的な支援を求める割合が高くなっているのに対し、女性は、「延長保育、乳児保育、病後児保育など多様な保育の充実」、「親の急病などの際の臨時的な保育サービスの普及」といった保育の充実を求める割合が高くなっています。

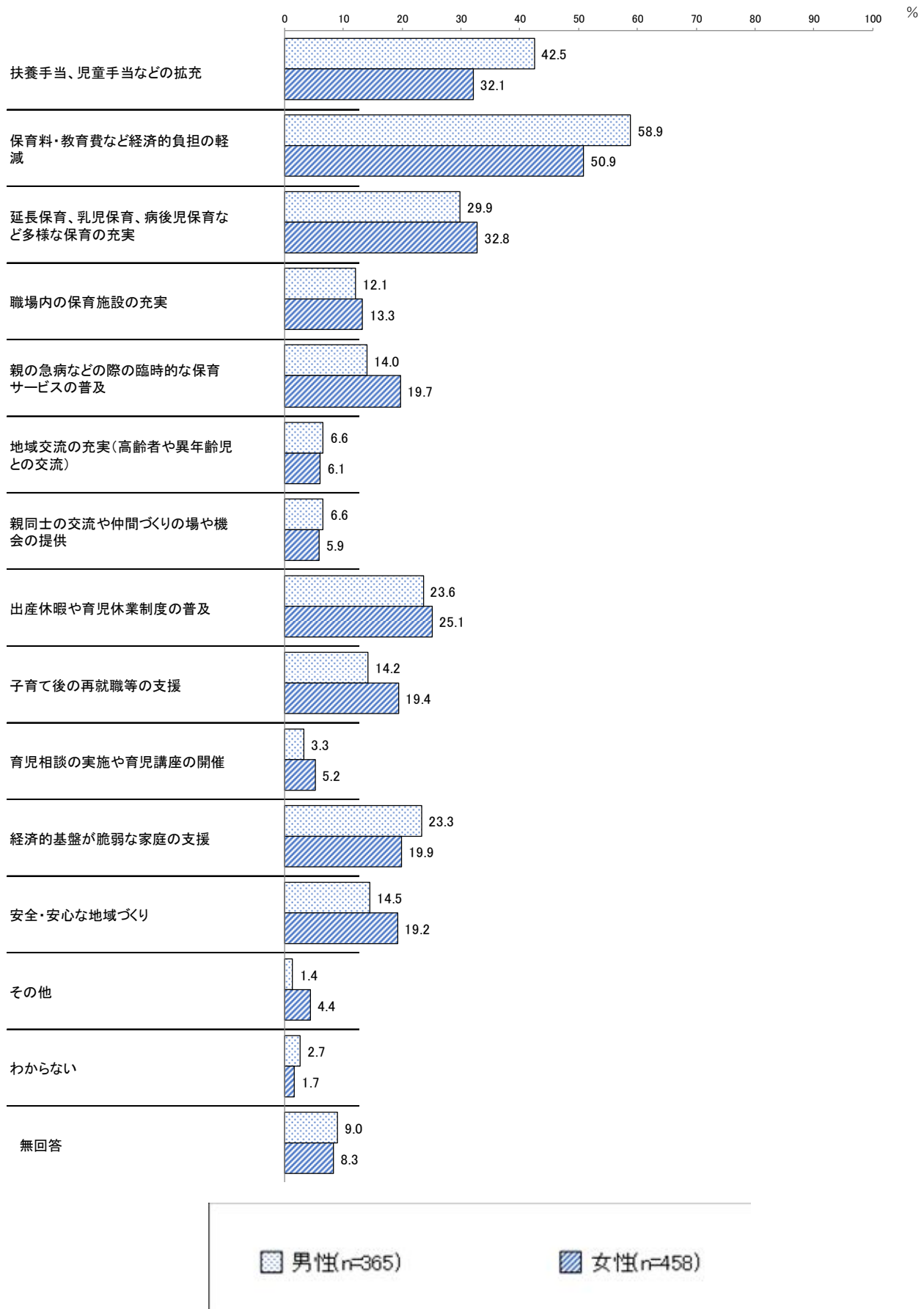
経年比較でみると、平成25年度以降、「扶養手当、児童手当などの拡充」が増加傾向にあります。また、令和3年度は、「保育料・教育費など経済的負担の軽減」や「経済的基盤が脆弱な家庭の支援」といった経済的支援に関する項目が増加しました。

n = 826



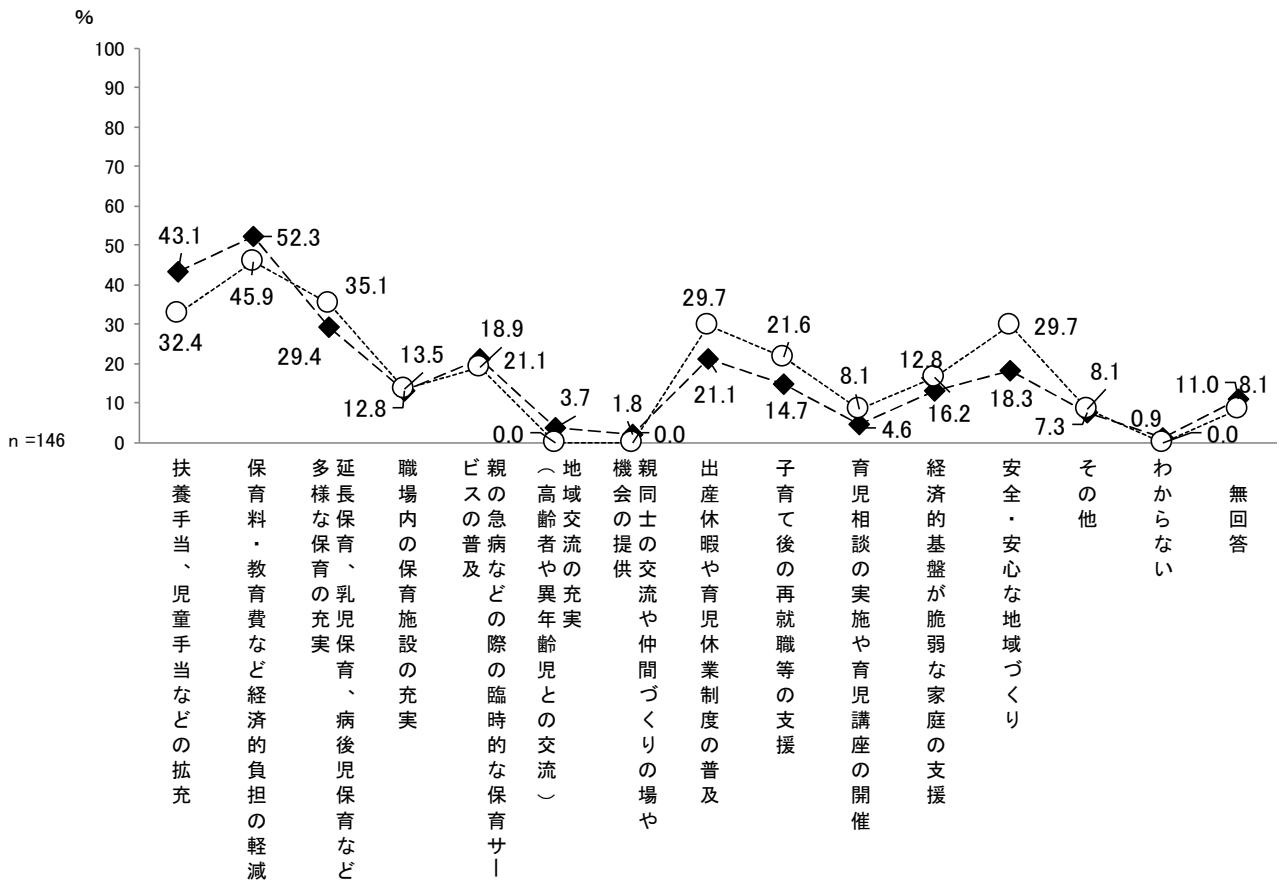
4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

【性別】



4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

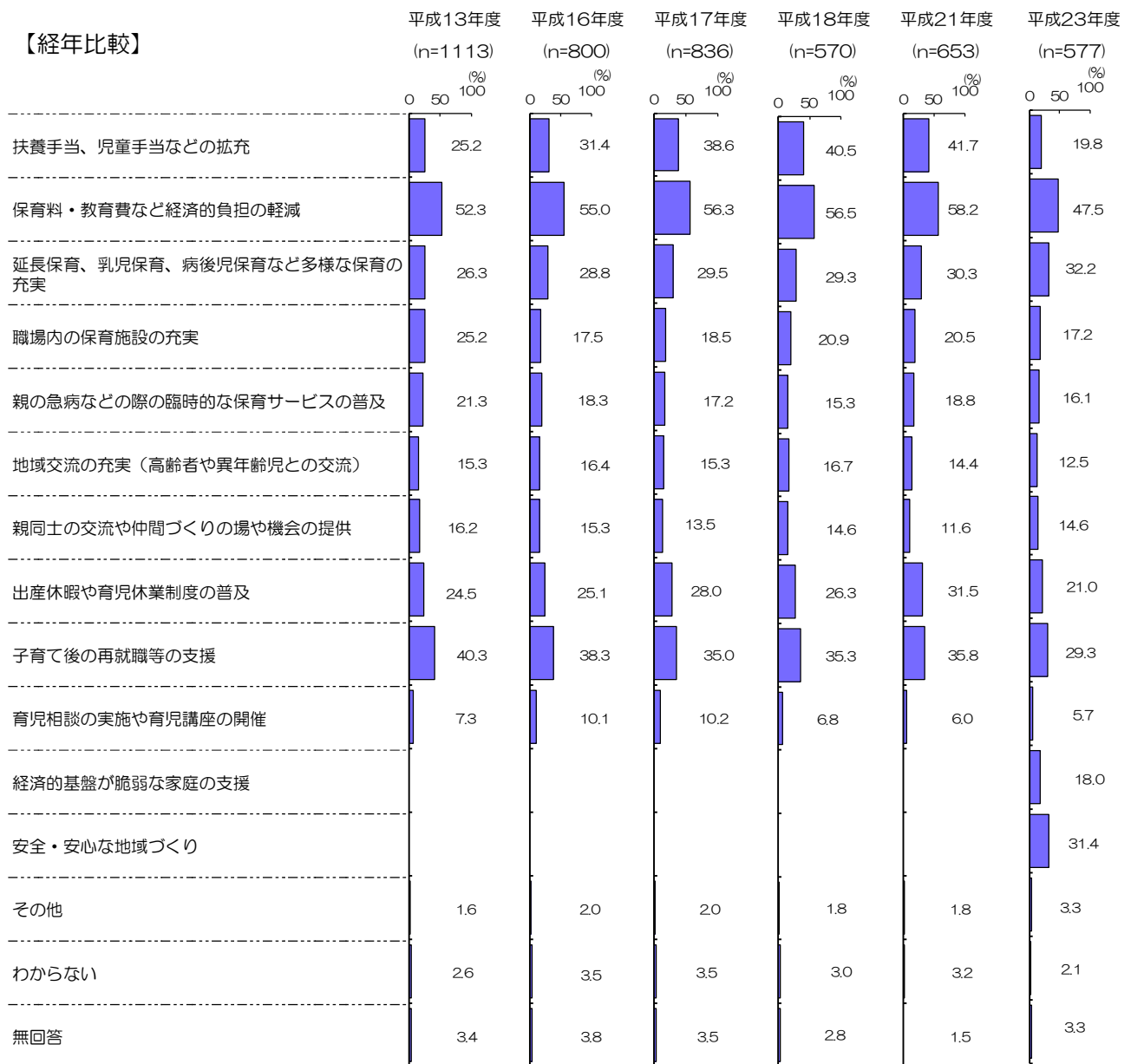
【女性の子育て世代・職業の有無別】



◆ 子育て世代・勤め人・自営業(n=109)

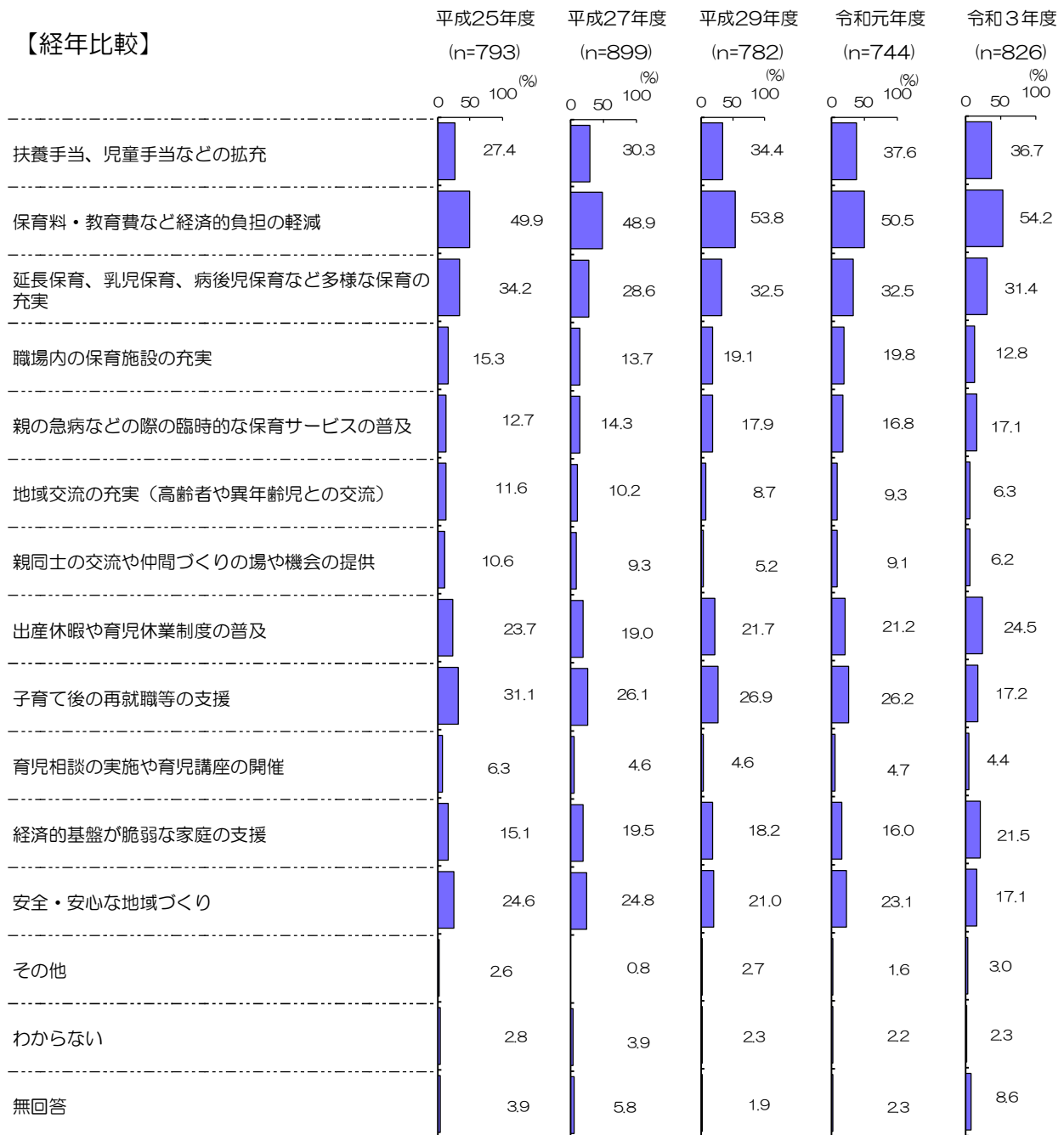
○ 子育て世代・専業主婦・無職・学生(n=37)

4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について



※「経済的基盤が脆弱な家庭の支援」、「安全・安心な地域づくり」は平成23年度より追加

4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について



4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

5 男性が家事・育児を行うことに対するイメージ

問14 男性が家事・育児を行うことについて、どのようなイメージをお持ちですか。

(あてはまるもの全てに○)

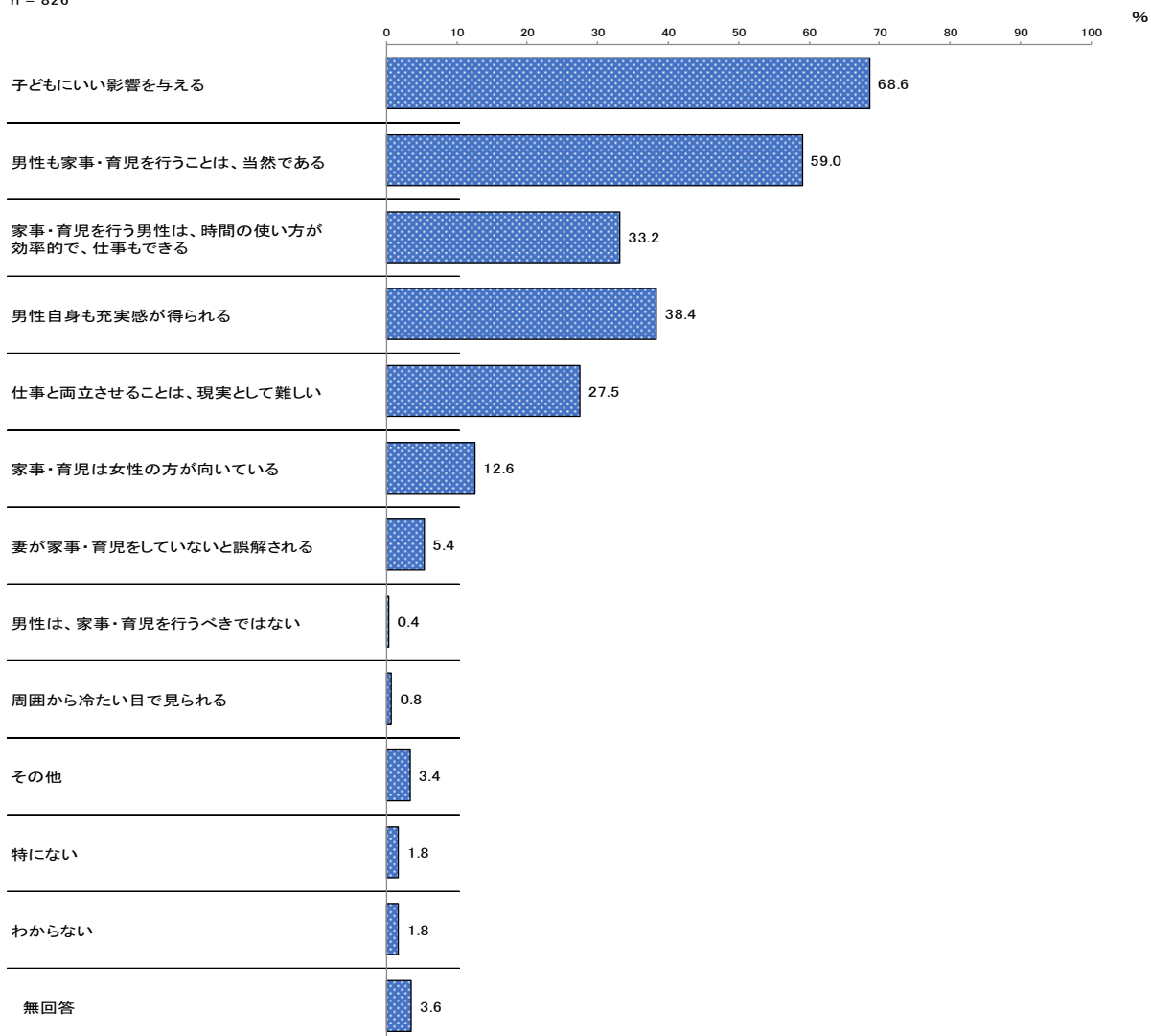
「子どもにいい影響を与える」が7割近く、「男性も家事・育児を行うことは、当然である」が6割近くとなっています。

男性が家事・育児を行うことへのイメージでは、「子どもにいい影響を与える」(68.6%)が最も高く、次に「男性も家事・育児を行うことは、当然である」(59.0%)、「男性自身も充実感が得られる」(38.4%)、「家事・育児を行う男性は、時間の使い方が効率的で、仕事もできる」(33.2%)、「仕事と両立させることは、現実として難しい」(27.5%)の順となっています。

性別でみると、「子どもにいい影響を与える」は女性の割合が高くなっている一方で、「家事・育児は女性の方が向いている」は男性の割合が高くなっており、意識の差が見られます。

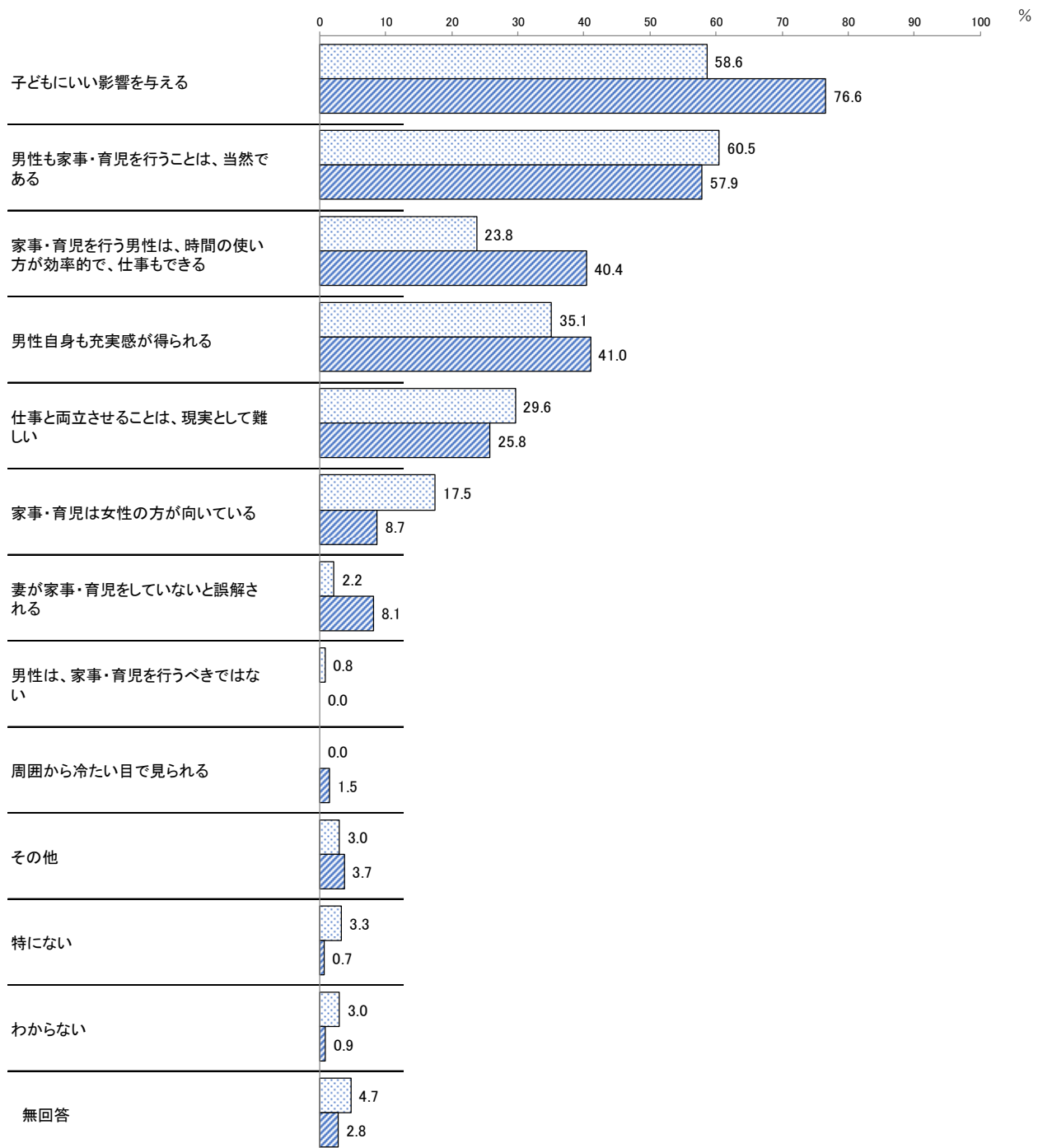
経年比較でみると、平成27年度以降、「子どもにいい影響を与える」が増加しています。「家事・育児は女性の方が向いている」は減少しています。

n = 826



4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

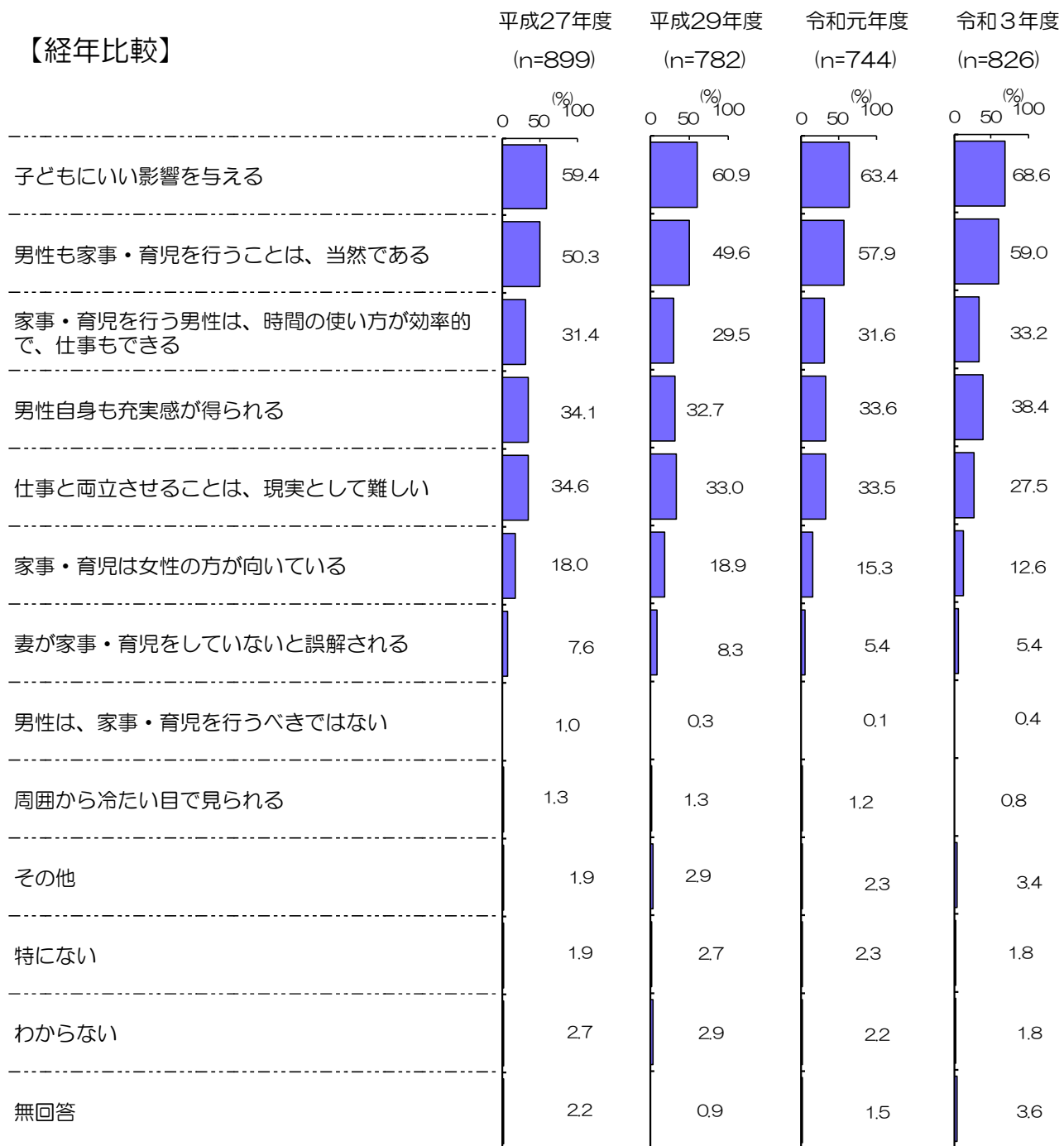
【性別】



■ 男性(n=365)

■ 女性(n=458)

4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について



4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

6 男性の育児休業や介護休業の取得について

問15 育児や介護を行うために、育児休業や介護休業を取得できる制度があります。この制度を活用して男性が育児休業や介護休業を取ることに、あなたはどのように考えますか。(それぞれ1つに○)

『取ったほうがよい』は、育児休業が8割強、介護休業が9割近くとなっています。

【①育児休業】では、「積極的に取ったほうがよい」は49.3%、「どちらかといえば取ったほうがよい」は34.6%で、合わせて83.9%が『取ったほうがよい』となっています。

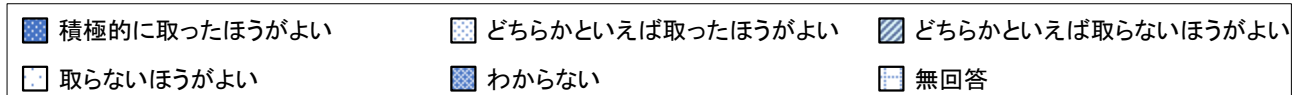
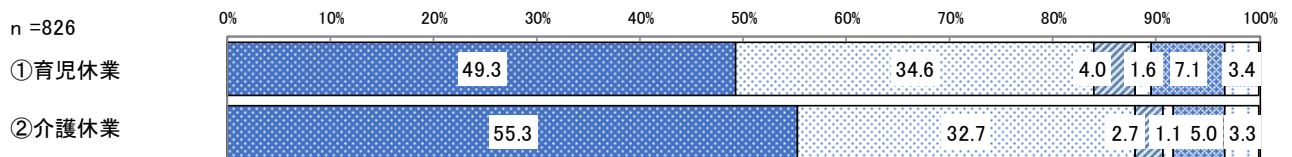
性別で見ると、「積極的に取ったほうがよい」は、男性より女性の方が上回っています。

経年比較をみると、『取ったほうがよい』は増加し、令和3年度は8割を超えました。

【②介護休業】では、「積極的に取ったほうがよい」は55.3%、「どちらかといえば取ったほうがよい」は32.7%で、合わせて88.0%が『取ったほうがよい』となっています。

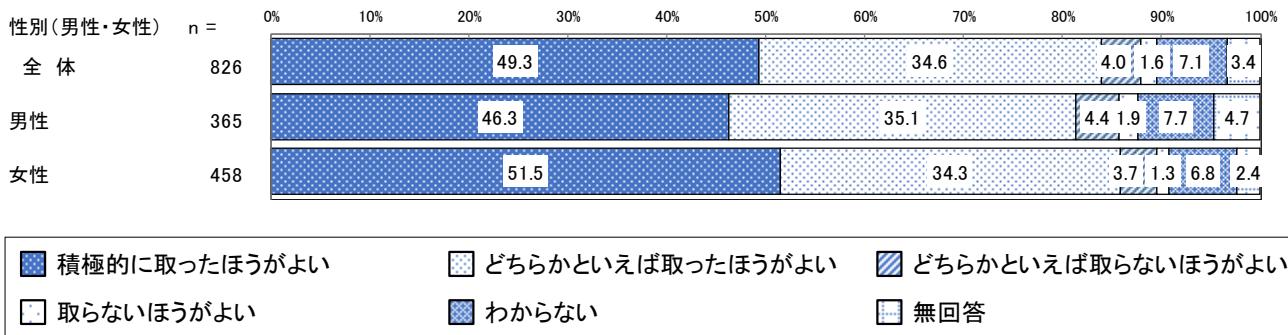
性別で見ると、「積極的に取ったほうがよい」は、男性より女性の方が上回っています。

経年比較をみると、『取ったほうがよい』が増加傾向で推移しています。

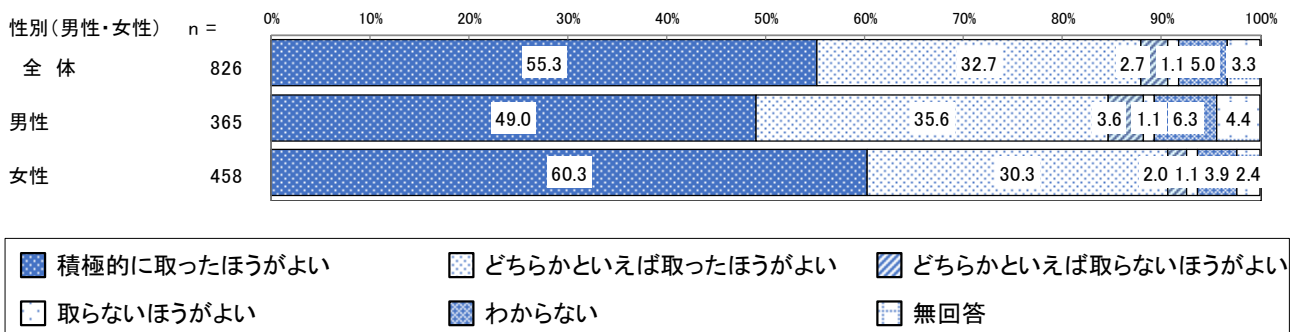


4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

①育児休業

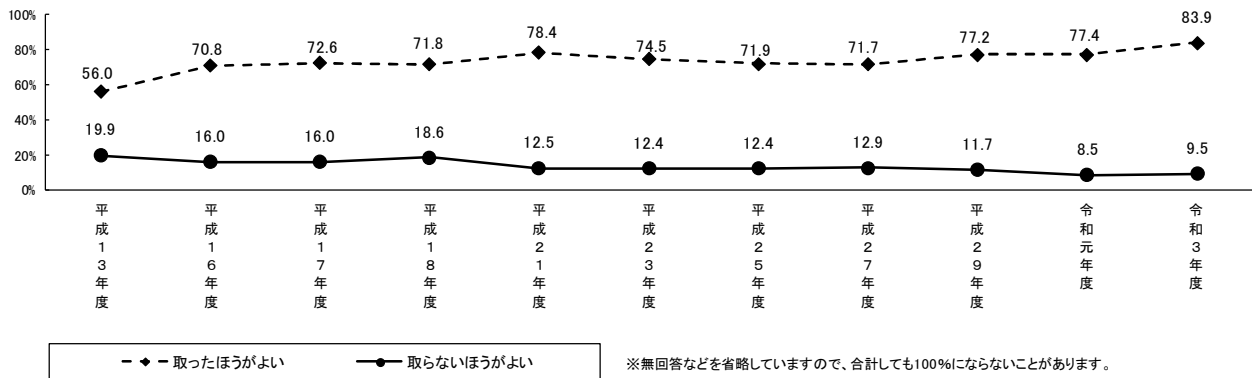


②介護休業



4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

【経年比較】◀①育児休業▶

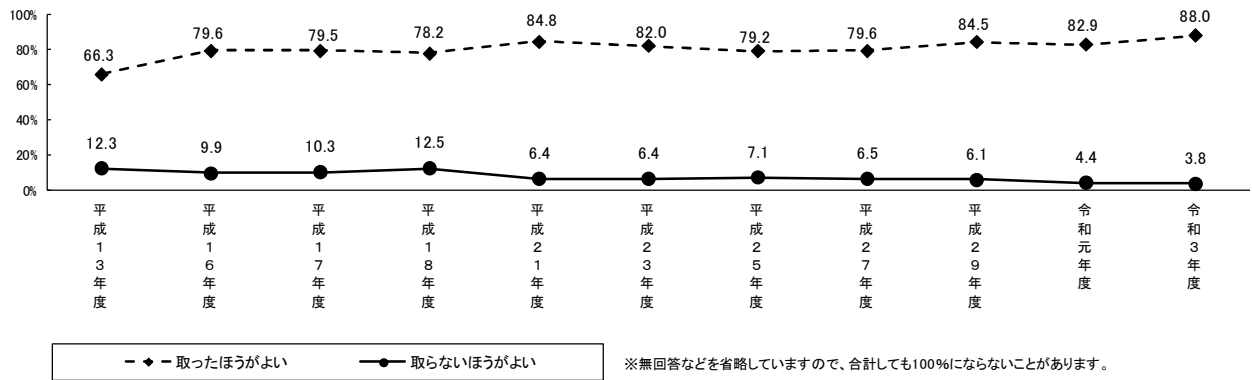


※『取ったほうがよい』（「積極的に取ったほうがよい」＋「どちらかといえば取ったほうがよい」）、『取らないほうがよい』（「取らないほうがよい」＋「どちらかといえば取らないほうがよい」）

	調査数	積極的に取った ほうがよい	どちらかといえば 取ったほうがよい	どちらかといえば 取らないほうがよい	取らないほうがよい	わからない	無回答
平成13年度	1,133	25.6%	30.4%	14.7%	5.2%	8.3%	15.8%
平成16年度	800	35.9%	34.9%	11.5%	4.5%	8.8%	4.5%
平成17年度	836	34.6%	38.0%	11.8%	4.2%	8.0%	3.3%
平成18年度	570	35.1%	36.7%	12.6%	6.0%	5.8%	3.9%
平成21年度	653	42.6%	35.8%	10.0%	2.5%	6.7%	2.5%
平成23年度	577	39.3%	35.2%	8.8%	3.6%	8.7%	4.3%
平成25年度	793	35.8%	36.1%	9.0%	3.4%	11.1%	4.7%
平成27年度	899	35.0%	36.7%	9.8%	3.1%	10.9%	4.4%
平成29年度	782	34.1%	43.1%	9.0%	2.7%	9.7%	1.4%
令和元年度	744	42.9%	34.5%	6.7%	1.7%	10.5%	3.6%
令和3年度	826	49.3%	34.6%	4.0%	1.6%	7.1%	3.4%

4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

【経年比較】《②介護休業》



※『取ったほうがよい』（「積極的に取ったほうがよい」＋「どちらかといえば取ったほうがよい」）、『取らないほうがよい』（「取らないほうがよい」＋「どちらかといえば取らないほうがよい」）

	調査数	積極的に取った ほうがよい	どちらかといえば 取ったほうがよい	どちらかといえば 取らないほうがよい	取らないほうがよい	わからない	無回答
平成13年度	1,133	32.3%	34.0%	10.2%	2.1%	6.3%	15.1%
平成16年度	800	40.6%	39.0%	7.6%	2.3%	6.5%	4.0%
平成17年度	836	38.8%	40.7%	8.0%	2.3%	6.9%	3.0%
平成18年度	570	38.2%	40.0%	10.2%	2.3%	6.1%	3.2%
平成21年度	653	47.6%	37.2%	5.5%	0.9%	6.3%	2.5%
平成23年度	577	44.0%	38.0%	5.2%	1.2%	8.0%	3.6%
平成25年度	793	42.5%	36.7%	5.5%	1.6%	9.3%	4.3%
平成27年度	899	40.3%	39.3%	5.3%	1.2%	10.0%	3.9%
平成29年度	782	41.4%	43.1%	4.6%	1.5%	8.2%	1.2%
令和元年度	744	47.0%	35.9%	3.5%	0.9%	9.1%	3.5%
令和3年度	826	55.3%	32.7%	2.7%	1.1%	5.0%	3.3%

5 意思決定の過程への女性の参画について

1 各分野における女性の意見の反映状況

問16 あなたは、次のような分野で女性の意見がどの程度反映されていると思いますか。

(それぞれ1つに○)

【③企業などの職場】、【④PTAや町内会などの地域】では、『反映されている』の割合が『反映されていない』よりも高くなっています。【①国会、県議会、市町村議会などの政治】、【②国、県、市町村などの行政】では、『反映されていない』の割合が『反映されている』よりも高くなっています。

【①国会、県議会、市町村議会などの政治】では、『反映されていない』(52.3%「ほとんど反映されていない+あまり反映されていない」)が最も高く、次に『反映されている』(26.2%、「十分反映されている」+「ある程度反映されている」)となっています。

年齢別でみると、50代は、『反映されていない』(61.3%「ほとんど反映されていない+あまり反映されていない」)が高くなっています。

【②国、県、市町村などの行政】では、『反映されていない』(49.4%「ほとんど反映されていない+あまり反映されていない」)が最も高く、次に『反映されている』(28.7%、「十分反映されている」+「ある程度反映されている」)となっています。

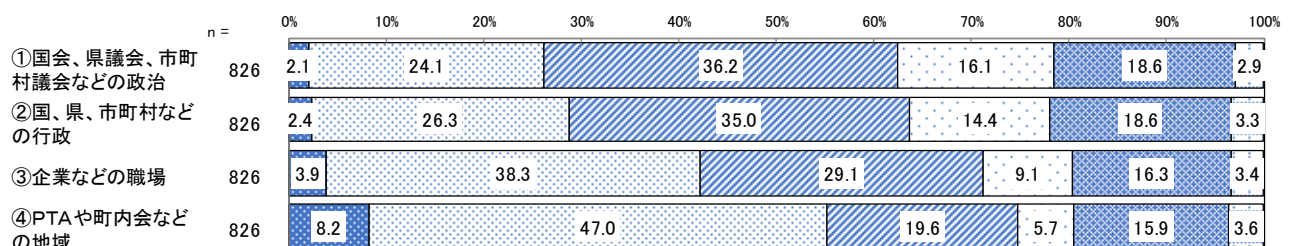
年齢別でみると、50代は、『反映されていない』(56.2%「ほとんど反映されていない+あまり反映されていない」)が高くなっています。

【③企業などの職場】では、『反映されている』(42.2%、「十分反映されている」+「ある程度反映されている」)が最も高く、次に『反映されていない』(38.2%「ほとんど反映されていない+あまり反映されていない」)となっています。

年齢別でみると、50代は、『反映されている』(53.2%、「十分反映されている」+「ある程度反映されている」)が高くなっています。60代は、『反映されていない』(47.6%「ほとんど反映されていない+あまり反映されていない」)が高くなっています。

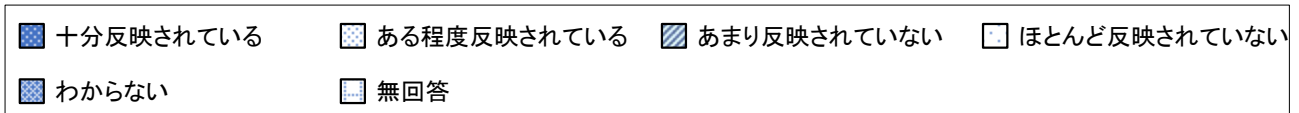
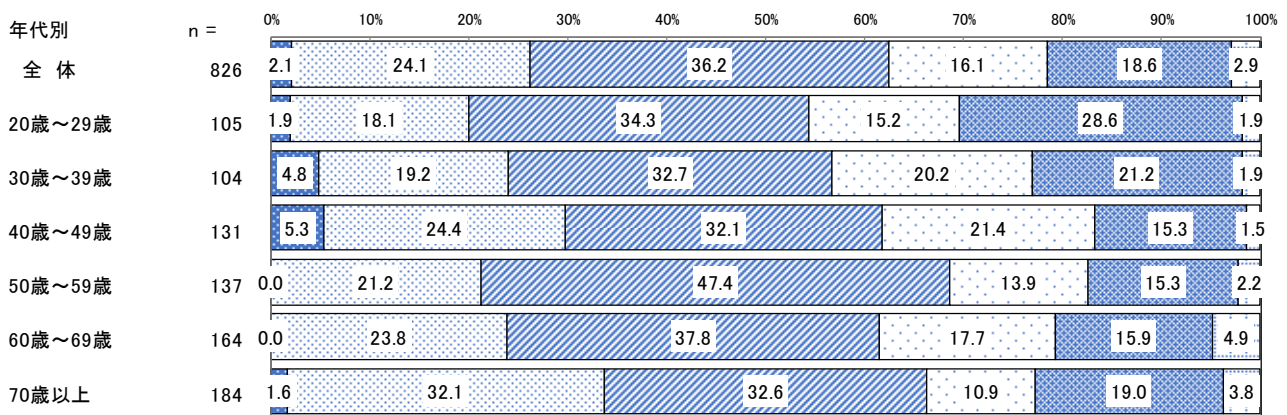
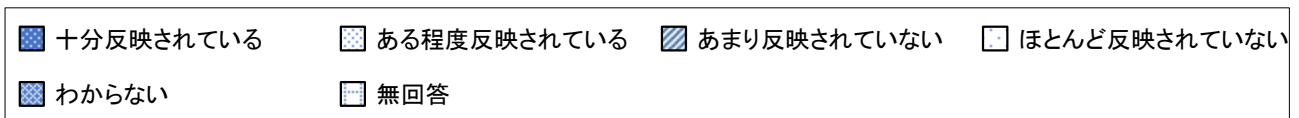
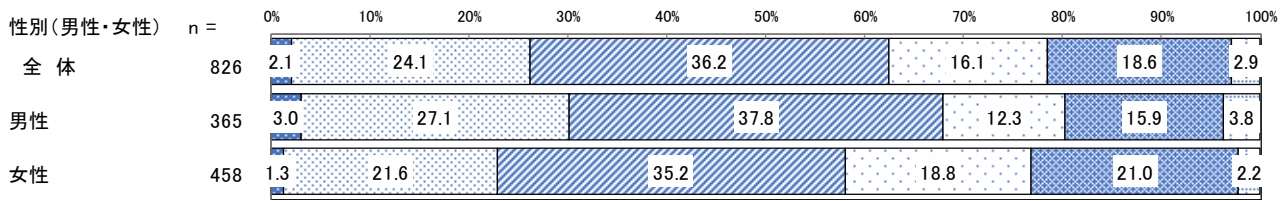
【④PTAや町内会などの地域】では、『反映されている』(55.2%、「十分反映されている」+「ある程度反映されている」)が最も高く、次に『反映されていない』(25.3%「ほとんど反映されていない+あまり反映されていない」)となっています。

「反映されている」は減少傾向でしたが、令和元年度では増加しています。

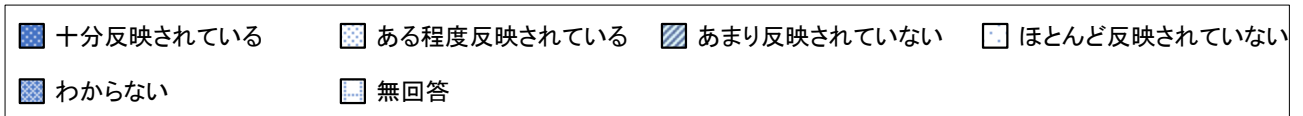
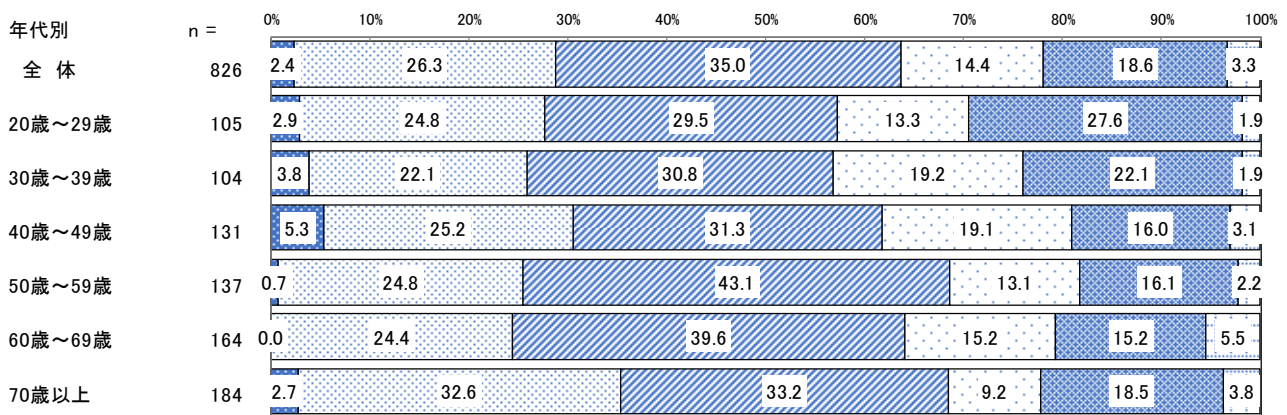
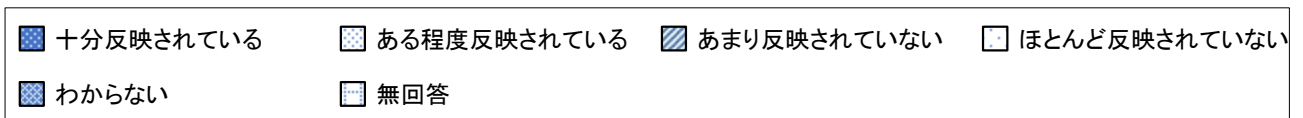
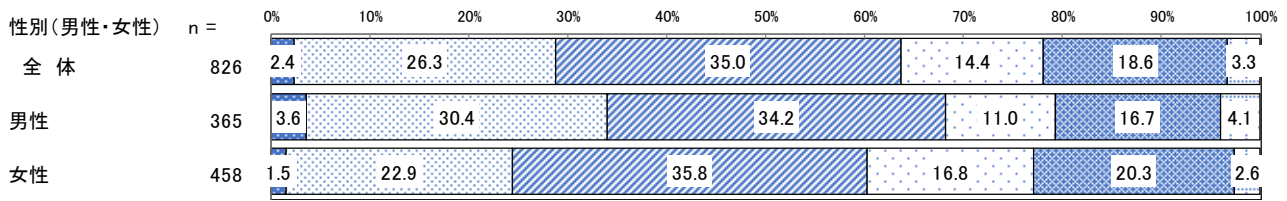


十分反映されている
 ある程度反映されている
 あまり反映されていない
 ほとんど反映されていない
 わからない
 無回答

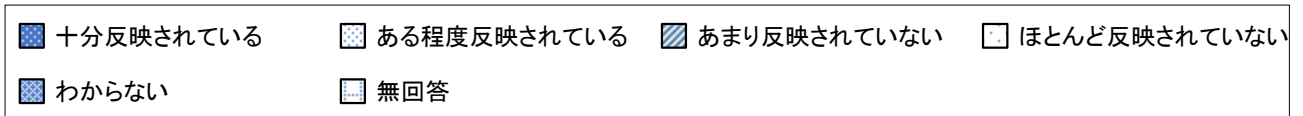
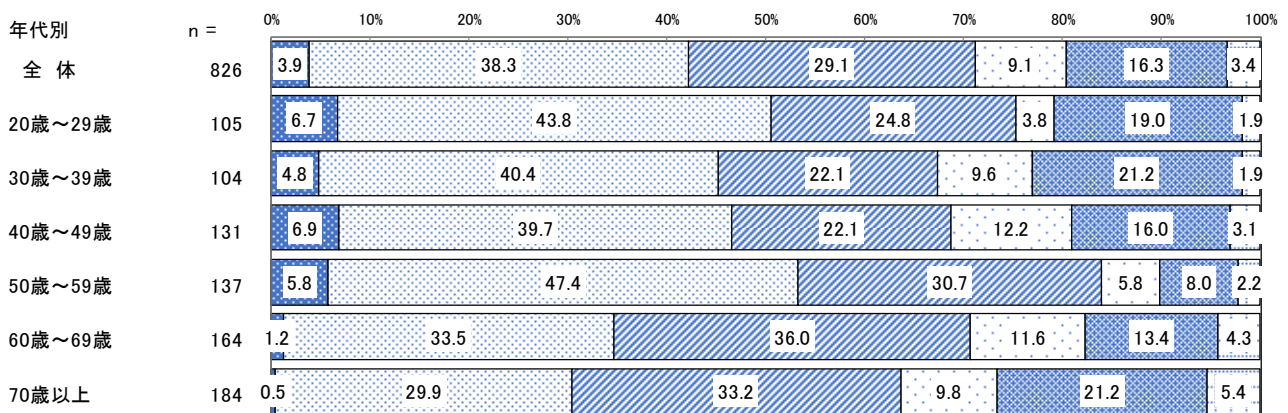
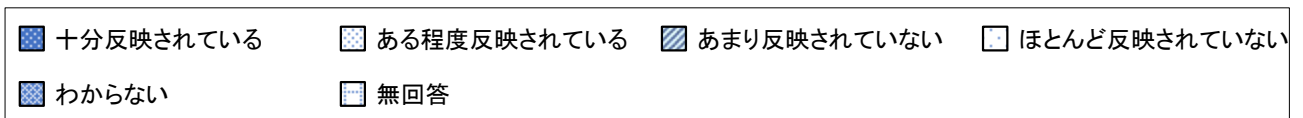
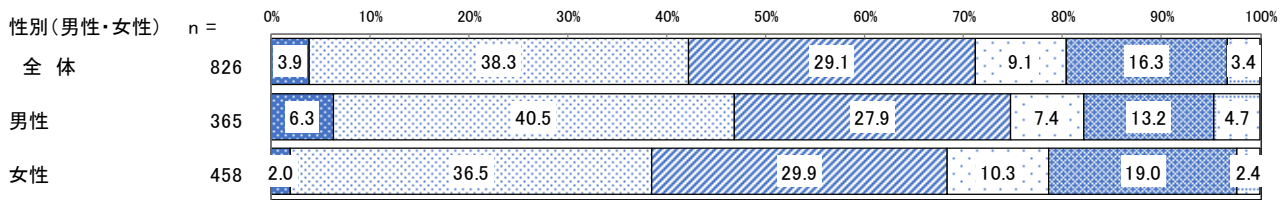
【①国会、県議会、市町村議会などの政治】



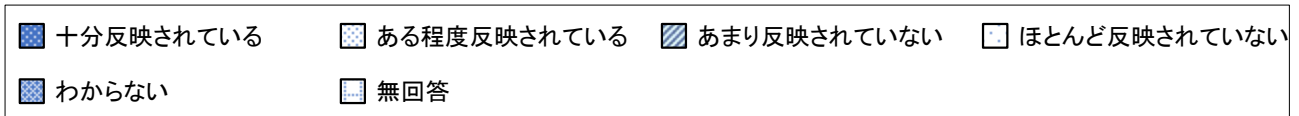
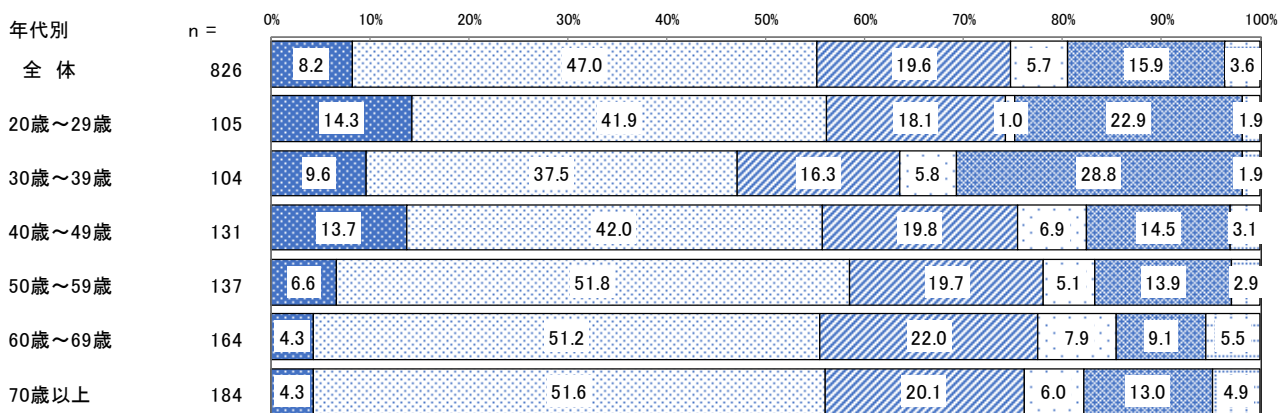
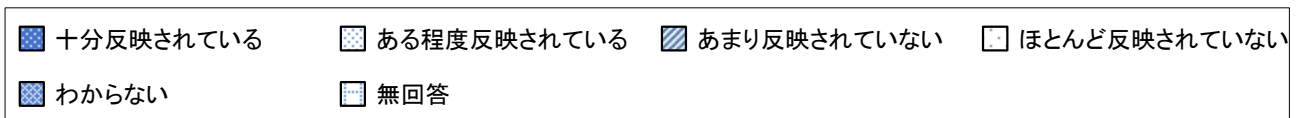
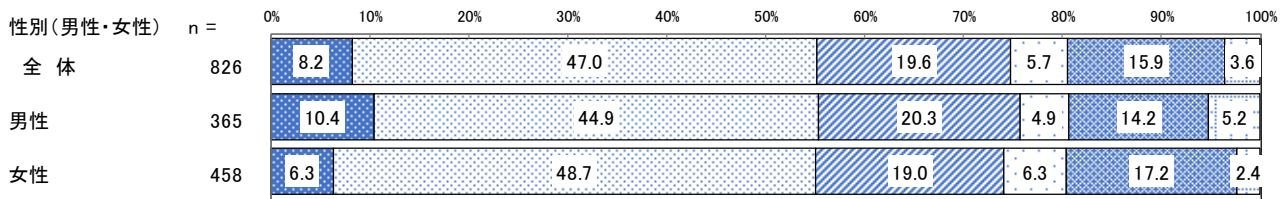
【②国、県、市町村などの行政】



【③企業などの職場】

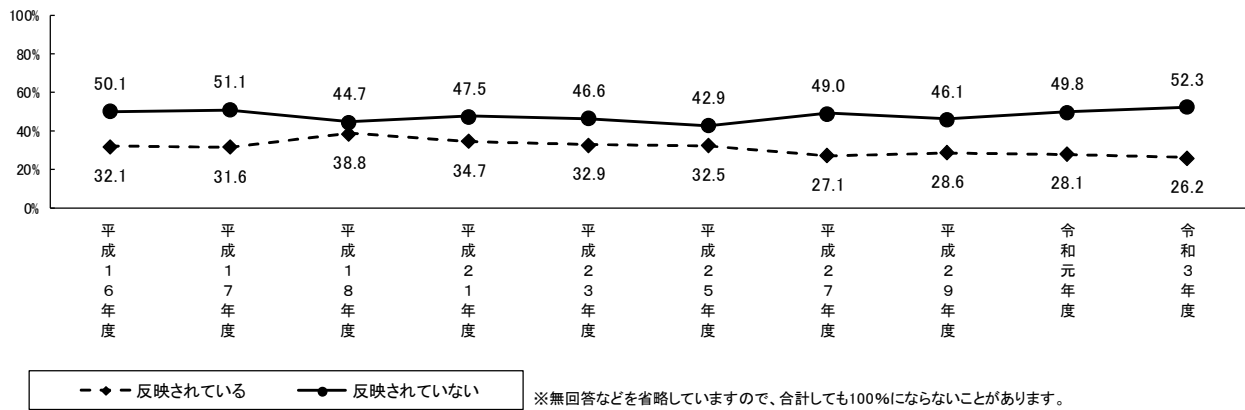


【④PTAや町内会などの地域】



5 意思決定の過程への女性の参画について

【経年比較】《①国会、県議会、市町村議会などの政治》

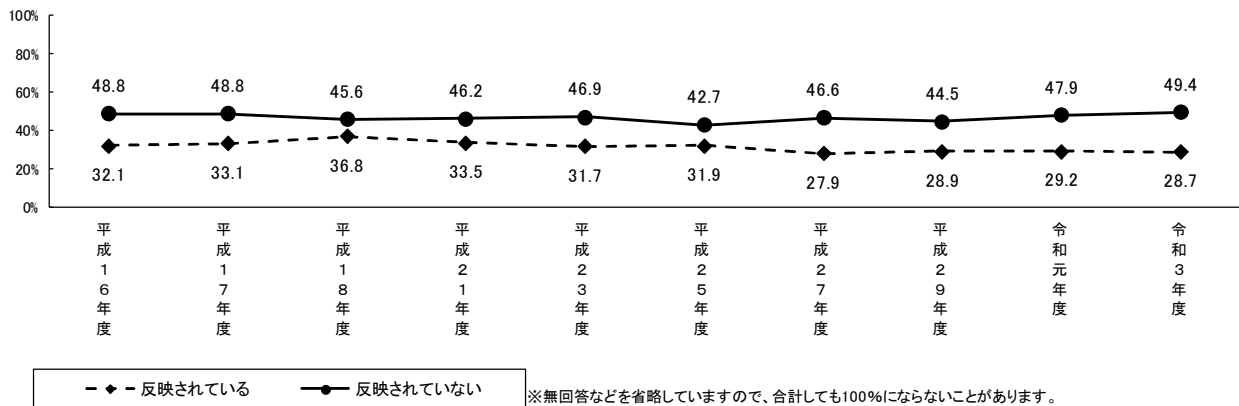


※『反映されている』（「十分反映されている」＋「ある程度反映されている」）、『反映されていない』（「ほとんど反映されていない」＋「あまり反映されていない」）

	調査数	十分反映されている	ある程度反映されている	あまり反映されていない	ほとんど反映されていない	わからない	無回答
平成16年度	800	2.6%	29.5%	34.5%	15.6%	14.9%	2.9%
平成17年度	836	3.1%	28.5%	37.2%	13.9%	15.3%	2.0%
平成18年度	570	4.6%	34.2%	32.6%	12.1%	13.3%	3.2%
平成21年度	653	1.8%	32.9%	35.2%	12.3%	16.5%	1.2%
平成23年度	577	2.9%	30.0%	32.6%	14.0%	18.0%	2.4%
平成25年度	793	2.1%	30.4%	31.8%	11.1%	21.2%	3.4%
平成27年度	899	1.8%	25.3%	34.4%	14.6%	20.0%	4.0%
平成29年度	782	2.9%	25.7%	34.0%	12.1%	23.8%	1.4%
令和元年度	744	1.2%	26.9%	36.0%	13.8%	20.0%	2.0%
令和3年度	826	2.1%	24.1%	36.2%	16.1%	18.6%	2.9%

5 意思決定の過程への女性の参画について

【経年比較】◀②国、県、市町村などの行政▶

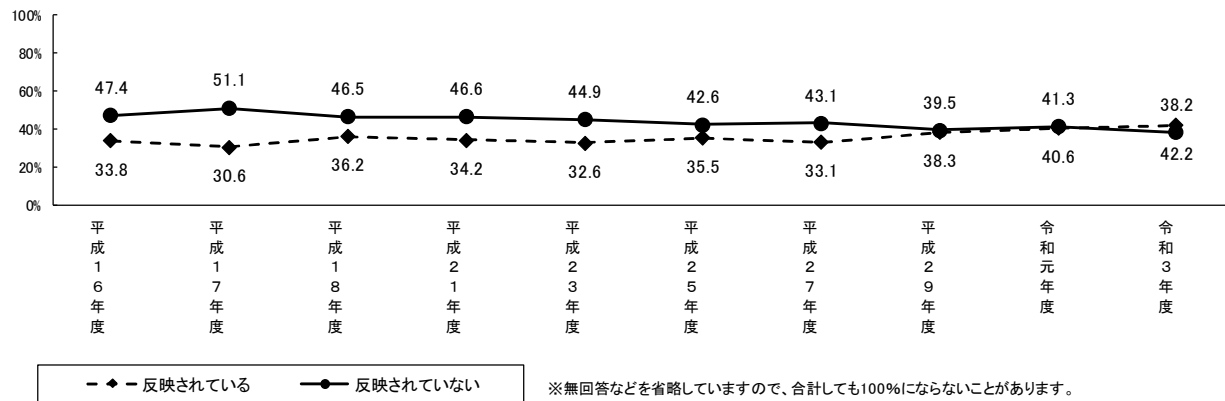


※『反映されている』（「十分反映されている」＋「ある程度反映されている」）、『反映されていない』（「ほとんど反映されていない」＋「あまり反映されていない」）

	調査数	十分 反映されている	ある程度 反映されている	あまり 反映されていない	ほとんど 反映されていない	わからない	無回答
平成16年度	800	1.8%	30.3%	37.0%	11.8%	15.4%	3.9%
平成17年度	836	2.8%	30.3%	37.4%	11.4%	15.8%	2.4%
平成18年度	570	4.2%	32.6%	34.2%	11.4%	14.0%	3.5%
平成21年度	653	2.1%	31.4%	34.6%	11.6%	17.8%	2.5%
平成23年度	577	2.8%	28.9%	32.9%	14.0%	19.1%	2.3%
平成25年度	793	1.9%	30.0%	32.5%	10.2%	21.3%	4.0%
平成27年度	899	1.2%	26.7%	32.7%	13.9%	21.5%	4.0%
平成29年度	782	2.6%	26.3%	33.8%	10.7%	25.1%	1.5%
令和元年度	744	1.5%	27.7%	35.1%	12.8%	21.0%	2.0%
令和3年度	826	2.4%	26.3%	35.0%	14.4%	18.6%	3.3%

5 意思決定の過程への女性の参画について

【経年比較】③企業などの職場

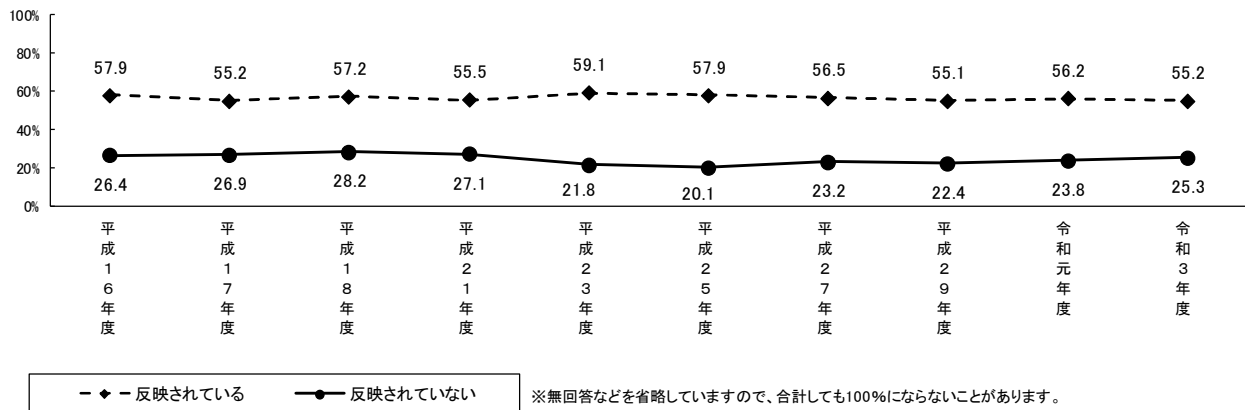


※『反映されている』（「十分反映されている」＋「ある程度反映されている」）、『反映されていない』（「ほとんど反映されていない」＋「あまり反映されていない」）

	調査数	十分反映されている	ある程度反映されている	あまり反映されていない	ほとんど反映されていない	わからない	無回答
平成16年度	800	2.4%	31.4%	35.5%	11.9%	14.9%	4.0%
平成17年度	836	1.9%	28.7%	37.3%	13.8%	15.4%	2.9%
平成18年度	570	3.2%	33.0%	35.8%	10.7%	12.8%	4.6%
平成21年度	653	2.8%	31.4%	35.4%	11.2%	16.4%	2.9%
平成23年度	577	2.4%	30.2%	34.8%	10.1%	18.4%	4.2%
平成25年度	793	3.0%	32.5%	29.9%	12.7%	16.5%	5.3%
平成27年度	899	2.3%	30.8%	32.0%	11.1%	18.4%	5.3%
平成29年度	782	3.8%	34.5%	30.2%	9.3%	19.6%	2.6%
令和元年度	744	3.5%	37.1%	31.9%	9.4%	15.7%	2.4%
令和3年度	826	3.9%	38.3%	29.1%	9.1%	16.3%	3.4%

5 意思決定の過程への女性の参画について

【経年比較】◀④PTAや町内会などの地域▶



※『反映されている』（「十分反映されている」＋「ある程度反映されている」）、『反映されていない』（「ほとんど反映されていない」＋「あまり反映されていない」）

	調査数	十分 反映されている	ある程度 反映されている	あまり 反映されていない	ほとんど 反映されていない	わからない	無回答
平成16年度	800	6.6%	51.3%	20.4%	6.0%	12.0%	3.8%
平成17年度	836	8.5%	46.7%	22.1%	4.8%	15.2%	2.8%
平成18年度	570	9.8%	47.4%	22.8%	5.4%	11.1%	3.5%
平成21年度	653	7.7%	47.8%	21.6%	5.5%	15.5%	2.0%
平成23年度	577	8.0%	51.1%	17.5%	4.3%	15.1%	4.0%
平成25年度	793	9.6%	48.3%	16.4%	3.7%	16.8%	5.3%
平成27年度	899	7.7%	48.8%	17.7%	5.5%	15.8%	4.6%
平成29年度	782	9.1%	46.0%	17.3%	5.1%	20.6%	1.9%
令和元年度	744	8.2%	48.0%	19.2%	4.6%	17.9%	2.2%
令和3年度	826	8.2%	47.0%	19.6%	5.7%	15.9%	3.6%

2 意思決定の場に女性が参画すること

問17 あなたは、意思決定の場に女性が参画することについて、どのように考えますか。

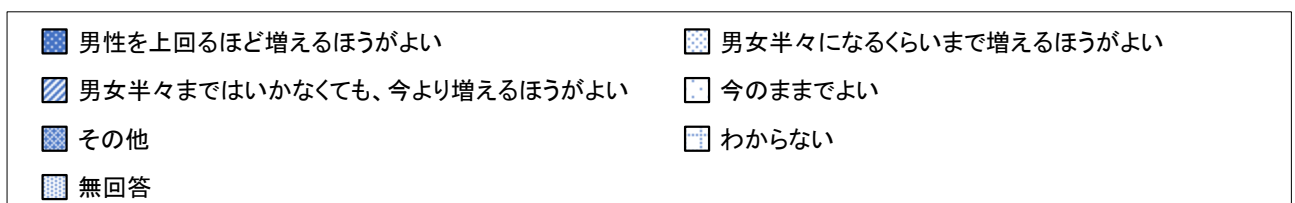
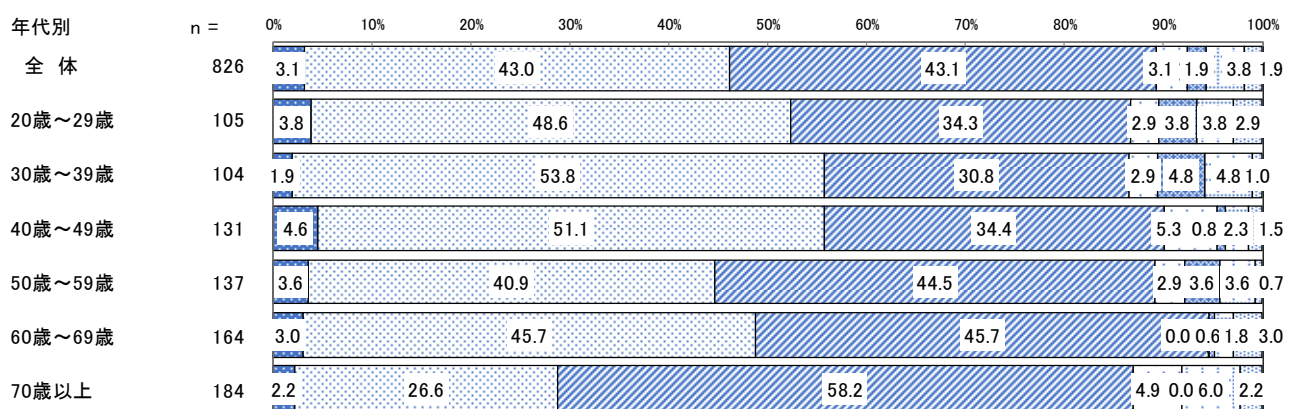
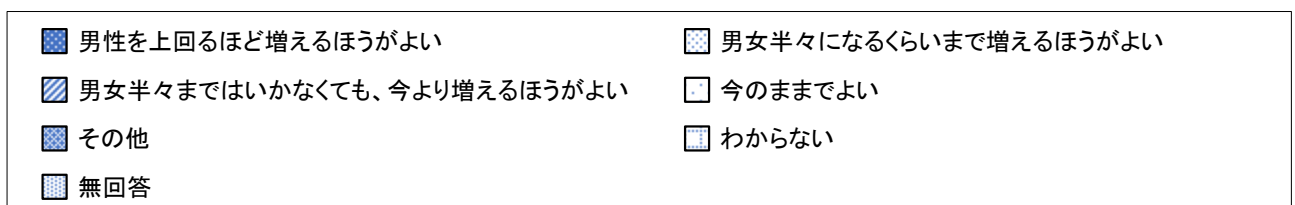
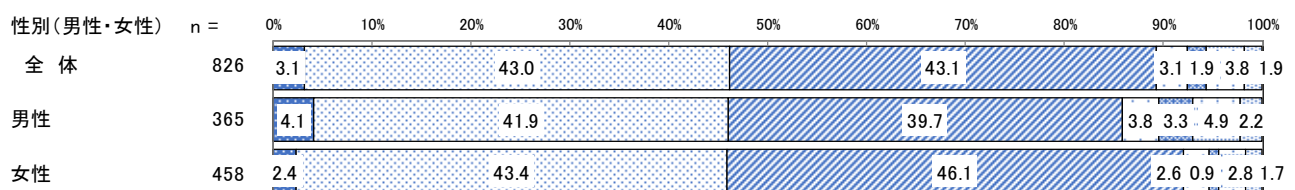
(1つに○)

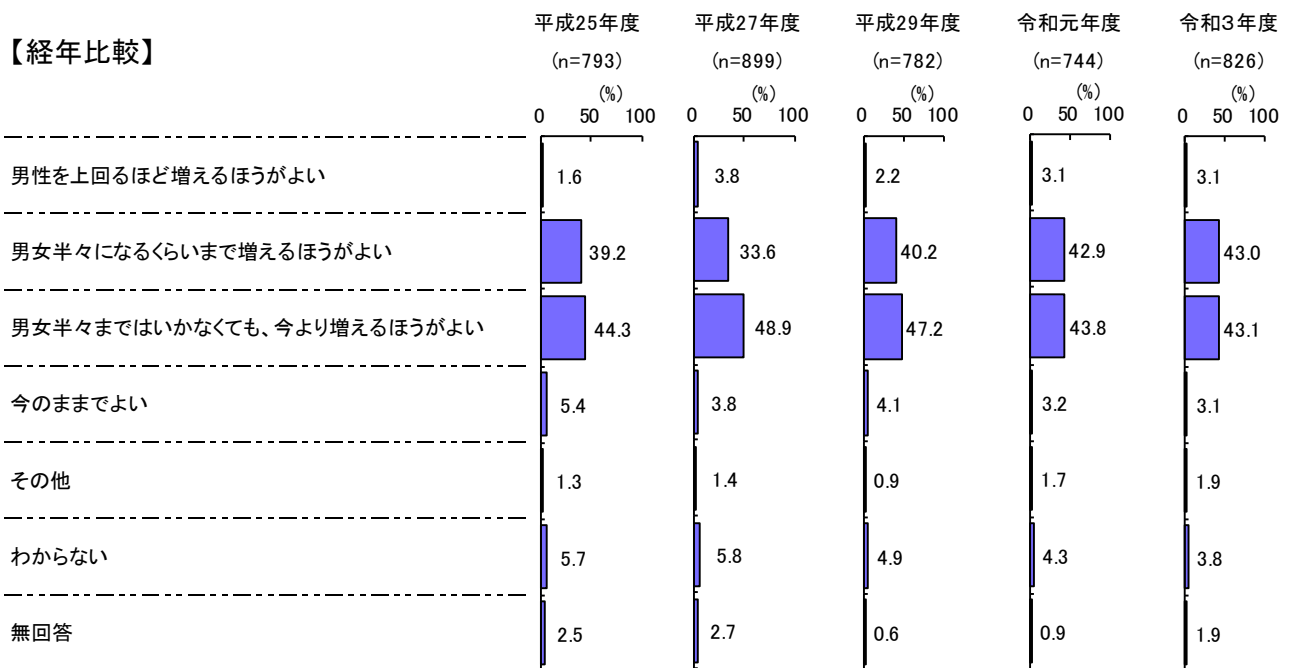
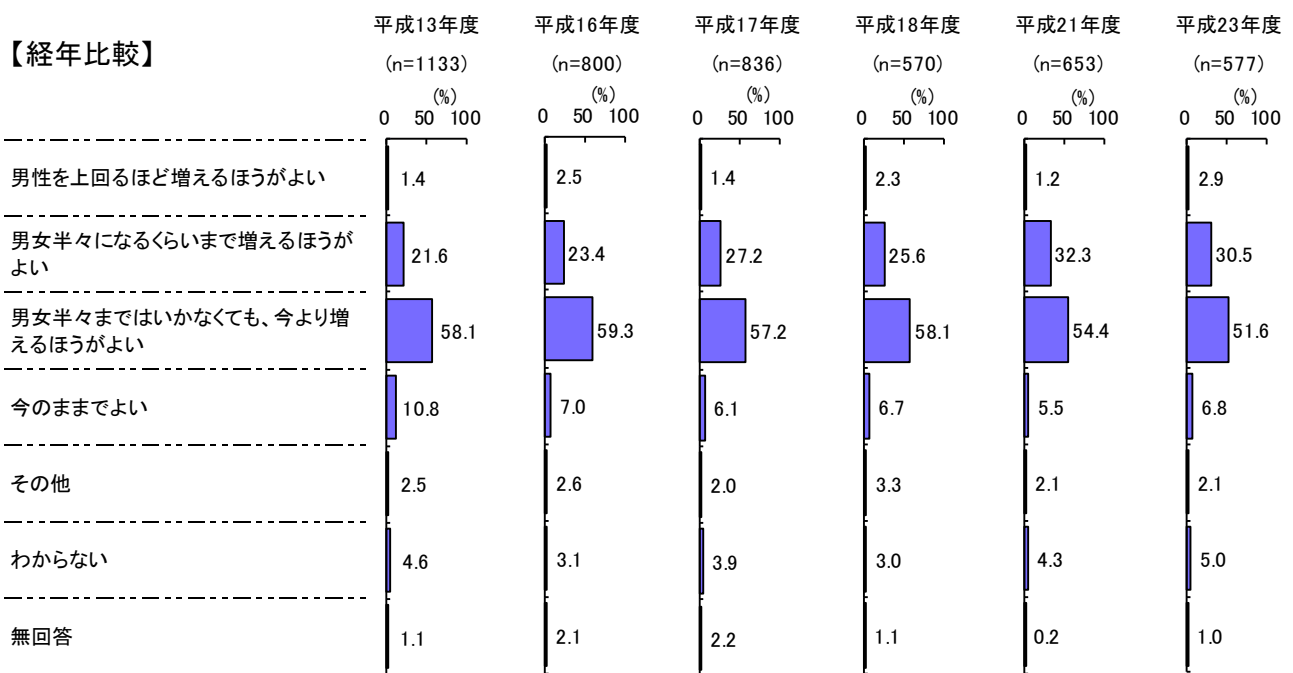
「男女半々になるくらいまで増えるほうがよい」「男女半々まではいかななくても、今より増えるほうがよい」がそれぞれ4割を占め、意思決定の場で女性の数が増えることを求めている傾向がみられました。

女性が意思決定の場に参画する望ましい水準では、「男女半々まではいかななくても、今より増えるほうがよい」(43.1%)が最も高く、次に僅差で「男女半々になるくらいまで増えるほうがよい」(43.0%)となりました。以下、「男性を上回るほど増えるほうがよい」(3.1%)、「今のままでよい」(3.1%)となっています。

年代別では、70歳以上は「男女半々になるくらいまで増えるほうがよい」が3割弱と、他の世代と比較して低くなっています。

経年比較をみると、「男女半々になるくらいまで増えるほうがよい」の割合が増加する一方で、「男女半々まではいかななくても、今より増えるほうがよい」の割合は減少しています。





3 管理的部門や指導的地位への女性登用が少ない理由

問18 現状では、意思決定を行う管理的部門や指導的地位への女性登用が未だ少ない状況にあります。あなたは、その理由としてどのようなものがあると考えますか。(3つまでに○)

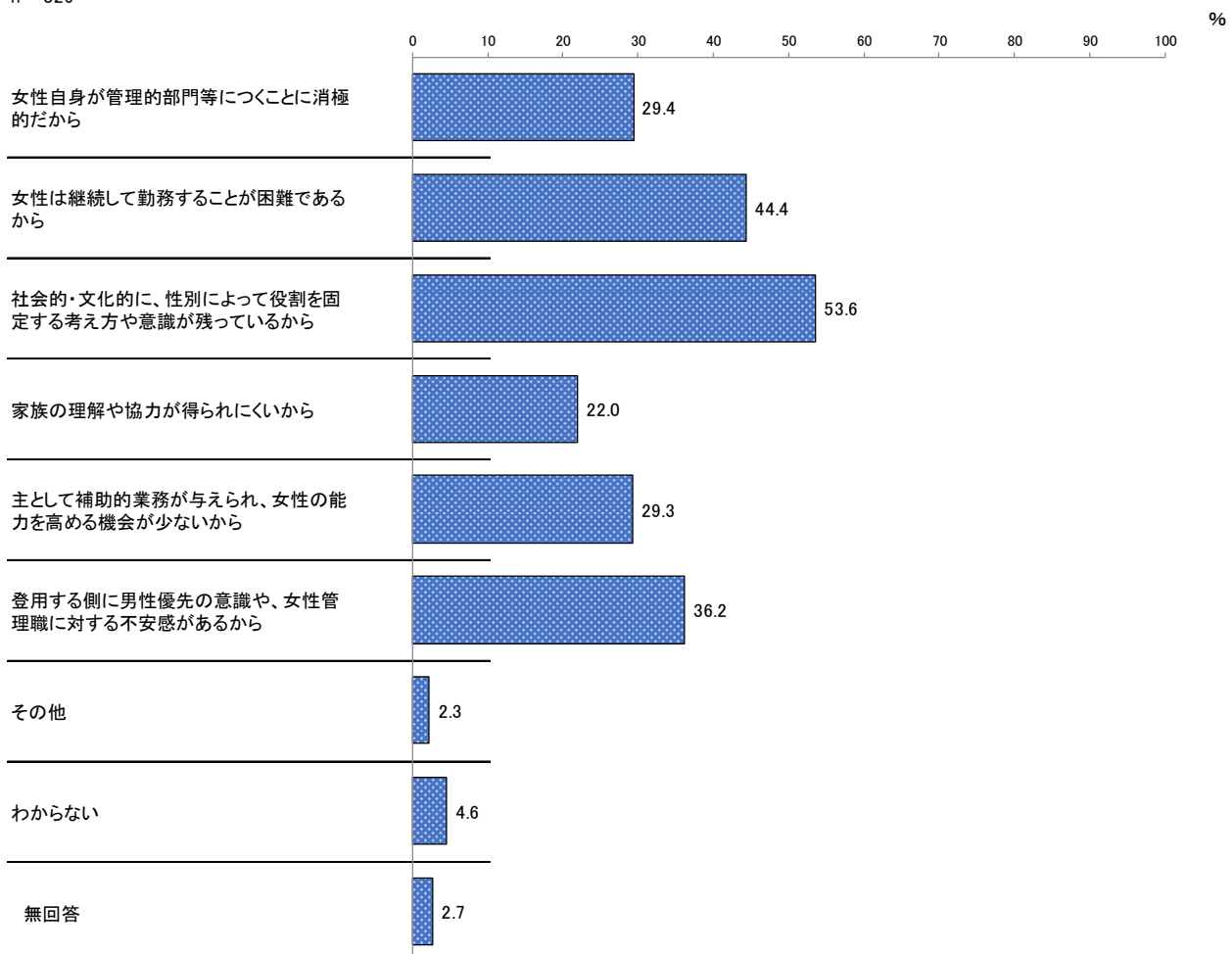
「社会的・文化的に、性別によって役割を固定する考え方や意識が残っているから」、「女性は継続して勤務することが困難であるから」が4割以上となっています。

管理的部門や指導的地位への女性登用が少ない理由についてたずねたところ、「社会的・文化的に、性別によって役割を固定する考え方や意識が残っているから」(53.6%)が最も高く、次に「女性は継続して勤務することが困難であるから」(44.4%)、「登用する側に男性優先の意識や、女性管理職に対する不安感があるから」(36.2%)となっています。

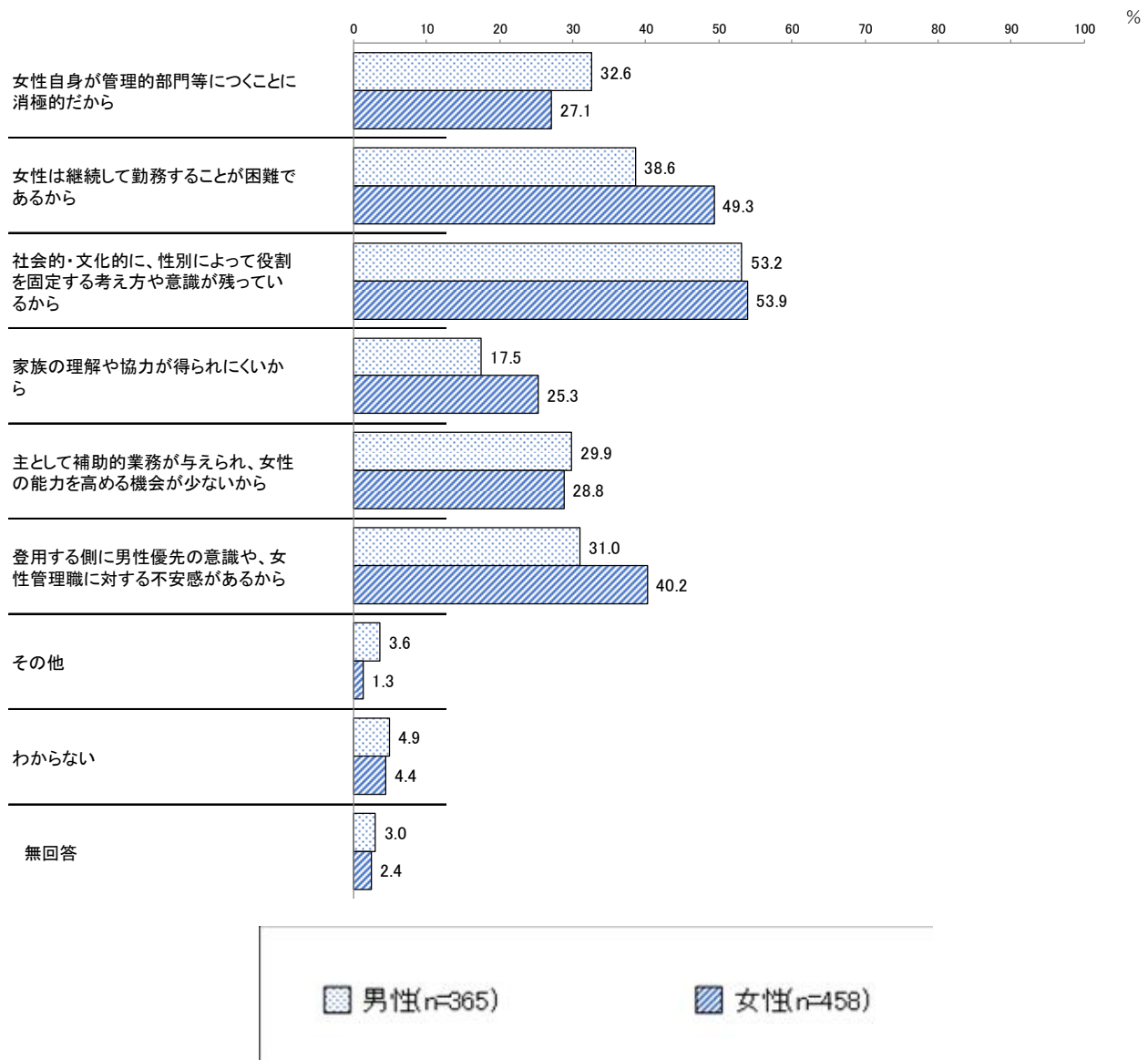
性別で見ると、「女性自身が管理的部門等につくことに消極的だから」は男性の割合が高く、「女性は継続して勤務することが困難であるから」、「登用する側に男性優先の意識や、女性管理職に対する不安感があるから」は女性の割合が高くなっています。

経年比較で見ると、「女性は継続して勤務することが困難であるから」は減少傾向にあり、「社会的・文化的に、性別によって役割を固定する考え方や意識が残っているから」は増加傾向にあります。

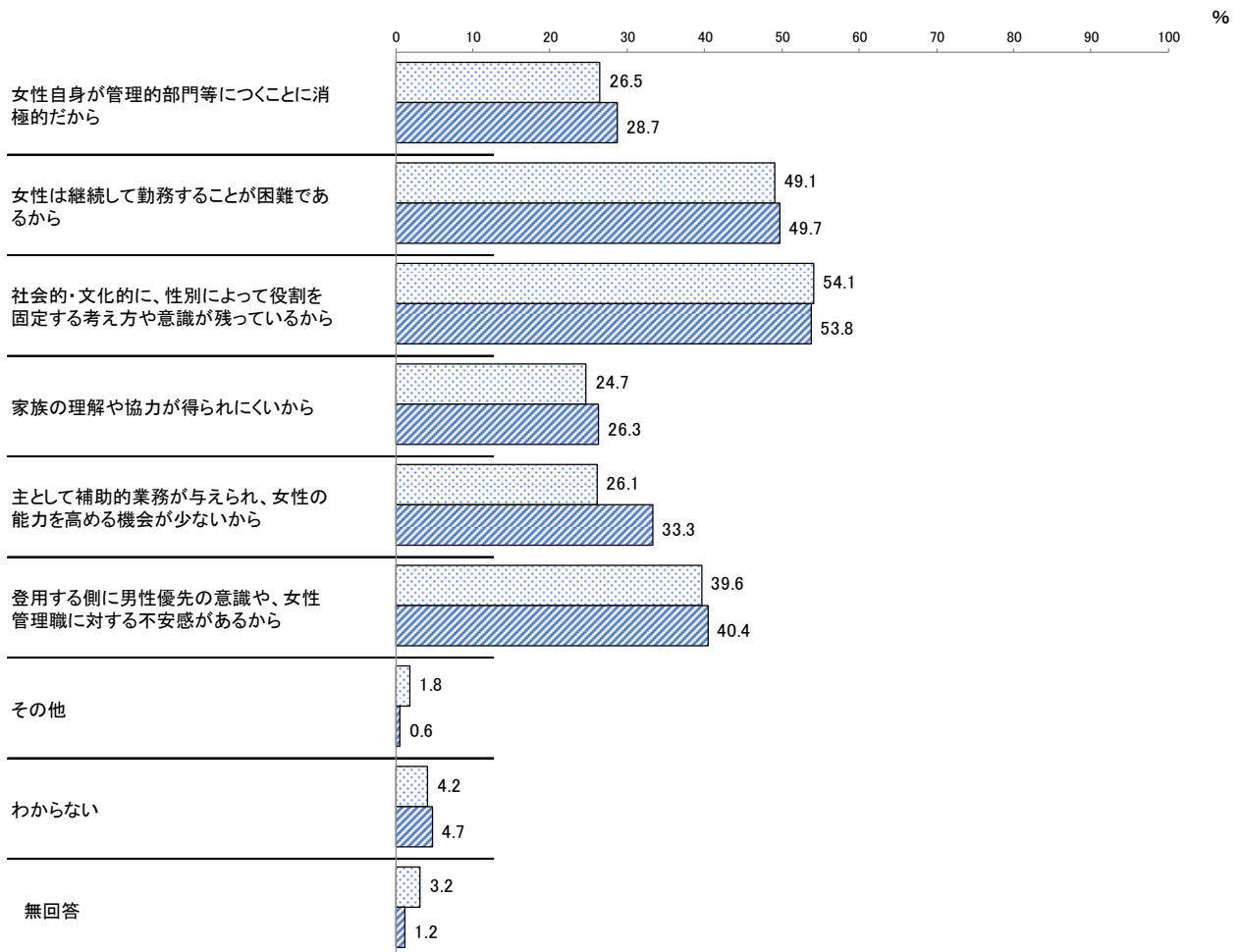
n = 826



【性別】



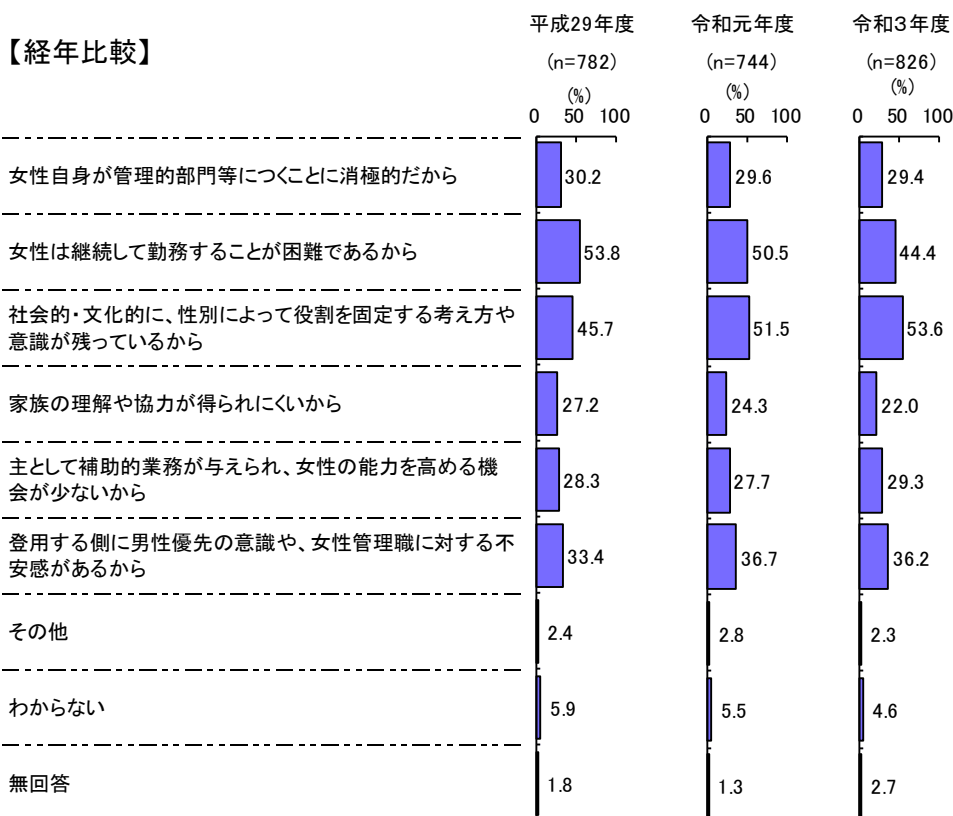
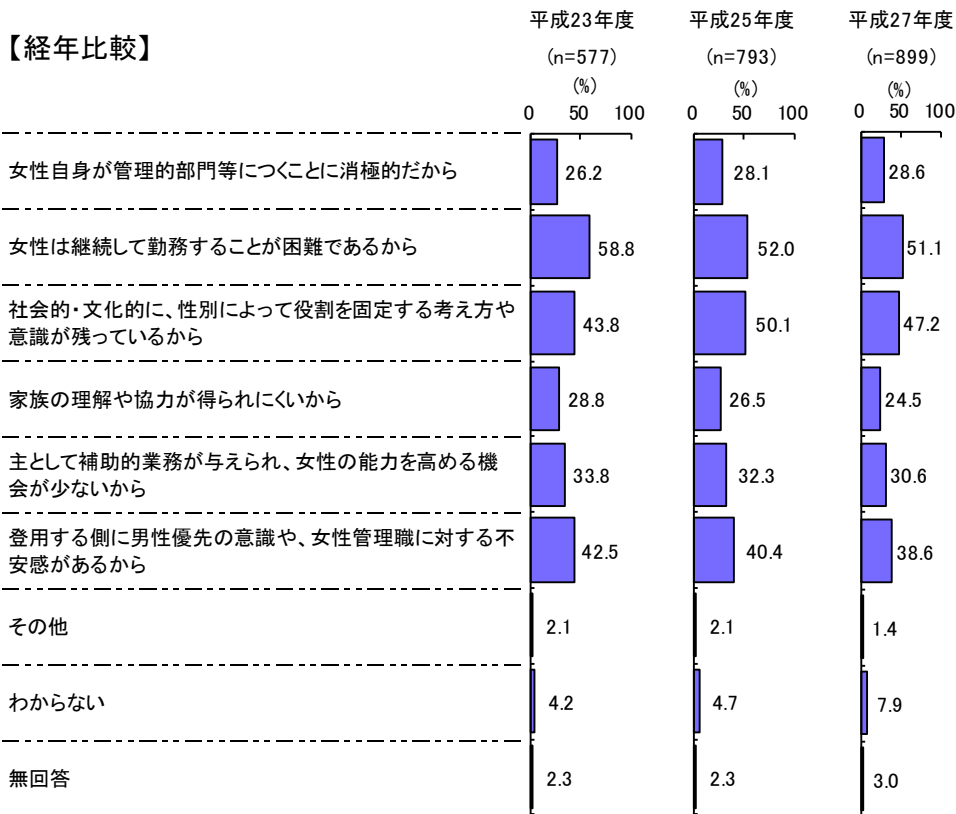
【女性・職業の有無別】



■ 勤め人・自営業 (n=283)

■ 専業主婦・無職・学生 (n=171)

5 意思決定の過程への女性の参画について



6 男女が共に能力を発揮できる就業環境について

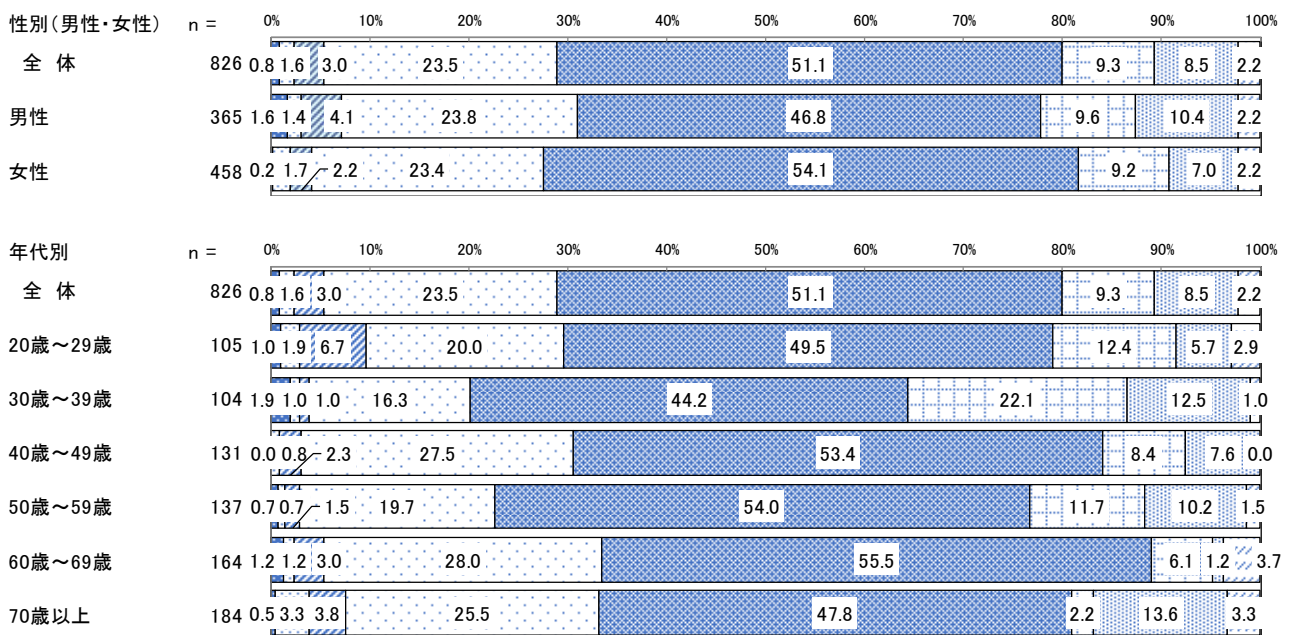
1 女性が職業を持つこと

問19 一般的に女性が職業を持つことについて、どう考えますか。(1つに○)

「ずっと職業を持ち続けるほうがよい」が5割以上となっています。

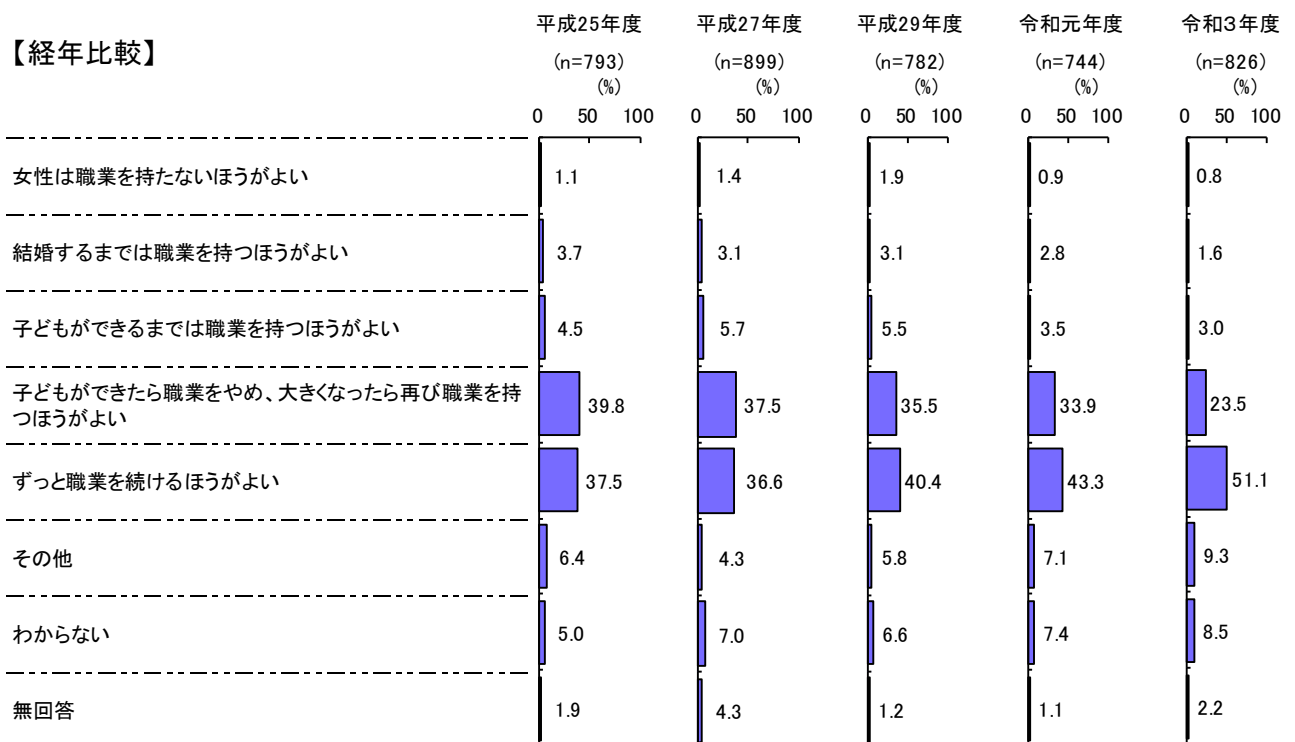
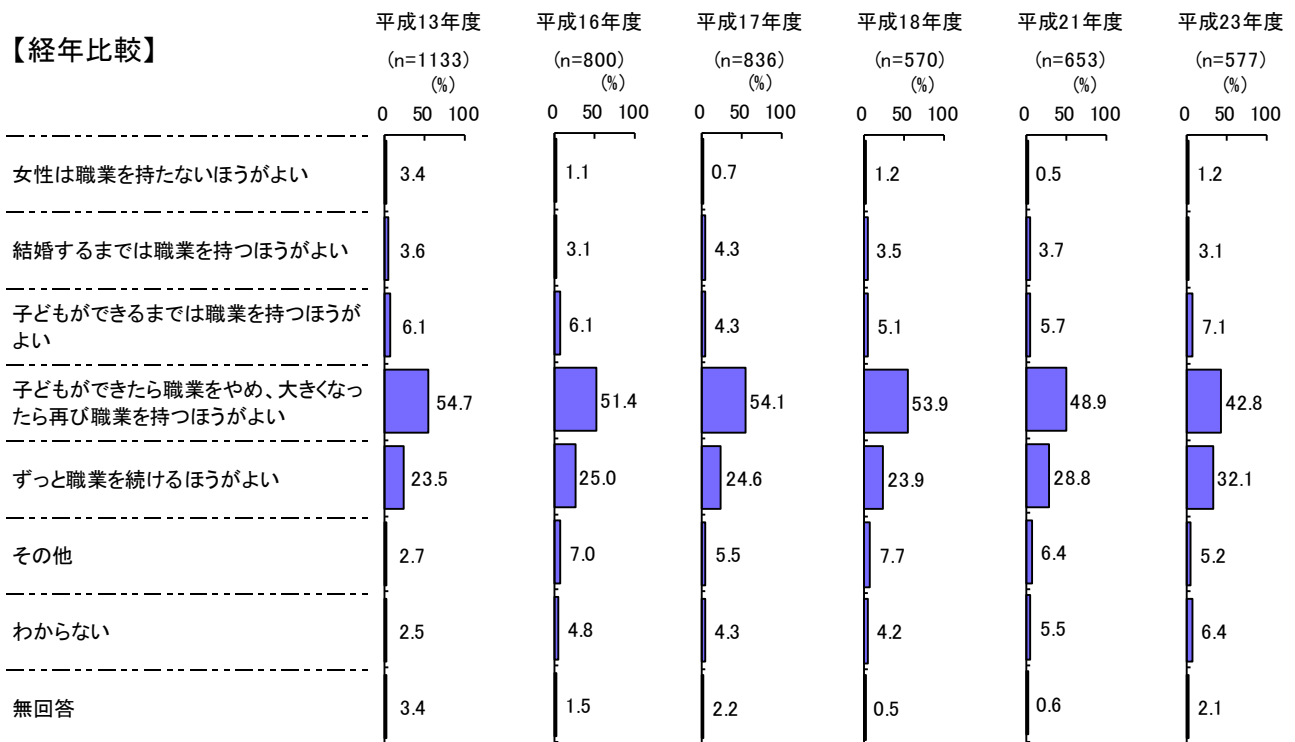
女性の就労への賛否では、「ずっと職業を持ち続けるほうがよい」(51.1%)が最も高く、次に「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」(23.5%)、「子どもができるまでは職業を持つほうがよい」(3.0%)となっています。

経年比較でみると、「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」が減少する一方、「ずっと職業を持ち続けるほうがよい」は増加し、令和3年度は5割を超えました。



- 女性は職業を持たないほうがよい
- 結婚するまでは職業を持つほうがよい
- 子どもができるまでは職業を持つほうがよい
- 子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい
- ずっと職業を持ち続けるほうがよい
- その他
- わからない
- 無回答

6 男女が共に能力を発揮できる就業環境について



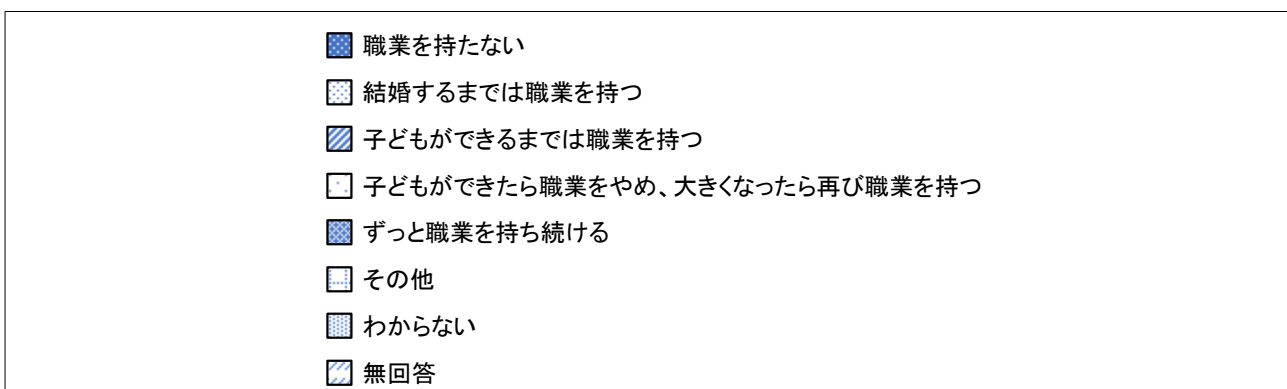
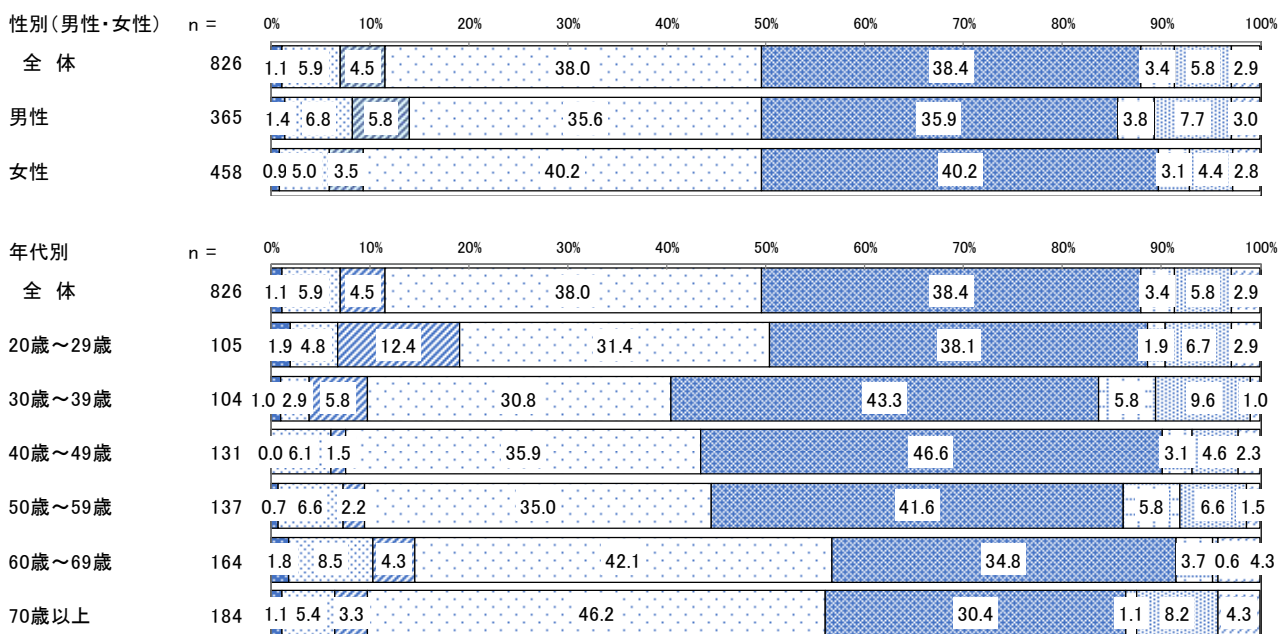
2 女性が職業を持つことの現実

問19-2 女性が職業を持つことについて、あなたの現実に当てはまるもの(当てはまると予想されるもの)はどれですか。(1つに○)

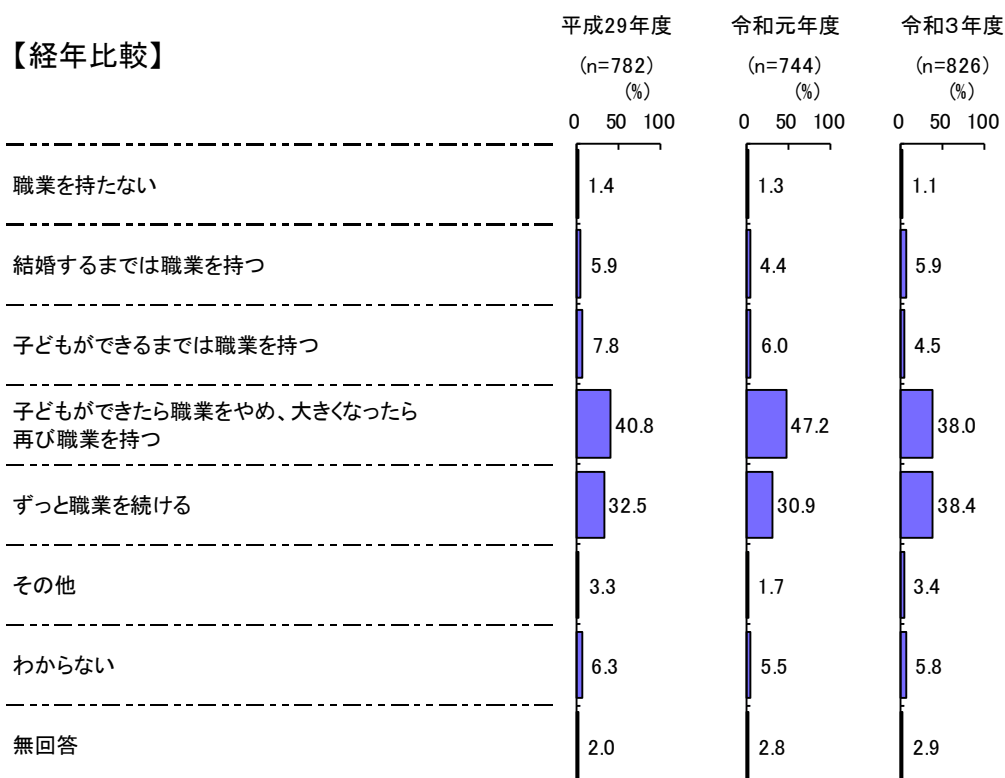
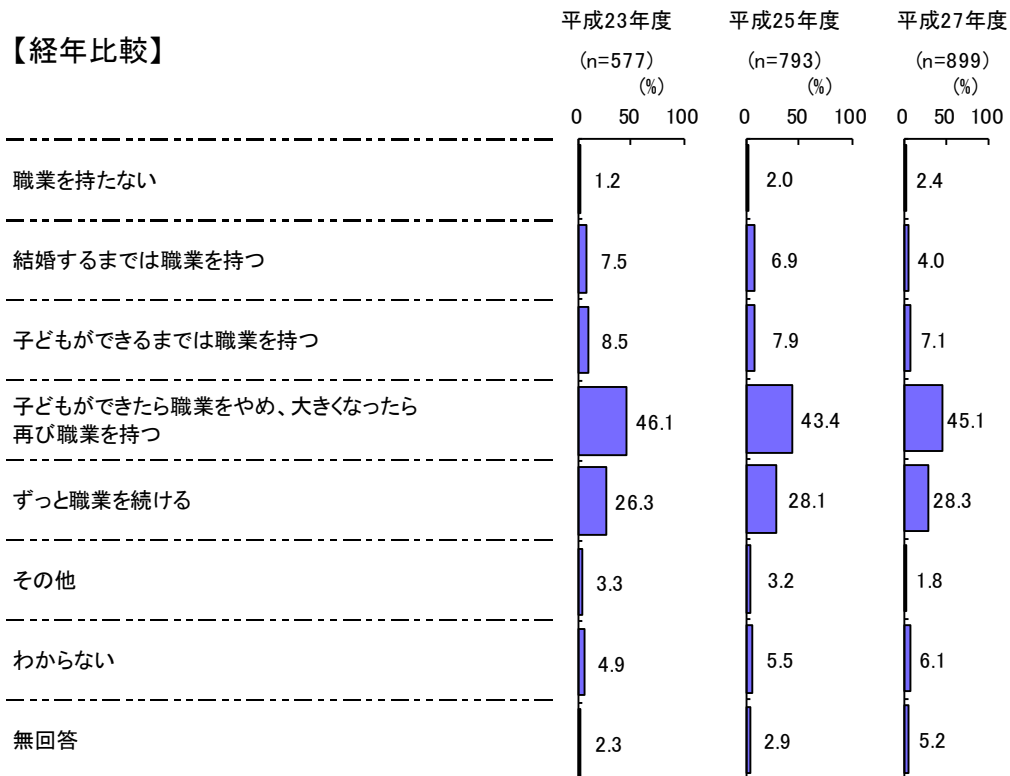
「ずっと職業を持ち続ける」が約4割となっている一方、「子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ」も約4割と、仕事と育児の両立が難しいという状況認識が続いています。

女性が職業を持つことについてたずねたところ、「ずっと職業を持ち続ける」(38.4%)が最も高く、次に、僅差で「子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ」(38.0%)となっています。以下、「結婚するまでは職業を持つ」(5.9%)、「子どもができるまでは職業を持つ」(4.5%)と続いています。

経年比較でみると、「子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ」が最も高い割合で推移していましたが、令和3年度は「ずっと職業を持ち続ける」の割合が最も高くなりました。



6 男女が共に能力を発揮できる就業環境について



3 女性が働く上で障害となること

問19-3 問19-2で「2」「3」「4」または「5」と答えた方に伺います。

継続して女性が働く上での障害は何だと思えますか。(あてはまるもの全てに○)

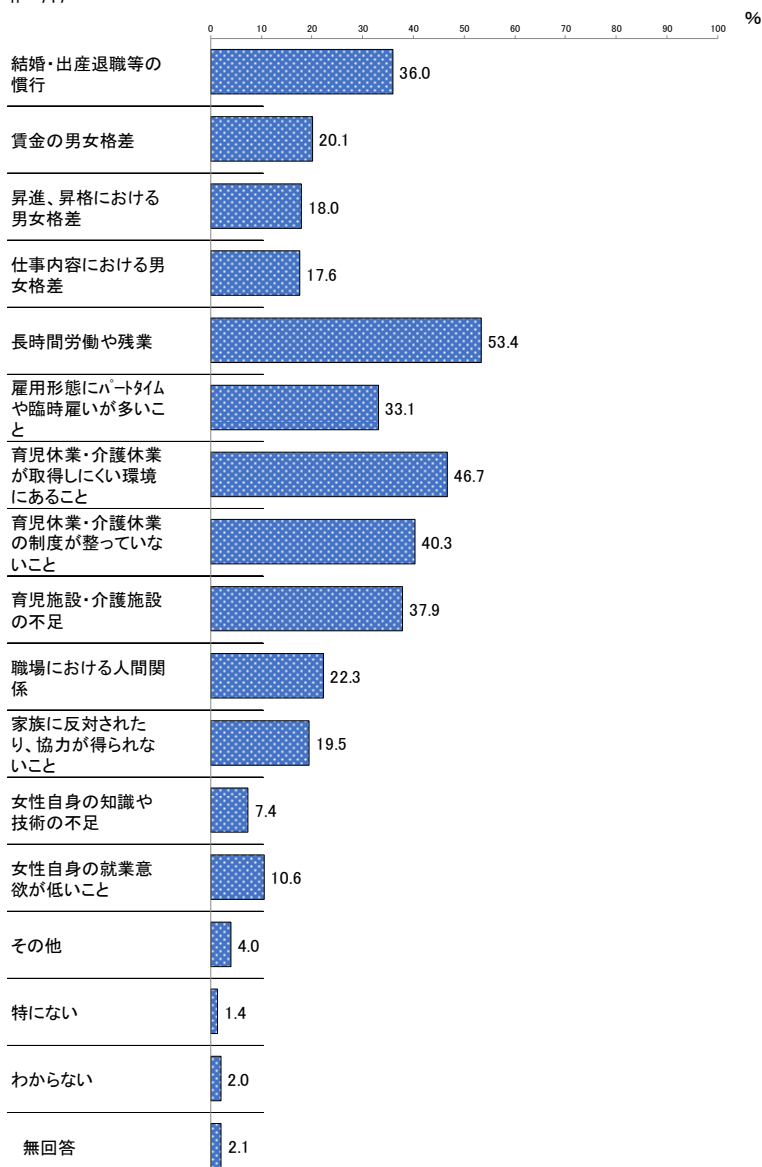
「長時間労働や残業」が5割以上。さらに、「育児休業・介護休業が取得しにくい環境にあること」、「育児施設・介護施設の不足」、「育児休業・介護休業の制度が整っていないこと」が解消されなければ、継続して働きにくいと思われています。

女性の就労継続の障害についてたずねたところ、「長時間労働や残業」(53.4%)が最も高く、次に「育児休業・介護休業が取得しにくい環境にあること」(46.7%)、「育児休業・介護休業の制度が整っていないこと」(40.3%)、「育児施設・介護施設の不足」(37.9%)、「結婚・出産退職等の慣行」(36.0%)となっています。

性別で見ると、「結婚・出産退職等の慣行」は男性の割合が高く、「長時間労働や残業」、「育児休業・介護休業が取得しにくい環境にあること」などは女性の割合が高くなっています。

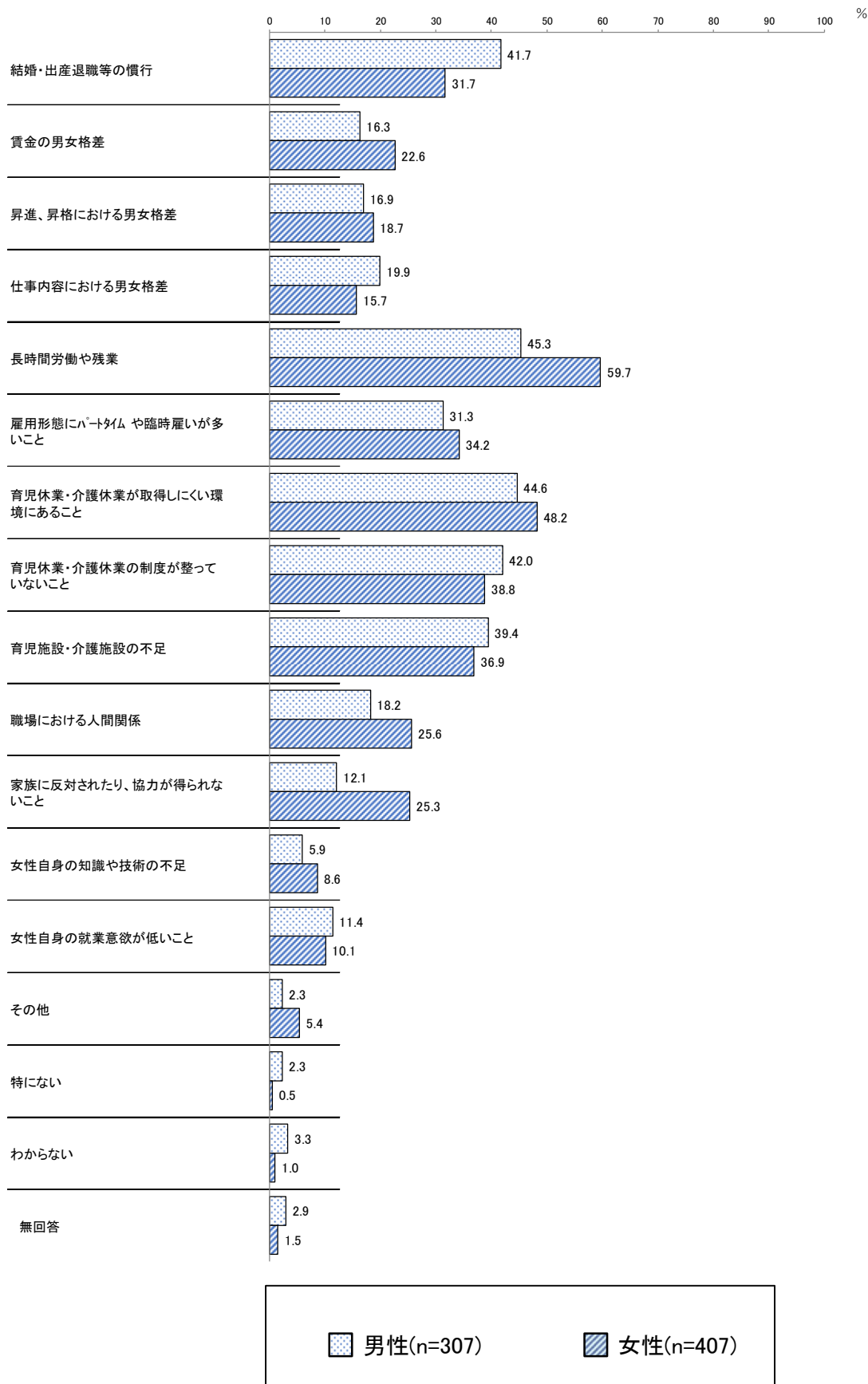
経年比較で見ると、平成17年度から「長時間労働や残業」が高い割合で推移しています。

n = 717



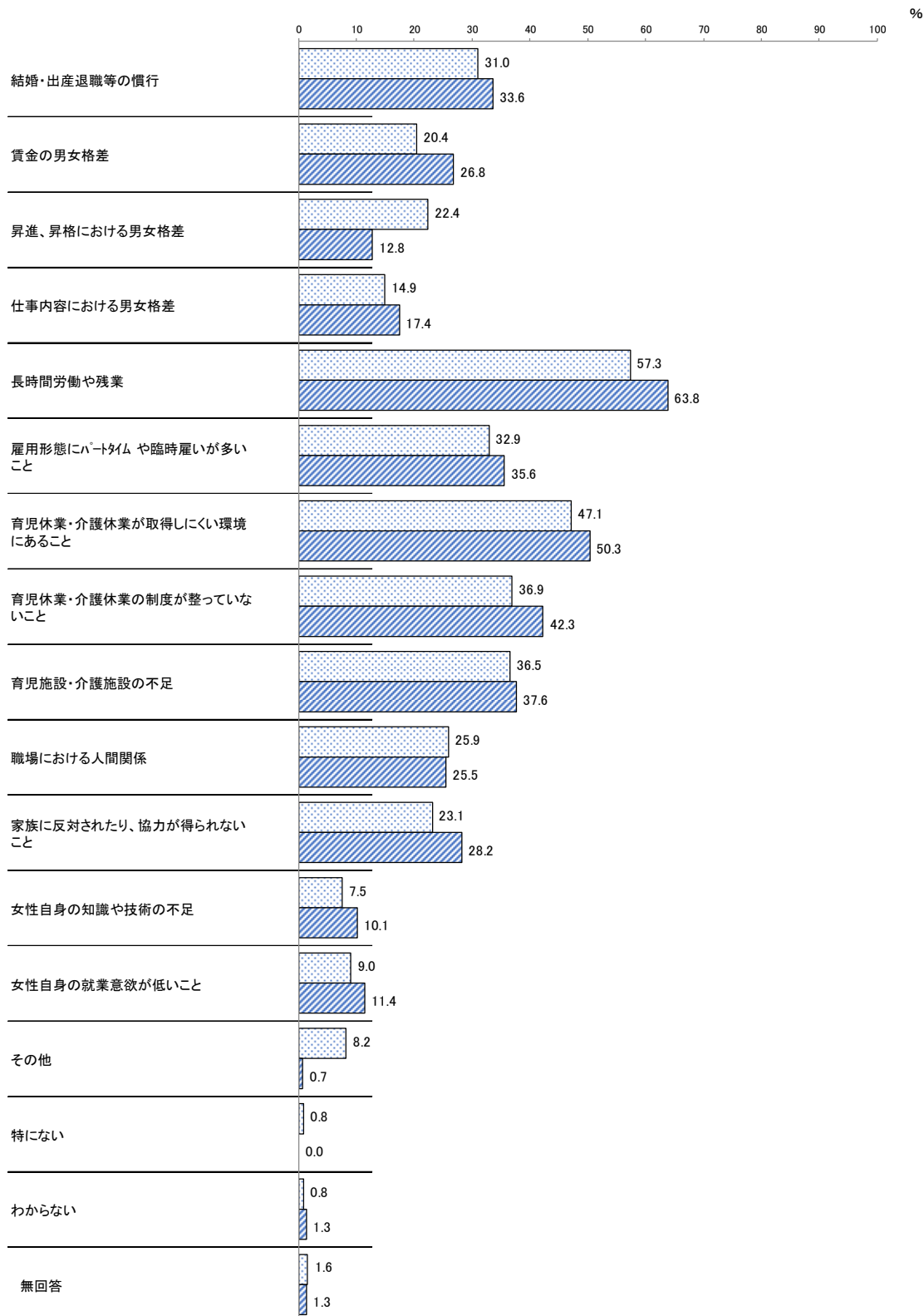
6 男女が共に能力を発揮できる就業環境について

【性別】



6 男女が共に能力を発揮できる就業環境について

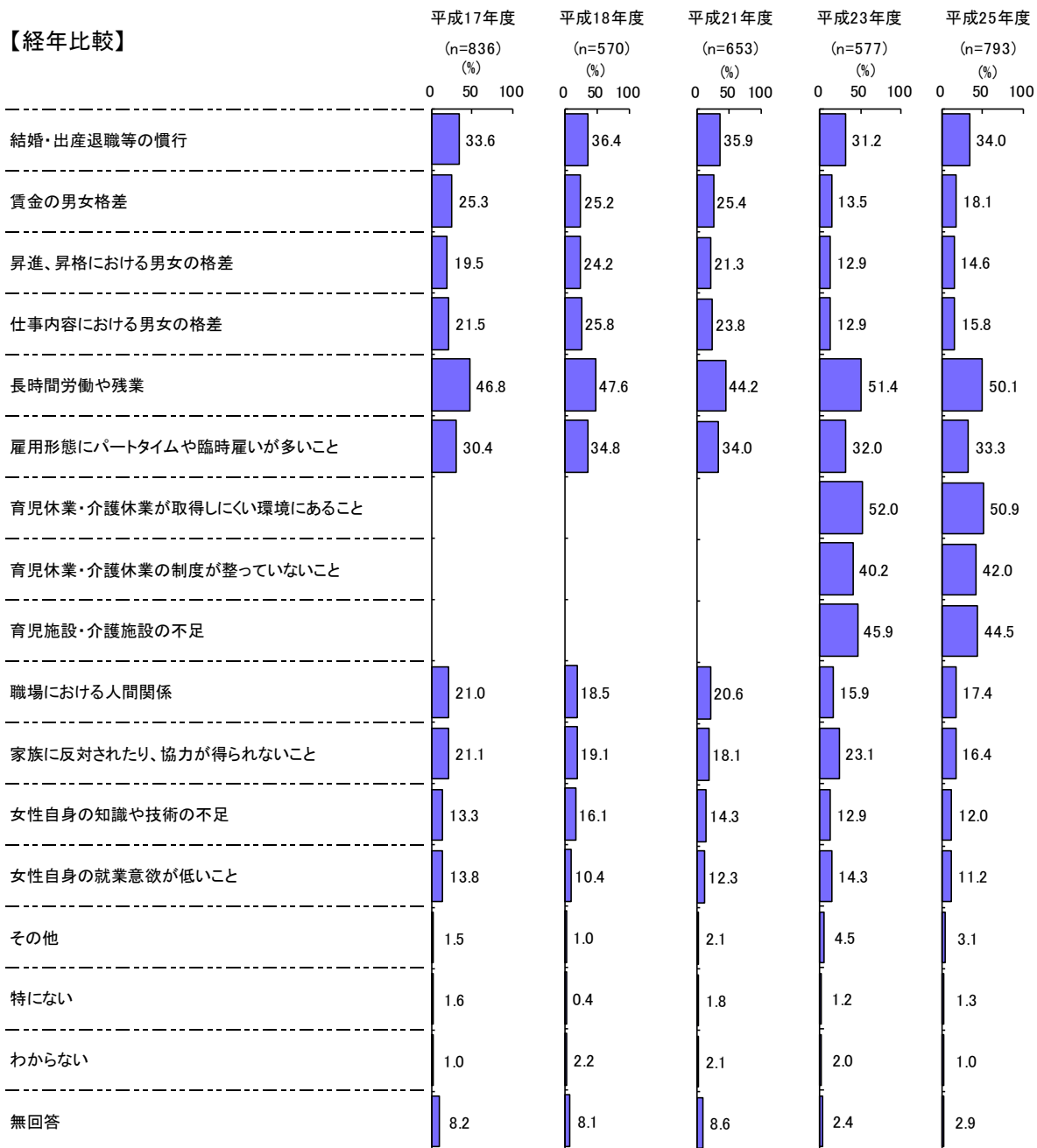
【女性・職業の有無別】



□ 勤め人・自営業 (n=255)

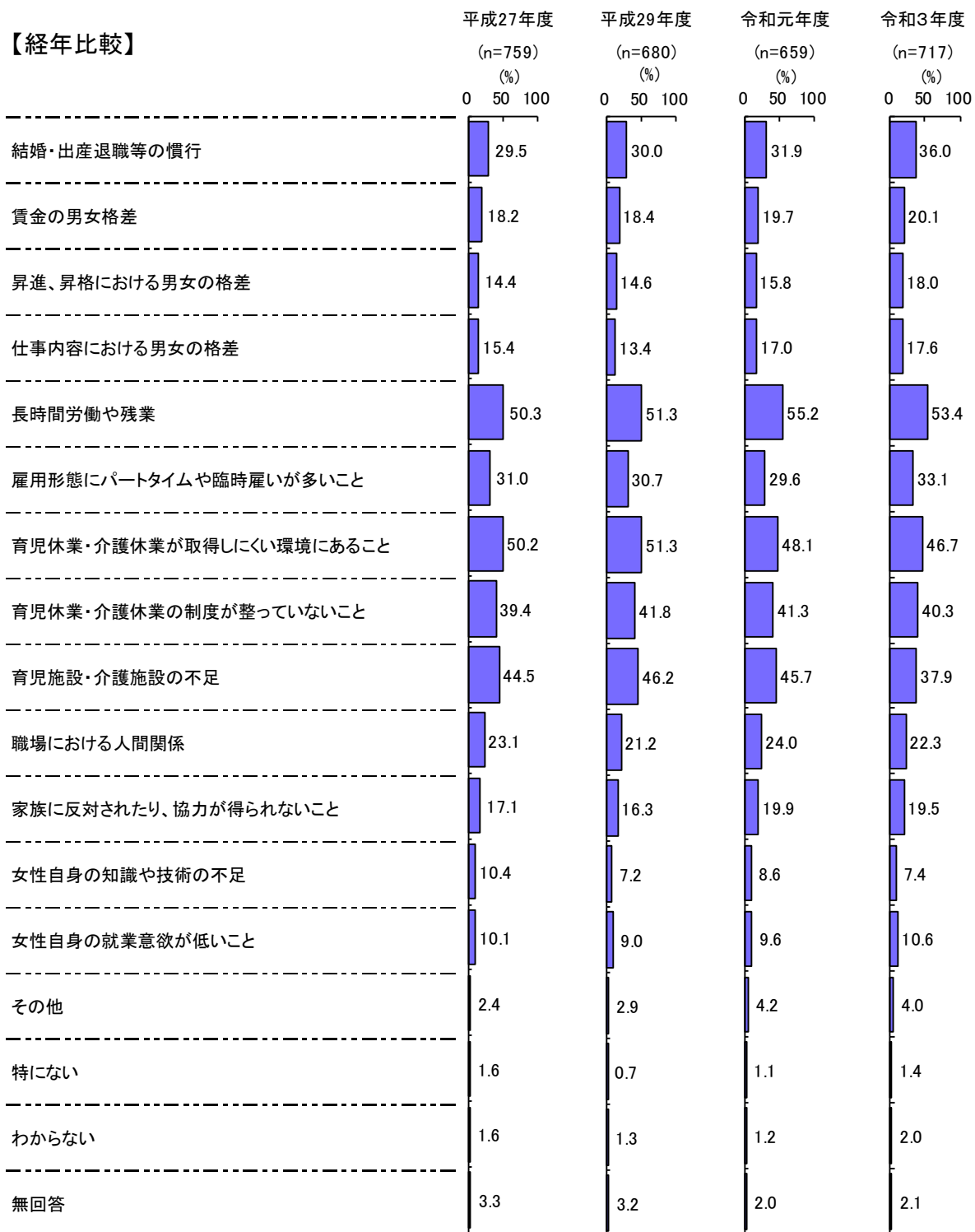
▨ 専業主婦・無職・学生 (n=149)

6 男女が共に能力を発揮できる就業環境について



※「育児休業・介護休業が取得しにくい環境にあること」、「育児休業・介護休業の制度が整っていないこと」、「育児施設・介護施設の不足」は平成23年度より追加

6 男女が共に能力を発揮できる就業環境について



4 女性の社会参画を進めるために必要な行政の取組

問20 女性の社会参画を進めるため、行政としてどのような取組が必要だと思いますか。

(あてはまるもの全てに○)

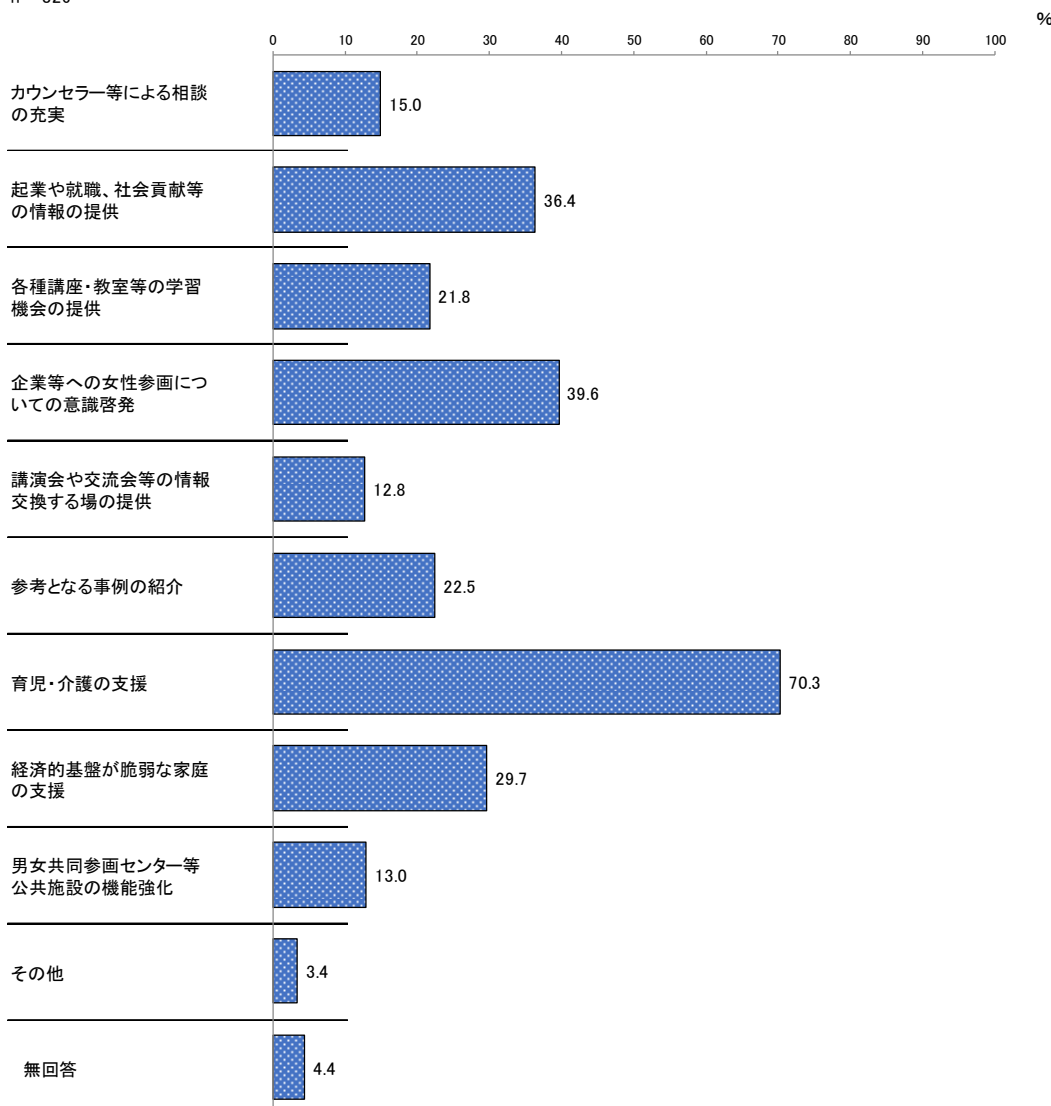
「育児・介護の支援」を求める人が7割を超えており、「企業等への女性参画についての意識啓発」、「起業や就職、社会貢献等の情報の提供」も3割以上となっています。

女性の社会参画促進に必要な行政の取組では、「育児・介護の支援」(70.3%)が最も高く、次に「企業等への女性参画についての意識啓発」(39.6%)、「起業や就職、社会貢献等の情報の提供」(36.4%)、「経済的基盤が脆弱な家庭の支援」(29.7%)、「参考となる事例の紹介」(22.5%)となっています。

性別でみると、「企業等への女性参画についての意識啓発」、「経済的基盤が脆弱な家庭の支援」は男性の割合が高く、「起業や就職、社会貢献等の情報の提供」、「育児・介護の支援」は女性の割合が高くなっています。

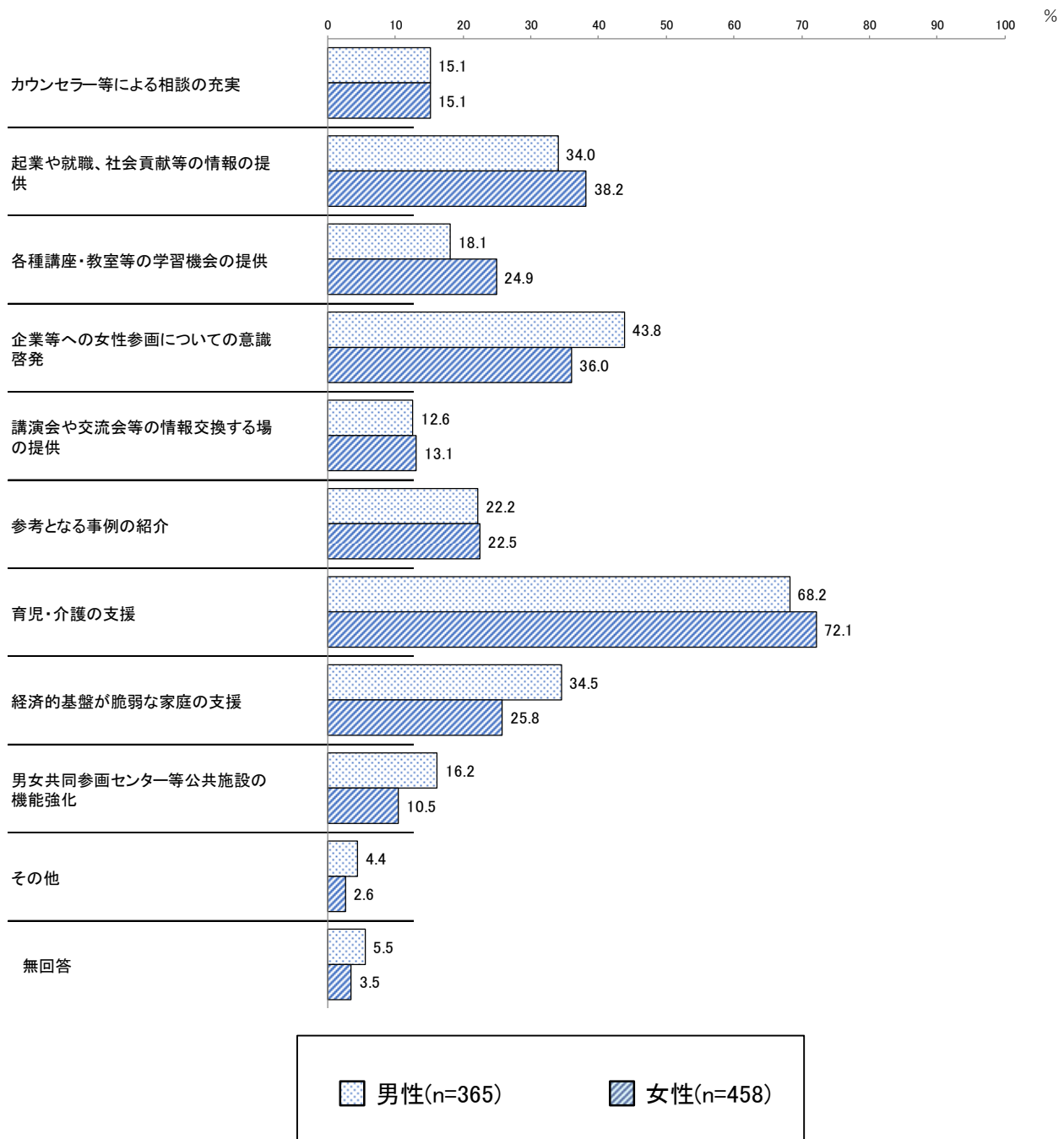
経年比較でみると、「育児・介護の支援」は増加傾向にあります。また、平成29年度以降、「企業等への女性参画についての意識啓発」、「経済的基盤が脆弱な家庭の支援」が増加傾向にあります。

n = 826



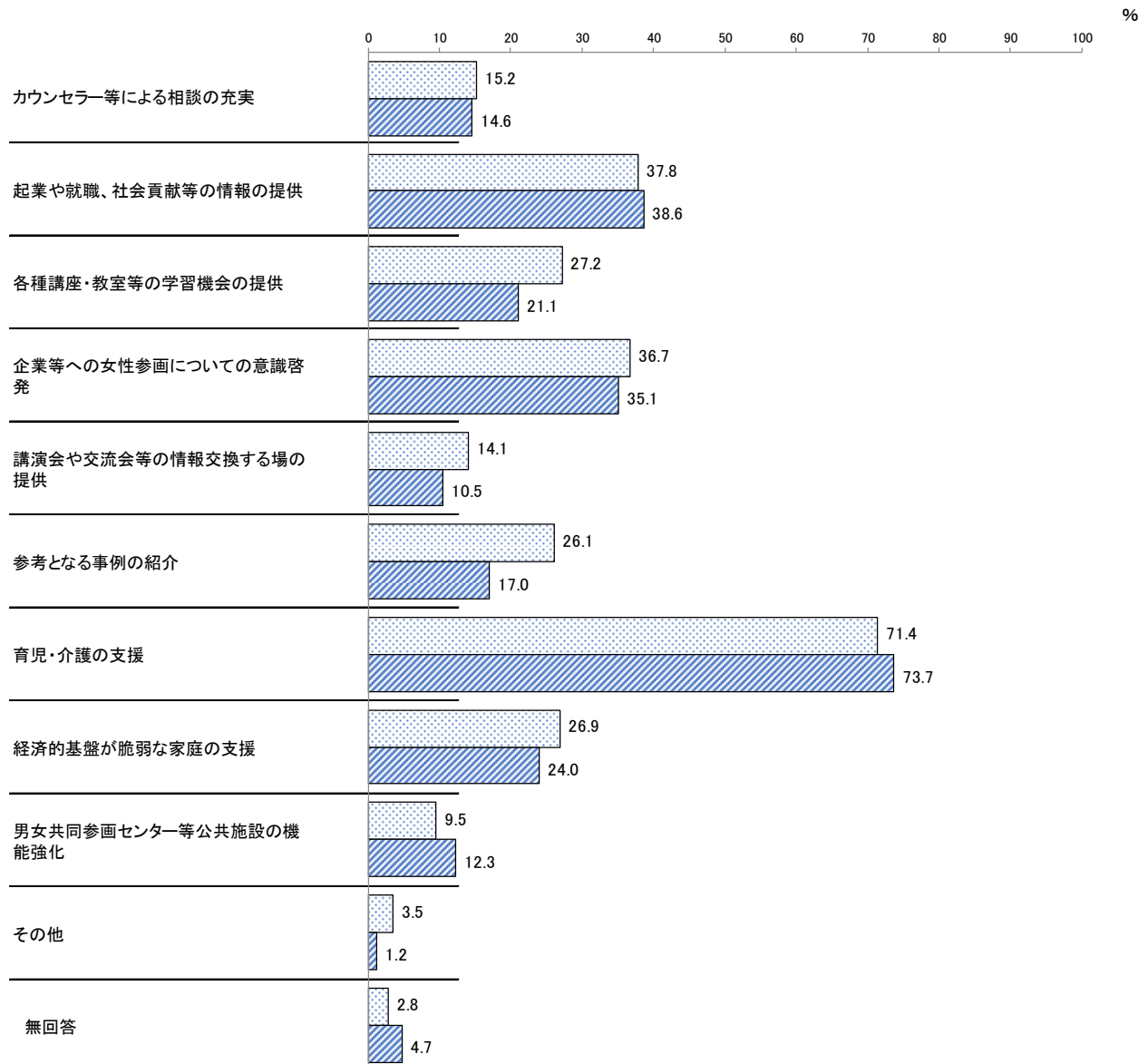
6 男女が共に能力を発揮できる就業環境について

【性別】



6 男女が共に能力を発揮できる就業環境について

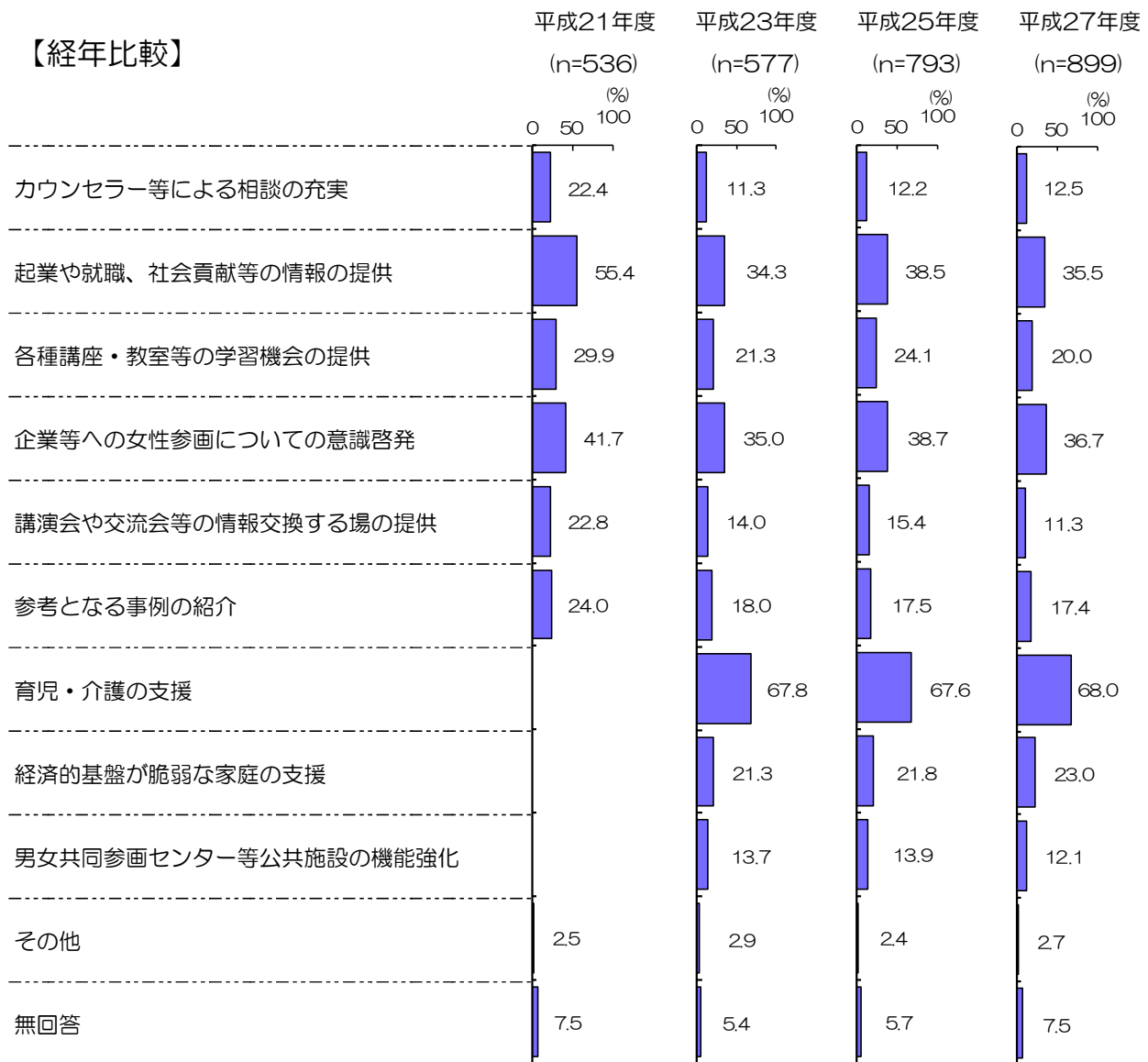
【女性・職業の有無別】



■ 勤め人・自営業 (n=283)

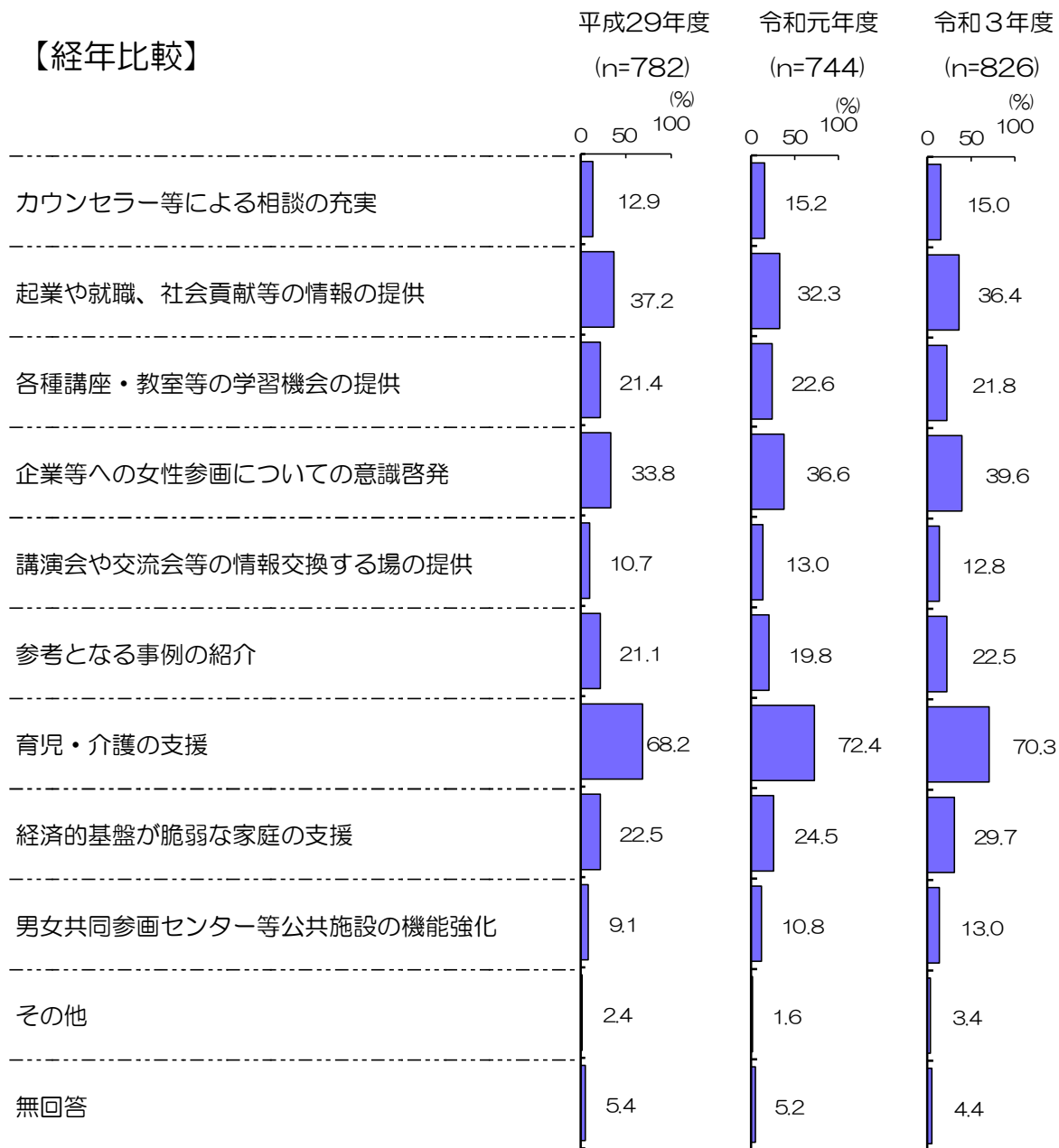
■ 専業主婦・無職・学生 (n=171)

6 男女が共に能力を発揮できる就業環境について



※「育児・介護の支援」、「経済的基盤が脆弱な家庭の支援」、「男女共同参画センター等公共施設の機能強化」は平成21年度より追加

6 男女が共に能力を発揮できる就業環境について



7 地域社会の一員としての活動について

1 仕事と家庭生活・地域活動の希望優先度

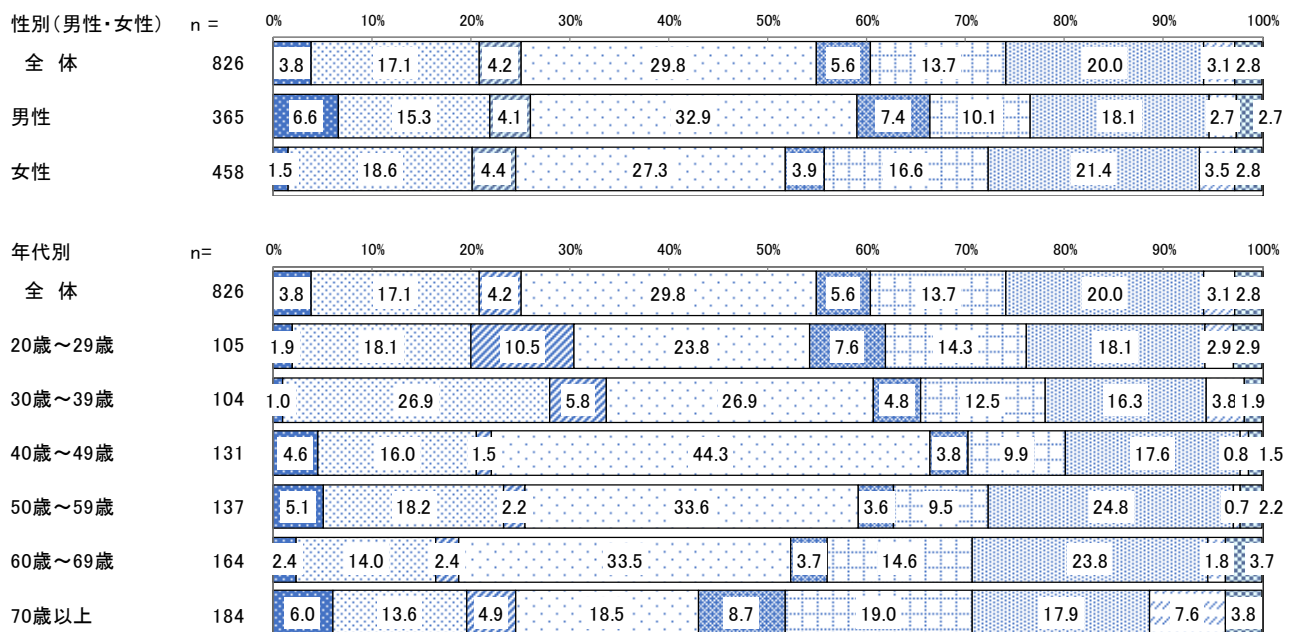
問21 生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味・付き合い）の優先度について、あなたの希望に最も近いものはどれですか。（1つに○）

「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」のいずれかを優先するのではなく、両立したい人が多くなっています。

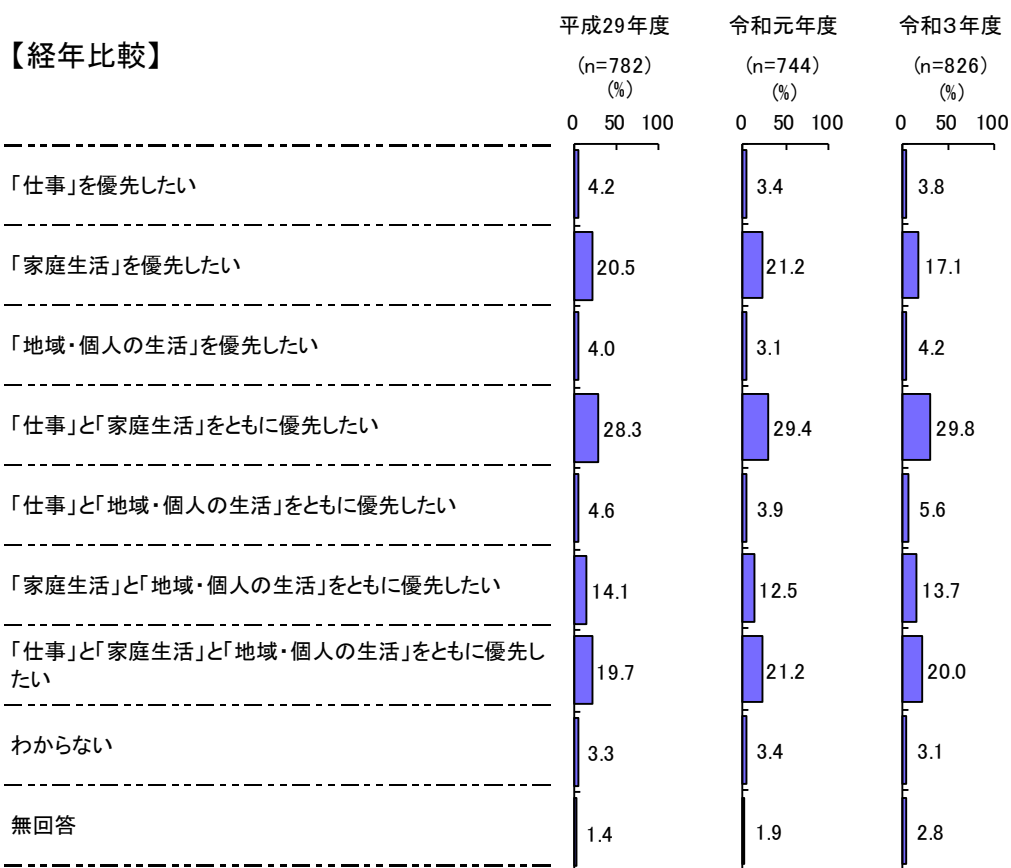
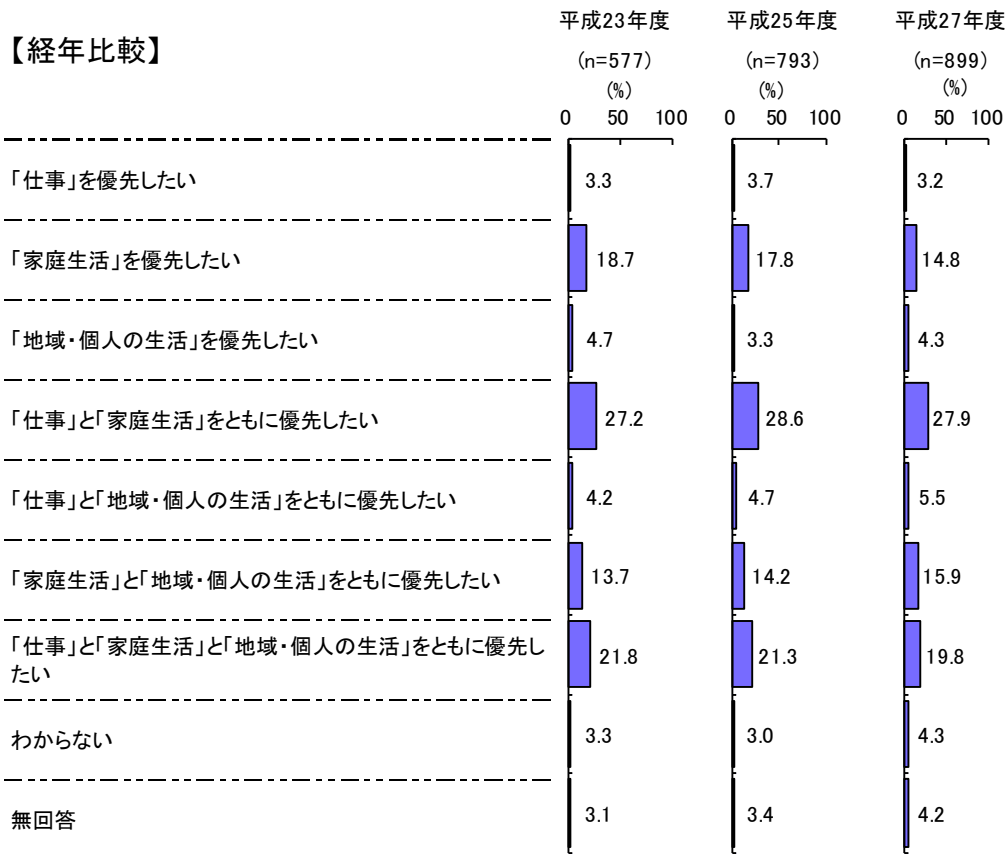
仕事と家庭生活、地域・個人の生活の優先度についてたずねたところ、「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい（29.8%）が最も高く、次に「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい（20.0%）、「家庭生活」を優先したい（17.1%）、「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい（13.7%）となっています。

年代別でみると、いずれの年代も「仕事」と「家庭生活」をともに優先したいの割合が最も高くなっています。

経年比較でみると、「仕事」と「家庭生活」をともに優先したいが最も高い割合で推移しており、その他の割合も横ばいで推移しています。



- 「仕事」を優先したい
- 「家庭生活」を優先したい
- 「地域・個人の生活」を優先したい
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい
- 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- わからない
- 無回答



2 仕事と家庭生活・地域活動の現実優先度

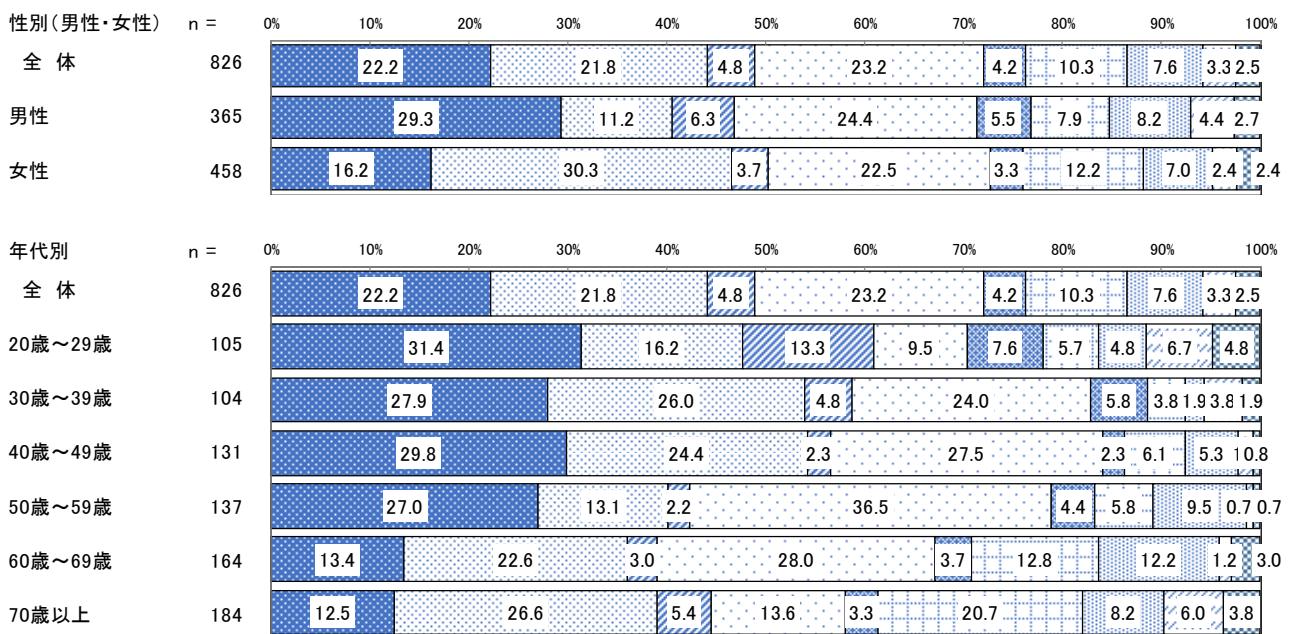
問21-2 それでは、あなたの現実（現状）に最も近いものはどれですか。（1つに○）

20代から40代は、「仕事」優先、50代、60代は「仕事」と「家庭生活」をともに優先の割合が最も高くなっています。

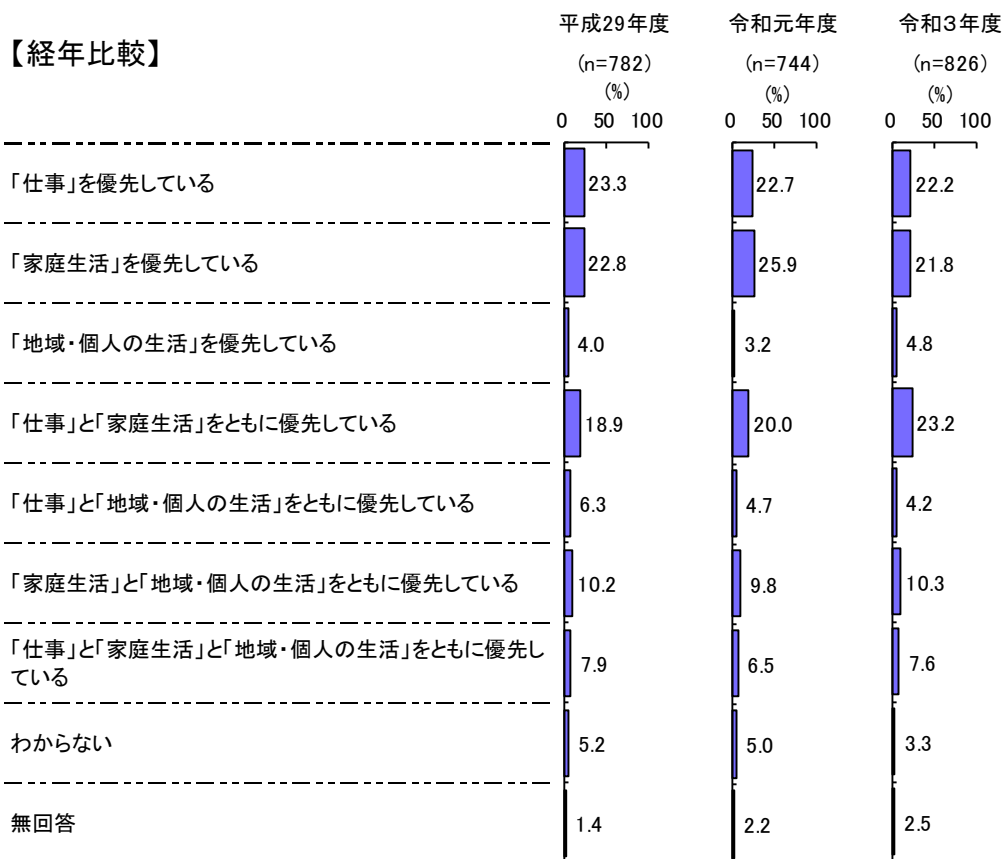
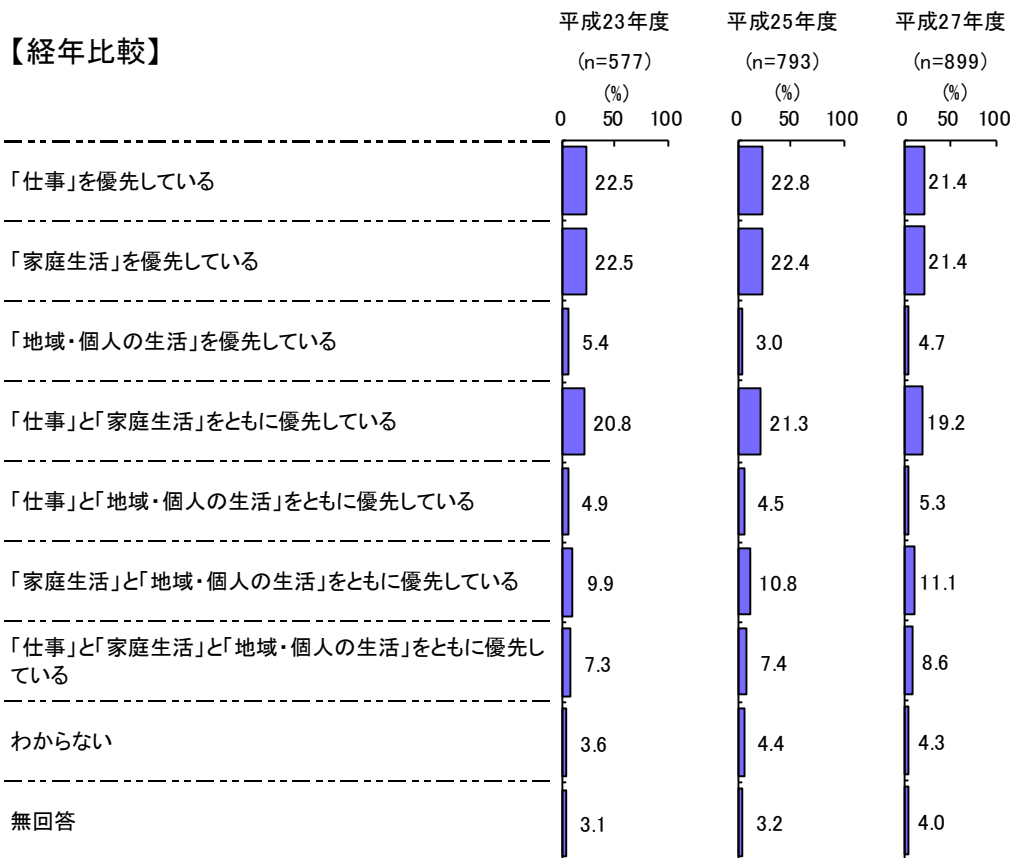
仕事と家庭生活、地域・個人の生活の現実の優先度についてたずねたところ、「仕事」と「家庭生活」をともに優先している（23.2%）が最も高く、次に「仕事」を優先している（22.2%）、「家庭生活」を優先している（21.8%）、「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している（10.3%）、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している（7.6%）となっています。

性別でみると、女性は、「家庭生活」を優先している（30.3%）が最も高くなっています。

年代別でみると、20代から40代は、「仕事」を優先しているの割合が最も高くなっています。また、50代、60代は、「仕事」と「家庭生活」をともに優先しているの割合が最も高くなっています。



- 「仕事」を優先している
- 「家庭生活」を優先している
- 「地域・個人の生活」を優先している
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
- 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- わからない
- 無回答



3 地域活動に参加しようとするとき障害となること

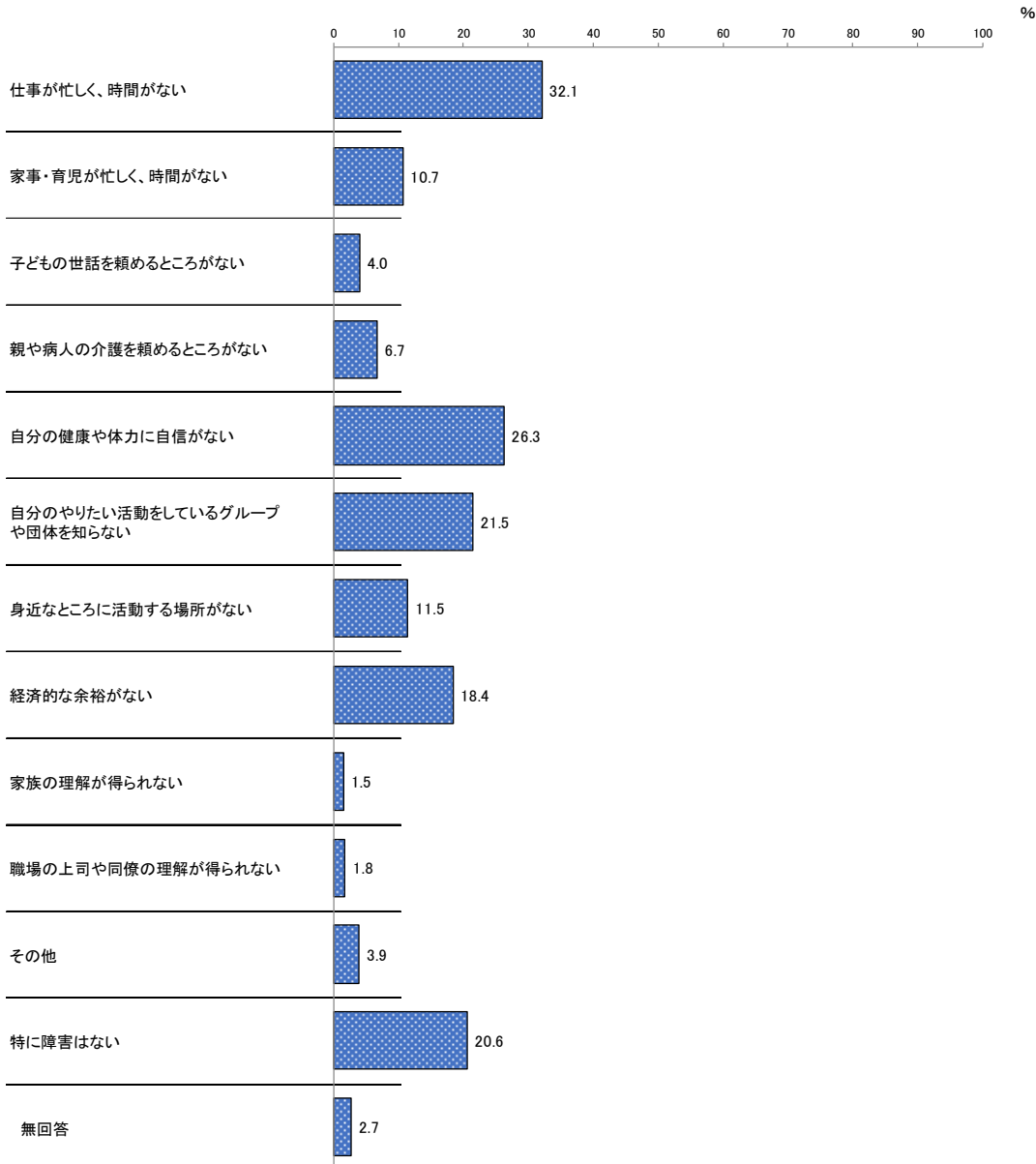
問22 あなたが現在（あるいは今後）、地域活動に参加しようとする時、何か障害になるようなことがありますか。（あてはまるもの全てに○）

「仕事が忙しく、時間がない」が3割以上となっています。

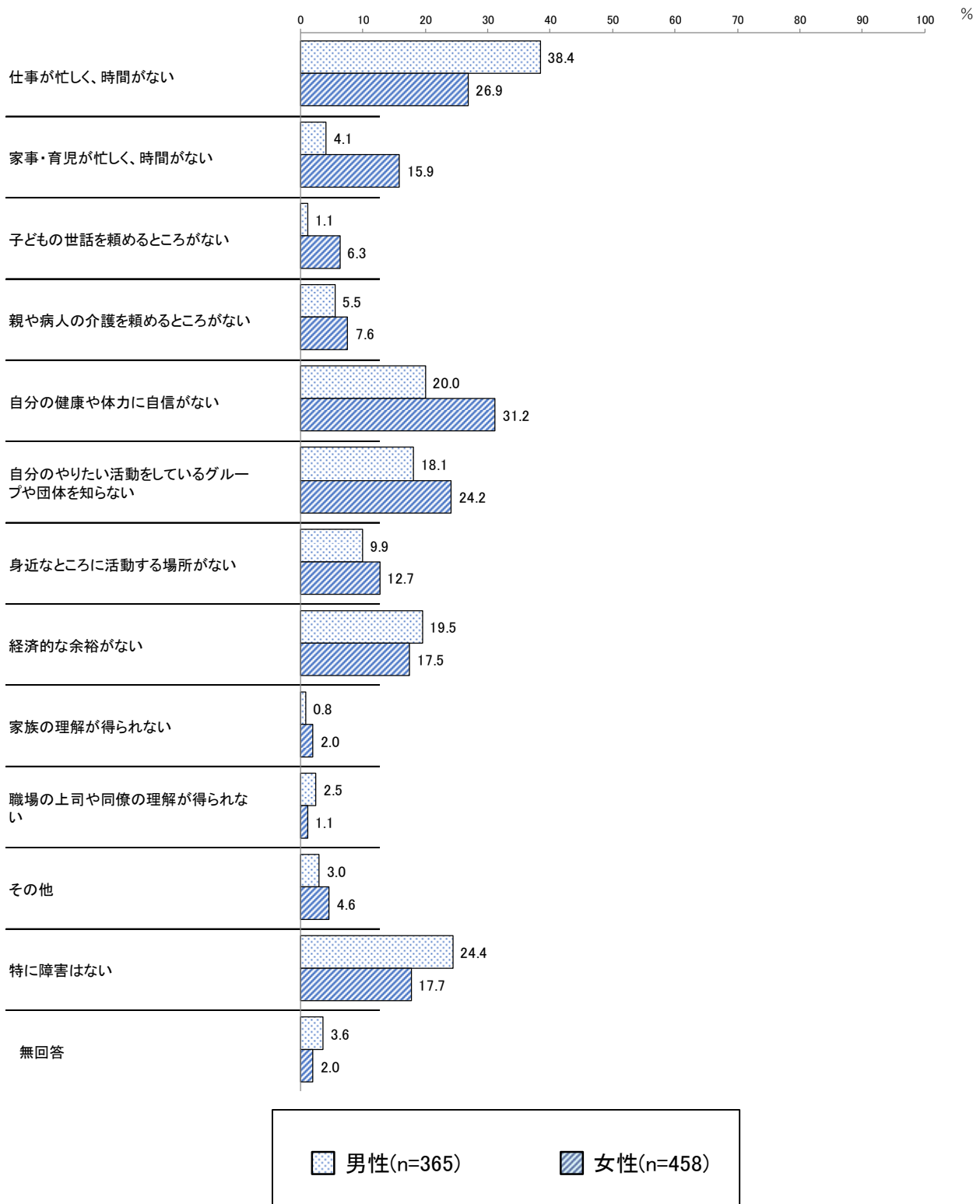
地域活動の参加への障害についてたずねたところ、「仕事が忙しく、時間がない」（32.1%）が最も高く、次に「自分の健康や体力に自信がない」（26.3%）、「自分のやりたい活動をしているグループや団体を知らない」（21.5%）、「特に障害はない」（20.6%）、「経済的な余裕がない」（18.4%）となっています。

性別でみると、「仕事が忙しく、時間がない」、「特に障害はない」は男性の割合が高く、「家事・育児が忙しく、時間がない」、「自分の健康や体力に自信がない」は女性の割合が高くなっています。

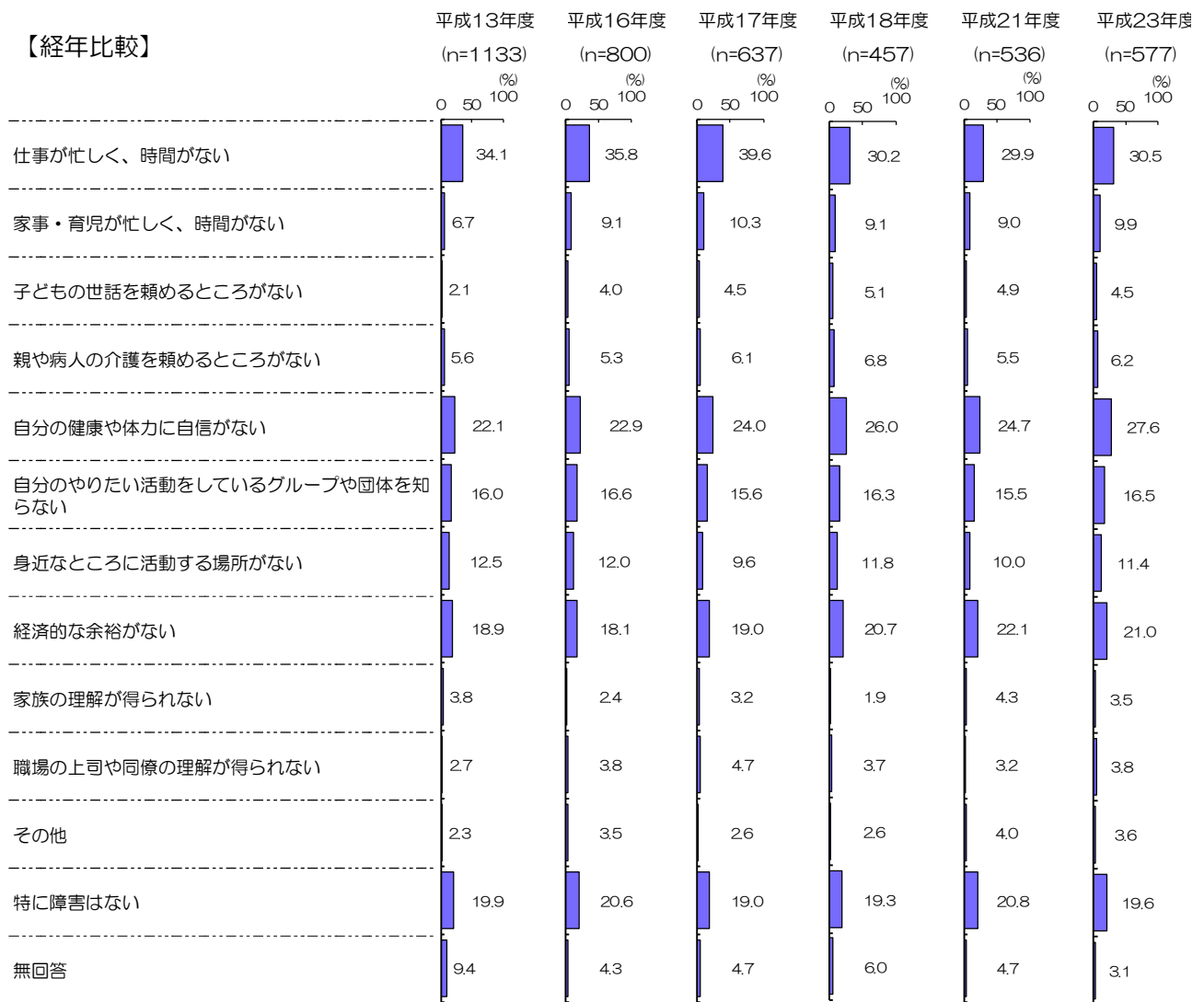
n = 826

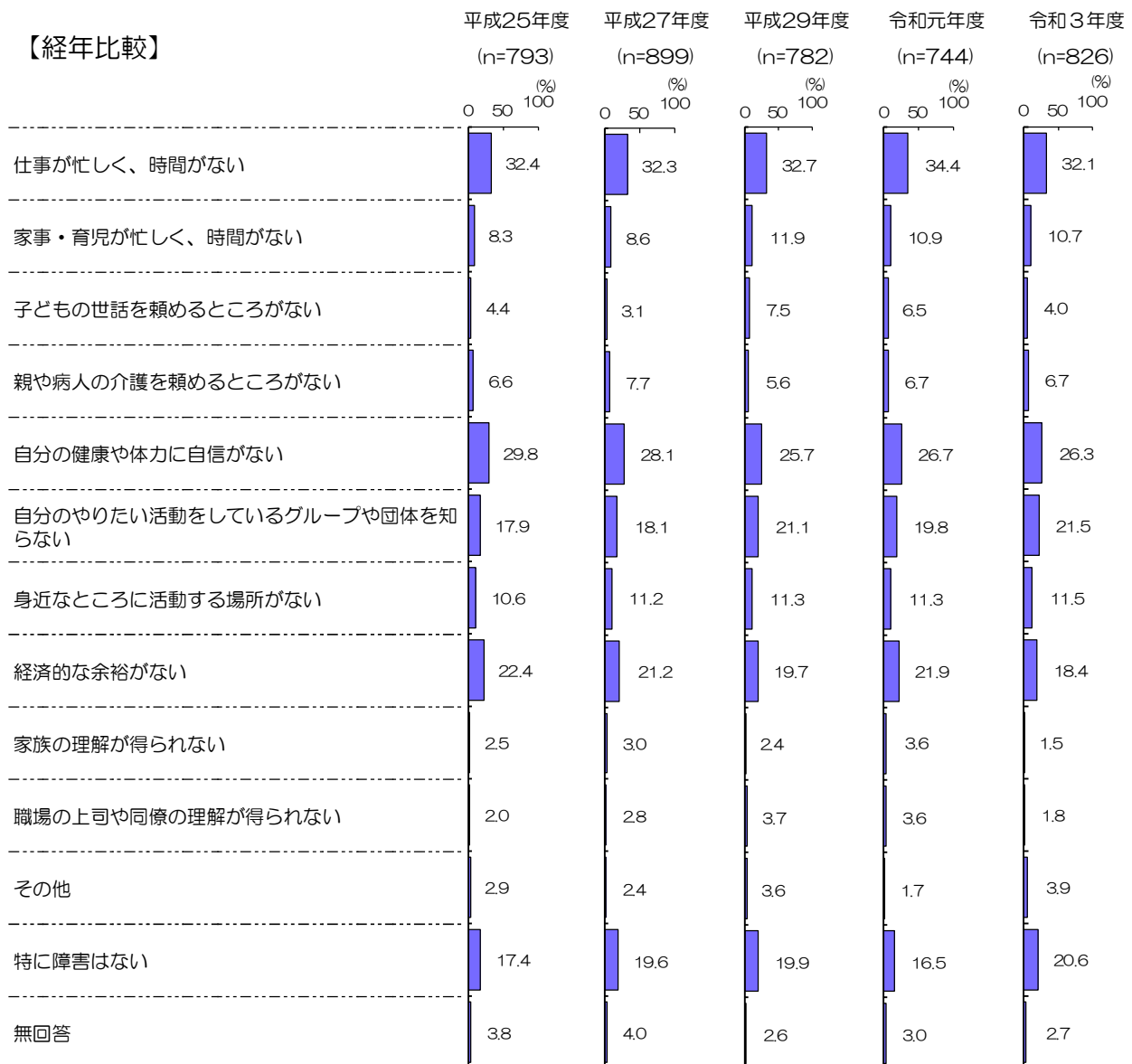


【性別】



IV 調査結果
7 地域社会の一員としての活動について





4 女性が自治会の長などの役職に就くことが少ない理由

問23 地域活動において、女性が自治会の長などの役職につくことが少ないのが現状です。この主な理由は何だと思えますか。(3つまでに○)

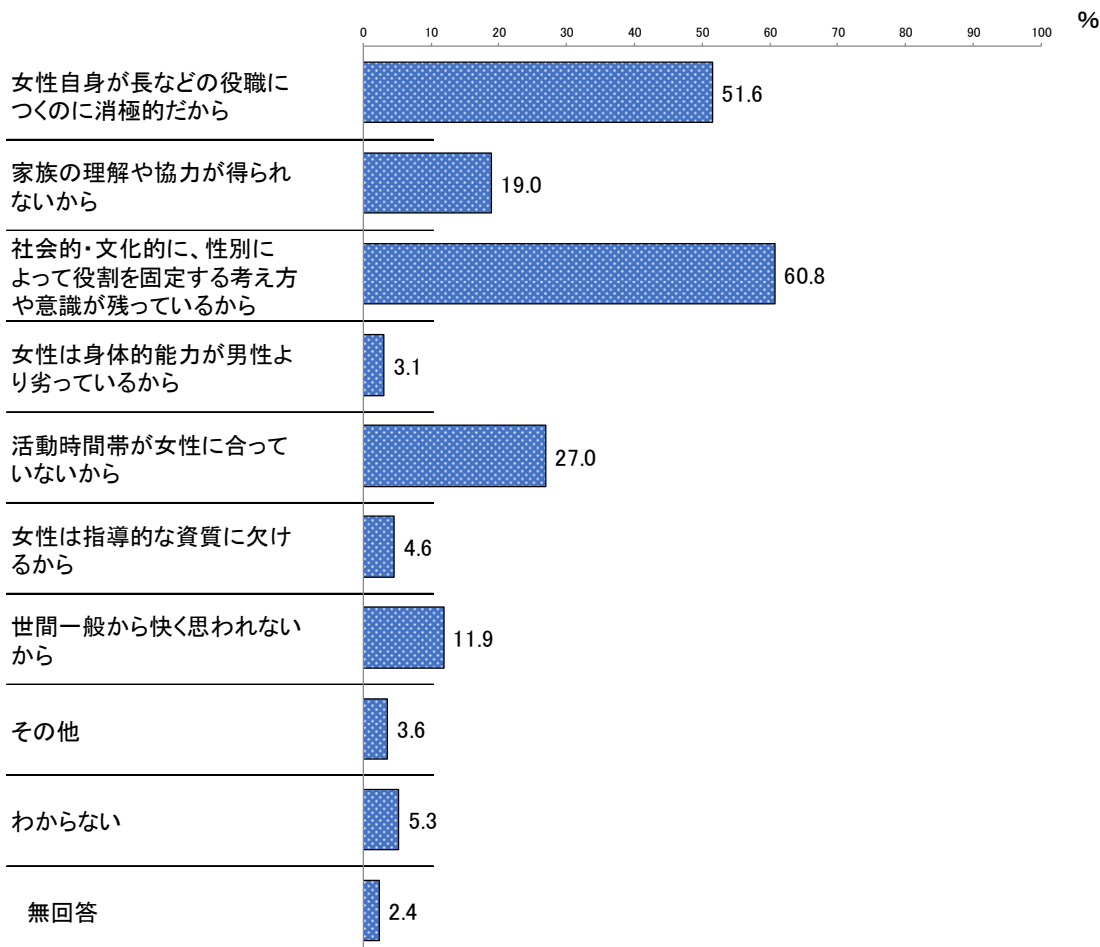
「社会的・文化的に、性別によって役割を固定する考え方や意識が残っているから」、「女性自身が長などの役職につくのに消極的だから」がともに5割以上となっています。

地域活動で女性が役職につくことが少ない理由についてたずねたところ、「社会的・文化的に、性別によって役割を固定する考え方や意識が残っているから」(60.8%)が最も高く、次に「女性自身が長などの役職につくのに消極的だから」(51.6%)、「活動時間帯が女性に合っていないから」(27.0%)となっています。

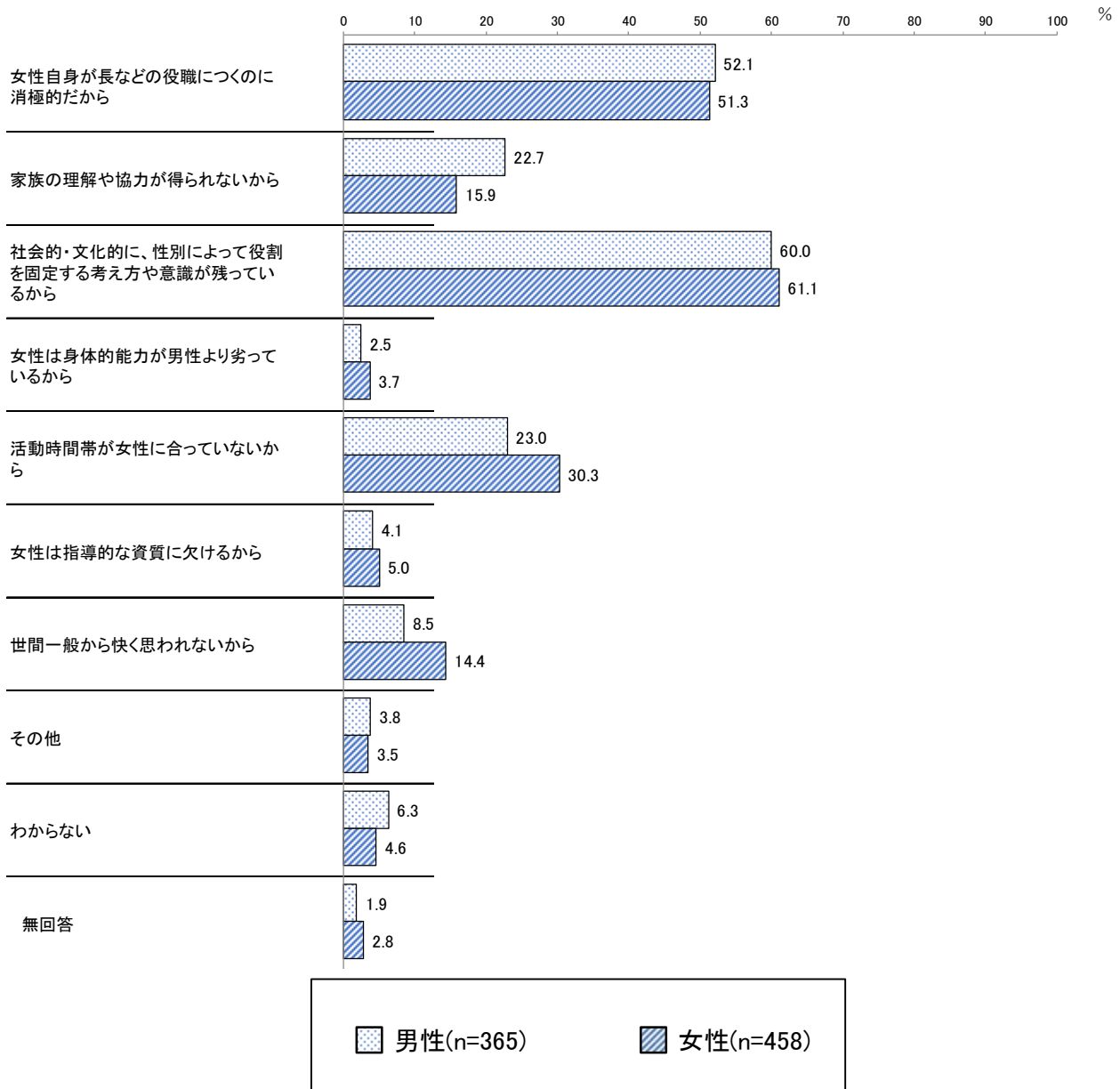
性別でみると、女性は男性に比べて、「活動時間帯が女性に合っていないから」の割合が高くなっています。

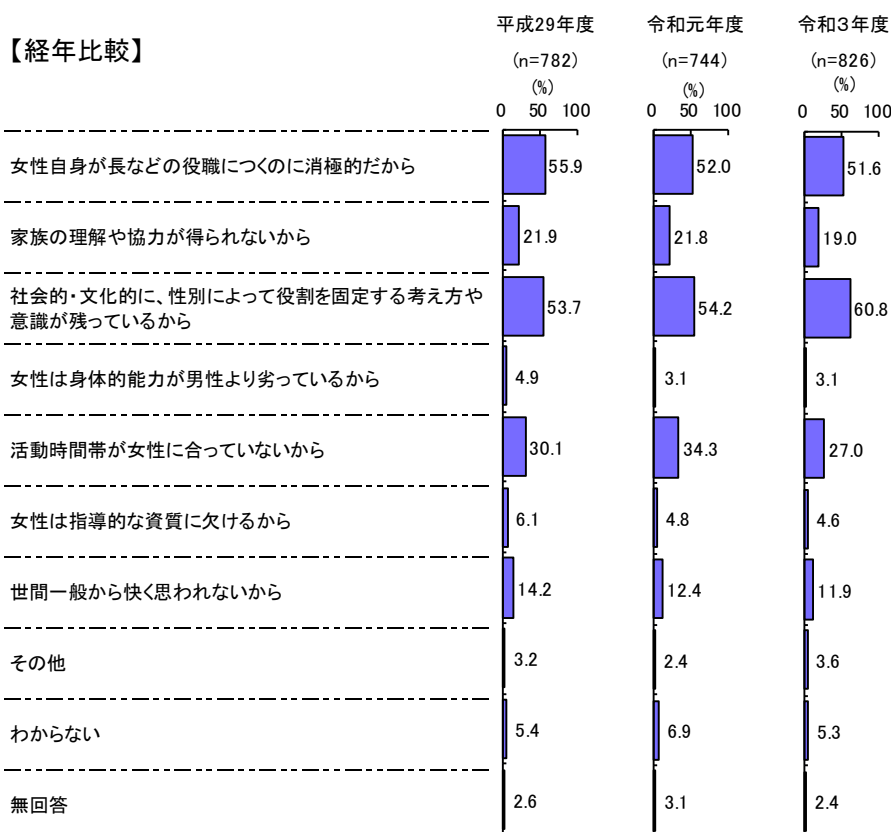
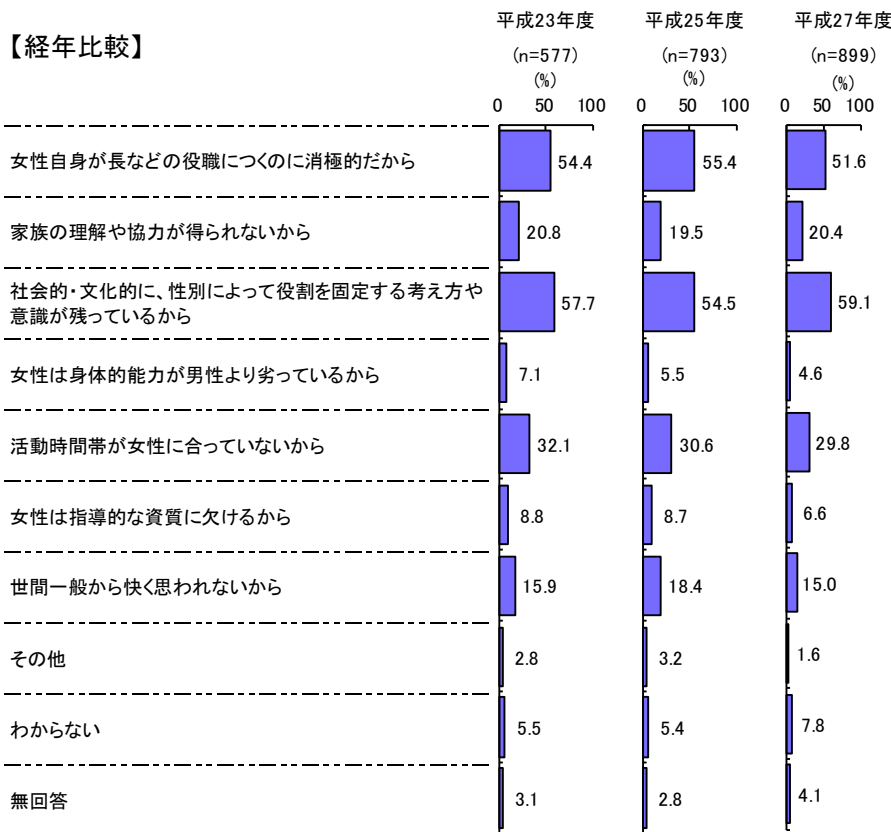
経年比較でみると、「女性自身が長などの役職につくのに消極的だから」、「社会的・文化的に、性別によって役割を固定する考え方や意識が残っているから」が5割以上で推移しています。「世間一般から快く思われないから」は減少傾向にあります。

n = 826



【性別】





8 実践的な取組の推進について

1 「静岡県男女共同参画センターあざれあ」の利用有無

問24 「静岡県男女共同参画センターあざれあ」を利用したことがありますか。(1つに○)

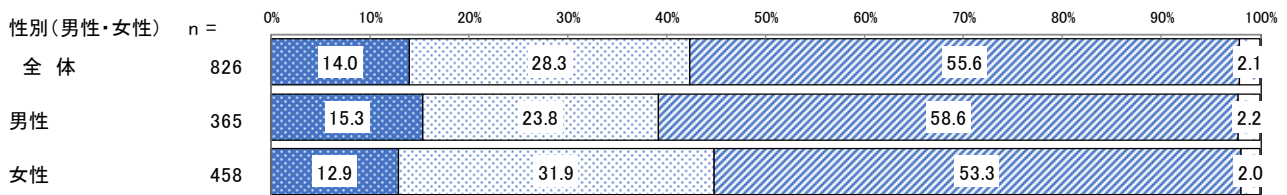
「知らない」が5割以上となっています。

「静岡県男女共同参画センターあざれあ」の利用についてたずねたところ、「知らない」が55.6%と半数以上を占めています。「利用したことがある」は14.0%となっています。

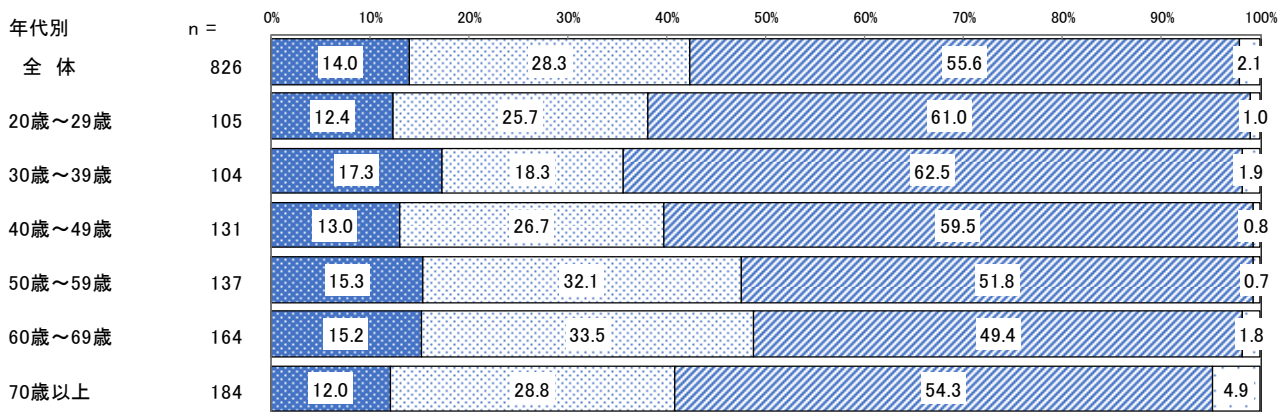
年代別で見ると、「利用したことがある」は、30代が最も高くなっています。

地域別で見ると、中部は、「利用したことがある」と「知っているが、利用したことはない」を合わせた認知度は7割近くとなっていますが、西部及び東部は「知らない」が6割以上となっています。

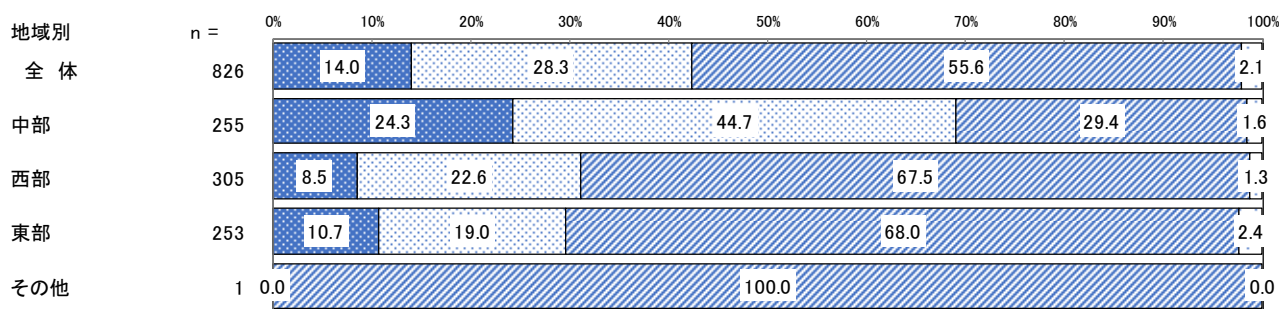
経年比較をみると、「知らない」が5割以上で推移しています。



■ 利用したことがある ■ 知っているが、利用したことはない ■ 知らない ■ 無回答

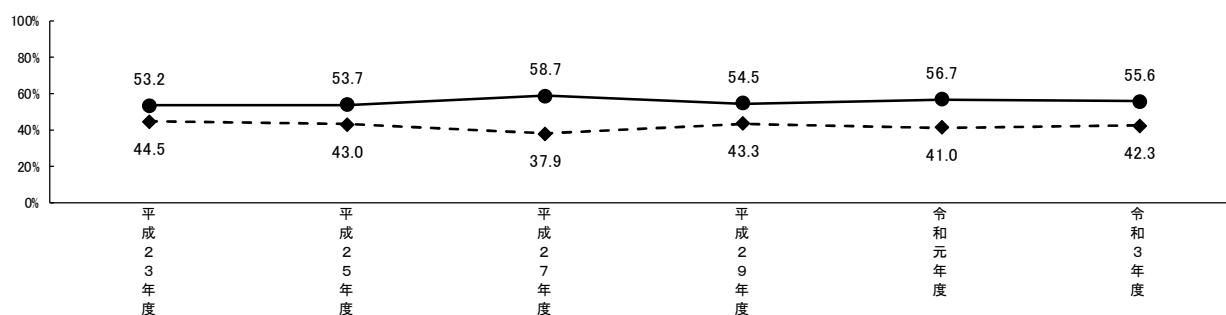


■ 利用したことがある ■ 知っているが、利用したことはない ■ 知らない ■ 無回答



■ 利用したことがある ■ 知っているが、利用したことはない ■ 知らない ■ 無回答

【経年比較】



- ◆ - 『知っている』 ● 『知らない』

※無回答などを省略していますので、合計しても100%にならないことがあります。

	調査数	利用したことがある	知っているが、利用したことはない	知らない	無回答
平成23年度	424	12.3%	32.2%	53.2%	2.3%
平成25年度	571	13.7%	29.3%	53.7%	3.3%
平成27年度	899	11.2%	26.7%	58.7%	3.3%
平成29年度	782	15.6%	27.7%	54.5%	2.2%
令和元年度	744	12.6%	28.4%	56.7%	2.3%
令和3年度	826	14.0%	28.3%	55.6%	2.1%

※『知っている』（「利用したことがある」＋「知っているが、利用したことはない」）

2 「静岡県男女共同参画センターあざれあ」に期待している役割

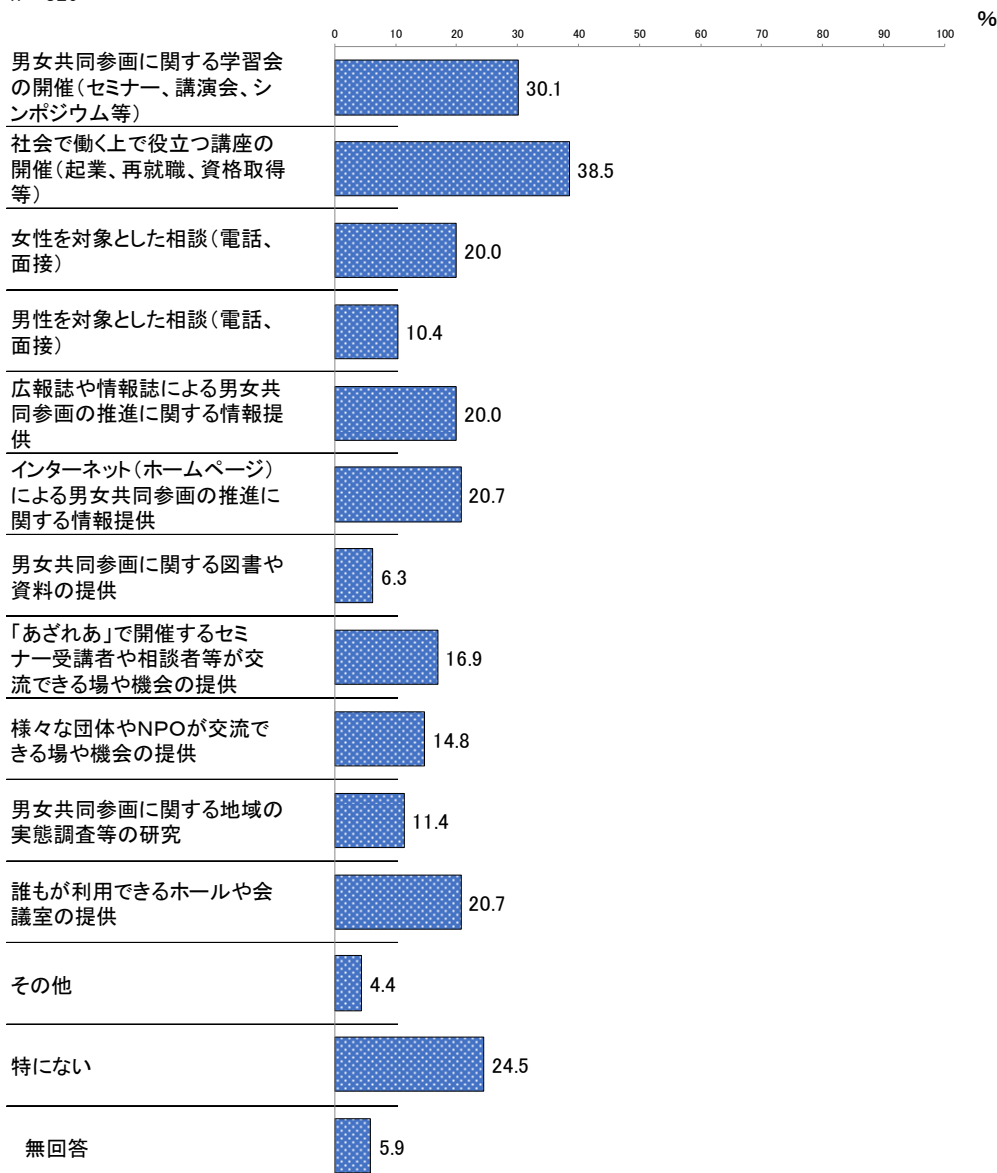
問24-2 「静岡県男女共同参画センターあざれあ」について、あなたは、この施設にどのような役割を期待していますか。(あてはまるもの全てに○)

「社会で働く上で役立つ講座の開催（起業、再就職、資格取得等）」を4割近くが期待しています。

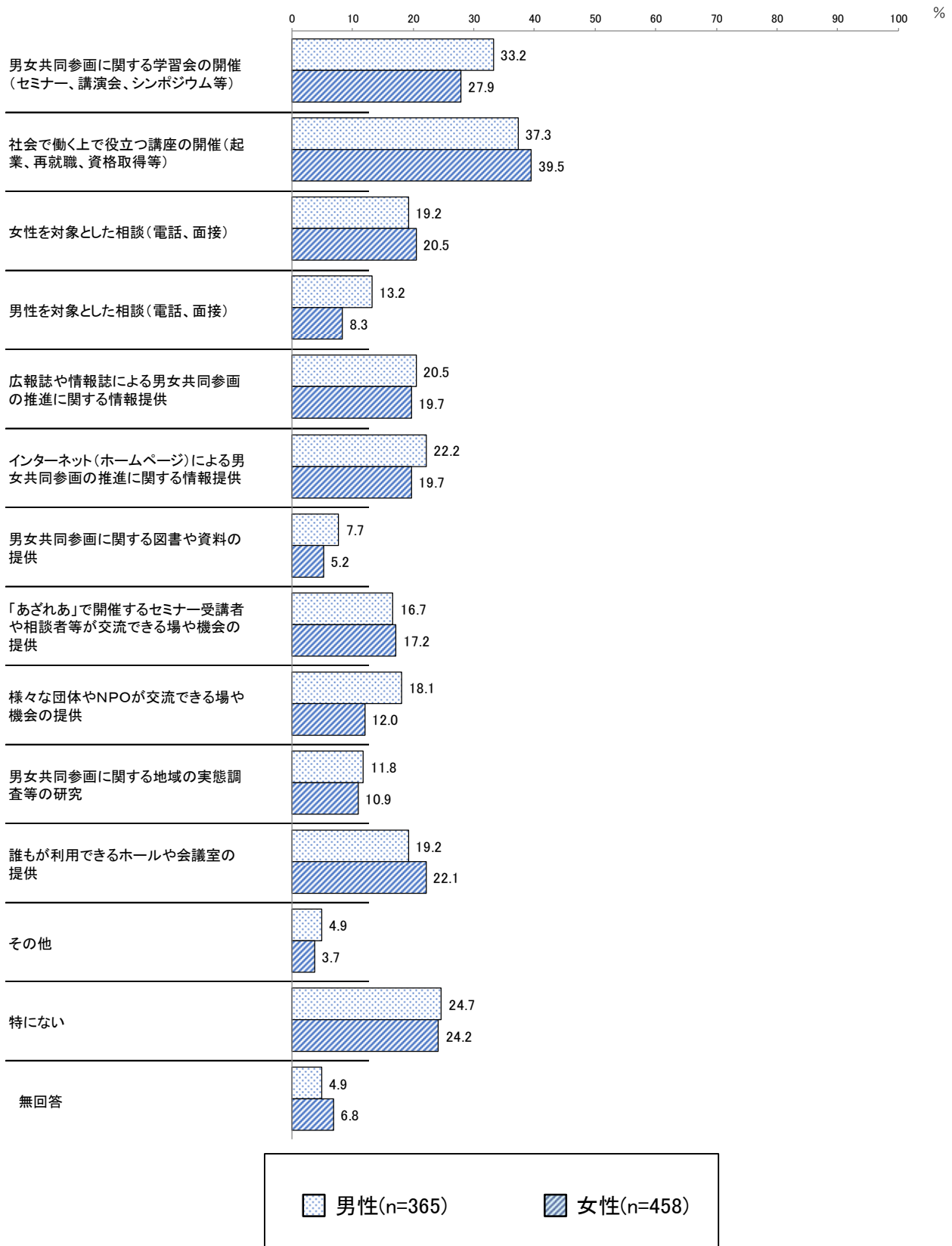
「静岡県男女共同参画センターあざれあ」に期待する役割をたずねたところ、「社会で働く上で役立つ講座の開催（起業、再就職、資格取得等）」（38.5%）が最も高く、次に「男女共同参画に関する学習会の開催（セミナー、講演会、シンポジウム等）」（30.1%）、「特にない」（24.5%）となっています。

経年比較でみると、「社会で働く上で役立つ講座の開催（起業、再就職、資格取得等）」が最も高い割合で推移しています。また、「女性を対象とした相談（電話、面談）」が過去最も高い割合となっています。

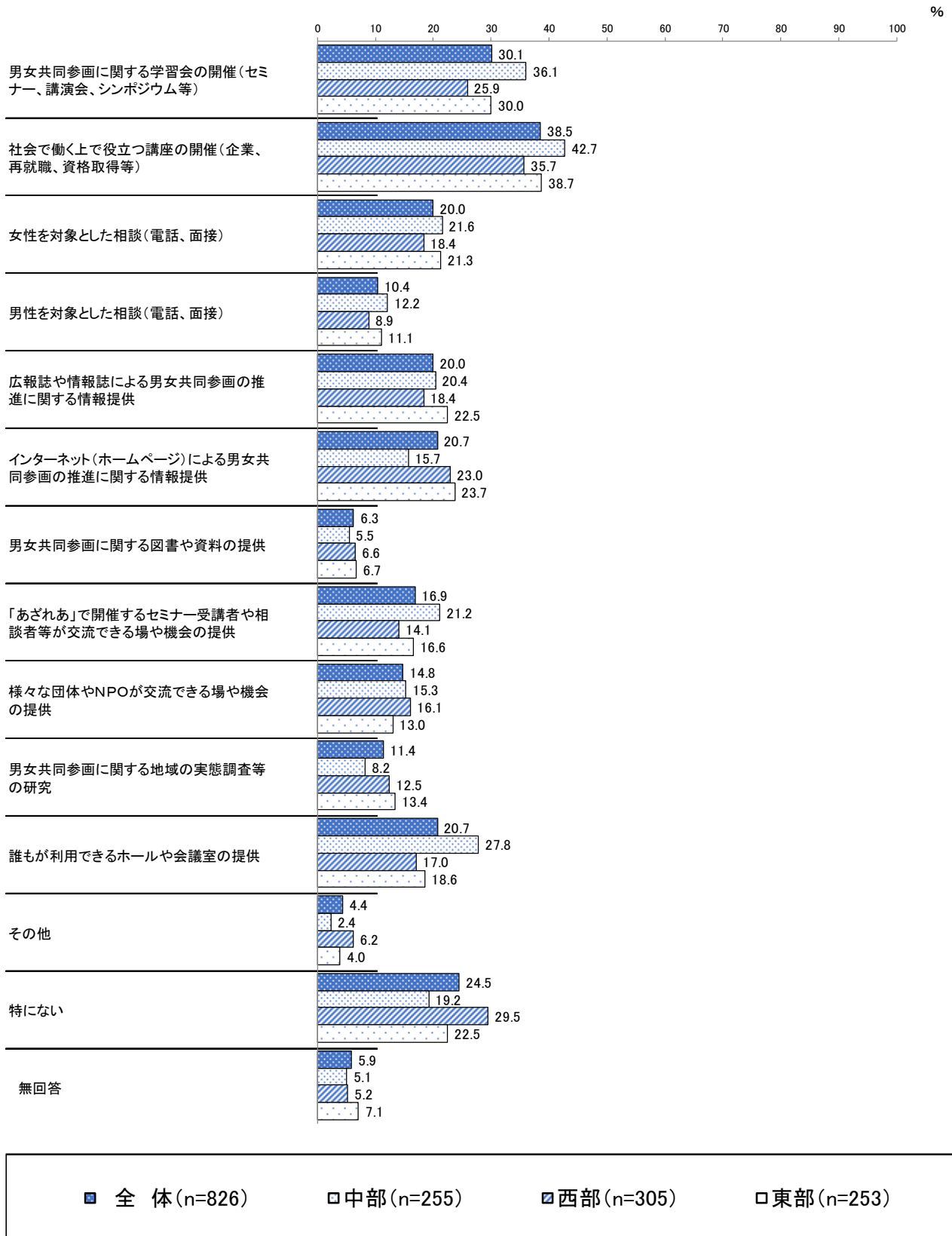
n = 826



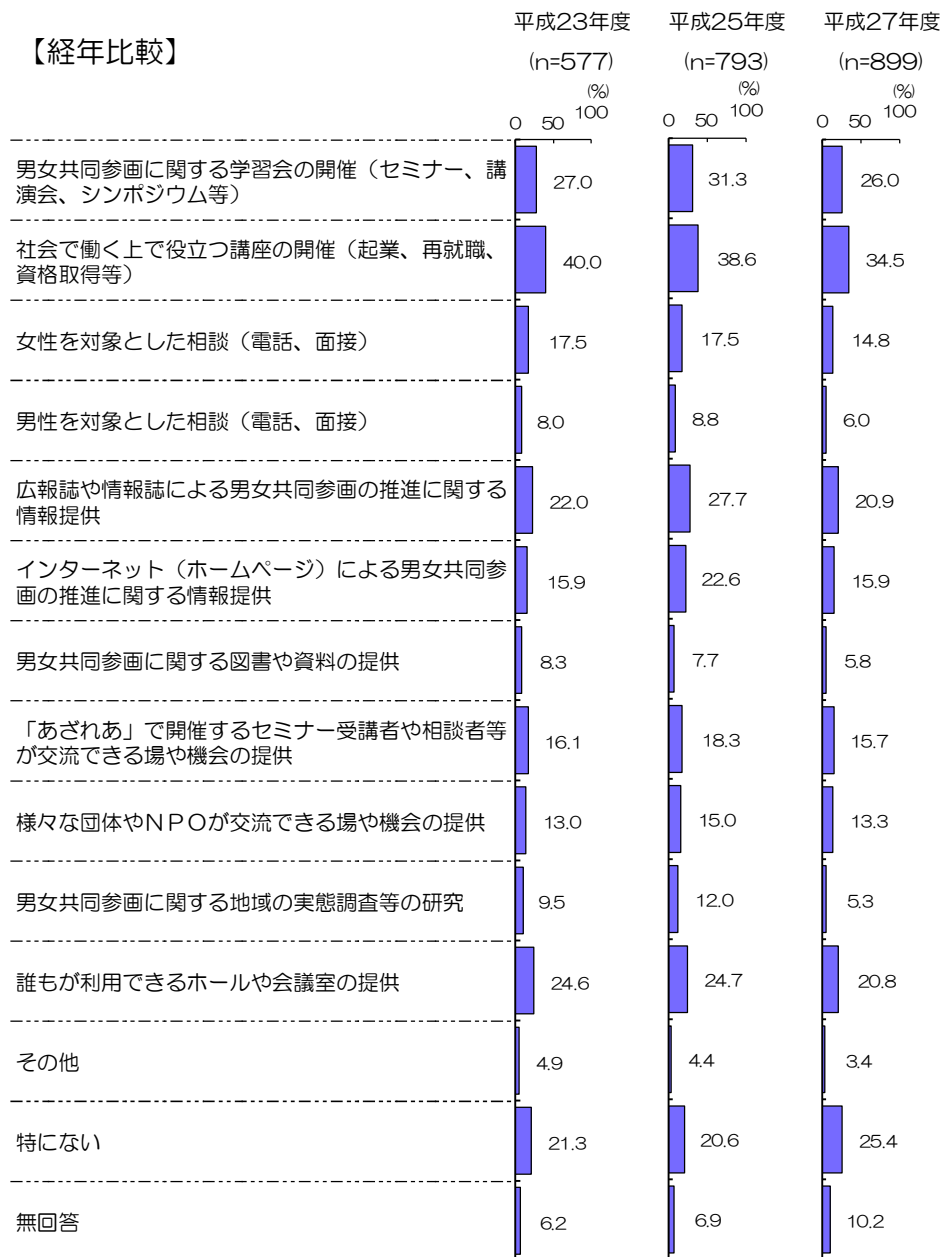
【性別】

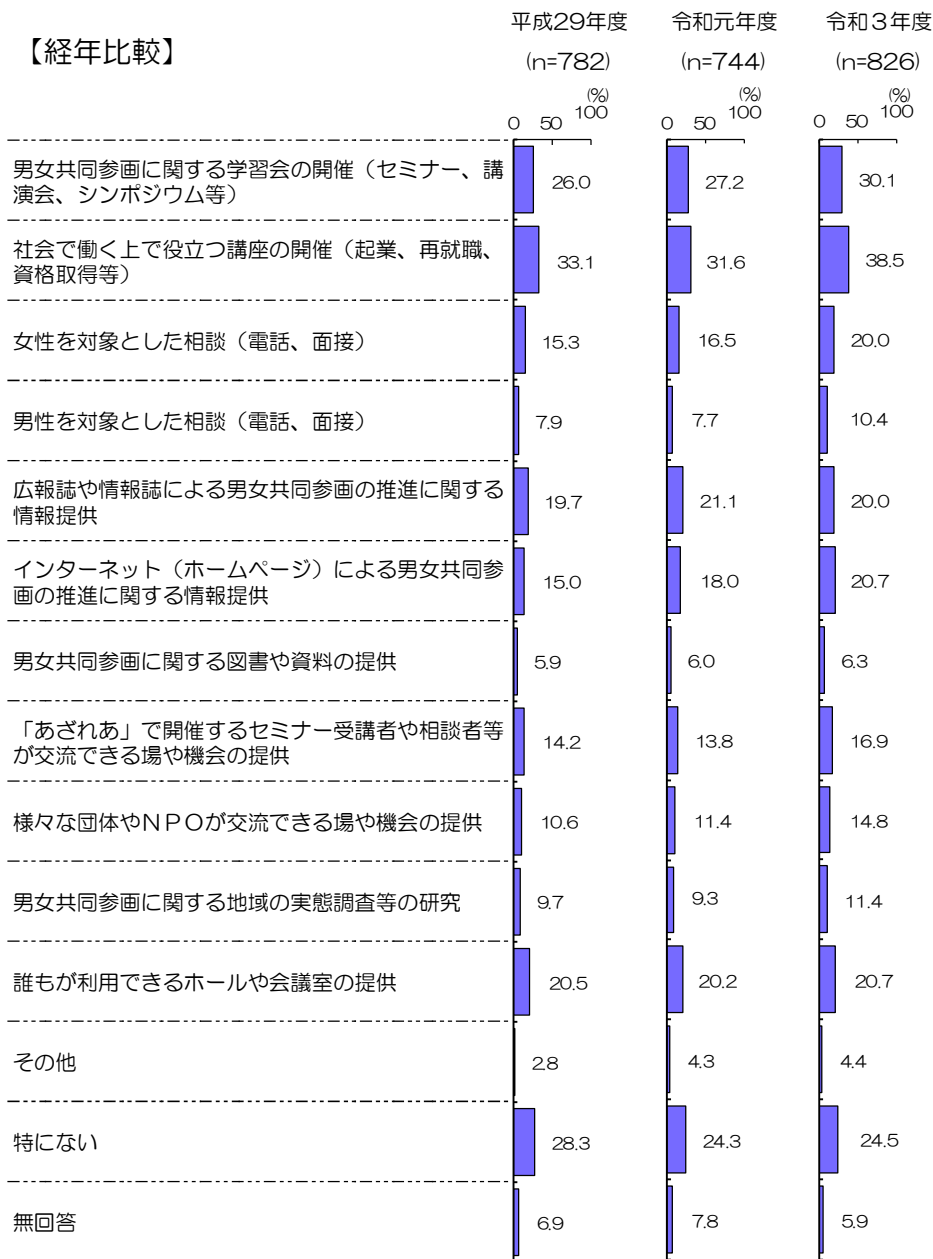


【地域別】



※地域別「その他」は標本数が少ないため (n=1) 掲載を省略しています。





9 性的マイノリティ（LGBTなどの性的少数者）について

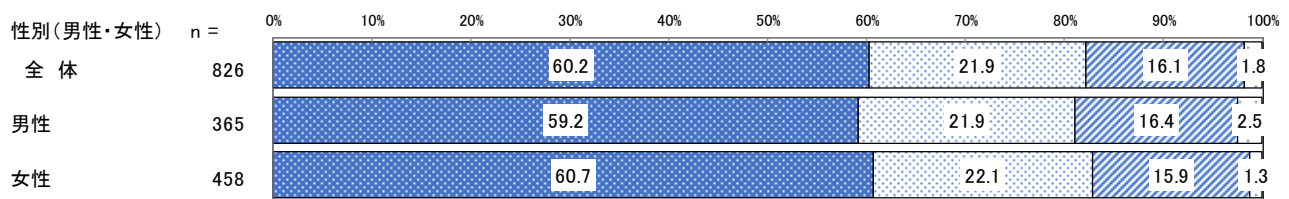
1 性的マイノリティ（LGBTなどの性的少数者）に関する知識

問25 あなたは、性的マイノリティ（LGBTなどの性的少数者）という言葉を知っていますか。
（1つに○）

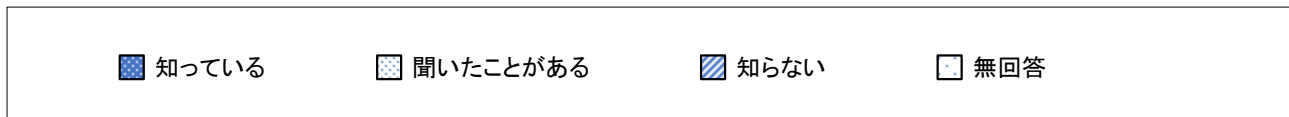
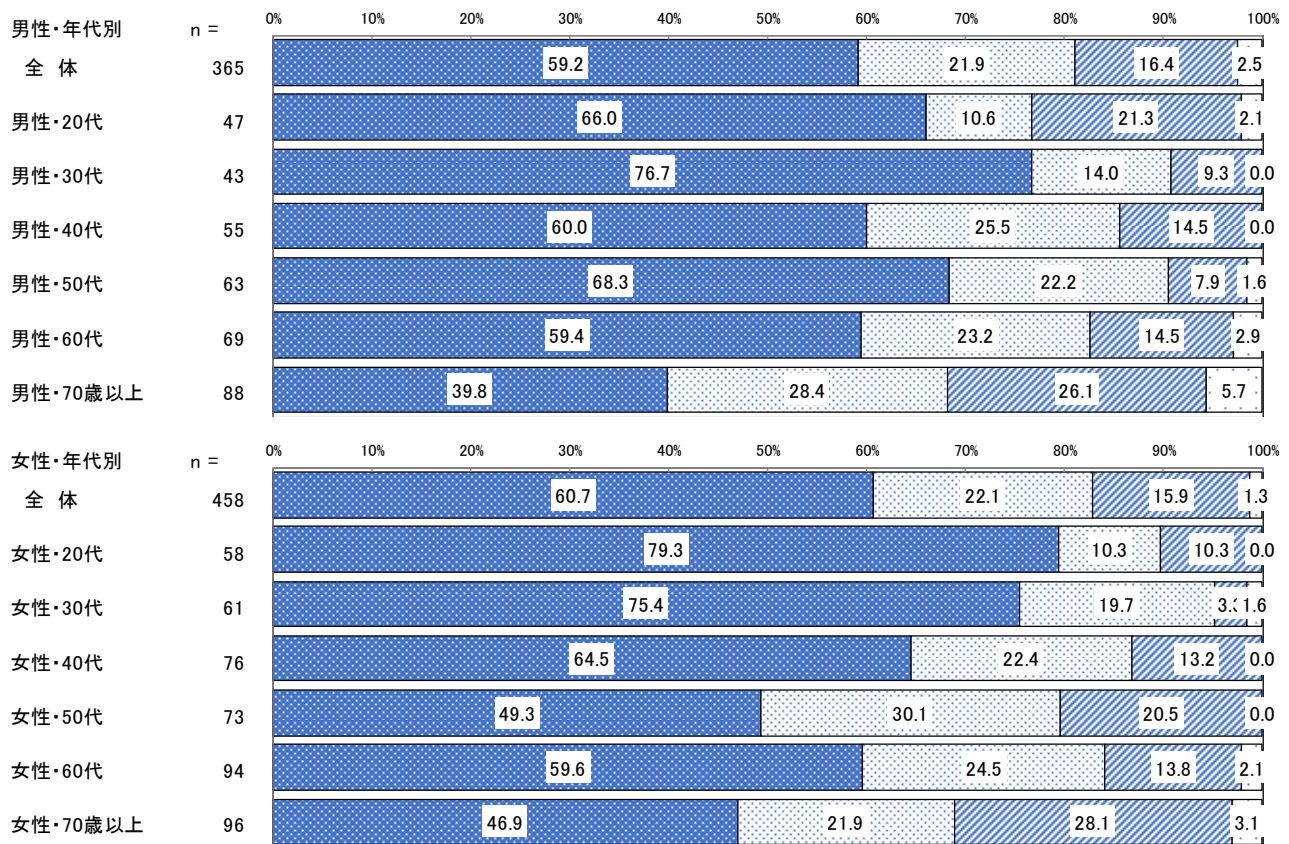
『知っている』が約8割となっています。

「性的マイノリティ（LGBTなどの性的少数者）」という言葉について、『知っている』（「知っている」＋「聞いたことがある」）が82.1%、「知らない」が16.1%となっています。

性・年代別でみると、『知っている』割合は、男性は30代、女性は20代が最も高くなっています。



【性・年代別】



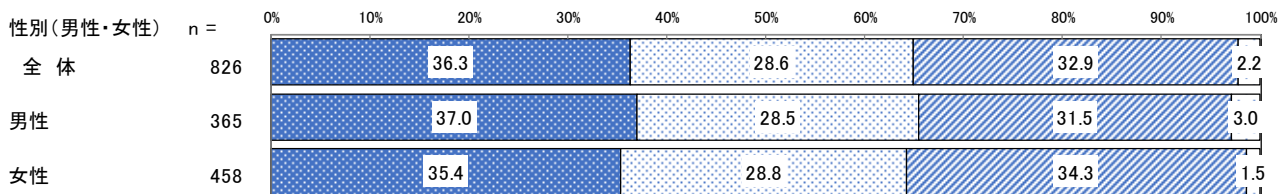
9 性的マイノリティ（LGBTなどの性的少数者）について

問25-2 あなたは、性的指向という言葉を知っていますか。（1つに○）

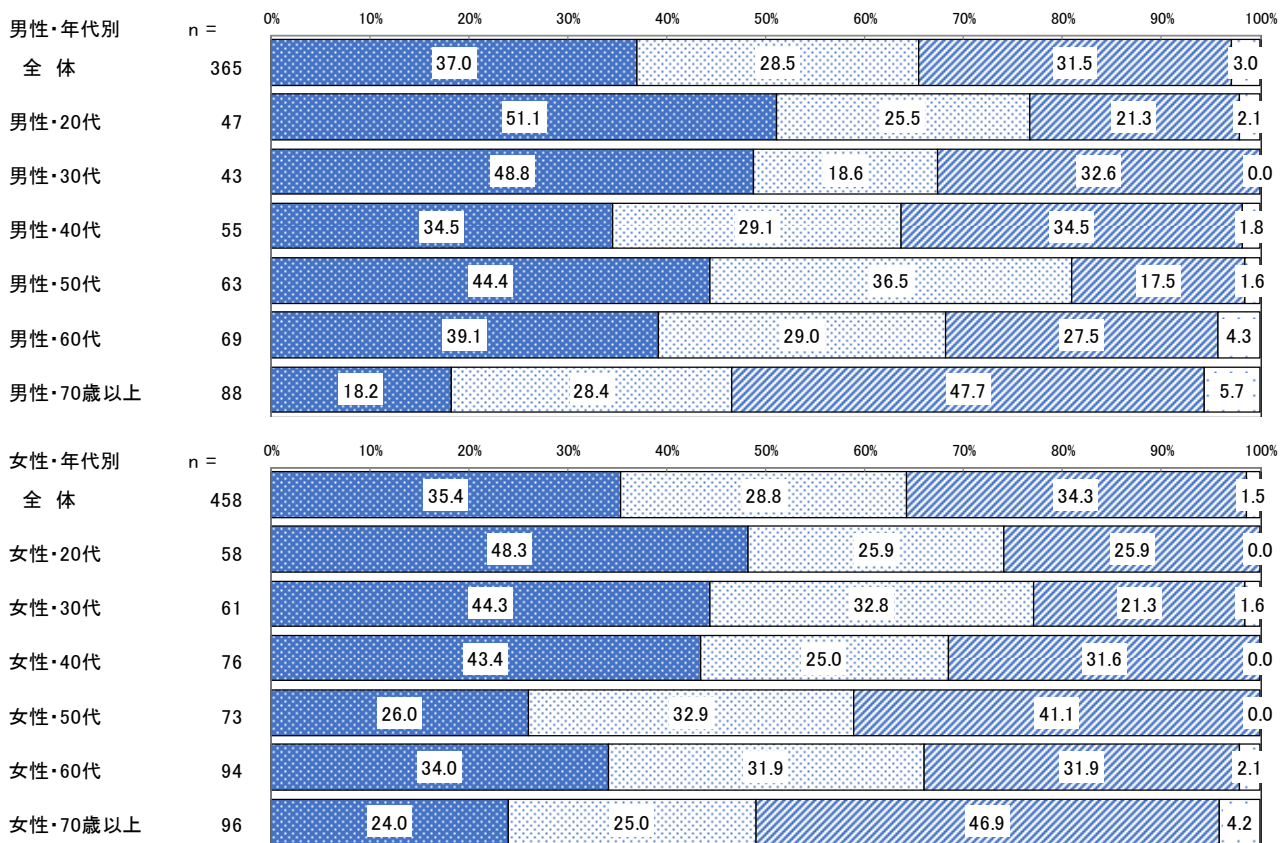
『知っている』が約6割となっています。

「性的指向」という言葉について、『知っている』（「知っている」+「聞いたことがある」）が64.9%、「知らない」が32.9%となっています。

性・年代別でみると、『知っている』割合は、男性は20代、女性は30代が最も高くなっています。



【性・年代別】

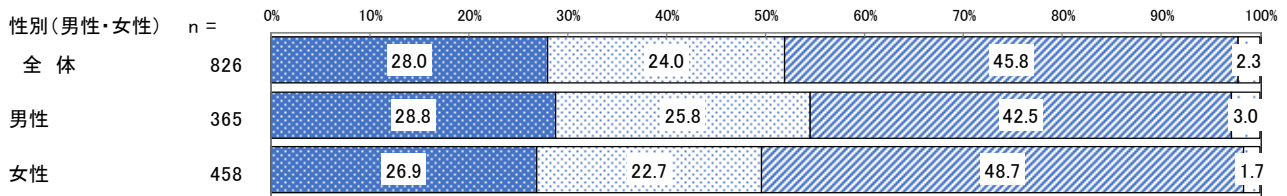


問25-3 あなたは、性自認という言葉を知っていますか。（1つに○）

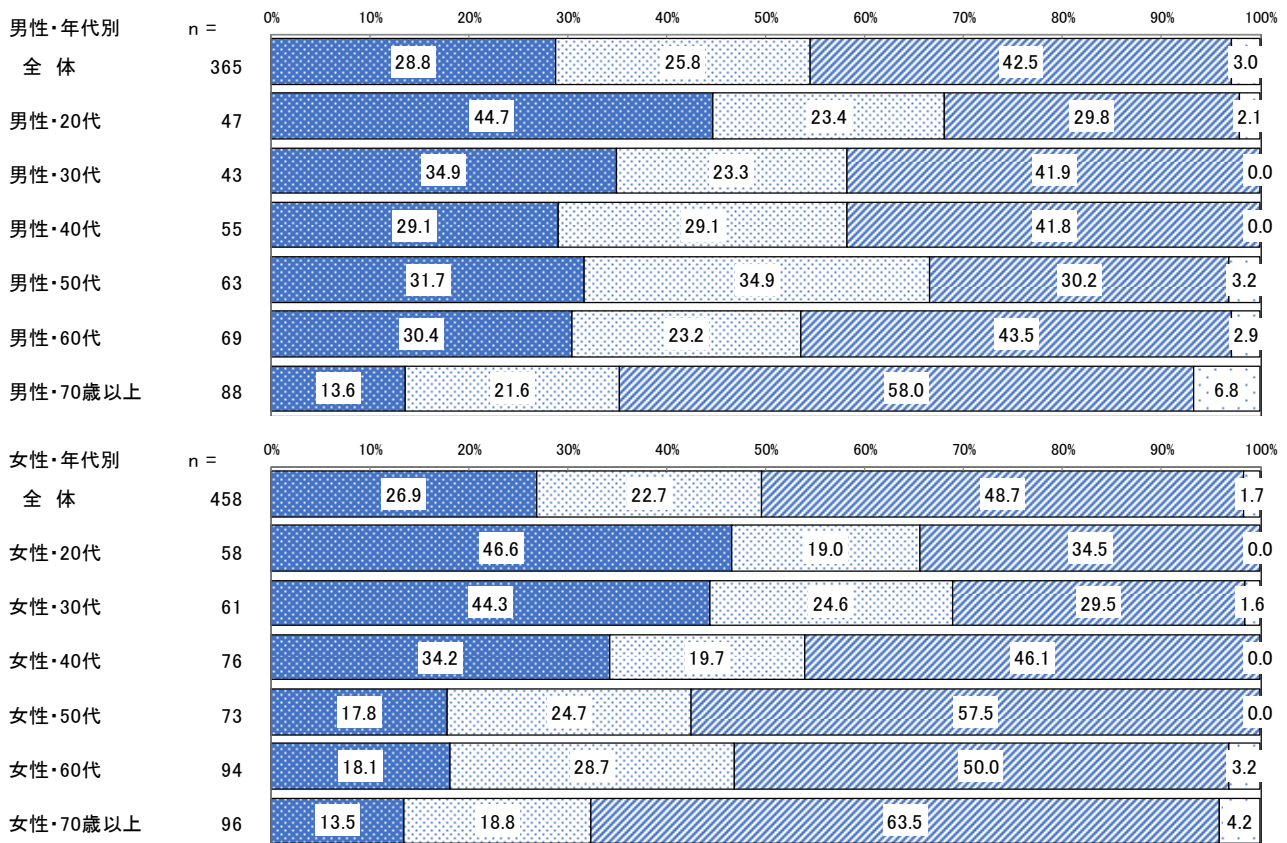
『知っている』が約5割となっています。

「性自認」という言葉について、『知っている』（「知っている」+「聞いたことがある」）が52.0%、「知らない」が45.8%となっています。

性・年代別でみると、『知っている』割合は、男性は20代、50代、女性は20代、30代が約7割となっている一方で、70歳以上は男性、女性ともに3割台となっています。



【性・年代別】



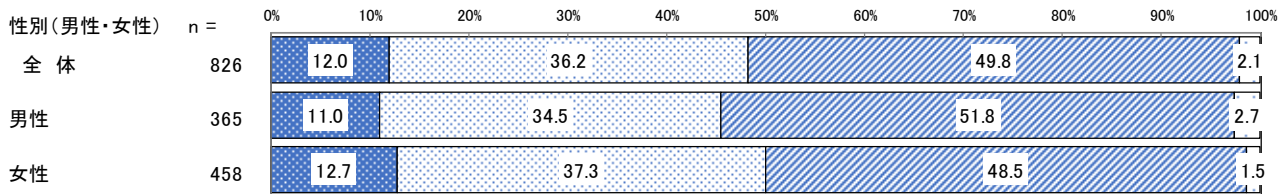
2 性的マイノリティ（LGBTなどの性的少数者）の方が身近にいるか

問26 あなたの周りに、性的マイノリティ（LGBTなどの性的少数者）の方はいますか。

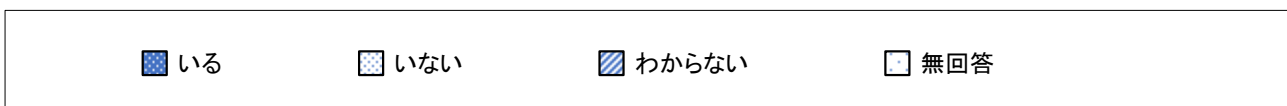
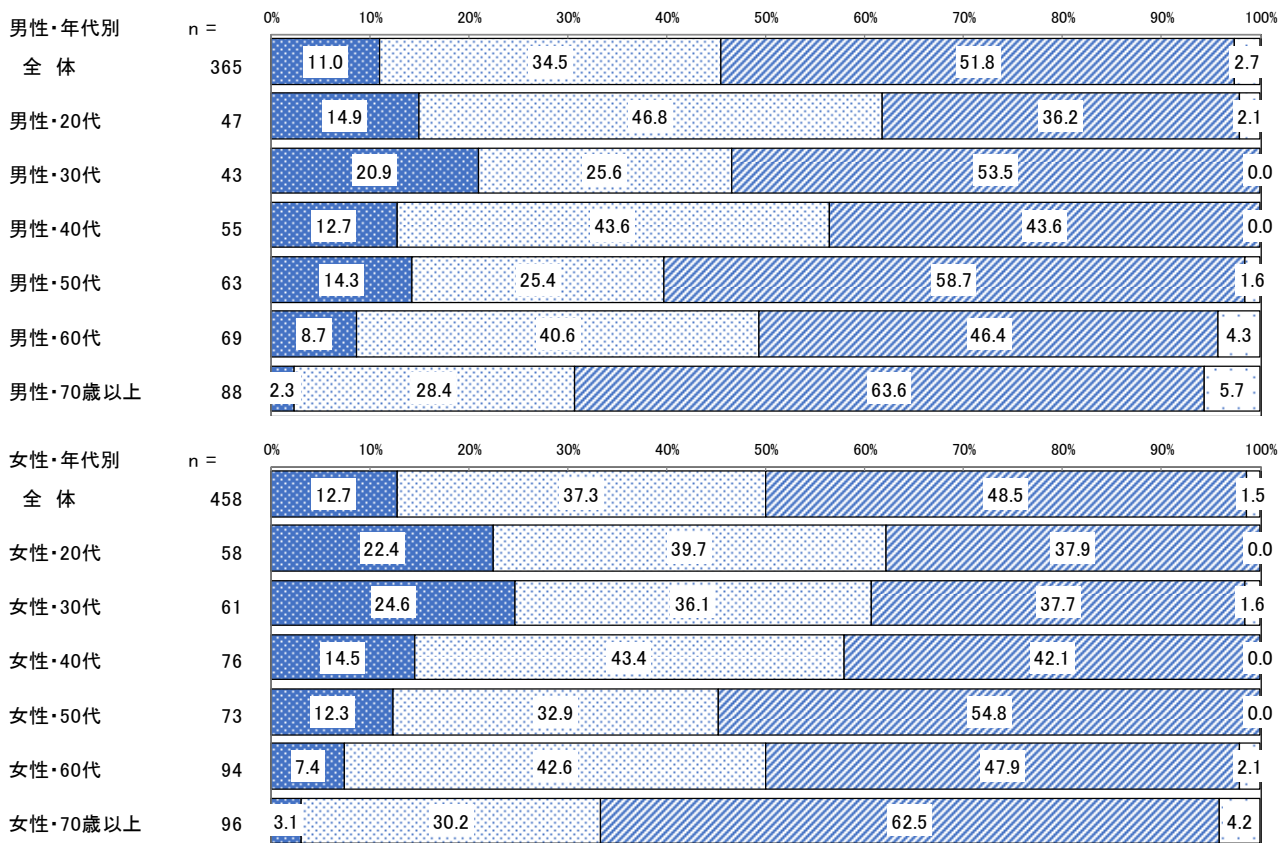
「いる」と答えた割合は1割強となっています。

周りに「性的マイノリティ（LGBTなどの性的少数者）の方」がいるかについてたずねたところ、「いる」が12.0%、「いない」が36.2%、「わからない」が49.8%となっています。

性・年代別でみると、「いる」と答えた割合は男性、女性ともに30代が最も高くなっています。



【性・年代別】



3 性的マイノリティ（LGBTなどの性的少数者）の方々の人権を守る啓発や施策

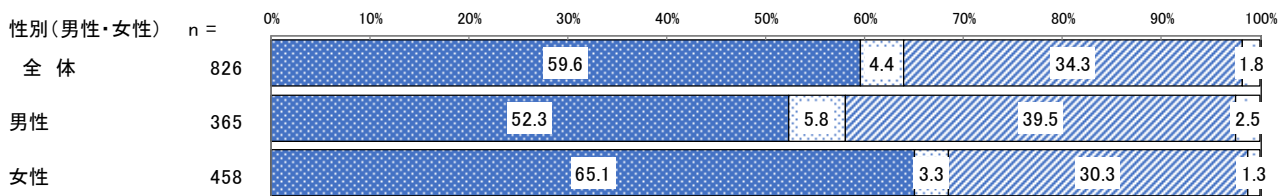
問27 あなたは、性的マイノリティの方々の人権を守る啓発や施策について、必要だと思いますか。
（1つに○）

「必要だと思う」がおおよそ6割となっています。

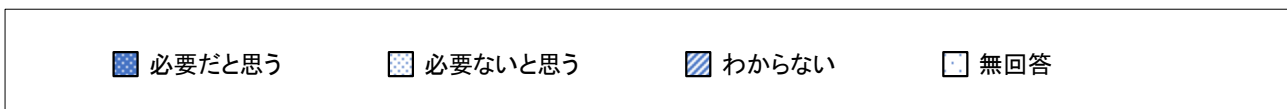
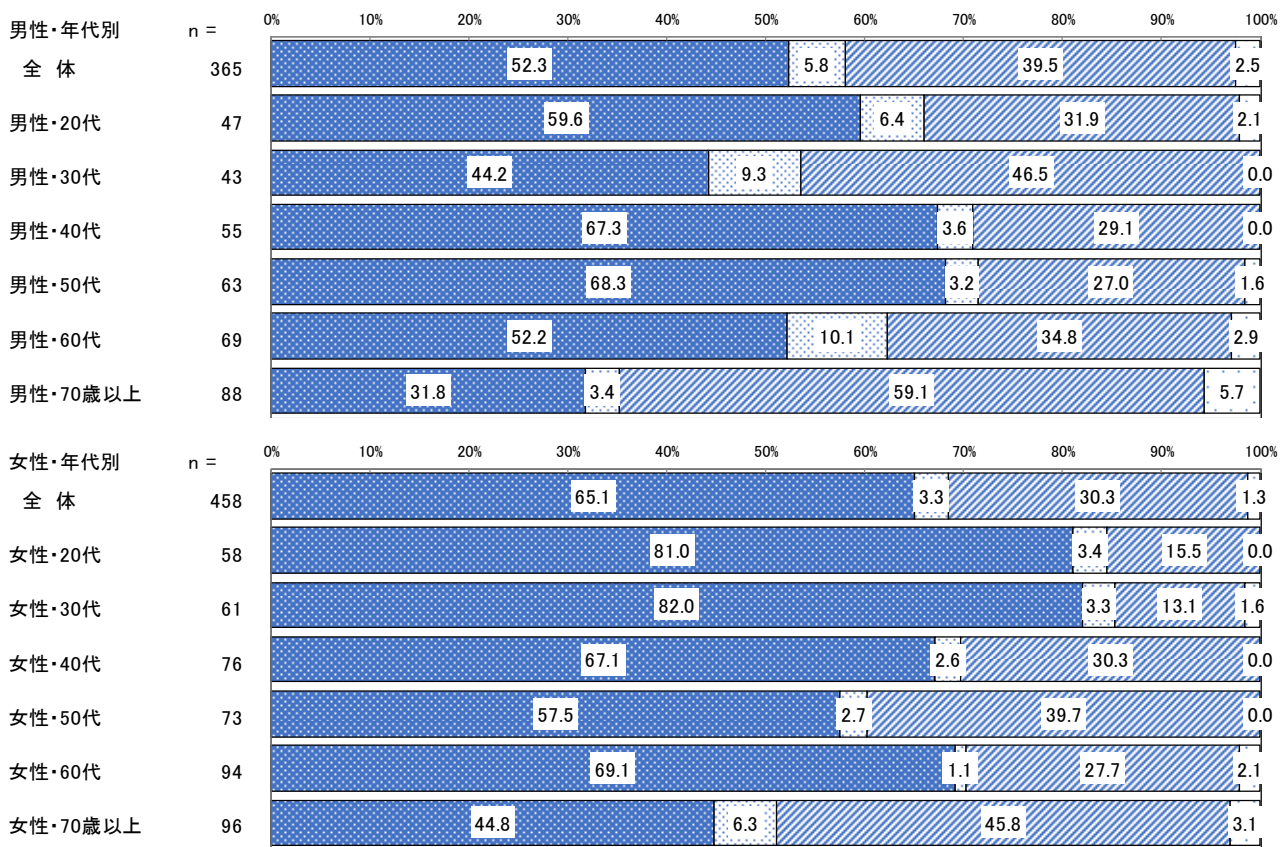
性的マイノリティの方々の人権を守る啓発や施策の必要性についてたずねたところ、「必要だと思う」が59.6%となっています。

性別でみると、「必要だと思う」男性の割合は52.3%、女性は65.1%と、女性の方が高くなっています。

性・年代別でみると、「必要だと思う」男性の割合は40代、50代が高く、女性は20代、30代が高くなっています。



【性・年代別】



4 性的マイノリティ（LGBTなどの性的少数者）の方々に対する差別への対策

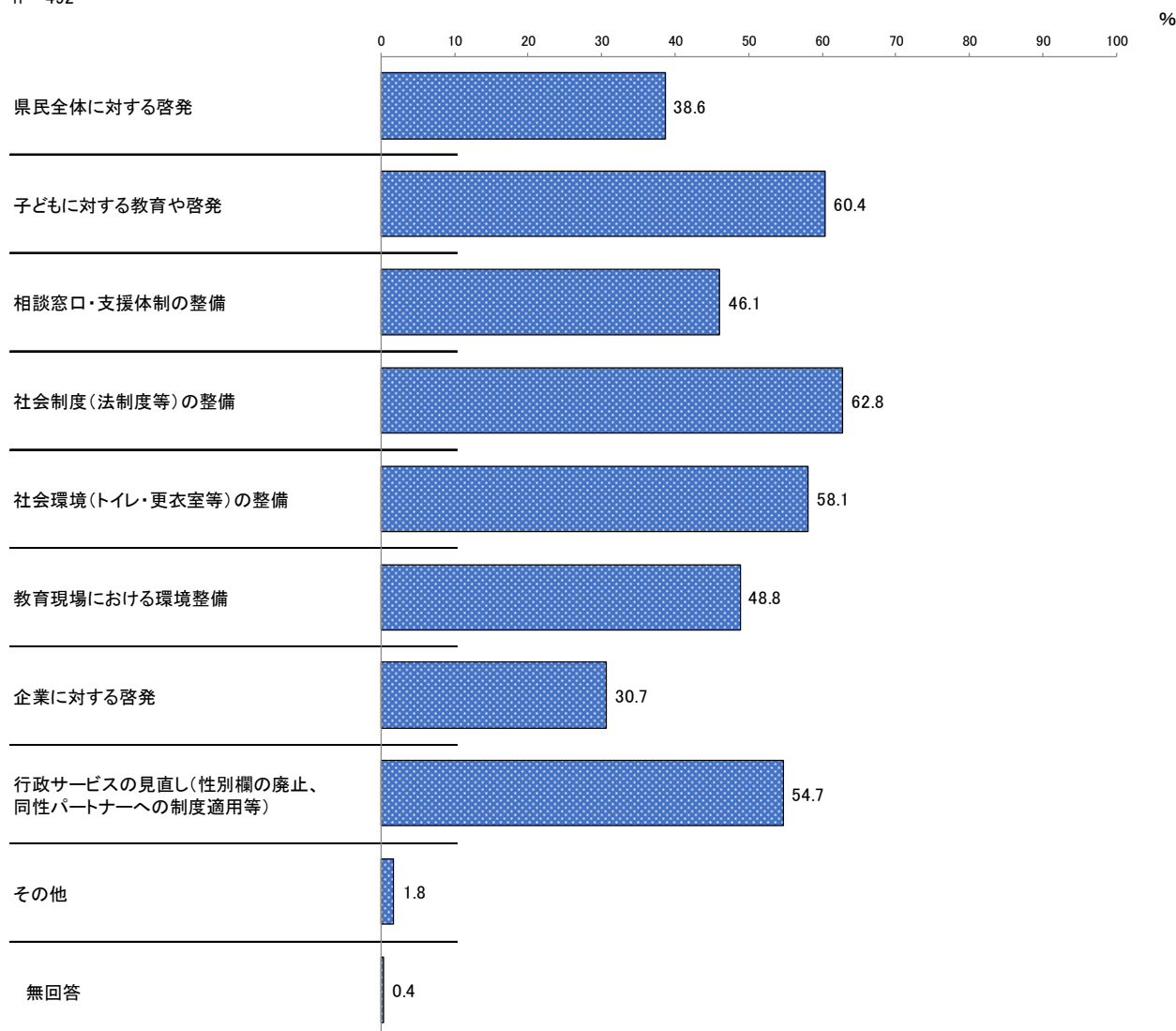
問28 性的マイノリティの方々に対する偏見や差別をなくし、性的マイノリティの方々が生活しやすくなるためにはどのような対策が必要だと思いますか。（あてはまるもの全てに○）

「社会制度（法制度等）の整備」「子どもに対する教育や啓発」が6割以上となっています。

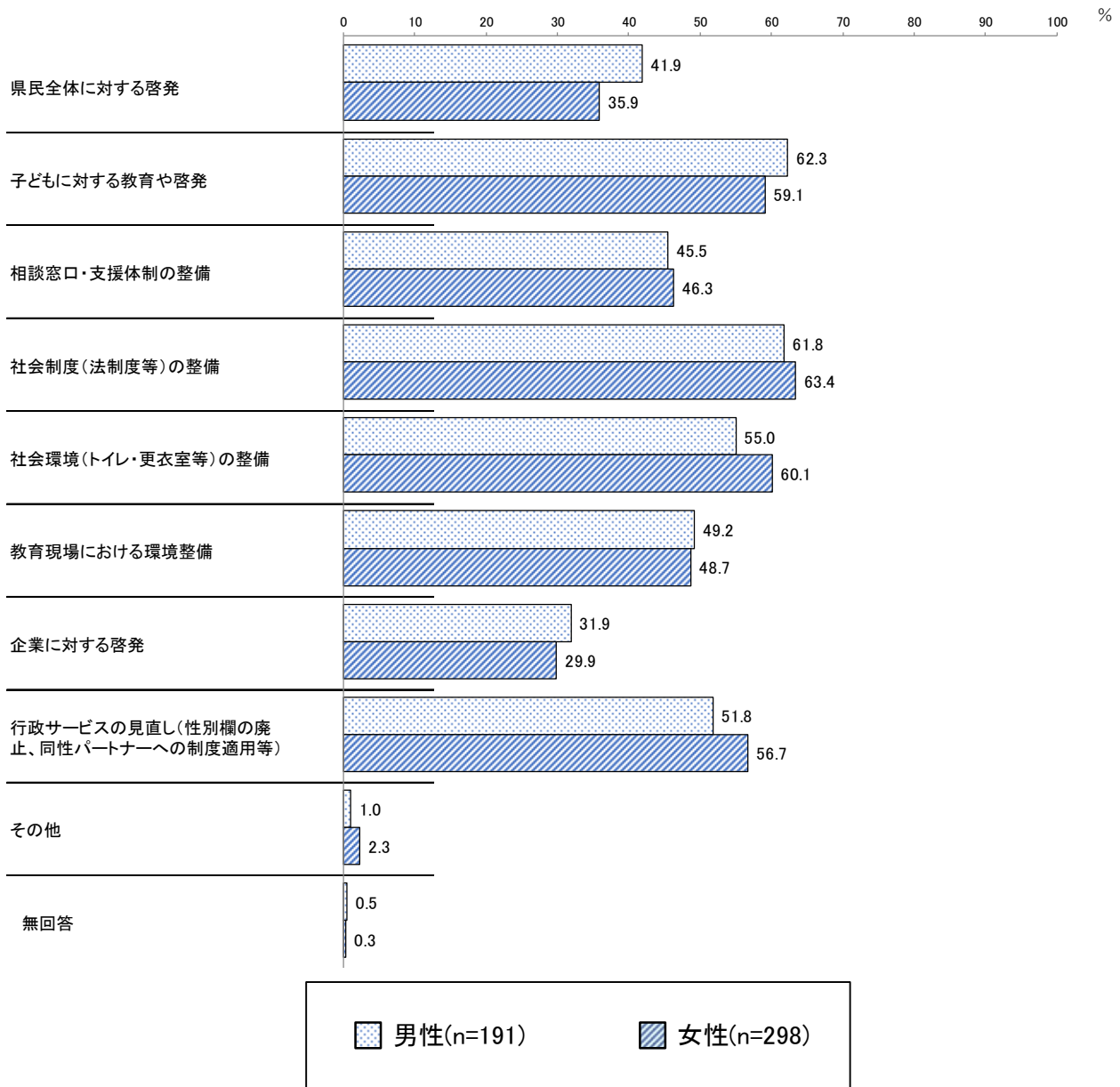
性的マイノリティの方々が生活しやすくなるために必要な対策をたずねたところ、「社会制度（法制度等）の整備」（62.8%）が最も高く、次に「子どもに対する教育や啓発」（60.4%）、「社会環境（トイレ・更衣室等）の整備」（58.1%）、「行政サービスの見直し（性別欄の廃止、同性パートナーへの制度適用等）」（54.7%）となっています。

性別で見ると、「県民全体に対する啓発」、「子どもに対する教育や啓発」は男性の割合が高く、「社会制度（法制度等）の整備」、「行政サービスの見直し（性別欄の廃止、同性パートナーへの制度適用等）」は女性の割合が高くなっています。

n = 492



【性別】



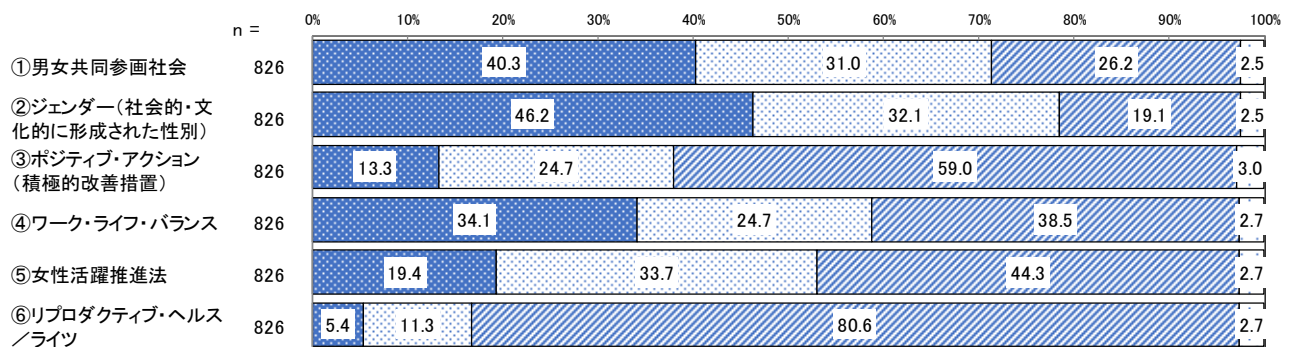
10 その他（男女共同参画関係）

1 男女共同参画社会に関する知識

問29 あなたは次のことがらを知っていますか。（それぞれ1つに○）

【①男女共同参画社会】、【②ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）】は「知っている」が約8割以上、【④ワーク・ライフ・バランス】は約6割以上でした。一方で、【⑥リプロダクティブ・ヘルス/ライツ】を「知っている」人は3割未満、【③ポジティブ・アクション（積極的改善措置）】を「知っている」人は約4割です。

男女共同参画に関することがらで最も『知っている』（「知っている」＋「聞いたことがある」）が多かったのは【②ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）】（78.3%）、次に【①男女共同参画社会】（71.3%）でした。



■ 知っている

■ 聞いたことがある

■ 知らない

■ 無回答

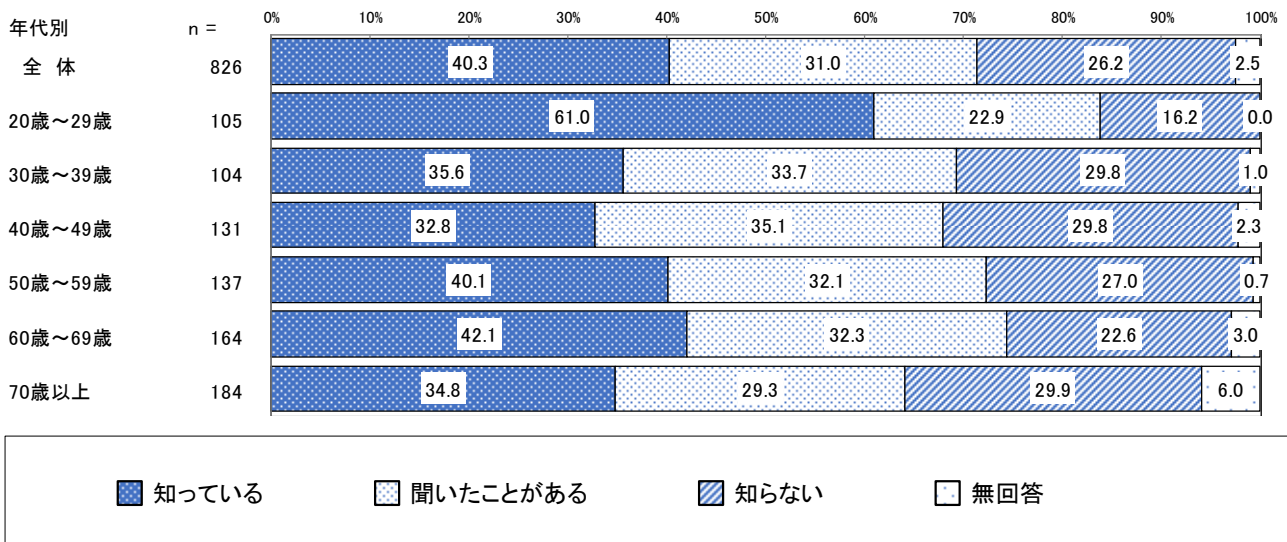
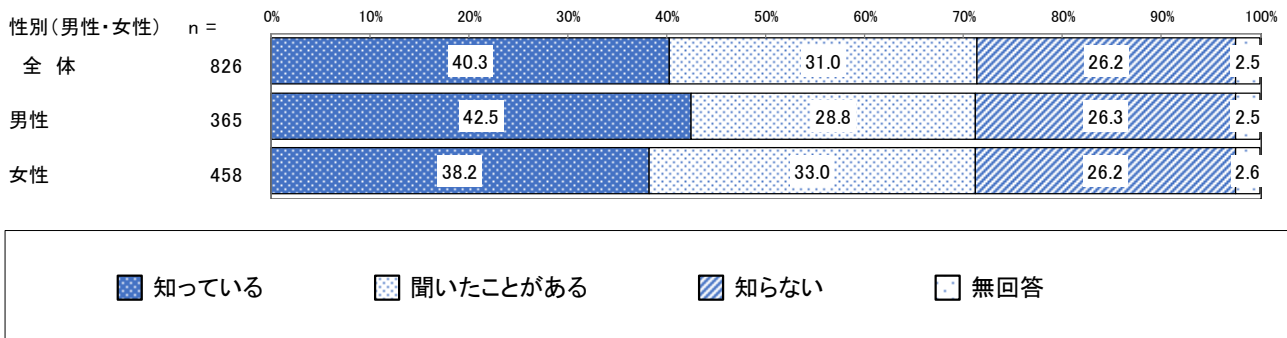
① 男女共同参画社会

『知っている』が約7割。20代では『知っている』が8割以上となっています。

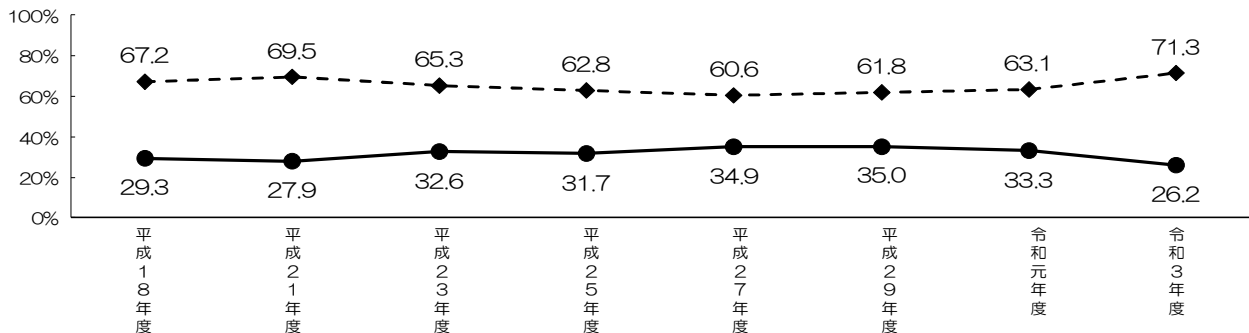
【①男女共同参画社会】では、『知っている』（「知っている」＋「聞いたことがある」）が71.3%となっており、認知度は約7割となっています。

年代別で見ると、20代は『知っている』（「知っている」＋「聞いたことがある」）が83.9%と、認知度は8割以上となっています。

経年比較で見ると、平成27年度以降、『知っている』が増加傾向にあり、令和3年度は7割を超えました。



【経年比較】



◆ 『知っている』 ● 『知らない』 ※無回答などを省略していますので、合計しても100%にならないことがあります。

※『知っている』（「知っている」＋「聞いたことがある」）

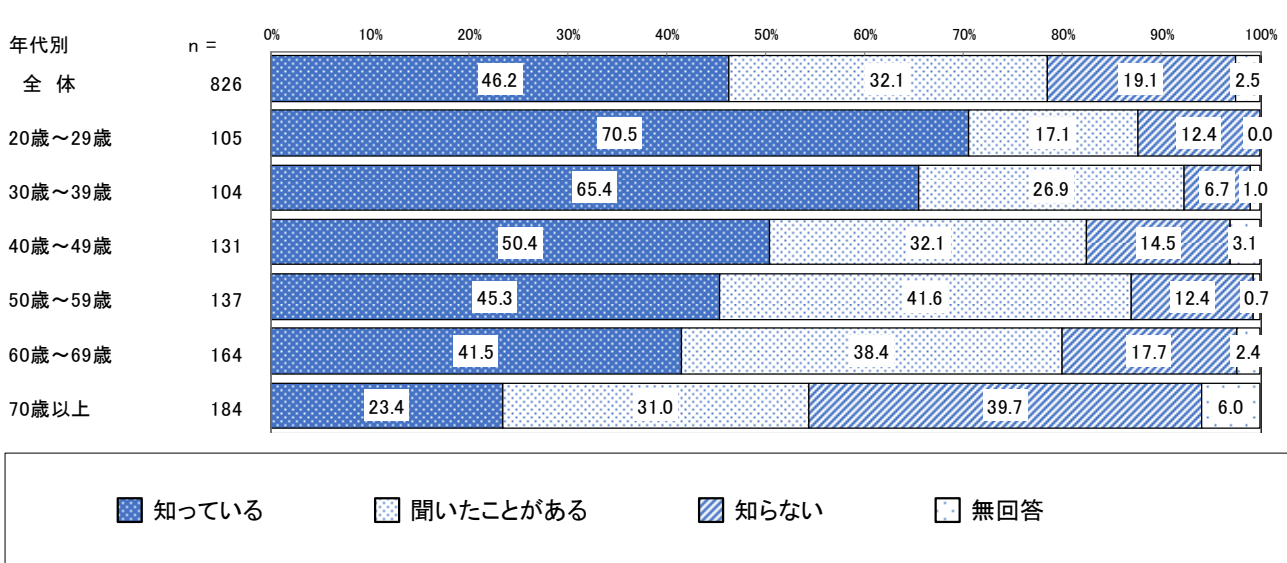
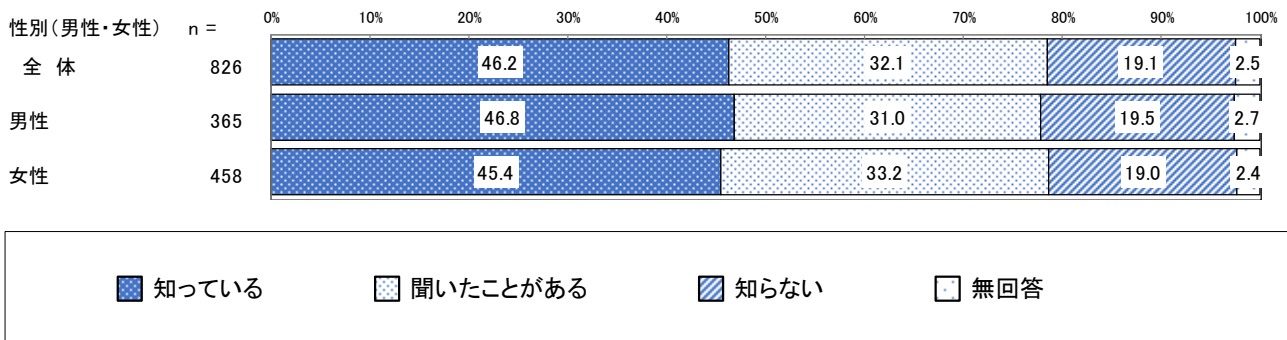
② ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）

『知っている』が約8割。30代では『知っている』が9割以上となっています。

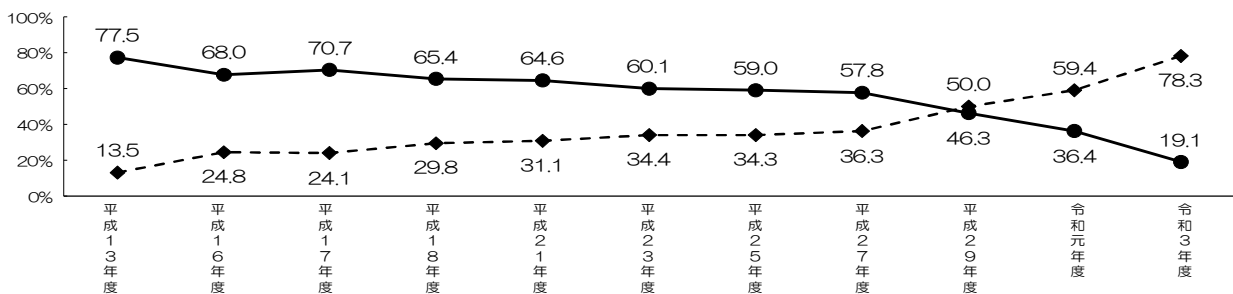
【②ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）】では、『知っている』（「知っている」＋「聞いたことがある」）が78.3%となっており、認知度は約8割となっています。

年代別で見ると、30代は『知っている』（「知っている」＋「聞いたことがある」）が92.3%と認知度は9割以上となっています。

経年比較で見ると、『知っている』が平成29年度に5割となり、令和3年度は、前回の59.4%から18.9ポイント増加しました。



【経年比較】



◆ 『知っている』 ● 『知らない』 ※無回答などを省略していますので、合計しても100%にならないことがあります。

※『知っている』（「知っている」＋「聞いたことがある」）

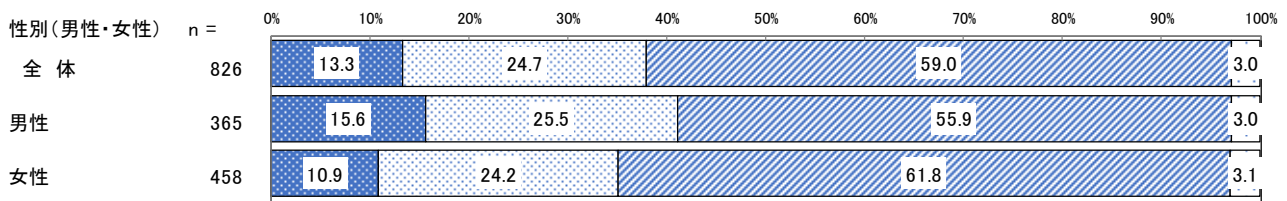
③ ポジティブ・アクション（積極的改善措置）

「知らない」がおおよそ6割となっています。

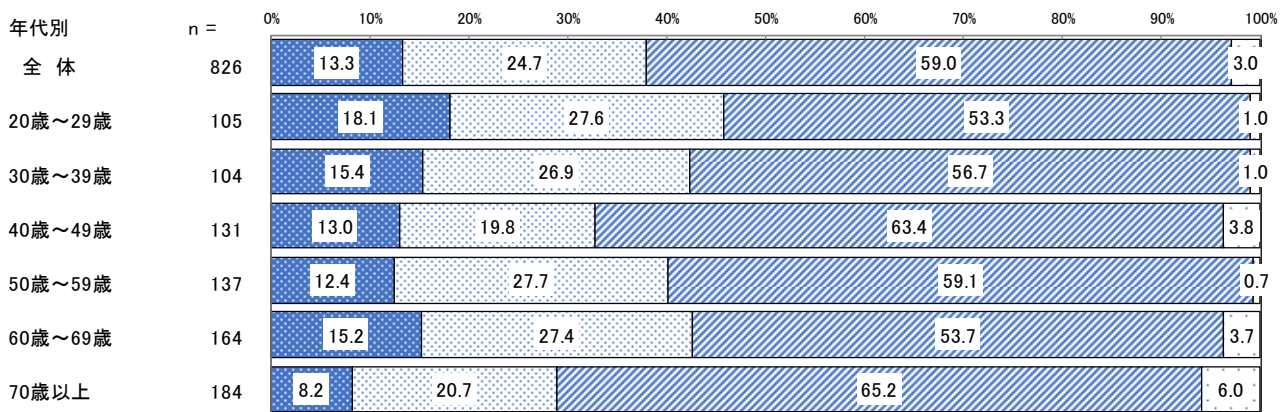
【③ポジティブ・アクション（積極的改善措置）】では、「知らない」が59.0%と、おおよそ6割となっています。

性別で見ると、『知っている』（「知っている」＋「聞いたことがある」）の割合は、女性より男性の方が高くなっています。

経年比較で見ると、令和3年度は「知らない」が減少しました。

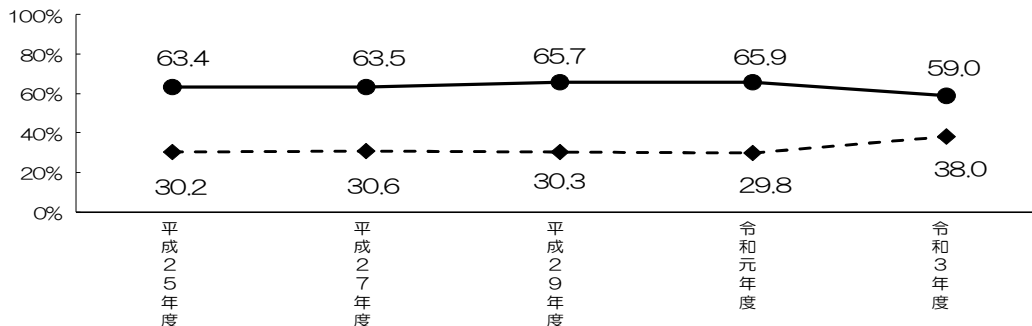


■ 知っている ■ 聞いたことがある ■ 知らない ■ 無回答



■ 知っている ■ 聞いたことがある ■ 知らない ■ 無回答

【経年比較】



◆ 『知っている』 ● 『知らない』 ※無回答などを省略していますので、合計しても100%にならないことがあります。

※『知っている』（「知っている」＋「聞いたことがある」）

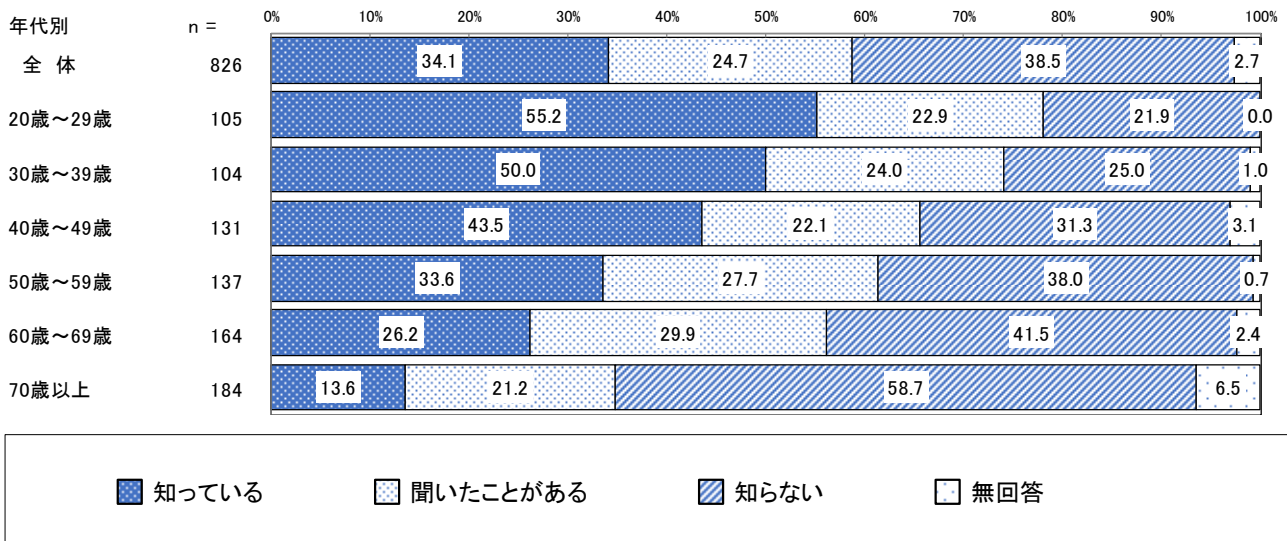
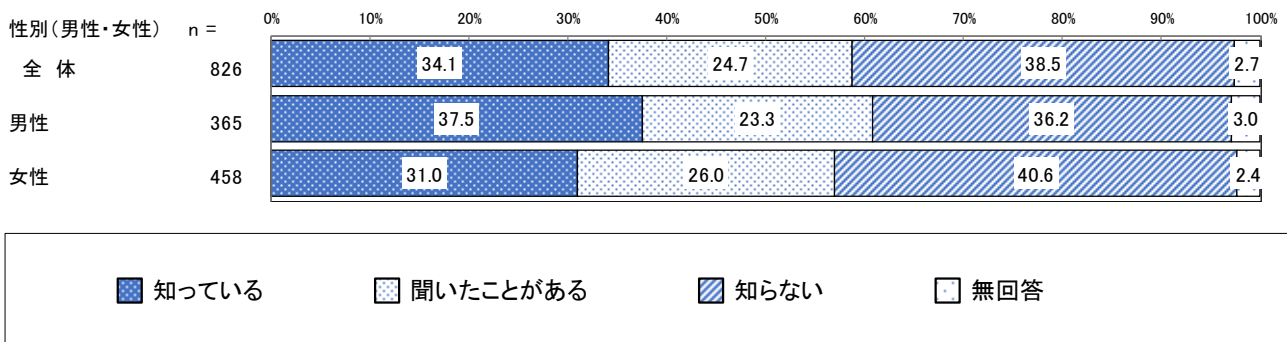
④ ワーク・ライフ・バランス

『知っている』が約6割。20代では『知っている』が8割近くとなっています。

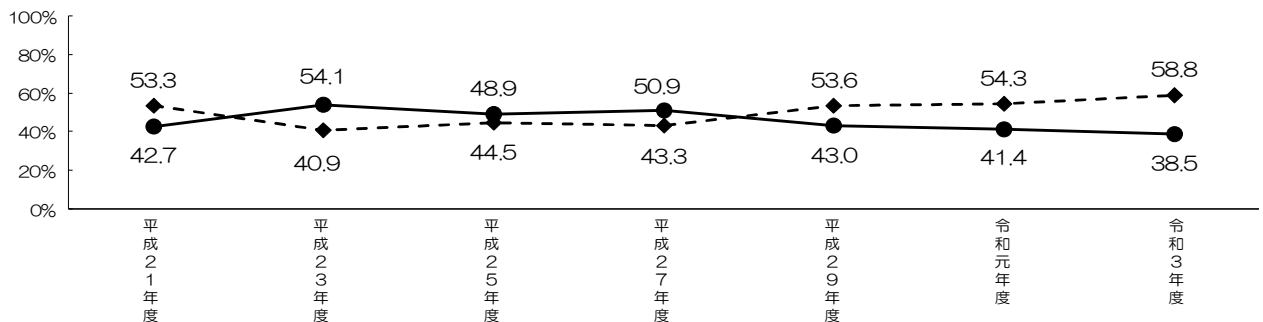
【④ワーク・ライフ・バランス】では、『知っている』（「知っている」＋「聞いたことがある」）が58.8%となっており、認知度は約6割となっています。

年代別で見ると、年代が若いほど認知度が高く、20代は『知っている』（「知っている」＋「聞いたことがある」）が78.1%と認知度は8割近くになっています。

経年比較で見ると、平成29年度に『知っている』が5割を超え、その後も増加傾向にあります。



【経年比較】



◆ 『知っている』 ● 『知らない』

※無回答などを省略していますので、合計しても100%にならないことがあります。

※『知っている』（「知っている」＋「聞いたことがある」）

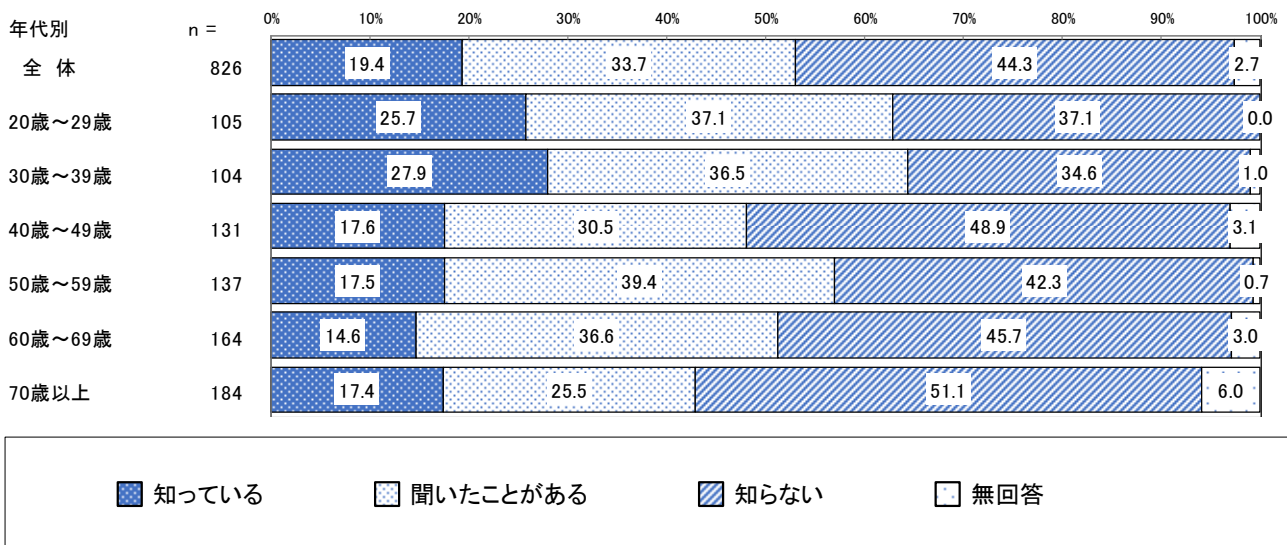
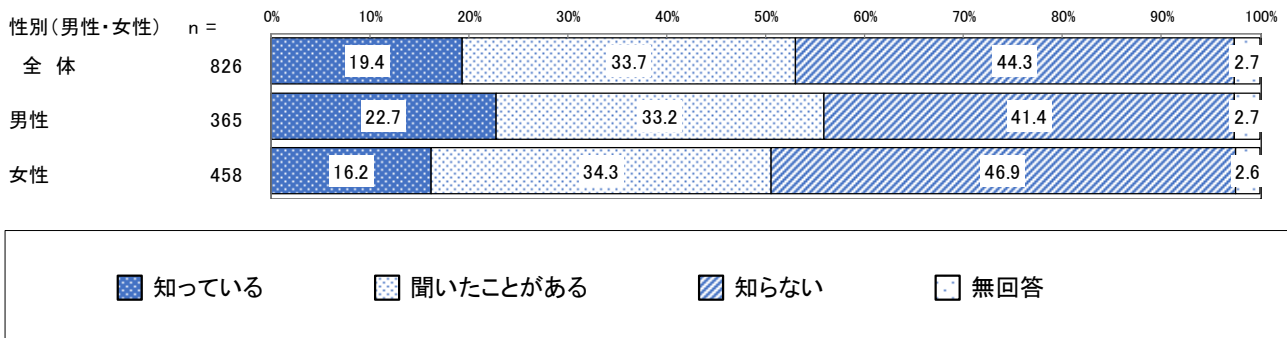
⑤ 女性活躍推進法

『知っている』が約5割。20代、30代では『知っている』が6割以上となっています。

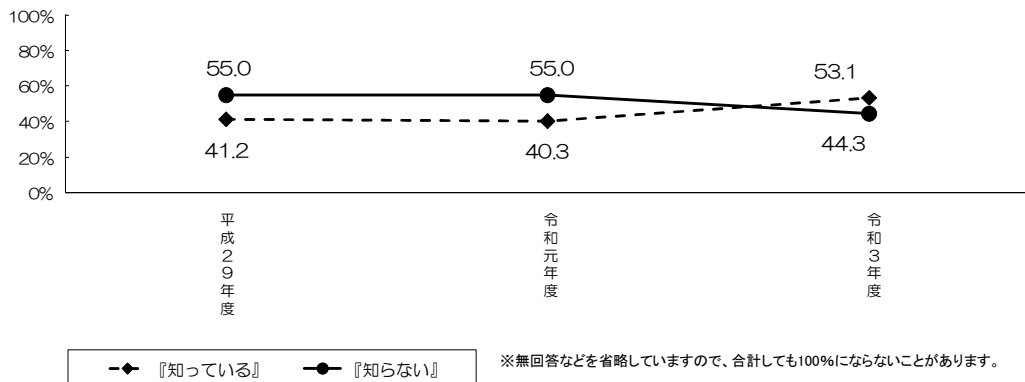
【⑤女性活躍推進法】では、『知っている』（「知っている」＋「聞いたことがある」）が53.1%となっており、認知度は約5割となっています。

年代別で見ると、20代、30代は、『知っている』（「知っている」＋「聞いたことがある」）が6割以上となっています。

経年比較で見ると、平成3年度に『知っている』が5割を超えました。



【経年比較】

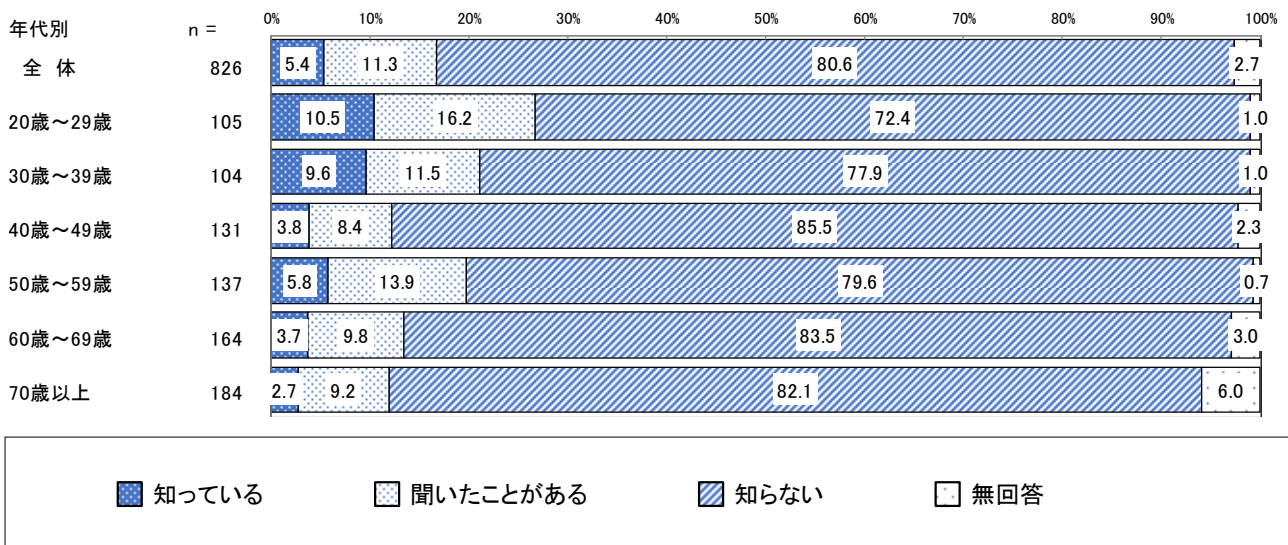
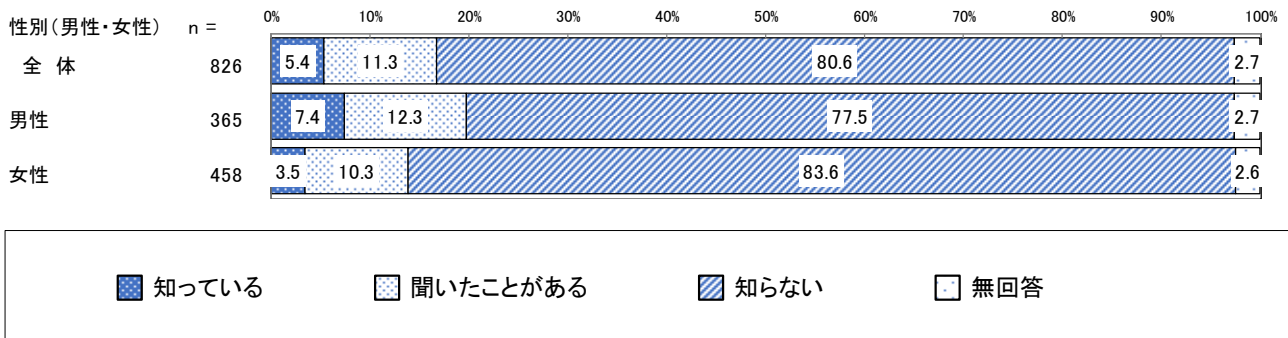


※『知っている』（「知っている」＋「聞いたことがある」）

⑥ リプロダクティブ・ヘルス/ライツ

「知らない」が8割以上。20代、30代では『知っている』が2割から3割となっています。

【⑥リプロダクティブ・ヘルス/ライツ】では、「知らない」が80.6%となっています。
性別でみると、女性より男性の方が『知っている』（「知っている」＋「聞いたことがある」）の割合が高くなっています。
年代別でみると、20代、30代は、『知っている』（「知っている」＋「聞いたことがある」）が2割から3割となっています。



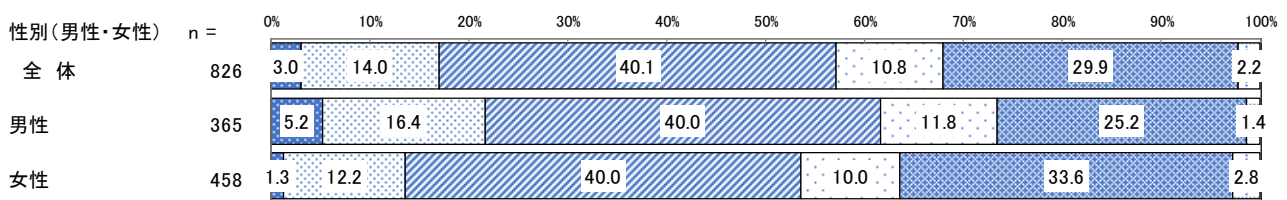
2 女性活躍推進法による今後の女性の活躍について

問30 国・地方公共団体や民間企業等に数値目標等の策定・公表を義務づけた女性活躍推進法により、今後、女性の活躍が促進すると思いますか。（1つに○）

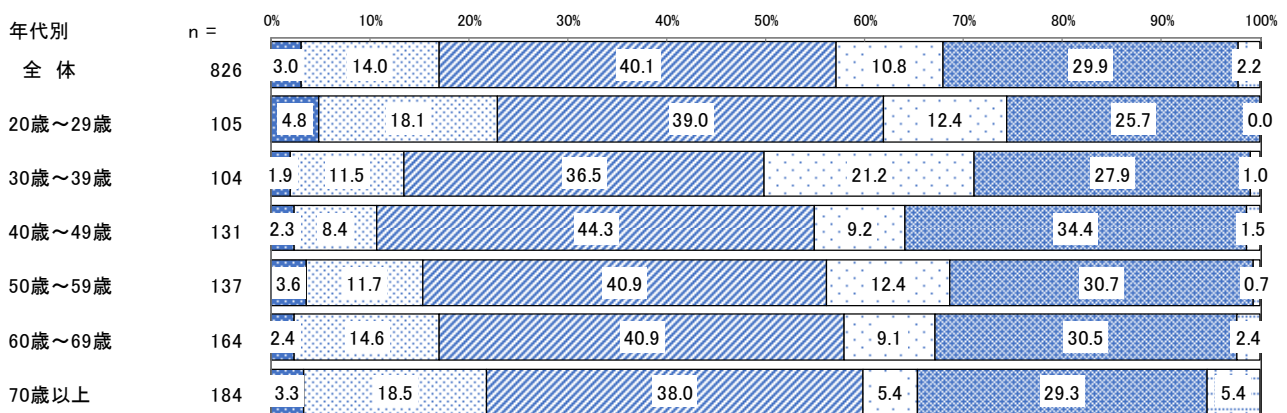
『促進する』が6割近くとなっています。

女性活躍推進法により女性の活躍が促進すると思うかをたずねたところ、「大いに促進する」と「促進する」と「どちらかといえば促進する」を合わせた『促進する』が57.1%となっています。性別で見ると、男性が「大いに促進する」の割合が女性より高くなっています。また、『促進する』では、男性は61.6%、女性は53.5%と差がみられます。

年代別で見ると、20代が『促進する』の割合が最も高くなっています。



■ 大いに促進する ■ 促進する ■ どちらかといえば促進する ■ 促進しない ■ わからない ■ 無回答



■ 大いに促進する ■ 促進する ■ どちらかといえば促進する ■ 促進しない ■ わからない ■ 無回答

3 男女共同参画社会の実現のために重要な取組

問31 男女共同参画社会の実現に向けて、重要だと思われる取組は何だと思いますか。

（3つまでに○）

「男女共同参画の視点に立った社会における制度・慣行の見直しや意識改革」が5割近くとなっています。

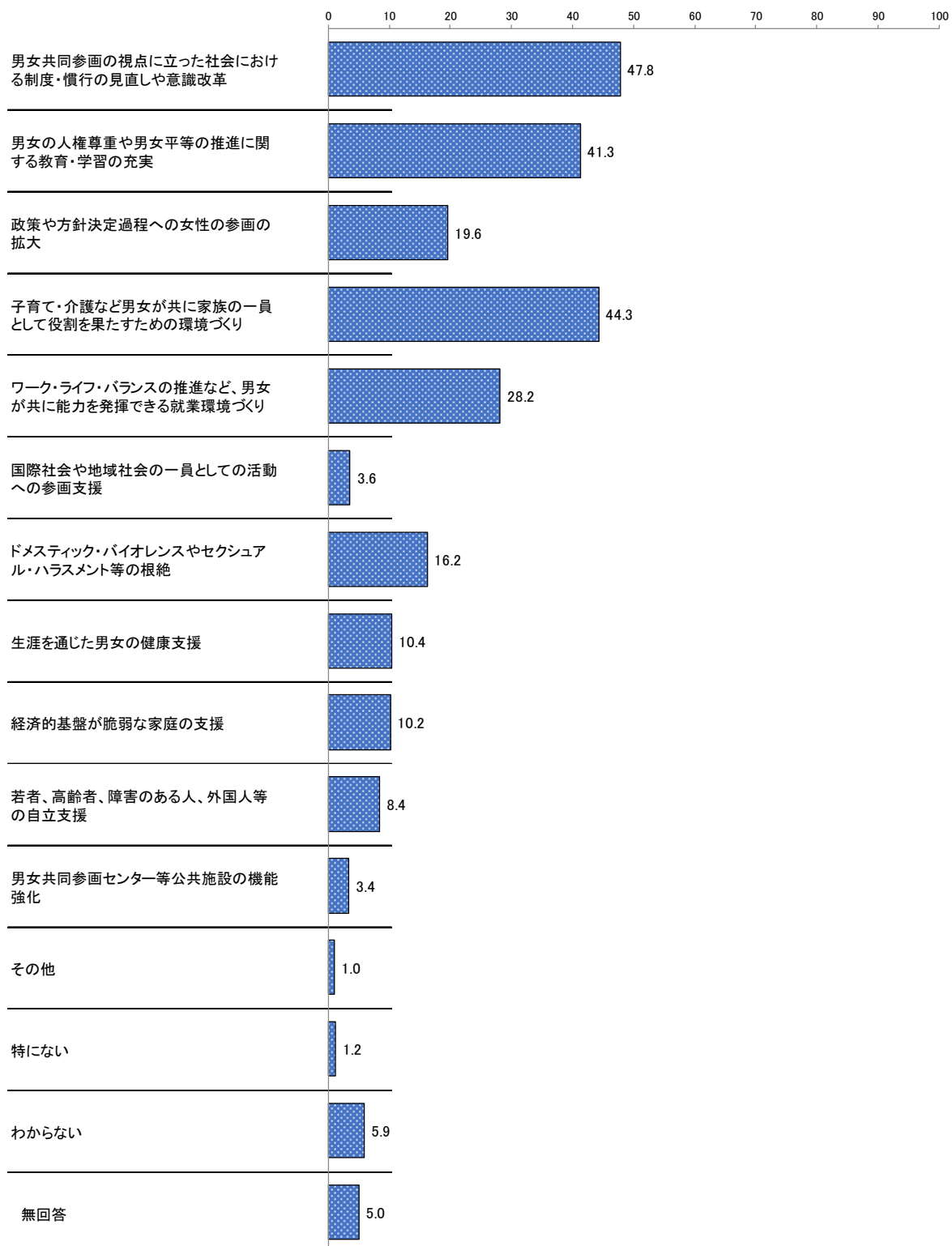
男女共同参画の実現に向けて重要だと思われる取組についてたずねたところ、「男女共同参画の視点に立った社会における制度・慣行の見直しや意識改革」（47.8%）が最も高く、次に「子育て・介護など男女が共に家族の一員として役割を果たすための環境づくり」（44.3%）、「男女の人権尊重や男女平等の推進に関する教育・学習の充実」（41.3%）、「ワーク・ライフ・バランスの推進など、男女が共に能力を發揮できる就業環境づくり」（28.2%）となっています。

性別で見ると、「男女共同参画の視点に立った社会における制度・慣行の見直しや意識改革」や「政策や方針決定過程への女性の参画の拡大」は男性の割合が高くなっている一方、「子育て・介護など男女が共に家族の一員として役割を果たすための環境づくり」や「ワーク・ライフ・バランスの推進など、男女が共に能力を發揮できる就業環境づくり」、「ドメスティック・バイオレンスやセクシュアル・ハラスメント等の根絶」は女性の割合が高くなっています。

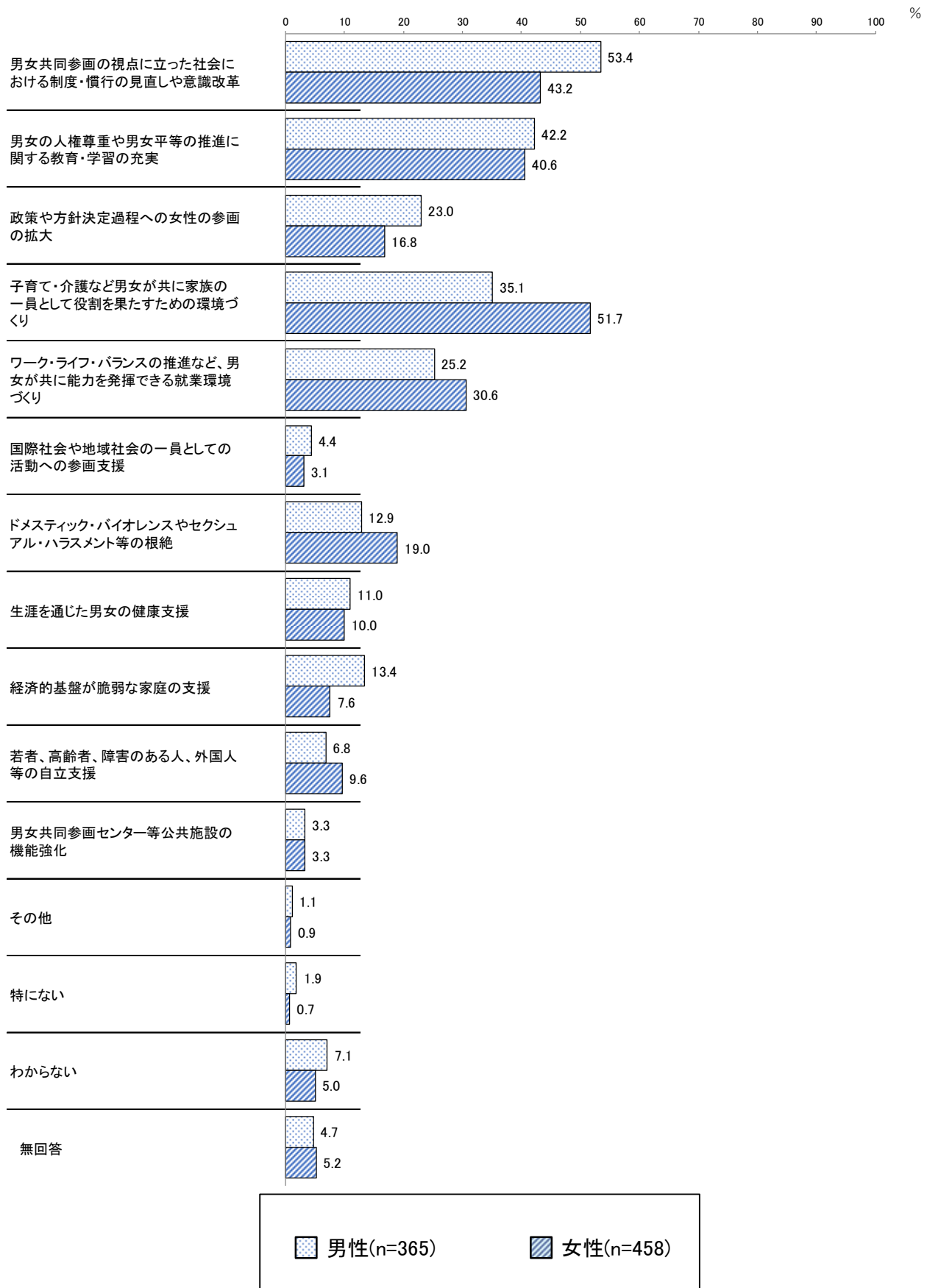
経年比較で見ると、「男女共同参画の視点に立った社会における制度・慣行の見直しや意識改革」、「男女の人権尊重や男女平等の推進に関する教育・学習の充実」、「政策や方針決定過程への女性の参画の拡大」は、過去最も高い割合となっています。

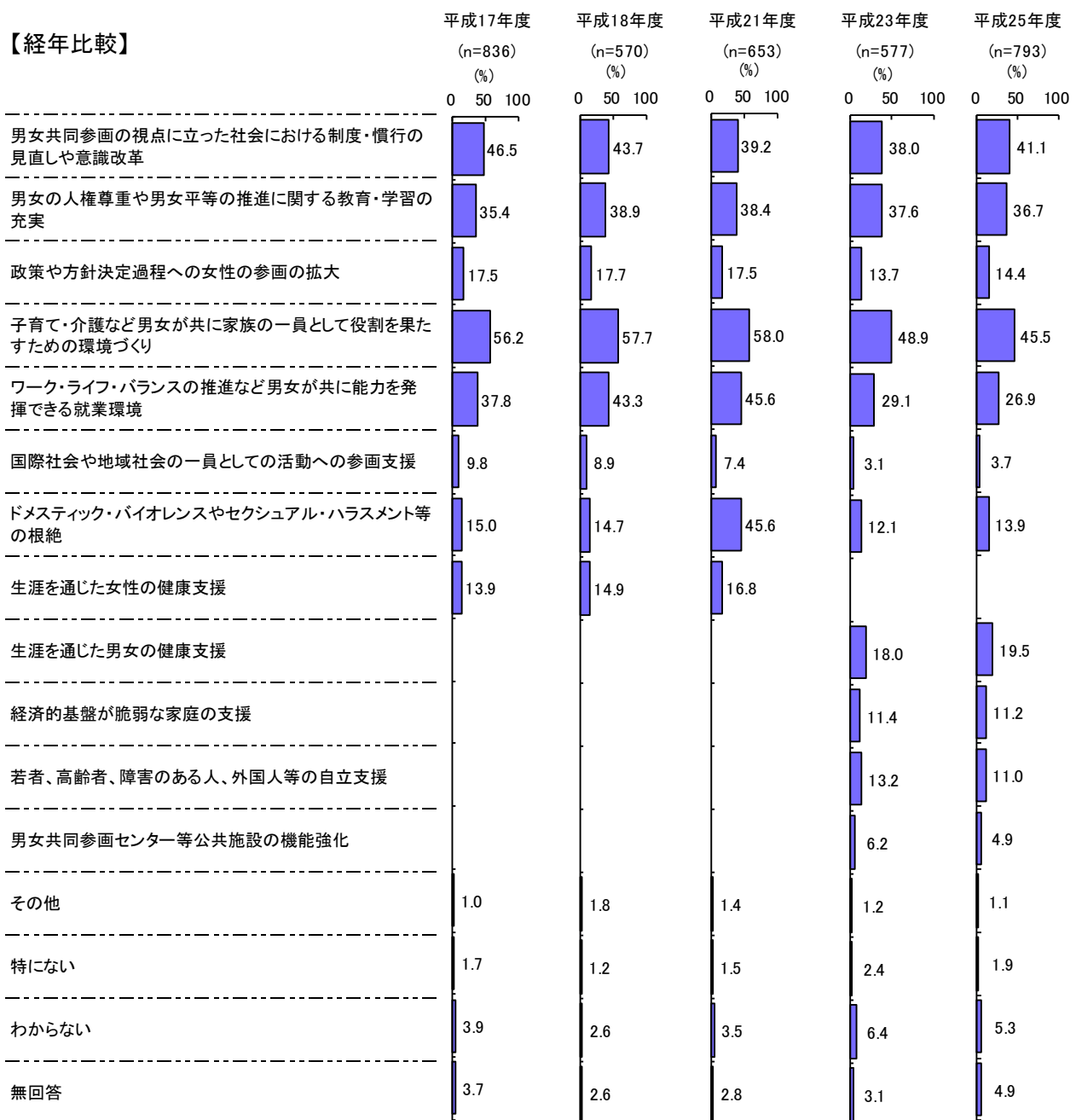
n = 826

%



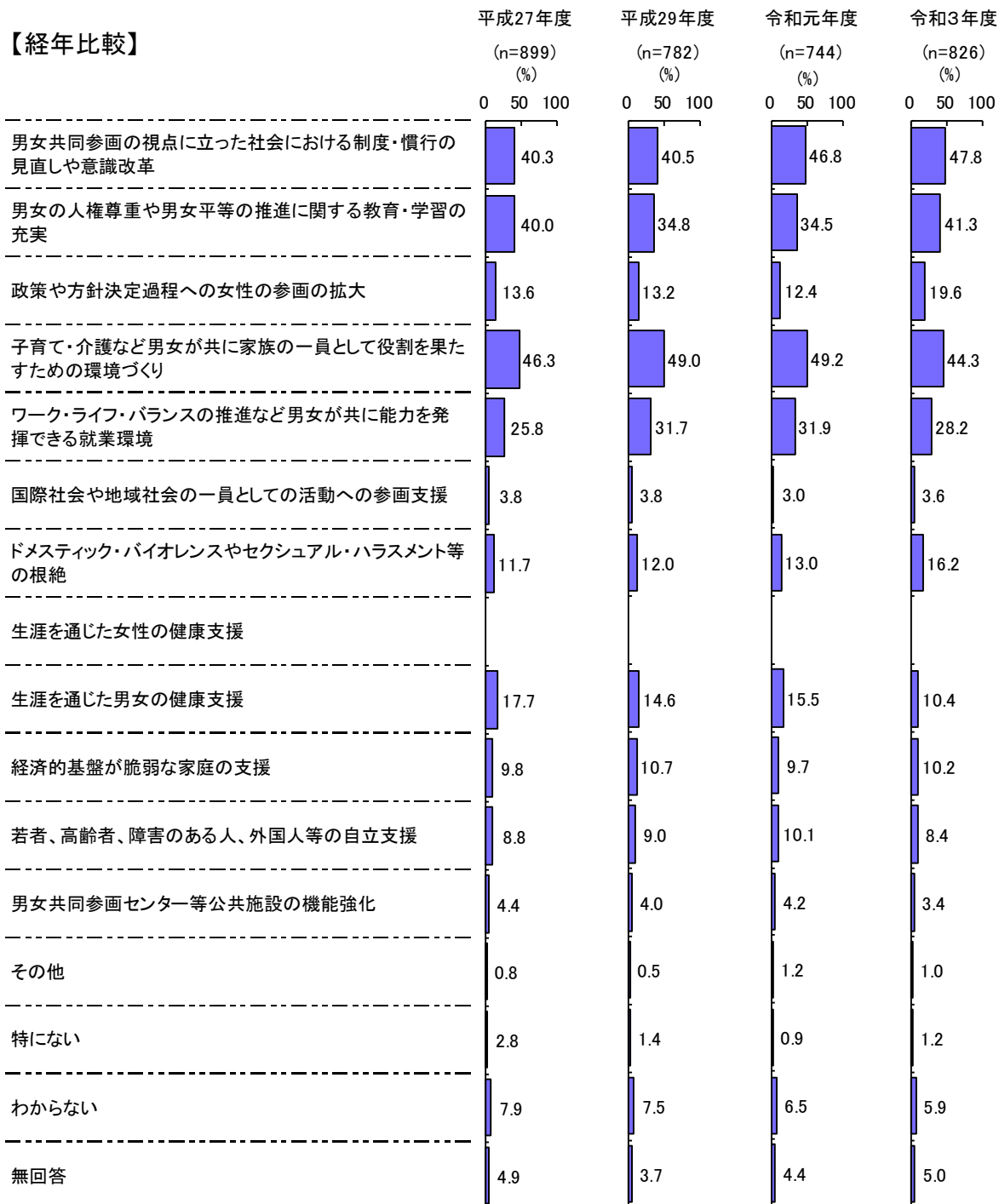
【性別】





※「生涯を通じた女性の健康支援」は平成23年度より「生涯を通じた男女の健康支援」に変更

※「経済的基盤が脆弱な家庭の支援」、「若者、高齢者、障害のある人、外国人等の自立支援」、「男女共同参画センター等公共施設の機能強化」は平成23年度より追加



※「生涯を通じた女性の健康支援」は平成23年度より「生涯を通じた男女の健康支援」に変更

※「経済的基盤が脆弱な家庭の支援」、「若者、高齢者、障害のある人、外国人等の自立支援」、「男女共同参画センター等公共施設の機能強化」は平成23年度より追加